授業概要

syllabus

■□ 2022 年度

奥羽大学　歯学部

授　業　概　要

syllabus

2022年度

歯学部の学生諸君へ

歯学部長　瀬　川　　洋

１）はじめに

奥羽大学は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」を理念とし，教育基本法並びに学校教育法に基づき, 広く知識を養うと共に, 深く専門の学芸を教授研究し, 知的, 道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとしています。

歯学部は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する」ことを目的として，以下の点を教育目標にあげています。

・医療人に求められる幅広い教養，社会性及び倫理観を涵養する。
・歯科医療に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。
・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身に付ける。
・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身に付ける。
・医療，保健，福祉において他の医療人と協調・連携する能力を研鑽する。

２）2022年度奥羽大学歯学部教育カリキュラムの概要

奥羽大学歯学部は「歯科医学教授要綱」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」並びに「歯科医師国家試験出題基準」に則った，６年一貫とした教育カリキュラムを組んでいます。さらに自らが課題を発見し自らあるいは他者と協同してその解決に取り組み，課題発見解決能力を有する歯科医師を育成します。

歯学部の目的を実践する学問である「歯科医療人間学」を教育します。また設定された学力に到達していない科目がある学生には, 少人数制で該当科目を強化的に学修する「科目選択ゼミナール」を設けるほか，学生が主体的に興味を持つ分野を自ら選択し，その分野に出向して学修する「エレクティブスタディ」を行います。

第１学年では, 初年度教育の充実を図り,「理数系科目」と「日本語学」及び「歯科医学教育」を教育します。また「総合演習１Ｄ」を設け，他職種連携の意識を芽生えさせます。

第２学年では, 教養系科目から専門系科目への移行教育の充実を図り,「情報リテラシー」と「基礎歯学概論」を充実すると共に,「総合演習２Ｄ」を設け教養科目と基礎科目の再度教育を行います。

第３学年では，基礎系科目から臨床系科目への移行教育の充実を図り,「口腔内科学」を設けると共に,「総合演習３Ｄ」を設け基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第４学年では, 共用試験のための準備教育の充実を図り,「高齢者歯科学」と「障害者歯科学」を設けると共に,「総合演習４Ｄ」を設け基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第５学年では，臨床実習教育の充実を図り，診療参加型臨床実習で「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の必須項目を明確にします。また臨床実習期間は４月から翌年の３月までの一年間とし,「Evidence research研修」と「Medical Team研修」の充実および高齢者施設（介護老人保健施設）と障害者施設（社会福祉施設）での「学外研修」を実施します。

第６学年では，歯学総合教育と歯科医師国家試験準備教育の充実を図ります。歯科医師国家試

験の合格を目指して「臨床総合講義」を設けると共に，学生個々が自分の到達目標を段階的かつ具体的に自覚できるように，学修計画表を作成します。毎月「実力確認」と「確認試験」を実施し，全員が卒業試験及び歯科医師国家試験の合格圏内を目指すことを毎月の到達目標とします。また「フィードバック学修」と「個別指導」を行います。

学生諸君は，本学の理念・目標を理解しこの授業概要をよく読んで頂きたいと思います。そして，歯科医療を通じて地域の発展と向上に貢献できる人間性豊かな歯科医師になるという強い自覚を持って日々の学業に励み，有意義で楽しい学生生活が送れることを願っています。

目　　次

◆ディプロマポリシー　1
◆カリキュラムポリシー　2
◆カリキュラムマップ　3
◆アドミッションポリシー　4
◆奥羽大学　学年暦　5
◆カレンダー　6
◆時間割表　10
◆カリキュラム表　13
◆科目ナンバリングについて　15
◆オフィスアワーについて　16
◆歯科口腔治療学実習・臨床総合演習・臨床実習担当教員　18

Ⅰ．　規程
１．学則（抜粋）……　19
２．奥羽大学試験規程　25
３．奥羽大学歯学部卒業試験規程　26
４．奥羽大学 GPA 制度に関する規定　26
５．不正行為者の懲戒処分に関する内規　27
６．奥羽大学歯学部臨床実習規程　27
７．奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規　28
８．歯学部特待生について　29

Ⅱ．　遵守事項
１．学籍について……　30
１）修業年限及び在学年限　30
２）休学　30
３）復学　30
４）退学　30
５）除籍　30
６）再入学　30
７）卒業証書及び学位の授与　30
２．履修の概要……　31
１）授業科目の区分　31
２）授業時間　31
３）掲示　31
４）休講　31
５）補講　31
６）出席日数　31
７）講義・演習・実習などに対する準備　31
８）講義・演習・実習などが終了した後の復習　31
３．試験と成績評価……　32
１）定期試験　32
２）総合試験　32
３）追試験　32
４）再試験　32
５）受験上の注意事項　32
６）レポートの提出　33
７）成績評価　33
４．アセスメントポリシー……　34
１）第１～４学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件　34
２）第５学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件　34
３）総合試験，共用試験，卒業試験の受験資格　34
４）進級および卒業条件　34

Ⅲ．　授業概要
学年別授業計画
◆歯学教育モデル・コア・カリキュラム
◆歯科医師国家試験出題基準

Ⅳ．　構内案内図

【理　念】

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

【目　的】

奥羽大学は，教育基本法（平成18年12月22日法律第120号）並びに学校教育法（昭和22年３月31日法律第26号）に基づき，広く知識を養うと共に，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとし，各学部のその目的は，次の各号のとおりとする。

（1）歯学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。

（2）薬学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

(教育目標)

歯学部

・医療人に求められる幅広い教養，社会性及び倫理観を涵養する。

・歯科医師に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。

・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身につける。

・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身につける。

・医療，保健，福祉において他の医療人と強調・連携する能力を研鑽する。

奥羽大学歯学部３ポリシー

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する基本的な方針）

歯学部は，本学の目的と教育目標とに基づく教育課程を通じて，以下のような能力を身に付け，かつ所定の単位を修得し，卒業試験に合格した者に対し卒業証書を授与し，卒業した者に対し学士（歯学）の学位を授与します。

1．倫理とコミュニケーション

・患者の立場や背景を理解し，思いやりを持った言動ができる。

・患者との良好な関係を構築し，自己決定の権利の尊重と個人情報の厳守ができる。

2．探求力と解決力

・医療に対して社会や環境が求めるニーズや問題を探求し，迅速かつ的確に解決できる。

3．病態解析と治療概念

・病態を解析し，治療の要素を把握できる。

4．知識と診断

・歯科口腔疾患を診断し，適切な治療計画を立案できる。

5．技能と治療

・歯科医療技術を身に付け，先進的で高度な歯科医療を実施できる。

6．奥羽プロフェッショナリズム

・超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる。

・地域特性を踏まえた医療連携を構築し，他職種とともに包括医療を実践できる。

・生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げる知識・技能・態度などの能力を修得するために，歯学部では６年一貫とした以下の方針でカリキュラムを編成しています。

１．人間性豊かで優れた歯科医師を育成するために，大学で学ぶ目的を明確化し，医療人としてのコミュニケーションに必要な基本的態度・知識・技能を修得する必要があり，第１学年～第３学年では，この一貫した共通目標を持たせた「歯科医療人間学」を設けています。また患者の立場と背景を理解し道徳観や倫理観を涵養するために，第１学年と第２学年で「リベラルアーツ」を履修します。さらに医療に対するニーズや問題を探求し，それを解決する力を身に付けるために，第１学年～第３学年では，アーリーエクスポージャーを踏まえた「医学概論」を取り入れています。

２．生涯にわたり歯科医師として自己開発に努める習慣を身に付けるために，第１学年～４学年では，学年や基礎，臨床を問わず学生自身が興味を持つ分野を選択し出向して学修できる「エレクティブ・スタディ」を取り入れています。

３．各学年における総合的な知識を確認するために，第１学年では総合試験１Ｄ，第２学年では総合試験２Ｄ，第３学年では総合試験３Ｄ，第４学年ではＣＢＴ，ＯＳＣＥ，第５学年では第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期終了試験，総合試験５Ｄを行います。また，第１学年～第３学年の履修科目では，各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう，目標達成度の低い学生を対象に少人数で強化的に学修する「科目選択ゼミナール」を取り入れています。

４．歯科口腔疾患の病態の解析と治療概念を把握し，診断と適切な治療計画を立案するために，第１学年と第２学年では「理科」を学んで「理科実験」を行い，第２学年と第３学年では基礎系科目による「歯科基礎医学」と「歯科基礎医学実習」,「歯科基礎病態学」と「歯科基礎病態学実習」,「歯科基礎病態治療学」と「歯科基礎病態治療学実習」を履修し，第３学年と第４学年では臨床系科目による「歯科口腔診断学」,「歯科口腔診断治療学」と「歯科口腔治療学実習」を履修するように編成しています。これにより第１学年～第４学年で履修する理科，基礎系科目，臨床系科目が順に取り組めます。

５．先進的で高度な歯科医療技術を身に付け，さらに超高齢社会のニーズに対応し，地域特性を踏まえた包括医療を実践するプロフェッショナルになるために,第５学年では臨床実習(診療参加型)と基礎系科目を再度履修するためのEvidence research研修，他職種連携を学ぶためのMedical Team研修や社会福祉施設，介護老人保健施設での学外研修を取り入れています。

６．歯科医師になるために必要な知識と技能を再確認するために，第６学年では歯科医師国家試験出題基準に則った授業時間を各科目に割り当て，臨床総合講義を行います。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	①倫理とコミュニケーション	②探求力と解決力	③病態解析と治療概念	④知識と診断	⑤技能と治療
	・患者の立場や背景を理解し，思いやりを持った言動ができる。 ・患者の自己決定権を尊重し，個人情報を厳守できる。	・医療に対して社会や環境が求めるニーズや問題を探求し，迅速かつ的確に解決できる。	・病態を解析し，治療の要素を把握できる。	・歯科口腔疾患を診断し，適切な治療計画を立案できる。	・歯科医療技術を身につけ，先進的で高度な歯科医療を実施できる。

第1学年

- リベラルアーツ
  美術，体育，郡山学／福島学，基礎英語，心理学概論
- リベラルアーツ
  英語Ⅰ，経営学
  統計数理学
  日本語学Ⅰ
  情報リテラシーⅠ
- ES
  （エレクティブスタディー）
- 医学概論
  臨床心理学，医療倫理学
  臨床歯学概論，歯科医療概論，歯科医学演習
- 医学概論
  基礎歯学概論Ⅰ
- 歯科医療人間学
  Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 理　科
  基礎物理，基礎化学
  基礎生物学
- 理科実験
  物理学実験，化学実験
  生物学実験
- 朝　礼
- 総合演習１D

第2学年

- 医学概論
  基礎歯学概論Ⅱ
- リベラルアーツ
  英語Ⅱ，情報リテラシーⅡ，社会学
- 理　科
  物理学，化学，生物学
- 歯科基礎医学
  解剖学，口腔解剖学
  口腔組織学，口腔生理学Ⅰ
  口腔生化学Ⅰ，公衆衛生学
- 朝　礼
- 歯科基礎医学実習群
  解剖学実習，口腔解剖学実習
  口腔組織学実習，口腔生理学実習
- 歯科基礎病態治療学
  口腔感染免疫学Ⅰ，歯科薬理学Ⅰ
  生体材料学・歯科材料学
- 総合演習２D

第3学年

- 医学概論
  社会歯科学，歯科医療管理学
- 歯科基礎医学
  口腔生理学Ⅱ，口腔生化学Ⅱ
  口腔衛生学
- 歯科基礎医学実習
  口腔生化学実習
  口腔衛生学実習
- 朝　礼
- 歯科基礎病態治療学
  口腔感染免疫学Ⅱ，歯科薬理学Ⅱ，生体材料学・歯科材料学Ⅱ
- 歯科基礎病態学／実習
  口腔病理学，口腔病理学実習
- 歯科基礎病態治療学実習
  口腔感染免疫学実習，歯科薬理学実習
  生体材料・歯科材料学実習
- 歯科口腔診断学
  口腔内科学，災害歯科医学，総合臨床医学，歯科放射線学Ⅰ
- 歯科口腔診断治療学
  保存修復学Ⅰ，冠橋義歯補綴学Ⅰ，有床義歯補綴学Ⅰ
  口腔外科学Ⅰ，高齢者歯科学Ⅰ
- 歯科口腔治療学実習
  有床義歯補綴学実習Ⅰ
- 総合演習３D

第4学年

- 朝　礼
- 歯科口腔診断学
  歯科放射線学Ⅱ
- 歯科口腔診断治療学
  保存修復学Ⅱ，歯内療法学，歯周病学
  冠橋義歯補綴学Ⅱ，有床義歯補綴学Ⅱ，口腔インプラント学
  口腔外科学Ⅱ，口腔外科学Ⅲ，歯科麻酔学
  歯科矯正学，小児歯科学，高齢者歯科学Ⅱ，障害者歯科学
- 歯科口腔治療学実習
  保存修復学実習，歯内療法学実習，歯周病学実習
  冠橋義歯補綴学実習，有床義歯補綴学実習Ⅱ
  口腔インプラント学実習
  歯科矯正学実習，小児歯科学実習
- 臨床総合演習
- 総合演習４D

第5学年

- 朝　礼
- 臨床実習
- 総合試験５D

第6学年

- 朝　礼
- 臨床総合講義
- 卒　業　試　験

朝　礼

- 歯科臨床研修

6．奥羽プロフェッショナリズム

・超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる。
・地域特性を踏まえた医療連携を構築し，他職種とともに包括医療を実践できる。
・生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。医療従事者は医学的知識や医療技術の修得にとどまらず，人間性と道徳観や倫理観を持って他者とのコミュニケーション能力を高め良好な人間関係を築くことが大切です。また，社会環境の変化やニーズに対応するために，自ら課題を探求して解決する能力や多職種連携に関わる知識と応用力も必要になります。さらに，人として他者を尊重し思いやる心と生涯にわたり歯科医師を貫く強い志を持ち，社会に貢献できる歯科医師を目指すことが必要となります。

歯学部では，次のような資質を備えた入学者を求めています。

求める人物像

1．国民の健康の保持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2．生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3．地域医療を支える意識を持っている。
4．歯科医師という職業に魅力を感じ，その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5．歯科医師として，生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1．入学後の学修に必要な基礎学力（国語，英語，数学，理科）を有している。
2．基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を有している。

入試区分別アドミッションポリシー

・総合型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2．将来，自らが目指す歯科医師像が明確である。

・同窓特別入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．本学歯学部の教育環境を十分に理解している。
2．将来，自らが目指す歯科医師像が明確である。

・学校推薦型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
2．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

・特待生選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．特に理数系科目と英語において，優れた学力水準にある。
2．指導的立場に立って歯科医学・歯科医療を支える意識を強く持っている。

・一般選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

・社会人特別入学試験（１年次）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2．将来，自らが目指す歯科医師像が明確である。

・編入学試験（２・３・４年次編入）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医師になりたいという強い希望を持っている。
2．本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
3．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

2022年度　奥羽大学　学年暦

４月	４日	入学式
	＊	オリエンテーション・ガイダンス
	＊	前期授業開始
	＊	健康診断
	29日～５月５日	特別休業
５月	＊	教育後援会(旧父兄会・旧保護者会)
	＊	健康診断
６月	11日，12日	奥羽祭
	18日	奥羽大学歯学会
		交通安全講習会
７月	＊	前期授業終了
	＊	夏季休業
		オープンキャンパス
８月	＊	定期試験
		オープンキャンパス
９月	＊	後期ガイダンス
	＊	後期授業開始
		オープンキャンパス
10月	＊	教育後援会(旧父兄会・旧保護者会)
		学長杯球技大会
11月	12日	奥羽大学歯学会
12月	16日	創立記念日(祝日ではありません)
	＊	後期授業終了
	＊	冬季休業
１月	＊	定期試験
２月		歯科医師国家試験
		薬剤師国家試験
３月	10日	卒業証書・学位記授与式
	＊	教育後援会(旧父兄会・旧保護者会)
	＊	進級予定者発表
	＊	春季休業

＊学部・学年で期間と日程が異なります。

1年

CALENDAR
2022～2023

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

授業コマ数(1年～4年)

	月	火	水	木	金
前期	14	15	15	15	15
後期	14	15	15	15	15
計	28	30	30	30	30

講　義　　試　験

補講日　　オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

2年～4年

CALENDAR 2022～2023

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2 FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3 MARCH

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	14	15	15	15	15
後期	14	15	15	15	15
計	28	30	30	30	30

講　義　　試　験

補講日　　オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

5年

CALENDAR
2022～2023

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

臨床実習　試　験

登院式

4/29～5/5　特別休暇

6年

CALENDAR
2022～2023

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

講　義　　試　験　　4/29～5/5　特別休暇

予備日　　ガイダンス

強化講義

2022年度　歯学部授業時間割〈第１学年〉

学期	時限	8：40～	1 8：50～9：50		2 10：00～11：00		3 11：10～12：10		4 13：00～14：00		5 14：10～15：10		6 15：20～16：20		7 16：30～17：30	
			クラス	授業科目	クラス	授業科目	クラス	授業科目	クラス	授業科目	クラス	授業科目	クラス	授業科目	クラス	授業科目
前期	月	該当者	試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～ 10:00	全	HR	全	HR	全	総合演習１D (2022年度歯学部シラバス44頁授業概要頁を確認)					全	科目選択 ゼミナール
	火	朝礼	全	心理学	全	基礎化学	全	基礎化学	A	生物学実験(基礎棟１階実習室)					全	エレクティブ スタディ
									B	臨床歯学概論	B	歯科医学演習				
	水		全	情報 リテラシーⅠ	全	日本語学Ⅰ	全	日本語学Ⅰ	A	体育(体育館)			A	英語基礎	A	英語Ⅰ
									B	英語基礎	B	英語Ⅰ	B	体育(体育館)		
	木		全	基礎生物学	全	基礎生物学	全	統計数理学	全	歯科医療概論	全	基礎物理学	全	基礎物理学	全	エレクティブ スタディ
	金		全	基礎歯学 概論Ⅰ	全	美術	全	美術	A	臨床歯学概論	A	歯科医学演習				
									B	生物学実験(基礎棟１階実習室)						
後期	月	該当者	試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～ 10:00	全	歯科医療 人間学Ⅰ	全	歯科医療 人間学Ⅰ	全	HR	総合演習１D (2022年度歯学部シラバス44頁授業概要頁を確認) ※９月12日(月)は定期試験追・再試験手続日					
	火	朝礼	全	情報 リテラシーⅠ	全	英語基礎	全	英語Ⅰ	全	基礎化学	全	基礎化学	全	科目選択 ゼミナール	全	エレクティブ スタディ
	水		全	医療倫理学	全	臨床心理学	全	経営学	全	基礎物理学	全	基礎物理学	全	郡山学／福島学	全	科目選択 ゼミナール
	木		全	基礎生物学	全	基礎生物学	全	統計数理学	A	物理学実験(基礎棟２階実習室)					全	エレクティブ スタディ
									B	化学実験(基礎棟２階実習室)						
	金		全	日本語学Ⅰ	全	日本語学Ⅰ	全	基礎歯学 概論Ⅰ	A	化学実験(基礎棟２階実習室)						
									B	物理学実験(基礎棟２階実習室)						

※講義：311教室

2022年度　歯学部授業時間割〈第２学年〉

学期	時限	8：40～	1 8：50～9：50	2 10：00～11：00	3 11：10～12：10	4 13：00～14：00	5 14：10～15：10	6 15：20～16：20	7 16：30～17：30
前期	月	試験枠 8：40～9：40 朝礼 9:50～10:00		生物学	生物学	総合演習２D (2022年度歯学部シラバス47頁授業概要頁を確認)			
	火	朝礼	口腔組織学	口腔組織学	解剖学	歯科医療人間学Ⅱ	物理学	物理学	エレクティブ スタディ
	水		化学	化学	社会学	口腔生理学Ⅰ	日本語学Ⅱ	科目選択 ゼミナール	
	木		口腔解剖学	口腔解剖学	口腔解剖学実習 (解剖棟実習室)				エレクティブ スタディ
	金		情報リテラシーⅡ	英語Ⅱ	口腔感染免疫学Ⅰ	基礎歯学概論Ⅱ	基礎歯学概論Ⅱ	科目選択 ゼミナール	
後期	月	試験枠 8：40～9：40 朝礼 9:50～10:00		口腔解剖学	公衆衛生学	口腔感染免疫学Ⅰ	総合演習２D (2022年度歯学部シラバス47頁授業概要頁を確認) ※９月12日(月)は定期試験追・再試験手続日		
	火	朝礼	口腔組織学	口腔組織学	口腔組織学実習 (基礎棟１階実習室)				エレクティブ スタディ
	水		口腔生理学Ⅰ	口腔生理学Ⅰ	口腔生化学Ⅰ	口腔生理学実習 (基礎棟１階実習室)			
	木		解剖学	解剖学	解剖学実習 (解剖棟実習室)				エレクティブ スタディ
	金		情報リテラシーⅡ	英語Ⅱ	歯科薬理学Ⅰ	生体材料・ 歯科材料学Ⅰ	生体材料・ 歯科材料学Ⅰ	科目選択 ゼミナール	

※講義：312教室

2022年度　歯学部授業時間割〈第３学年〉

学期	時限	8:40～	1	2	3	4	5	6	7
			8：50～9：50	10：00～11：00	11：10～12：10	13：00～14：00	14：10～15：10	15：20～16：20	16：30～17：30
前期	月		試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～10:00	歯科薬理学Ⅱ	歯科薬理学Ⅱ	社会歯科学	総合演習３Ｄ（2022年度歯学部シラバス49頁授業概要頁を確認）	
	火	朝礼	口腔外科学Ⅰ		生体材料・歯科材料学Ⅱ	生体材料・歯科材料学Ⅱ	生体材料･歯科材料学実習（基礎棟２階実習室）		エレクティブスタディ
	水		口腔病理学	口腔病理学	口腔感染免疫学Ⅱ	口腔感染免疫学Ⅱ	口腔生化学実習（基礎棟１階実習室）		
	木		口腔衛生学	口腔生理学Ⅱ	歯科医療人間学Ⅲ	口腔感染免疫学実習（基礎棟１階実習室）			エレクティブスタディ
	金		口腔内科学	口腔生化学Ⅱ	口腔生化学Ⅱ	歯科薬理学実習（基礎棟２階実習室）			科目選択ゼミナール
後期	月		試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～10:00	保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	口腔衛生学	総合演習３Ｄ（2022年度歯学部シラバス49頁授業概要頁を確認）※９月12日(月)は定期試験追・再試験手続日	
	火	朝礼	有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ実習（中央棟５階実習室）				エレクティブスタディ
	水		歯科放射線学Ⅰ	歯科放射線学Ⅰ	災害歯科医学	口腔衛生学実習（基礎棟２階実習室）			科目選択ゼミナール
	木		歯科医療管理学	冠橋義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ	口腔病理学実習（基礎棟１階実習室）			エレクティブスタディ
	金		口腔内科学	高齢者歯科学Ⅰ	口腔外科学Ⅰ	口腔病理学	口腔病理学	総合臨床医学	総合臨床医学

※講義：313教室

2022年度　歯学部授業時間割〈第４学年〉

学期	時限	8:40～	1	2	3	4	5	6	7
			8：50～9：50	10：00～11：00	11：10～12：10	13：00～14：00	14：10～15：10	15：20～16：20	16：30～17：30
前期	月		試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～10:00	歯周病学	歯周病学	口腔外科学Ⅱ	総合演習４Ｄ（2022年度歯学部シラバス51頁授業概要頁を確認）	
	火	朝礼	有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ実習（中央棟５階実習室）				エレクティブスタディ
	水		小児歯科学	小児歯科学	歯科矯正学	保存修復学Ⅱ	保存修復学実習（中央棟５階実習室）		
	木		冠橋義歯補綴学Ⅱ	冠橋義歯補綴学Ⅱ	冠橋義歯補綴学実習（中央棟５階実習室）				エレクティブスタディ
	金		歯内療法学	歯内療法学	高齢者歯科学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ	歯科麻酔学	歯科麻酔学	歯科放射線学Ⅱ
後期	月		試験枠 8：40～9：40	朝礼 9:50～10:00	口腔外科学Ⅱ	口腔外科学Ⅲ	障害者歯科学	総合演習４Ｄ（2022年度歯学部シラバス51頁授業概要頁を確認）※９月12日(月)は定期試験追・再試験手続日	
	火	朝礼	歯科矯正学	歯科矯正学	歯内療法学	小児歯科学	歯科麻酔学	歯科麻酔学	エレクティブスタディ
	水		小児歯科学実習（中央棟５階実習室）			歯周病学	歯周病学実習（中央棟５階実習室）		
	木		歯内療法学実習（中央棟５階実習室）			歯科矯正学実習（中央棟５階実習室）			エレクティブスタディ
	金		前半５週　口腔インプラント学 / 後半10週　口腔インプラント学実習(中央棟５階実習室)			臨床総合演習(OSCE)（中央棟４階・５階実習室）		臨床総合演習(OSCE)（中央棟４階・５階実習室）	

※講義：332教室

2022年度　歯学部授業時間割〈第６学年〉

学期	時限	8：40～	1 8：50～9：50	2 10：00～11：00	3 11：10～12：10	4 13：00～14：00	5 14：10～15：10	6 15：20～16：20	7 16：30～17：30
通年	月	朝礼	有床義歯補綴学 56コマ28回		医療管理学 14コマ14回 医療倫理学 14コマ14回	歯科麻酔学 42コマ14回 歯周病学 42コマ14回			フィードバック
	火		歯科放射線学 28コマ14回 口腔病理学 28コマ14回		歯科薬理学 14コマ14回 災害歯科医学 7コマ7回 歯学史／歯科英語 7コマ7回	保存修復学 42コマ14回 歯内療法学 42コマ14回			フィードバック
	水		口腔解剖学 28コマ14回 口腔組織学 28コマ14回		口腔インプラント学 14コマ14回 障害者歯科学 14コマ14回	小児歯科学 42コマ14回 冠橋義歯補綴学 42コマ14回			フィードバック
	木		生体材料・歯科材料学 28コマ14回 口腔感染免疫学 28コマ14回		総合臨床医学 14コマ14回 口腔生化学 14コマ14回	口腔外科学 63コマ21回 口腔内科学 21コマ７回			フィードバック
	金		公衆衛生学／口腔衛生学 56コマ28回		社会歯科学 14コマ14回 口腔生理学 14コマ14回	高齢者歯科学 42コマ14回 歯科矯正学 42コマ14回			フィードバック

※講義：第１講義室(第２講義棟)　※斜線のコマは隔週で講義を実施する

2022年度カリキュラム表

単位区分　　無印：講義，△：演習，○：実験・実習・実技

区分	授業科目	単位		授業時間数										
		区分	数	1年		2年		3年		4年		5年	6年	
				前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年	計
教養系教育・基礎科学教育	美術	△	1	30										30
	社会学		1			15								15
	統計数理学		2	15	15									30
	情報リテラシーⅠ	△	1	15	15									30
	情報リテラシーⅡ	△	1			15	15							30
	体育	○	1	30										30
	英語基礎	△	1	15	15									30
	英語Ⅰ	△	1	15	15									30
	英語Ⅱ	△	1			15	15							30
	心理学		1	15										15
	臨床心理学		1		15									15
	経営学		1		15									15
	郡山学/福島学		1		15									15
	日本語学Ⅰ		4	30	30									60
	日本語学Ⅱ		1			15								15
	医療倫理学		1		15									15
	基礎物理学		4	30	30									60
	物理学		2			30								30
	物理学実験	○	1		45									45
	基礎化学		4	30	30									60
	化学		2			30								30
	化学実験	○	1		45									45
	基礎生物学		4	30	30									60
	生物学		2			30								30
	生物学実験	○	1	45										45
	歯科医学演習	△	1	30										30
	歯科医療概論		1	15										15
	基礎歯学概論Ⅰ		2	15	15									30
	基礎歯学概論Ⅱ		2			30								30
	臨床歯学概論		1	15										15
	社会歯科学		1					15						15
	歯科医療管理学		1						15					15
	歯科医療人間学Ⅰ		2		30									30
	歯科医療人間学Ⅱ		1			15								15
	歯科医療人間学Ⅲ		1					15						15
	小計		54	375	375	195	30	30	15	0	0	0	0	1,020
生命科学教育	口腔解剖学		3			30	15							45
	口腔解剖学実習	○	1			60								60
	解剖学		3			15	30							45
	解剖学実習	○	1				60							60
	口腔組織学		4			30	30							60
	口腔組織学実習	○	1				60							60
	口腔生理学Ⅰ		3			15	30							45
	口腔生理学Ⅱ		1					15						15
	口腔生理学実習	○	1				45							45
	口腔生化学Ⅰ		1				15							15
	口腔生化学Ⅱ		2					30						30
	口腔生化学実習	○	1					45						45
	口腔病理学		4					30	30					60
	口腔病理学実習	○	1						45					45
	口腔感染免疫学Ⅰ		2			15	15							30
	口腔感染免疫学Ⅱ		2					30						30
	口腔感染免疫学実習	○	1					45						45
	歯科薬理学Ⅰ		1				15							15
	歯科薬理学Ⅱ		2					30						30
	歯科薬理学実習		1					45						45
	生体材料・歯科材料学Ⅰ		2				30							30
	生体材料・歯科材料学Ⅱ		2					30						30
	生体材料・歯科材料学実習	○	1					45						45
	口腔衛生学		2					15	15					30
	口腔衛生学実習	○	1						45					45
	公衆衛生学		1				15							15
	小計		45	0	0	165	360	360	135	0	0	0	0	1,020

区分	授業科目	単位		授業時間数										
		区分	数	1年		2年		3年		4年		5年	6年	
				前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年	計
口腔科学教育	保存修復学Ⅰ		2						30					30
	保存修復学Ⅱ		1							15				15
	保存修復学実習	○	1							45				45
	歯内療法学		3							30	15			45
	歯内療法学実習	○	1								45			45
	歯周病学		3							30	15			45
	歯周病学実習	○	1								45			45
	冠橋義歯補綴学Ⅰ		1						15					15
	冠橋義歯補綴学Ⅱ		2							30				30
	冠橋義歯補綴学実習	○	1							60				60
	有床義歯補綴学Ⅰ		3						45					45
	有床義歯補綴学Ⅱ		3							45				45
	有床義歯補綴学Ⅰ実習	○	1						60					60
	有床義歯補綴学Ⅱ実習	○	1							60				60
	口腔インプラント学		1								15			15
	口腔インプラント学実習	○	1								30			30
	口腔外科学Ⅰ		2					15	15					30
	口腔外科学Ⅱ		2							15	15			30
	口腔外科学Ⅲ		1								15			15
	口腔内科学		2					15	15					30
	歯科麻酔学		4							30	30			60
	歯科矯正学		3							15	30			45
	歯科矯正学実習	○	1								45			45
	小児歯科学		3							30	15			45
	小児歯科学実習	○	1								45			45
	歯科放射線学Ⅰ		2						30					30
	歯科放射線学Ⅱ		1							15				15
	高齢者歯科学Ⅰ		1						15					15
	高齢者歯科学Ⅱ		1							15				15
	障害者歯科学		1								15			15
	災害歯科医学		1						15					15
	総合臨床医学		2						30					30
	臨床総合演習	△	2								60			60
	臨床実習	○	30									1,350以上		1,350以上
	臨床総合講義	△	10										450以上	450以上
	小計		96	0	0	0	0	30	270	435	435	1,350以上	450以上	2,970以上
合　計			195	375	375	360	390	420	420	435	435	1,350以上	450以上	5,010以上

科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは，教育課程の体系が容易に理解できるように，科目間の連携や科目内容の難易を表す番号をつけ，教育課程の構造を分かりやすく明示する仕組みです。

歯学部における科目ナンバリングは次の構成とします。

D	①②	-	01	01
(1)	(2)	(ハイフン)	(3)	(4)

(1) 歯学部

(2) ディプロマポリシー（参照）

(3) 科目群（カリキュラムマップ参照）

(4) 分類番号（カリキュラムマップ参照）

各科目(略称)とオフィスアワーについて

オフィスアワー（Office　Hour）は，各教員に対して学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり，相談あるいは個人的な指導等を受けるために設定された，広く学生に対して開かれた時間です。

下記の時間帯以外でも，在室時は質問・相談を受け付けますので，学生の皆さんは，有効にオフィスアワーを利用してください。

ただし，オフィスアワーに設定されている時間であっても，会議や出張等で在室できない場合がありますので掲載されているメールアドレスを使用して事前に連絡することをお勧めします。また，メールを使用して質問・相談等も受け付けますので，有効に活用してください。

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜　日	時　間	場　所
口腔解剖学(解剖)	教授	宇佐美晶信	a-usami@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	解剖学棟
	講師	芹川　雅光	m-serikawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	解剖学棟
口腔組織学(組織)	教授	安部　仁晴	k-ambe@den.ohu-u.ac.jp	月～金	16:30～17:45	基礎棟４階 教授室
	准教授	中川　敏浩	t-nakagawa@den.ohu-u.ac.jp	水	12:20～13:15	基礎棟４階 口腔組織学研究室
	講師	荒木　啓吾	k-araki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:45	基礎棟４階 口腔組織学研究室
口腔感染免疫学(感染)	教授	清浦　有祐	y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
	准教授	玉井利代子	r-tamai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
	講師	眞島いづみ	i-mashima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
口腔病理学(病理)	講師	遊佐　淳子	j-yusa@den.ohu-u.ac.jp	水	16:40～17:40	基礎棟４階 口腔病理学第２研究室
	講師	櫻井　裕子	y-sakurai@den.ohu-u.ac.jp	水	16:40～17:40	基礎棟４階 口腔病理学第２研究室
歯科薬理学(薬理)	准教授	鈴木　礼子	r-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	月	17:00～17:45	基礎棟３階 歯科薬理学研究室
	准教授	柴田　達也	t-shibata@den.ohu-u.ac.jp	月	17:00～17:45	基礎棟３階 歯科薬理学研究室
	講師	長岡　正博	m-nagaoka@den.ohu-u.ac.jp	月水金	17:00～17:45	基礎棟３階 歯科薬理学研究室
口腔生理学(生理)	教授	川合　宏仁	h-kawai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:40～17:30	基礎棟３階 教授室
	講師	大須賀謙二	k-osuga@den.ohu-u.ac.jp	火	16:40～17:30	基礎棟３階 口腔生理学研究室
	講師	古山　　昭	a-furuyama@den.ohu-u.ac.jp	月	16:40～17:30	基礎棟３階 口腔生理学研究室
口腔生化学(生化)	教授	加藤　靖正	y-katou@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	基礎棟５階 教授室
	准教授	前田　豊信	t-maeda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔生化学研究室
生体材料学(材料)	教授	岡田　英俊	h-okada@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 教授室
	准教授	石田　喜紀	y-ishida@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 歯科理工学研究室
	講師	大木　達也	t-ohki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 歯科理工学研究室
	講師	齋藤　龍一	r-saito@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 歯科理工学研究室
口腔衛生学(衛生)	教授	廣瀬　公治	k-hirose@den.ohu-u.ac.jp	月水	17:00～17:30	基礎棟５階 教授室
	教授	瀬川　　洋	h-segawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	講師	大橋　明石	a-ohashi@den.ohu-u.ac.jp	月～金	17:00～17:30	基礎棟５階 口腔衛生学第１研究室
	講師	南　健太郎	k-minami@den.ohu-u.ac.jp	月～金	17:00～17:30	基礎棟５階 口腔衛生学第１研究室
	講師	小林美智代	m-kobayashi@den.ohu-u.ac.jp	月～金	17:00～17:30	基礎棟５階 口腔衛生学第１研究室
保存修復学(修復)	教授	山田　嘉重	y-yamada@den.ohu-u.ac.jp	月～木	17:00～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	菊井　徹哉	t-kikui@den.ohu-u.ac.jp	月～木	17:00～17:30	病院棟２階 歯科保存学研究室No.4
歯内療法学(歯内)	教授	木村　裕一	y-kimura@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	佐々木重夫	s-sasaki@den.ohu-u.ac.jp	火	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室８
	講師	佐藤　穏子	ya-sato@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室８
	講師	長﨑　慶太	k-nagasaki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室７
	講師	金澤　朋昭	t-kanazawa@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室７
歯周病学(歯周)	教授	高橋　慶壮	ke-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
冠橋義歯学(冠橋)	教授	羽鳥　弘毅	k-hatori@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	講師	五十嵐一彰	k-igarashi@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室５
	講師	盛植　泰輔	t-moriue@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室５

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜　日	時　間	場　所
有床義歯学(有床)	教授	山森　徹雄	t-yamamori@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟５階 教授室
	講師	松本　知生	c-matsumoto@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室
	講師	内山　梨夏	r-uchiyama@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室
口腔インプラント学(イン)	講師	高橋　昌宏	m-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 口腔インプラント学研究室
	講師	船川　竜生	t-funakawa@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 口腔インプラント学研究室
	講師	保田　穣	y-yasuda@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00～17:30	病院棟４階 口腔インプラント学研究室
口腔外科学(外科)	教授	髙田　訓	s-takada@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	教授	金　秀樹	h-kon@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	教授	大野　敬	t-ohno@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	川原　一郎	i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	御代田　駿	s-miyota@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	小嶋　忠之	t-kojima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	臼田　真浩	m-usuda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	高橋文太郎	f-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	川嶋　雅之	m-kawashima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
歯科麻酔学(麻酔)	教授	山崎　信也	s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	講師	冨田　修	s-tomita@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	講師	吉田　健司	ke-yoshida@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	講師	北條健太郎	k-hojyo@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
高齢者歯科学(高齢)	教授	鈴木　史彦	f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	
歯科矯正学(矯正)	教授	福井　和徳	k-fukui@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	准教授	板橋　仁	j-itabashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	准教授	川鍋　仁	j-kawanabe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	黒田　栄子	e-kuroda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	山野辺晋也	s-yamanobe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	岡崎　智世	t-okazaki@den.ohu-u.ac.jp>	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
小児歯科学(小児)	教授	島村　和宏	k-shimamura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	講師	加川千鶴世	c-kagawa@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学１
歯科放射線学(放射)	教授	原田　卓哉	t-harada@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
	講師	茂呂祐利子	y-moro@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
	講師	矢口　剛士	t-yaguchi@den.ohu-u.ac.jp	火	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
総合臨床医学(医学)	教授	馬場　優	y-baba@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
生物学(生物)	准教授	今井　元	ha-imai@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30～17:30	薬学実習棟３階 研究室
物理学(物理)	教授	菊地　尚志	hi-kikuchi@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	薬学実習棟３階 研究室
	講師	荒木　威	t-araki@den.ohu-u.ac.jp	月～金	16:30～17:30	薬学実習棟３階 研究室
化学	講師	阿部　匡聡	m-abe@den.ohu-u.ac.jp	月	16:45～17:45	基礎棟３階 理工学第１研究室
	講師	斎藤昇太郎	s-saito@den.ohu-u.ac.jp	金	16:40～17:40	薬学実習棟３階 研究室
日本語学(日本語)	講師	本多　真史	m-honta@den.ohu-u.ac.jp	木	12:10～13:00	薬学実習棟３階 研究室
心理学(心理)	講師	佐藤　歩				
病院	教授	杉田　俊博	t-sugita@den.ohu-u.ac.jp	火	17:00～17:45	病院棟２階 臨床研修室
	准教授	清野　晃孝	a-seino@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:45	病院棟５階 総合診療歯科学研究室
図書館	館長	安藤　勝	ankatsu@jim.ohu-u.ac.jp	火	16:00～17:00	中央棟２階 図書館長室
英語	講師	長峯　英樹	h-nagamine@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	薬学実習棟３階 研究室
美術	非常勤講師	渡部　憲生		金	12:10～13:00	第３講義棟２階非常勤講師控室
体育	非常勤講師	二瓶美智子	kenkou_max55@yahoo.co.jp	水	13:00～17:30	体育教員控室
社会学	非常勤講師	高橋　嘉代	workscr22s@hotmail.com	水	12:10～13:00	第３講義棟２階非常勤講師控室

歯科口腔治療学実習・臨床総合演習・臨床実習担当教員

	職名	氏　名
保存修復学	教授	山田　嘉重
	准教授	菊井　徹哉
	助教	北原　　海
	助教	小鷲　啓典
	助教	千葉　駿一郎
	助教	浦澤　里緒
	助教	大木　英俊
	助教	新妻　歩実
	助教	橋本　昌典
	助教	宇治川　竜也
	助教	根本　華菜子
	助教	野口　太照
歯内療法学	教授	木村　裕一
	准教授	佐々木　重夫
	講師	佐藤　穏子
	講師	長﨑　慶太
	講師	金澤　朋昭
	助教	神庭　一郎
	助教	茂呂　有司
	助教	橋本　有加
歯周病学	教授	高橋　慶壮
	助教	山﨑　厚作
冠橋義歯学	教授	羽鳥　弘毅
	講師	五十嵐　一彰
	講師	盛植　泰輔
	助教	雨宮　幹樹
	助教	伊藤　　歩
	助教	大友　悠資
	助教	内田　光洋
	助教	山口　雄大
有床義歯学	教授	山森　徹雄
	講師	松本　知生
	講師	池田　敏和
	講師	内山　梨夏
	助教	飯島　康基
	助教	佐々木　慎一
	助教	曽根　晶子
	助教	佐久間　大季
	助教	原　　千晶
口腔インプラント学	講師	高橋　昌宏
	講師	船川　竜生
	講師	保田　　穣
	助教	奈田　憲二
	助教	北林　治彦
	助教	河村　享英

	職名	氏　名
口腔外科学	教授	髙田　　訓
	教授	金　　秀樹
	教授	大野　　敬
	准教授	川原　一郎
	講師	御代田　駿
	講師	小嶋　忠之
	講師	臼田　真浩
	講師	髙橋　文太郎
	講師	川嶋　雅之
	助教	神林　直大
	助教	西　　祐也
	助教	山崎　北斗
	助教	小菅　満広
	助教	高良　宗斉
歯科麻酔学	教授	山崎　信也
	講師	冨田　　修
	講師	吉田　健司
	講師	北條　健太郎
	助教	今井　彩乃
	助教	木村　　楽
	助教	森山　　光
	助教	鈴木　琢矢
	助教	玉野井　喬
	助教	佐藤　璃奈
	助教	鈴木　香名美
	助教	関口　雅也
高齢者歯科学	教授	鈴木　史彦
歯科矯正学	教授	福井　和徳
	准教授	板橋　　仁
	准教授	川鍋　　仁
	講師	黒田　栄子
	講師	山野辺　晋也
	講師	岡崎　智世
	助教	笹谷　哲郎
	助教	根本　奈央子
	助教	松村　賢史
	助教	荻野　早紀
	助教	小須田　一剛
小児歯科学	教授	島村　和宏
	講師	加川　千鶴世
	助教	神庭　優衣
	助教	舟山　敦雄
	助教	石橋　奈美
	助教	角田　　望
歯科放射線学	教授	原田　卓哉
	講師	茂呂　祐利子
	講師	矢口　剛士
	助手	渡部　剛史

Ⅰ．規　　程

1．学　　則（抜粋）

第１章　総　　則

（目的）

第１条　奥羽大学（以下「本学」という。）は，教育基本法並びに学校教育法に基づき，広く知識を養うと共に，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は，次の各号のとおりとする。

⑴ 歯学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。

⑵ 薬学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

２　本学は，前項の目的を達成するために，教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。なお，点検及び評価については「奥羽大学自己点検・自己評価規程」として別に定める。

第２章　学 部 構 成

（学部学科）

第２条　本学に次の学部及び学科を置く。

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

第３章　修業年限及び入学定員

（修業年限）

第３条　本学の修業年限は，歯学部及び薬学部は６年とする。

２　歯学部においては，修業年限の２倍を超えて在学することはできない。ただし，在学期間は同一学年において３年を超えることはできない。

３　薬学部においては，修業年限の２倍を超えて在学することはできない。

（入学定員及び収容定員）

第４条　本学の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

⑴ 歯学部　歯学科　入学定員　100名　収容定員　600名

⑵ 薬学部　薬学科　入学定員　140名　収容定員　840名

第４章　学年，学期及び休業日

（学年）

第５条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

（学期）

第６条　学年を次の２期に分ける。

前期　　４月１日から９月30日まで

後期　　10月１日から翌年３月31日まで

（休業日）

第７条　省略

第５章　授業科目，履修方法及び講座

（授業科目の区分）

第８条　各学部において開設する授業科目は，次の区分とする。

⑴ 歯学部　教養系教育，基礎科学教育科目，生命科学教育科目，口腔科学教育科目

⑵ 薬学部　基礎教育科目，専門教育科目

第９条　省略

（開設授業科目及び履修方法）

第10条　歯学部においては，その教育研究上の目的を達成するため，講座制をとる。

２　次の講座をおく。

基礎講座	臨床講座
生体構造学講座	歯科保存学講座
口腔病態解析制御学講座	歯科補綴学講座
口腔機能分子生物学講座	口腔外科学講座
生体材料学講座	成長発育歯学講座
口腔衛生学講座	放射線診断学講座

（単位の算定）

第11条　各授業科目に対する単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算するものとする。

⑴ 講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

⑵ 演習については，30時間の授業をもって１単位とする。

⑶ 実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で本学が各授業科目について定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，薬学部における特別実習に対する単位数は６単位とする。

（選択科目の申請）

第12条　選択履修する授業科目は，毎学年所定の期間に申請しなければならない。

第６章　職　　員（省略）

第７章　教　授　会（省略）

第８章　入学，編入学，転学，休学，復学，退学及び再入学

（入学の時期）

第19条　入学時期は，学年の始めとする。

（入学資格及び入学者の選考）

第20条　本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴ 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

⑶ 通常の課程以外の課程によって，前号に相当する学校教育を修了した者

⑷ 外国において，学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑸ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑹ 文部科学大臣の指定した者

⑺ 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

２　本学への入学志願者については，能力，資質，人物，健康等を考慮して選考する。

（編入学）

第21条　次の各号の一に該当する者で，本学の各学部に編入学を志願する者があるときは，欠員のある場合に限り，選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

⑴ 大学を卒業した者又は大学に１年以上在学した者

⑵ 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

（転学）

第22条　学長は，他の大学に転学を願い出る者があるときは，当該学部教授会の議を経て，これを許可することができる。

２　学長は，本学の学部の一から他の学部に転学を願い出る者があるときは，当該学部教授会の議を経て，これを許可することができる。

３　他の大学に転学したものは，除籍する。

（入学試験等）

第23条　入学試験期日，試験科目及び出願期間は，毎年度これを定める。

（入学願書等）

第24条　入学を志願する者は，指定の期間中に，入学検定料その他別に定める書類等を提出又は納入しなければならない。

（入学書類等）

第25条　入学を許可された者は，指定の期日までに，次の各号に掲げる書類等を提出又は納入しなければならない。

⑴ 住民票

⑵ 所定の誓約書

⑶ 在学保証書

⑷ 出身校の卒業又は修了証明書

⑸ 入学金及び授業料その他の納付金

（在学保証書）

第26条　入学（編入学及び再入学を含む。）を許可された者は，その者の身上及び本学に対する債務に関し，独立の生計を営む成年者で，入学時の在学保証書に定めてある負担債務内容及び損害・賠償金の極度額を責任を負うことのできる保証人２名が連署した在学保証書を提出しなければならない。

２　前項の保証人が欠け，又は変更の必要がある場合は，新たに保証人を定め，直ちに在学保証書を提出しなければならない。

（休学）

第27条　病気その他やむを得ない理由によって，引き続き３か月以上修学することができないと認められる者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に願い出て，その許可を得て休学することができる。

２　学長は，必要により休学を命ずることがある。

３　休学期間は，当該年度限りとする。特別の事由があるときは，引き続き休学期間を延長することができる。ただし，通算して３年を超えることはできない。

４　休学期間は，第３条の在学期間に算入しない。

（復学）

第28条　休学の理由の止んだ者は，学長の許可を得て原学年に復学することができる。

２　復学願いには，保証人の連署を必要とし，疾病によって休学した者は，本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

（退学）

第29条　病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は，その理由を証明する書類を添え，

保証人連署のうえ，学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。

（再入学）

第30条　学長は，退学した者又は除籍された者が２年以内に再入学を願い出たときは，選考のうえ，当該学部教授会の議を経て許可することがある。この場合には，既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

第９章　入学検定料，入学金，授業料その他納付金

（入学検定料）

第31条　本学に入学を志願する者は，入学検定料（歯学部40,000円，薬学部30,000円）を入学願書に添えて納入するものとする。

（入学金等及び再入学金）

第32条　入学を許可された者は，所定の期日までに次表の入学金，授業料等を納付しなければならない。ただし，第30条の規定により再入学を許可された者は，入学金の２分の１を納入するものとする。なお，歯学部３年次及び４年次編入学を許可された者は，所定の期日までに入学金，授業料，歯学教育充実費を納付しなければならない。

	歯　学　部	薬　学　部
入　　学　　金	500,000 円	200,000 円
授　　業　　料	3,500,000 円	1,500,000 円

	歯　学　部
歯学教育充実費	3,500,000 円

（授業料の納入，退学及び休学の授業料）

第33条　学籍にある者は，次表の授業料を納めなければならない。

	歯　学　部	薬　学　部
授　　業　　料	3,500,000 円	1,500,000 円

２　授業料その他定められたものは年額とし，次の２期に分けて２分の１額ずつ分納することができる。

前期４月30日まで

後期10月31日まで

３　休学者に係わる第１項に定める授業料の納付金は，学期毎に１期分の３分の１を休学費として納入しなければならない。

４　学長は，授業料の納付を怠り，督促を受けてもなお納入しない者については，当該学部教授会の議を経て除籍することができる。

（実験実習費）

第34条　学生の実験実習に要する費用は，別にこれを徴収することがある。

（学費の変更）

第35条　在学中において授業料及びその他の納付金に変更があったときは，新たに定められた金額に基づいて納入しなければならない。

（返還）

第36条　既に納入した入学検定料，入学金，授業料及びその他の納付金は，いかなる事情があっても返還しない。

２　入学時所定の期日までに入学許可の取り消し又は入学を辞退した者にあっては，その者の請求により授業料及びその他の納付金を返還することがある。

第 10 章　学修の評価，進級及び卒業

（学修の評価）

第37条　履修した授業科目については，別に定める試験規程により，その成績を判定する。

２　科目の成績は，100点をもって満点とし，秀（100 ～ 90点），優（89 ～ 80点），良（79 ～ 70点），可（69 ～ 65点），不可（64点以下）の５種とする。秀，優，良，可は合格とし，不可は不合格とする。

（進級）

第38条　各学年所定の授業科目の試験に合格した者は進級とする。

２　ただし，歯学部においては各学年の総合試験に合格しなければならない。

（卒業の認定）

第39条　所定の授業科目を履修し，その単位を修得した者に対し卒業証書を授与する。ただし，歯学部においては卒業試験に合格しなければならない。

２　卒業試験に関する事項は，別に定める。

第 11 章　学位の授与

（学位の授与）

第40条　本学を卒業した者に対し，次の区分に従い学位を授与する。

歯学部　学士（歯学）

薬学部　学士（薬学）

第 12 章　賞　　罰

（表彰）

第41条　学業の優秀な者又は善行のあった者は，当該学部教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

（懲戒）

第42条　学長は，学生がその本分に反する行為をし，又は本学の諸規程等に違反する行為があった場合は，当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

２　懲戒を分けて訓告，停学及び退学とする。

３　前項の退学は，次の各号の一に該当する者について行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

第 13 章　研究生，聴講生並びに委託生

（研究生，聴講生，委託生）

第43条　本学に研究生，聴講生並びに委託生の制度を設けることができる。

２　研究生，聴講生並びに委託生に関する事項は別に定める。

第 14 章　公 開 講 座

（公開講座）

第44条　本学に公開講座を設ける。

２　公開講座に関する事項は，別に定める。

第15章　大　学　院

（大学院）

第45条　本学に大学院歯学研究科を置く。

２　大学院歯学研究科の学則等については，別に定める。

第16章　附 属 施 設

（附属病院）

第46条　一般患者の診療及び学生の臨床実習に資するため，本学歯学部に附属病院を置く。

２　附属病院において開設する科目は，次のとおりとする。

(1) 歯　科（総合歯科，口腔外科，歯科麻酔科，放射線科）

(2) 矯正歯科

(3) 小児歯科

(4) 内　科

(5) 外　科

(6) その他必要な診療科

３　附属病院の組織，管理及び運営その他必要な事項は，別に定める。

（附属薬用植物園）

第46条の２　本学薬学部に附属薬用植物園を置く。

２　附属薬用植物園の管理及び運営その他の必要な事項は，別に定める。

第17章　図　書　館

（図書館）

第47条　職員及び学生の研究，学修に資するため本学に図書館を置く。

２　図書館の管理運営その他必要な事項は，別に定める。

第18章　特待生制度

（特待生制度）

第48条　本学建学の主旨により，人物，成績，健康共に優秀な者には，これを特待生として授業料の全部又は一部を免除する制度を置く。

２　特待生制度に関する事項は，別に定める。

第19章　雑　　則

第49条　本学則のほかに教育，研究又は学生に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

本学則は，平成18年４月１日から施行する。ただし，第３条及び第11条の薬学部については，平成18年度入学生から適用し，平成18年３月31日に在籍する者については，従前の学則とする。

２　大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）が廃止され，高等学校卒業程度認定試験規則が創設されたことにより，第22条についての経過措置として大学入学試験検定を受験し合格した者については，新規則（認定試験合格者）と読み替えるものとする。

附　則

本学則は，令和３年４月１日から施行する。

2. 奥羽大学試験規程

第１章　総　　則

第１条　この規程は，学則第37条及び第38条に基づき，本学で実施する試験について定める。

第２章　試　　験

第２条　試験は，定期試験及び追・再試験とする。ただし，授業科目により適宜に行う試験及び学年別総合試験等もある。

第３条　定期試験は，科目毎に学期末又は学年末に行う。なお，試験の方法については，科目筆記試験及び口頭による試験，並びに実技試験のほか，小論文等による。

第４条　追試験は，定期試験を受けることが出来なかった者に対し，願い出により行うことがある。

第５条　再試験は，定期試験で65点未満であった者に対し，願い出により行うことがある。

第６条　追・再試験の受験に際しては，所定の願書を提出し，１科目につき4,000円の受験料を定められた日までに納入しなければならない。

２　学年別総合試験等の合格基準及び追・再試験等に関わる事項は教授会で定める。

第３章　受 験 資 格

第７条　歯学部にあっては，各学年で履修するいずれの科目においても，各期授業時間数の80％以上の出席がない場合には，当該科目の受験資格を失う。薬学部にあっては，各学年で履修するいずれの科目においても，授業時間数の３分の２以上の出席がない場合には，当該科目の受験資格を失う。ただし，学年別総合試験等の受験資格に関わる事項は教授会で定める。

第８条　試験は，授業料その他の納入金を完納しなければ受験させることができない。

第４章　試験の欠席

第９条　疾病その他やむを得ない理由により試験を欠席した者は，医師の診断書，又はその理由を付した欠席届を速やかに提出しなければならない。

２　前項の届出が行われない場合は，追試験の受験資格は与えられない。

第５章　不 正 行 為

第10条　試験において不正行為を行った者は，その学期における全科目の成績を０点とし，かつ懲戒処分を行う。

２　懲戒処分については，別に定める。

第６章　試験の成績

第11条　試験の成績は100点をもって満点とする。

第７章　受 験 心 得

第12条　受験に際しては，次の事項を守らなければならない。

⑴ 受験中，学生証を必ず机上に提示しておくこと。ただし，忘れた場合は，学事部に申し出て証明書を受け，これを学生証に代えることができる。

⑵ 試験場には，試験開始５分前に入っていること。

⑶ 25分以上の遅刻，及び試験開始後30分以内の退出はしないこと。

⑷ 試験場では，筆記に必要な用具のほかは机から離して置くこと（下敷は不可）。ただし，特に許可されたものはこの限りではない。

(5) 受験中は，用具の貸借をしたり監督者以外への話しかけや，答案等を見せたりしてはいけない。
(6) 受験に際しては，不正な方法によって答案を作成したり，それを幇助したりしてはならない。
(7) その他，監督者の指示に従うこと。
2　受験心得に違反した者は，退場を命ずる。

第８章　雑　　則

第13条　本規程の改廃は，教授会の議決を経なければならない。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和４年４月１日から施行する。

3. 奥羽大学歯学部卒業試験規程

第１章　総　　則

第１条　この規程は，学則第39条第２項に基づき本学歯学部で実施する卒業試験（以下「本試験」という。）について定める。
第２条　本試験の実施に際し，本規程に定められていない事項については，別に定める試験規程を適用する。

第２章　試　　験

第３条　本試験は，既に履修した基礎並びに臨床科目の修業の程度を総合的に判定するために行う。
第４条　本試験は，第６学年において，実施する。
第５条　合格者は，教授会において決定する。

第３章　試験の施行（省略）

第４章　雑　　則（省略）

附　則

この規程は，平成29年９月１日から施行する。

４．奥羽大学GPA制度に関する規定

（趣旨）
第１条　この規定は，奥羽大学（以下「本学」という。）の学士課程におけるGrade Point Average（履修科目成績平均値。以下「GPA」という。）制度に関し必要な事項を定めることにより，学生の能動的学習活動と教員のきめ細やかな履修指導を推進するとともに，成績評価の透明性を高め，教育の質を向上させることを目的とする。
（評価等）
第２条　学生が履修した授業科目の成績評価に与えられるGrade Point（以下「GP」という。）は次表のとおりとする。

成績の評価		GP
５段階評価	成　績	
秀	100 ～ 90	4.0
優	89 ～ 80	3.0
良	79 ～ 70	2.0
可	69 ～ 65	1.0
不可	64 ～ 0	0.0

（GPAの算出）

第３条　GPAは，学期の学修状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「学期GPA」という。）並びに在学中における全期間の学修状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「累積GPAという。）の二種類とする。

２　GPAは，次の式により計算するものとし，その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは，小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{学期GPA}=\frac{\text{（当該学期に評価を受けた授業科目のGP×当該授業科目の単位数）の総和}}{\text{当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

$$\text{累積GPA}=\frac{\text{（在学全期間に評価を受けた授業科目のGP×当該授業科目の単位数）の総和}}{\text{在学全期間に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

（GPA対象授業科目）

第４条　本学学士課程において，５段階評価によって成績認定される授業科目であって，卒業要件に算入できる授業科目とする。

２　GPA対象授業科目は，各学部におけるGPA利用の目的に照らし，適切な方法をもって選択し，または除外することができる。

３　学部長が指定した授業科目はGPA対象科目から除くことができる。

（成績証明書への記載）

第５条　GPAは，原則として成績証明書に記載しない。ただし，成績証明書提出先からGPA記載を求められたときは，累積GPA，本学の評価区分及びGPA算出方法を併せて記載するものとする。

（雑則）

第６条　この規定に定めるもののほか，GPAの取扱いに関し必要な事項は本学の学部長会において別に定めるものとする。

附　則

この規定は，平成31年４月１日から施行する。

この規定の施行前に行った成績評価及び単位の認定については，従前のとおりとする。

5. 不正行為者の懲戒処分に関する内規

１　この内規は，奥羽大学試験規程第10条第２項に基づき定める。

２　不正行為とは，受験に際し不正な方法をもって解答を作成するか又はそれを幇助する行為をいう。

３　試験を監督する者は，不正行為と認めた場合，本人にその旨を認知させた後直ちに退場させ，証拠品等を添え，状況報告書を学生部長に届け出る。

４　教授会の委嘱を受けた調査委員会は，事実の確認を行い，処分案を作成する。

５　教授会は停学処分を行う。
停学の期間は，２週間以上とする。

６　本内規の改廃は，教授会の議によるものとする。

附　則

この内規は，平成17年４月１日から施行する。

6. 奥羽大学歯学部臨床実習規程

（目的）

第１条　臨床実習は，臨床実習を行う学生（以下「臨床実習生」という。）が，診療に関する知識及び技能を修得するとともに，医療における人間関係，特に患者との関係についての理解に努め，併せて医の倫理を体得することによって資質の向上を図ることを目的とする。

（臨床実習委員会）
第２条　臨床実習に関する重要事項を調査，審議するために臨床実習委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（委員の構成）
第３条　委員は次の者をもって構成する。
(1) 診療科長及び科目担当教授
(2) 委員会が必要と認める者
２　委員長は病院長の職にあたる者をもってこれに当てる。
（委員会の招集）
第４条　委員会は毎月１回，委員長が招集することを原則とする。
２　会議の議長は委員長とする。
（臨床実習計画）
第５条　臨床実習計画は附属病院の診療日程に準じて委員会が策定する。
２　各科の実習計画は当該科で作成し，委員会の承認を得るものとする。
（臨床実習成績の評価及び判定）
第６条　各科の実習成績の評価及び判定は当該科の診療科長又は科目担当教授が行い，その結果を委員会に提出するものとする。
（臨床実習成績の総合判定）
第７条　臨床実習成績の総合判定は，前条の規定により提出された各科の実習成績の評価及び判定に基づき教授会が行うものとする。
（補充実習）
第８条　所定の臨床実習を終了しない者には補充実習を行わせることがある。
２　前項の規定に基づく補充実習は委員会で決定する。
（改廃）
第９条　この規程の改廃は委員会が発議して教授会の議決を経なければならない。
（制裁）
第10条　臨床実習生としての本分に悖り，又は病院の規律に違背した行為があると認められた者に対し，委員長は別に定めるところにより制裁を科すことがある。

附　則

この規程は，平成29年4月1日から施行する。

7. 奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規

第１条　処罰は，学則第42条に該当する懲戒と，臨床実習規程第10条の制裁とする。
第２条　懲戒に該当する行為があると認められた者は，臨床実習委員会（「以下委員会」という。）で調査し，歯学部長へ報告する。
第３条　制裁に該当する行為があると認められた者は，委員会で協議し，歯学部長へ報告する。
第４条　制裁は，２週間未満の実習停止とする。
第５条　前条に該当する者は，委員会の議を経て，委員長がこれを命ずる。
２　ただし，１週間未満の実習停止に該当する者については，前項の規程にかかわらず，当該診療科長又は，科目担当教授がこれを命じ，委員長へ遅滞なく報告するものとする。
第６条　本内規に定める処罰の基準は次のとおりとする。
(1) 懲戒（退学又は停学）に付される行為
ａ　病院外で診療行為を行ったとき
ｂ　指導医を設定せず独自に診療行為を行ったとき

c　診療録，処方箋又は，それに準ずる指示書あるいは，報告書などを改変したとき

(2) 懲戒（停学また戒告）

a　指導医の指示によらず実習したとき

b　検印等を偽造行使したとき

c　しばしば出欠を偽証したとき

(3) ２週間未満の実習停止に付される行為

a　出欠を偽証したとき

b　検印等に不正のあったとき

c　交付を受けた機械，材料等の取り扱いに不正のあったとき

d　指導医の指導にしばしば違背したとき

(4) １週間未満の実習停止に付される行為

a　各自所持すべき機械器具等の補充を命ぜられたにもかかわらず，その義務を履行しなかったとき

b　各自の責任として，弁償を命ぜられたにもかかわらず，その義務を履行しなかったとき

c　所定の服装をしなかったとき

d　許可なく指定の時間外に実習したとき

e　無断で欠席，早退又は，実習時間中に外出したとき

f　所定の機械，器具を持たず実習を行ったとき

g　患者に迷惑をかけたとき

h　指導医の指導に違背したとき

２　前項の定めるものの他は，委員会で前項に準じて決定するものとする。

第７条　この内規の改廃は，委員会において決する。

附　則

この内規は，平成29年４月１日から施行する。

8. 歯学部特待生について

(特待生の資格)

特待生の資格は，人物，成績，健康共に優秀で他の学生の模範と認められた者とする。

(特待生の種類)

(1) 授業料の全額を免除する者

(2) 授業料の半額を免除する者

(特待生の継続)

特待生の継続は進級試験の成績により合否を判定する。

(1) 上記(1)の特待生は取得点数が80点以上の成績優等者

(2) 上記(2)の特待生は取得点数が75点以上の成績良好者

(特待生の資格失効)

(1) 休学期間が１年を超えるとき

(2) 退学又は除籍となったとき

(3) 学則による懲戒処分を受けたとき

(4) 学業成績が不良のとき

(5) その他特待生として適当でないと認められたとき

Ⅱ. 遵守事項

1. 学籍について

1）修業年限及び在学年限

⑴ 本学歯学部の修業年限は６年である。
⑵ 歯学部においては修業年限の２倍を超えて在学することはできない。
⑶ 在学期間は同一学年において３年を超えることはできない。

2）休　　学

⑴ 病気その他やむを得ない理由によって，引き続き３か月以上修学することができないと認められる者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に願い出て，その許可を得て休学することができる。
⑵ 学長は，必要により休学を命ずることがある。
⑶ 休学期間は，当該年度限りとする。特別の事由があるときは，引き続き休学期間を延長することができる。ただし，通算して３年を超えることはできない。
⑷ 休学期間は，学則第３条の在学期間に算入しない。

3）復　　学

⑴ 休学の理由の止んだ者は，学長の許可を得て原学年に復学することができる。
⑵ 復学願には保証人の連署を必要とし，疾病によって休学した者は，本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

4）退　　学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は，その理由を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。
⑴ 退学を願い出る場合は，退学願のほか，必ず学生証を添付しなければならない。
⑵ 病気により退学する場合は，必ず医師の診断書を添付しなければならない。

5）除　　籍

⑴ 次の各事項のいずれかに該当するときは，これを除籍とする。
① 在学年数が12年を超えたとき，又は同一学年において３年を超えたとき。
② 授業料の納付を怠り，督促を受けてもなお納入しないとき。
③ 休学期間が通算して３年を超えたとき。

6）再　入　学

退学した者又は除籍された者が２年以内に再入学を願い出たときは，選考のうえ，当該学部教授会の議を経て許可することがある。この場合には，既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

7）卒業証書及び学位の授与

大学に６か年以上在学し，所定の授業科目を履修し，かつ卒業試験に合格した者に対し卒業証書及び学士（歯学）の学位を授与する。

2. 履修の概要

1）授業科目の区分

教育課程において開設する科目を授業科目といい，その内容によって教養系教育科目，基礎科学教育科目，口腔科学教育科目にこれを分けている。

2）授 業 時 間

「授業時間割」として，別に印刷配布される。授業の時間区分は次のとおりである。

第１時限	第２時限	第３時限	第４時限	第５時限	第６時限	第７時限
8:50～9:50	10:00～11:00	11:10～12:10	13:00～14:00	14:10～15:10	15:20～16:20	16:30～17:30

3）掲　　示

学生に対する公示，告示及び授業に関する事項は，Universal Passport RX内「掲示板」に掲示する。

なお，掲示板には授業実施上周知を要する一切の事項のほか，学事部から個人に伝達する事項も掲示するので，最低１日１回以上確認することを習慣化し，各種連絡を見落とさぬよう十分に留意すること。（掲示板閲覧方法: Universal Passport RXにログイン＞「共通」を選択＞「掲示板」を選択）

4）休　　講

下記の場合，休講となるが，いずれも予め掲示によって連絡する。

⑴ 各授業科目の担当者において，やむを得ない事情が生じた場合。
⑵ 授業を休講としなければならない特別な大学行事を行う場合。
⑶ 休校の指示がなく，また特別な指示がない場合で，授業開始時間より30分を経過しても講義が開始されない場合。（この場合は，教務課で授業の有無を必ず確認すること。）

5）補　　講

⑴ 休講があった場合，原則としてこれを補うための補講を行う。
⑵ 日程については，予め掲示によって連絡する。

6）出 席 日 数

各学年で履修するいずれの科目においても，各期授業時間数の80％に達しない者は，学内定期試験の受験資格を失うので注意すること。

7）講義・演習・実習などに対する準備

事前にシラバスを確認し，次回行う内容を把握しておく。その上で，履修部分について教科書や実習書の内容を予習する習慣をつける（毎日30分以上）。

8）講義・演習・実習などが終了した後の復習

講義・演習・実習が終了した直後は，履修した内容がまだしっかり頭に残っている時間である。そのため，講義・演習・実習が終了したその日のうちに内容を復習する習慣をつける（毎日１時間以上）。

3. 試験と成績評価

1）定 期 試 験

(1) 定期試験は，科目毎に学期末又は学年末に行う。
(2) 定期試験は，講義を行った科目について行う。
(3) 時間割については，試験開始の約１週間前までに掲示・配布によって発表する。
試験時間は，１科目を60分とする。

2）総 合 試 験

(1) 年度末に総合試験を実施する。

3）追　試　験

(1) 追試験は，定期試験及び総合試験を欠席した者に対して願い出により行うことがある。
(2) 試験を欠席し，追試験を希望する場合は，「欠席届」に証明書を添えて速やかに教務課へ提出しなければならない。なおかつ定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
(3) 追試験は，各期定期試験及び総合試験終了後に各々行う。
(4) 追試験料は１科目4,000円とする。

4）再　試　験

(1) 再試験は，定期試験及び総合試験を受験して不合格となった者に対して願い出により行うことがある。なお，試験結果（合否）については，試験終了後随時掲示により発表する。
(2) 定期試験及び総合試験を受験せずに不合格となった科目については，再試験は行わない。
(3) 再試験を希望する場合は，定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
(4) 再試験料は１科目4,000円とする。

5）受験上の注意事項

(1) 次の事項に該当する場合は，定期試験を受験することができない。
① 授業料，その他諸納付金が未納の場合
② 授業への出席日数が，各期授業時間数の80％に達しない者
③ 学生証又は「追・再試験受験願兼領収書」を所持していない場合
④ 休学中の場合
⑤ 受験科目の試験開始時刻に25分以上遅刻した場合
(2) 試験場においては，次の事項を守らなければならない。
① 受験中は，学生証又は「追・再試験受験願兼領収書」を机上に提示しておくこと
② 学生証を忘れた場合は，教務課において「仮学生証」の交付を受け，これを机上に提示すること（「仮学生証」の交付料は１日1,000円で，当日限り有効とする。）
③ 試験開始後30分以上経過しなければ，答案を提出して退出することはできない
④ 試験場における行動は，すべて監督者の指示に従わなければならない。監督者の指示に従わない場合は，受験を停止し，退場を命ずる
(3) 次の場合は，その答案は無効とする
① 無記名の場合
② 指定された試験会場で受験しなかった場合

③　他人の答案の「学籍番号」・「氏名」を書き直した場合

(4) 不正行為

①　受験中に不正行為を行った者に対しては，即時退場を命じ，その学期における評価を行わない。なお，学則による懲戒処分については，教授会の議を経て別に行う。

②　次の事項に該当する行為をなした場合は，これを不正行為と見なす。

・私語，態度不良について注意を与えても改めない場合
・カンニングペーパーの使用，又は机・辞書等への書き込み
・他人の答案の書き直し，又は書き写した場合
・許可されていない教科書等の参照
・物品の貸借
・他人が受験，又は他人に受験を依頼した場合
・学籍番号・氏名等を故意に偽って記入した場合
・問題用紙，及び答案を無断で試験会場外へ持ち出した場合
・監督者の指示に従わない場合
・その他不正行為と判断される行為を行った場合

6）レポートの提出

(1) レポートは，授業担当教員及び掲示による指示に従って提出すること。

(2) 提出期限を経過したレポートは受理しない。

7）成 績 評 価

(1) 成績評価

試験の成績は次の区分により評価する。

評　　定	合　　格				不　合　格
評　　価	100 ～ 90点	89 ～ 80点	79 ～ 70点	69 ～ 65点	64点以下
	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

(2) 成績発表

成績発表（最終評価）は年度末に行う。

(3) その他

・留年した場合は当該年度の科目を全て再履修し，成績評価を受けなければならない。
・累積GPAは，進級年度の学期GPAを計算する。

4. アセスメントポリシー
（各学年の受験資格，評価要件および進級，卒業判定）

1）第１～４学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件

当該科目における前期，後期の出席率がいずれも80％以上であること。

2）第５学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件

各期における臨床実習出席率がいずれも80％以上であること。

3）総合試験，共用試験，卒業試験の受験資格

⑴ 第１学年の総合試験１Ｄの受験資格：朝礼，総合演習１Ｄ，科目選択ゼミナール，ES，HRの各出席率が全て80％以上であること。
⑵ 第２学年の総合試験２Ｄの受験資格：朝礼，総合演習２Ｄ，科目選択ゼミナール，ESの各出席率が全て80％以上であること。
⑶ 第３学年の総合試験３Ｄの受験資格：朝礼，総合演習３Ｄ，科目選択ゼミナール，ESの各出席率が全て80％以上であること。
⑷ 第４学年の共用試験（OSCE，CBT）の受験資格：朝礼，総合演習４Ｄ，ES，フィードバックの各出席率が全て80％以上であること。
⑸ 第５学年の総合試験５Ｄの受験資格：朝礼，全科必修試験，総合演習５Ｄ，フィードバックの各出席率が全て80％以上であること。
⑹ 第６学年の卒業試験の受験資格：各期朝礼，各科目の講義，各種フィードバック，各試験（実力試験，確認試験，模擬試験），各強化講義の出席率が全て80％以上であること。

※注意１　上記⑴～⑹に記載されている出席率は，試験直前までの出席率とする。
※注意２　下記については，一定基準をクリアすれば出席が免除される。
なお，出席が免除された時間は出席として扱う。
１）科目選択ゼミナール
２）追再試験対策の演習
３）確認試験
４）フィードバック
５）全科必修試験
６）強化講義

4）進級および卒業条件

⑴ 第１～３学年は，各科目および各実習の最終評価で全て65点以上を取得し，なおかつ総合試験１～３Ｄで72.00％以上を取得した者を合格とする。
⑵ 第４学年は，各科目および各実習の最終評価で全て65点以上を取得し，なおかつCBTおよびOSCEで72.00％以上を取得した者を合格とする。
なお，共用試験CBT，OSCEの公的化が予定されているため，2023年４月から学生が歯科医療を行うためには，CBTおよびOSCEに合格していなければならない。
⑶ 第５学年は，知識点と臨床実習最終評価でいずれも平均65点以上を取得し，なおかつ総合試験５Ｄで72.00％以上を取得した者を合格とする。また臨床実地試験（CPX），一斉技能試験（CSX）の両方に合格することを臨床実習終了の要件とする。
⑷ 第６学年は，３回の卒業試験で平均70.00％以上を取得した者を合格とする。

※受験資格の補足

注）1　各期とは：第１学年から第４学年にあっては前期および後期，第５，６学年にあっては各期を別に定める。

注）2　欠席扱いをしない事項（欠席届，忌引き届が必要）

①忌引き　本人の父兄，子および配偶者；７日間
それ以外（親族，祖父母，兄弟姉妹，配偶者の父兄および兄弟姉妹）：３日間

②学校感染症（第１種，２種，３種），その他の感染病：医師からの診断書必要（インフルエンザ等は登校停止）

③緊急に対処すべき危機が発生又は危機発生が予想される事態に，大学から自宅待機等の指示が発令された場合（連絡網やホームページ等で確認すること）

④本学または公的機関から要請があった場合

⑤ ①～④の他，欠席扱いをしない事項（障害がある場合の合理的配慮やインフルエンザ感染等の疑いがある場合の受診および検査を含む）は学生部委員会が別に定める。

注）3　欠席届は，登校した日から１週間以内に提出すること。１週間以内に提出がない場合には，無断欠席として取り扱う。

Ⅲ. 授 業 概 要

エレクティブスタディ（ES）（第１～４学年　通年）

D②③④－0000

科目責任者：玉井利代子（感染・准教授）
科目担当者：芹川　雅光（解剖），中川　敏浩（組織），
安部　仁晴（組織），清浦　有祐（感染），
玉井利代子（感染），眞島いづみ（感染），
遊佐　淳子（病理），櫻井　裕子（病理），
鈴木　礼子（薬理），柴田　達也（薬理），
長岡　正博（薬理），古山　　昭（生理），
加藤　靖正（生化），前田　豊信（生化），
石田　喜紀（材料），大木　達也（材料），
齋藤　龍一（材料），廣瀬　公治（衛生），
大橋　明石（衛生），南　健太郎（衛生），
小林美智代（衛生），菊井　徹哉（修復），
山田　義重（修復），茂呂　有司（歯内），
高橋　慶壮（歯周），山崎　厚作（歯周），
羽鳥　弘毅（冠橋），五十嵐一彰（冠橋），
雨宮　幹樹（冠橋），伊藤　　歩（冠橋），
大友　悠資（冠橋），松本　知生（有床），
高橋　昌宏（イン），船川　竜生（イン），
奈田　憲二（イン），酒井　悠輔（イン），
河村　享英（イン），北林　治彦（イン），
御代田　駿（外科），髙橋文太郎（外科），
川嶋　雅之（外科），山崎　信也（麻酔），
鈴木　史彦（高齢），冨田　　修（麻酔），
福井　和徳（矯正），川鍋　　仁（矯正），
山野辺晋也（矯正），島村　和宏（小児），
舟山　敦雄（小児），原田　卓哉（放射），
茂呂祐利子（放射），保田　　穣（病院），
第１～４学年　学年主任およびクラス担任

1. 科目の概要

学年を問わず，主体性をもって，興味・関心を持つ分野・科目を選択し，当該分野・科目に出向して学修・研鑽する。それにより，将来の医療人として，主体的に考え，行動する姿勢を涵養する。

2. 一般目標

リサーチマインドをもって生涯学修・研修を続け，潜在能力を開発して飛躍できるよう，主体的に以下のアクションプランの中から興味あるものを選択し，自己研鑽する。

1）頭頚部の構造の理解から臨床への応用を目指す（口腔解剖学）
2）研究を通じて，組織学的実験結果から論理的思考を身につける（口腔組織学）
3）微生物感染とそれに対する感染防御システムに関する専門知識の習得を目指す（口腔感染免疫学）
4）病理診断に必要な知識を学生が自主的に修得することを目指す（口腔病理学）
5）歯科医療現場で必要な薬理学の専門知識の修得を目指す（歯科薬理学）
6）研究活動に触れ必要な知識を探索し学習する（口腔生理学）
7）口腔生化学の専門知識の修得と応用を目指す（口腔生化学）
8）歯科材料の特性，操作を修得し，その応用について検討する（生体材料・歯科材料学）
9）口腔衛生学に関する図上演習を通じて専門知識の修得と応用を目指す（口腔衛生学）
10）保存修復治療で使用する機材，薬剤などに対する専門知識の習得と応用に関する知識を追求する(保存修復学)
11）歯内療法学の専門的知識の確認と修得を目指す（歯内療法学）
12）歯周病と歯周治療の専門知識の習得を目指す（歯周病学）
13）冠橋義歯補綴学の専門知識の修得と応用を目指す（冠橋義歯補綴学）
14）有床義歯補綴と歯科医療における意義を説明する（有床義歯補綴学）
15）口腔インプラント学が多領域連型包括的学問であることを認識する（口腔インプラント学）
16）将来の歯科医学の発展のために，口腔外科・口腔内科の臨床症例に携わり，現在より優れた治療概念を探求し，新知見を発見する（口腔外科・口腔内科学）
17）歯科麻酔学の臨床／研究／教育を早期に体験する（歯科麻酔学）
18）不正咬合の診断に必要な歯科矯正学の習得を目指す（歯科矯正学）
19）小児の心身の特徴を知り，治療と指導に必要な基本的知識の習得と応用を目指す（小児歯科学）
20）歯科放射線学に関する専門知識の修得と応用を目指す（放射線診断学）
21）摂食嚥下リハビリテーションの体験と基本的な歯科医療の知識の習得を目指す（地域医療支援歯科）

3. 到達目標

1）主体性をもって，興味・関心を持つ分野・科目を選択できる。
2）主体性をもって，テーマ・目標を決めることができる。
3）主体性をもって，テーマ・目標に対する方針を検討し，実行できる。
4）成果・結果をまとめ，発表することができる。

4. 履修の進め方

出向した分野・科目において，テーマ・目標を考えながら，生涯学修を継続できるよう個人または少人数グループ指導体制の形態で履修する。各分野・科目ごとの特色やルールがあるので，担当教員とよく相談しながら進める。

5. 準備学修

分野・科目紹介冊子（配布方法は別途指示）を参考に，興味を持った分野や科目の詳細な情報を収集しておく（15分）。

6. 評価方法

毎回出席を確認する。80％以上の出席がなければ総合試験の受験資格を失う。

【出席確認方法】

基本的に，出向した分野・科目の教員が出席を確認する。分野･科目に出向しない回（自習）は，出席扱いとする。また，ESの前時限が実習の場合，その日のESは出席扱いとする。

【注意点】

①ESの前時限の実習が延長した場合は，延長実習が終了次第，出向先の分野・科目のESに合流すること。
②出向先の分野・科目の教員の予定により，分野・科目ごとに休講する場合があるので，担当教員の予定を確認して行動すること。
③その他，不明な点は，出向先の分野・科目の担当教員とよく相談すること。

7. 教本

なし

8. 参考書

出向した分野・科目において，必要に応じて，紹介する。

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担
1	4／12㈫	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
2	4／14㈭	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
3	4／19㈫	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
4	4／21㈭	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
5	4／26㈫	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
6	4／28㈭	プレES	ES分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
7	5／10㈫		自　習		各分野
8	5／12㈭	分野・科目選択アンケート	1,2年生(7限)と編入生(教務課)はアンケートに記入	3，4年生は自習。	各分野
9	5／17㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
10	5／19㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
11	5／24㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
12	5／26㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
13	5／31㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
14	6／2㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
15	6／7㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
16	6／9㈭	ES-1	各分野・科目毎のオリエンテーション	各分野・科目に出向	各分野
17	6／14㈫	ES-2	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
18	6／16㈭	ES-3	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
19	6／21㈫	ES-4	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
20	6／23㈭	ES-5	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
21	6／28㈫	ES-6	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
22	6／30㈭	ES-7	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
23	7／5㈫	ES-8	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
24	7／7㈭	ES-9	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
25	7／12㈫	ES-10	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
26	7／14㈭	ES-11	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
27	7／19㈫	ES-12	各分野・科目毎のテーマ	前期出向最終日	各分野
28	7／21㈭	前期の振り返り1	自　習		各分野
29	7／26㈫	前期の振り返り2	自　習		各分野
30	7／28㈭	前期の振り返り3	自　習		各分野
31	9／1㈭	調整日	自　習		各分野
32	9／6㈫	調整日	自　習		各分野
33	9／8㈭	調整日	自　習		各分野
34	9／13㈫	調整日	自　習		各分野
35	9／15㈭	ES-13	各分野・科目毎のテーマ	後期出向開始日	各分野
36	9／20㈫	ES-14	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
37	9／22㈭	ES-15	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
38	9／27㈫	ES-16	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
39	9／29㈭	ES-17	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
40	10／4㈫	ES-18	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
41	10／6㈭	ES-19	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
42	10／11㈫	ES-20	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
43	10／13㈭	ES-21	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
44	10／18㈫	ES-22	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
45	10／20㈭	ES-23	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
46	10／25㈫	ES-24	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
47	10／27㈭	ES-25	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
48	11／1㈫	ES-26	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
49	11／8㈫	ES-27	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担
50	11／10(木)	ES-28	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
51	11／15(火)	ES-29	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
52	11／17(木)	ES-30	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
53	11／22(火)	ES-31	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
54	11／24(木)	ES-32	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
55	11／29(火)	ES-33	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
56	12／1(木)	ES-34	各分野・科目毎の発表会	本年度出向最終日	各分野
57	12／6(火)	後期の振り返り1	自　習		各分野
58	12／8(木)	後期の振り返り2	自　習		各分野
59	12／13(火)	後期の振り返り3	自　習		各分野
60	12／15(木)	後期の振り返り4	自　習		各分野

科目選択ゼミナール（第１～３学年　通年）

科目責任者：石田　喜紀（材料・准教授）

科目担当者：①石田　喜紀（材料），②斎藤昇太郎（化学），
③今井　　元（生物），④菊地　尚志（物理），
⑤本多　真史（日本語），⑥佐藤　　歩（心理），
⑦荒木　　威（物理），⑧阿部　匡聡（化学），
⑨前田　豊信（生化），⑩安部　仁晴（組織），
⑪芹川　雅光（解剖），⑫大須賀謙二（生理），
⑬古山　　昭（生理），⑭清浦　有祐（感染），
⑮玉井利代子（感染），⑯眞島いづみ（感染），
⑰加藤　靖正（生化），⑱鈴木　礼子（薬理），
⑲長岡　正博（薬理），⑳柴田　達也（薬理），
㉑南　健太郎（衛生），㉒廣瀬　公治（衛生），
㉓大橋　明石（衛生），㉔小林美智代（衛生），
㉕遊佐　淳子（病理），㉖櫻井　裕子（病理），
㉗金　　秀樹（外科），㉘川原　一郎（外科），
㉙御代田　駿（外科），㉚小嶋　忠之（外科），
㉛高橋文太郎（外科）

1. 科目の概要

不得意，あるいは苦手な科目を少人数体制で指導する。

2. 一般目標

1）基礎化学：専門科目の修得に必要な物質の名称や化学式，及び歯科医療における化学の重要性を理解する。

2）基礎生物学：人体の体制（解剖と生理）の全体像と発生過程を系統的に説明できるようにする。

3）基礎物理学：物理学に基づいた歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養うために物理学の普遍性とその応用の広範さを理解する。

4）統計数理学：統計学の方法を理解して，歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養う。

5）日本語リテラシー:歯科医療人に必要な，「読む，聞く，話す，書く，考える」の基礎力を修得する。

6）心理学概論：先ず，心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために，心の探究の歴史を理解する。続いて，病む人の心理ならびにその援助法にあたり，医療従事者として配慮すべきことを考えるために，臨床心理学を習得する。

7）医療倫理学：医療倫理の必要性，すなわち医療行為の特殊性からみて，歯科医師にはその職に固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し，全ての医療従事者の職業上の義務と社会にこける医療のあり方について検討し，問題解決のための具体的指針を習得する。

8）臨床心理学：臨床心理学の基礎を学び，人間が人間を心理的に支援することの意味を理解する。臨床心理学の症例を学び，医療者として患者を尊敬することの重要性を理解する。臨床心理学から学んだ知識を生かし，自己のパーソナリティ特性を理解する。

9）生物学：歯科基礎科目の知識を理解・習得するために，必要な生物学の知識を身につける。

10）物理学：物質の物理的，電磁的な性質に対する基礎的な知識を習得する。

11）化　学：物質量や濃度の計算ができ，化学反応式を記述し，化学変化の量的関係を説明できる。

12）解剖学・口腔解剖学：学力が設定された基準に到達するよう不得意あるいは苦手な学生に指導し，頭頚部の解剖について理解する。

13）口腔組織学：細胞，組織，人体諸器官の正常構造と微細構造を機能と結び付け，理解する。

14）口腔生理学：口腔生理学の基礎的事項を確認して身につける。

15）口腔感染免疫学Ⅰ：微生物の基本的性状，病原性と感染によって生じる病態を理解する。

16）生体材料・歯科材料学：生体材料，歯科材料の組成および特性を学びその正しい使用法を理解する。

17）口腔生化学：生体を構成する成分と機能，代謝について理解を深める。

18）歯科薬理学：薬物の体内動態，薬理作用と作用機序，副作用についての知識を修得する。

19）口腔衛生学：集団・社会の視点から健康と疾病を理解することができる。

20）口腔感染免疫学Ⅱ：免疫系を理解し，生体防御機構としての免疫反応を理解する。

21）口腔衛生学：口腔の健康を保持・増進するために必要な基本的内容を習得する。

22）社会歯科学：歯科医療に関連する法令の基本的内容を習得する。

23）口腔病理学：歯科疾患・口腔疾患を病理診断できるようになるため，病理学総論と口腔病理学を学ぶ。

24）口腔外科学Ⅰ：顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るための基礎的および臨床的な知識を習得する。

25）口腔内科学：全身疾患を把握し，口腔疾患を診断できるようになるために，口腔内科学の履修範囲で理解が乏しかった部分を重点的に習得する。

3. 到達目標

1）自ら問題点を挙げ，改善することができる。

2）苦手な分野・教科を克服することができる。

3）各科目で設定された基準をクリアすることが出来る。

4. 履修の進め方

設定された基準に到達していない科目を少人数体制で集中的に指導する。

①各学年（第１学年～第３学年）の科目のうち，不得意あるいは苦手な科目を選択する。

②プレテストを行い，学力を客観的に評価し，科目を選択する。もしくは科目担当者が受講者を指名する。

③授業中の小試験や授業の理解度から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。

④後期は前期の定期試験の結果から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。

⑤第２学年と第３学年では前年度の定期試験の結果から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。

上記の①～⑤に該当した学生はその科目の科目選択ゼミナールを受講する。

5. 準備学修

選択科目の授業内容を確認し，その内容を復習する。

事前学習：当該科目の教科書，ノートを確認する（10分）

事後学習：授業内容のノートや資料の重要項目を確認する（15分）。

6. 評価方法

プレテスト，各科の小試験および定期試験の結果などから各科目担当者が受講者を指名する。指名された受講者は，該当する科目のゼミに出席する。すべての科目で設定学力以上の場合は受講する必要はなく，出席に相当する。出席率が80％未満であった場合，別途記載の規定に従って１Ｄ，２Ｄ，３Ｄ総合試験の受験資格を喪失する。

7. 教本

選択した科目で使用している教科書を用いる。

8. 参考書

必要な場合は各科目で指定される。

9. 授業内容と日程

1）第1学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／11	オリエンテーション	①
2	5／16	基礎化学	②
3	5／23	基礎物理学	③
4	5／30	日本語リテラシー	⑤
5	6／6	基礎生物学	③
6	6／13	統計数理学	④
7	6／20	基礎化学	②
8	6／27	心理学概論	⑥
9	7／4	基礎物理学	④
10	7／11	日本語リテラシー	⑤
11	7／25	基礎生物学	③
12	9／6	基礎物理学	⑦
13	9／7	基礎生物学	③
14	9／13	日本語リテラシー	⑤
15	9／14	基礎化学	③
16	9／20	統計数理学	④
17	9／21	基礎生物学	③
18	9／27	基礎物理学	⑦
19	9／28	日本語リテラシー	⑤
20	10／4	基礎化学	②
21	10／5	基礎生物学	③
22	10／11	基礎物理学	⑦
23	10／12	基礎化学	②
24	10／18	日本語リテラシー	⑤
25	10／19	基礎生物学	③
26	10／25	基礎物理学	⑦
27	10／26	基礎化学	②
28	11／1	臨床心理学	⑥
29	11／2	基礎生物学	③
30	11／8	基礎物理学	⑦
31	11／9	日本語リテラシー	⑤
32	11／15	基礎化学	②
33	11／16	基礎生物学	③
34	11／22	医療倫理学	⑲
35	11／29	基礎物理学	⑦
36	11／30	基礎生物学	③
37	12／6	日本語リテラシー	⑤
38	12／7	統計数理学	④
39	12／13	基礎化学	②
40	12／14	基礎生物学	③
41	12／21	日本語リテラシー	⑤

2）第2学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／8	オリエンテーション	①
2	4／13	基礎生物学	③
3	4／15	物理学	⑦
4	4／20	基礎生物学	③
5	4／22	化　学	⑧
6	4／27	基礎生物学	③
7	5／6	物理学	⑦
8	5／11	基礎生物学	③
9	5／13	化　学	⑧
10	5／20	プレテスト	①
11	5／25	プレテスト	①
12	6／3	口腔組織学	⑩
13	6／8	口腔解剖学	⑪
14	6／10	口腔生理学	⑫⑬
15	6／15	生物学	⑨
16	6／17	解剖学	⑪
17	6／22	口腔感染免疫学Ⅰ	⑭⑮⑯
18	6／24	口腔組織学	⑩
19	6／29	口腔解剖学	⑪
20	7／1	化　学	⑧
21	7／6	物理学	⑦
22	7／8	解剖学	⑪
23	7／13	生物学	⑨
24	7／15	口腔生理学	⑫⑬
25	7／20	口腔感染免疫学Ⅰ	⑭⑮⑯
26	7／22	口腔組織学	⑩
27	7／27	口腔解剖学	⑪
28	9／2	口腔解剖学	⑪
29	9／9	口腔感染免疫学Ⅰ	⑭⑮⑯
30	9／16	口腔生理学	⑫⑬
31	9／30	口腔組織学	⑩
32	10／7	解剖学	⑪
33	10／14	プレテスト	①
34	10／21	生体材料・歯科材料学	①
35	10／28	歯科薬理学	⑱
36	11／4	口腔生理学	⑫⑬
37	11／11	口腔感染免疫学Ⅰ	⑭⑮⑯
38	11／18	口腔解剖学	⑪
39	11／25	口腔組織学	⑩
40	12／2	口腔生化学	⑰
41	12／9	公衆衛生学	㉔
42	12／16	解剖学	⑪

3）第3学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／8	生体材料・歯科材料学	①
2	4／15	口腔感染免疫学Ⅱ	⑭⑮⑯
3	4／22	口腔生化学	⑰
4	5／6	歯科薬理学	⑱⑲⑳
5	5／13	口腔生理学	⑫⑬
6	5／20	プレテスト	①
7	5／27	プレテスト	①
8	6／3	社会歯科学	㉑
9	6／10	口腔生理学	⑫⑬
10	6／17	口腔感染免疫学Ⅱ	⑭⑮⑯
11	6／24	口腔衛生学	㉒㉓㉔
12	7／1	歯科薬理学	⑱⑲⑳
13	7／8	口腔病理学	㉕㉖
14	7／15	口腔生化学	⑰
15	7／22	生体材料・歯科材料学	①
16	9／7	生体材料・歯科材料学	①
17	9／14	口腔感染免疫学Ⅱ	⑭⑮⑯
18	9／21	口腔生化学	⑰
19	9／28	口腔病理学	㉕㉖
20	10／5	歯科薬理学	⑱⑲⑳
21	10／12	口腔生理学	⑫⑬
22	10／19	口腔感染免疫学Ⅱ	⑭⑮⑯
23	10／26	口腔生化学	⑰
24	11／2	歯科薬理学	⑱⑲⑳
25	11／9	口腔衛生学	㉒㉓㉔
26	11／16	口腔病理学	㉕㉖
27	11／30	口腔外科学Ⅰ	㉗㉘㉙㉚
28	12／7	口腔内科学	㉙㉚㉛
29	12／14	口腔衛生学	㉒㉓㉔
30	12／21	口腔病理学	㉕㉖

総合演習1D（通年）

D①②③－0800

科目責任者：今井　　元（生物・准教授）
科目担当者：①今井　　元（生物），②斎藤昇太郎（化学），
③本多　真史（日本語），④廣瀬　公治（衛生），
⑤阿部　匡聡（化学），⑥荒木　　威（物理），
⑦長峯　英樹（英語），⑧前田　豊信（生化），
⑨山野辺晋也（矯正），⑩清浦　有祐（感染），
⑪鈴木　礼子（薬理），⑫菊地　尚志（物理），
⑬佐藤　　歩（心理），⑭小林美智代（衛生），
⑮山崎　信也（麻酔），⑯大野　　敬（外科），
⑰福井　和徳（矯正），⑱清野　晃孝（病院），
⑲鈴木　史彦（高齢），⑳髙橋文太郎（外科），
㉑長岡　正博（薬理），㉒臨床各科担当教員

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になるためには，チーム医療を実践できる教養と能力が必要がある。チーム医療を実践するためには，他の医療スタッフと互いの専門性を尊重できる確かな教養，コミュニュケーション能力とプロフェッショナリズムの修得が必要である。奥羽大学は，歯学と薬学の医療人を養成する全国でも数少ない大学であるため，これを活用し，２学部連携した『チーム医療学演習』を行い，チーム医療の基礎となる医療人として教養，心構えと態度を修得する。さらに，学期末の『効果的な学修法』において，医療人として身につけるべき，高度な専門知識の学修方法を修得する。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

医療人として確かな教養，必要な心構えと態度（道徳観・倫理観・創造力・探求心・研究志向・問題解決力・コミュニケーション･プロフェッショナリズム）を理解した上で,チーム医療を実践できる豊かな人間性を修得する。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

1）医療人としての社会的立場を理解できる。(倫理観)
2）医療人としての良心と尊厳や，人道的な配慮を理解できる。(道徳観)
3）歯科医師に対する現代社会のニーズを理解できる。(創造力)
4）社会の新しいニーズに対応できる姿勢を身につける。(探求心)
5）自ら問題点を抽出し，解決する研究姿勢を身につける。(研究志向・解決力)
6）医療人として好ましい態度で他者と接することできる。(態度)
7）医療人として適切な発言･行動を身につける。(コミュニケーション能力)
8）他医療職を尊重した円滑なチーム医療を行う。(プロフェッショナリズム)
9）薬害の原因，健康被害，社会的影響を考察する。(患者中心の医療・至誠)
10）医療人として身につけるべき高度な専門知識の学修方法を修得する。(医療人としての教養)
11）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

【チーム医療学演習】と【効果的学修法】に分けて，以下のように履修を進める。

（1）【チーム医療学演習】
1）講演＋スモールグループ・ディスカッション（SGD）形式の場合
①学内や学外の特別講師をお招きし，講演を聴講する。
②講演後，SGDで要点を抽出し，プロブレムマップ／メモリーツリーを作成する。
③項目にまとめて提出し，SGDに対するレポートを作成する。
2）演習形式（病院見学・MT研修・ワールドカフェ・問題解決型演習）の場合
①体験した事や議論内容の要点を抽出し，レポートを作成する。

（2）【効果的学修法の修得】以下の講義形式や演習形式で行う。
各科目ごとの問題に解答し，問題解決型の演習を行い，【１D総合試験】の準備を行う。
日程時間割は，６月・10月に再掲示される場合がある。

5. 準備学修

1）【チーム医療学演習】の事前学修：シラバスやユニパ掲示を確認し，必要な準備を行う。
①講演や演習の場所と集合時間は掲示で確認しておく。
【注意：講演によっては，４限のHRの時間から開始となる】
中央棟６階教３／第２講義棟第１講義室／中央棟５階模型実習室／講義棟第２講義室／病院棟５階臨床講義室など（30分）
②SGDの方法（KJ法，ワールドカフェ，PBL，TBL）などについて調べる。
チーム医療学の事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに，レポートを期日までに作成し提出する。
この際，結果を下記の教本１）～３）等で得た情報をもとに解釈し，与えられた課題の意義を理解する。（120分）
2）【効果的学修法】の事前学修：各教養科目のシラバスに掲載された方法に準ずる。

6. 総合試験受験資格

アセスメントポリシーに準じる。なお，チーム医療学については，一定基準以上を満たしたレポートの提出をもって出席したとみなす。

7. 教本

チーム医療学演習；指定しない。スライドや配布資料などにより進める。
効果的な学修法；各教養科目で指定された教科書に準ずる。

8. 参考書

各科目の教本に準ずる。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／11 4,5限	第1回チーム医療学演習：特別講演（1）	『効果的な学習法・学習態度・体験談』・SGD演習・レポート作成	講演： 研修歯科医・社会人大学院生・附属病院助教 演習： 今井　元 准教授(生物)	① ⑥ ⑨
3 4	4／18 4,5限	第2回チーム医療学演習：特別講演（2）	『CBT･OSCE･卒業試験について』 ・SGD演習・効果的な学習法・レポート作成	講演： 山崎信也 教授(麻酔／カリキュラム委員長) 演習： 今井　元 准教授(生物)	① ⑥ ⑨ ⑮
5 6	4／25 4,5限	第3回チーム医療学演習：特別講演（3）	『20年後の歯科医療』 ・SGD演習・レポート作成	講演： 大野　敬 教授(外科／奥羽大学歯学部附属病院病院長) 演習： 山野辺晋也 講師(矯正)	① ⑭ ⑯
7 8	A) 5／9 4,5限 B) 5／16 4,5限	第4回チーム医療学演習：SGDの方法（1）	A) ワールドカフェ B) 人間性豊かな医療人（問題解決型演習）	A) 講演： 山崎信也 教授(麻酔) B) 講演： 廣瀬公治 教授(衛生／学年主任)	① ④ ⑥ ⑨ ⑮
9 10	A) 5／16 4,5限 B) 5／9 4,5限	第5回チーム医療学演習：SGDの方法（2）	A) 人間性豊かな医療人（問題解決型演習） B) ワールドカフェ	A) 講演： 廣瀬公治 教授(衛生／学年主任) B) 講演： 山崎信也 教授(麻酔)	① ④ ⑥ ⑨ ⑮
11 12	5／23 4,5限	第6回チーム医療学演習：特別講義（4）	『方言の魔術と歯科医療』	講演： 本多真史 (日本語) 演習： 本多真史 (日本語)	① ③ ⑥
13 14	5／30 4,5限	第7回チーム医療学演習：特別講演（5）	『健康と「化学物質」の考え方』	講演： 斎藤昇太郎 (化学) 演習： 斎藤昇太郎 (化学)	① ② ⑥
15 16	6／6 4,5限	第8回チーム医療学演習：特別講演（6）	『歯科医療における英語の重要性』	講演： 長峯英樹 (英語) 演習： 長峯英樹 (英語)	① ⑥ ⑦
17 18 19	6／13 4,5限	第9回チーム医療学演習：特別講演（7）	『歯って何だろう？～サメの歯からヒトの歯までの進化を考える～』	講演： 鈴木礼子 (薬理) 演習： 今井　元 (生物)	① ⑥ ⑪
20 21 22	6／20 4,5限	第10回チーム医療学演習：特別講演（8）	『歯はどこからくるのか？』	講演： 今井　元 (生物) 演習： 今井　元 (生物)	①
23	6／27 4限	1D総合演習-1：効果的な学修法（1）～日本語リテラシー1	医療コミュニケーションの進め方（1）	コA-4-1), A-4-2)／ 必-9-アc・d, 必-9-ウa～c	③
24	6／27 5限	1D総合演習-2：効果的な学修法（2）～日本語リテラシー2	医療コミュニケーションの進め方（2）	コA-4-1), A-4-2)／ 必-9-アc・d, 必-9-ウa～c	③
25	6／27 6限	1D総合演習-3：効果的な学修法（3）～英語-1	英文読解，英会話（1）	A-7-2)／ 必13-ウ	⑦
26	7／4 4限	1D総合演習-4：効果的な学修法（4）～心理学概論／医療倫理学-1	心因性疾患と心療歯科	E-5-3)①～⑥／総Ⅴ2-オabc, 13-イ	⑬
27	7／4 5限	1D総合演習-5：効果的な学修法（5）～心理学概論／医療倫理学-2	性格の分類と測定法	A-1-1)①～⑥, A-1-2)①～④ A-4-1)①②③／必1-アab, 1-イab, 必9-ウabc	⑬
28	7／4 6限	1D総合演習-6：効果的な学修法（6）～英語-2	英文読解，英会話（2）	A-7-2)／ 必13-ウ	⑦
29	7／11 4限	1D総合演習-7：効果的な学修法（7）～統計数理学-1	統計の基礎 統計手法の適用	C-1-2)	⑫
30	7／11 5限	1D総合演習-8：効果的な学修法（8）～基礎物理学-1	物質界の基本法則（1）	C-1-2)	⑥
31	7／11 6限	1D総合演習-9：効果的な学修法（9）～基礎物理学-2	物質界の基本法則（2）	C-1-2)	⑥
32	7／25 4限	1D総合演習-10：効果的な学修法(10)～基礎化学-1	原子構造と電子配置 周期表と化学的性質	C-1-1)／ 必13-イ	②
33	7／25 5限	1D総合演習-11：効果的な学修法(11)～基礎化学-2	化学結合	C-1-1)／ 必13-イ	②
34	7／25 6限	1D総合演習-12：効果的な学修法(12)～基礎化学-3	化学反応，反応速度，化学平衡，酸，塩基，pH	C-1-1)／ 必13-イ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
35	7／29 4限	1D総合演習-13：効果的な学修法(13) ～基礎生物学1	生体の分子／細胞の代謝，遺伝子，生殖と初期発生	C-2-1)～3)，C-3-2) ／ 必5-ア， 総Ⅱ-9-ア	①
36	7／29 5限	1D総合演習-14：効果的な学修法(14) ～基礎生物学2	脊椎動物の組織と機能	C-3-4)／ 必5-ア， 総Ⅱ-1-ア～ク	①
37	7／29 6限	1D総合演習-15：効果的な学修法(15) ～基礎生物学3	刺激の受容と反応 体内環境の維持	C-3-2)，4)／ 必5-ア，総Ⅱ-1-ア～ク， 総Ⅱ-4-カ， Ⅱ-6-ア，ウ	①
38 39	9／5 5，6限	第11回チーム医療学演習：特別講演(9)	『病院見学の意義，医療事故，院内感染』・SGD演習・レポート作成	講演： 福井和徳 教授(矯正) 演習： 今井　元 准教授(生物)	① ⑭ ⑰
40 41 42	A)9／26 5，6，7限 B)10／3 5，6，7限	第12回チーム医療学演習：病院／MT研修	A)病院見学・レポート作成 B)医療チーム(MT) 研修・レポート作成	演習： 清野晃孝 准教授(病院) 講演： 鈴木史彦 教授(高齢)	① ～ ⑨ ⑱ ⑲ ㉑
43 44 45	A)10／3 5，6，7限 B)9／26 5，6，7限	第13回チーム医療学演習：病院／MT研修	A)医療チーム(MT) 研修・レポート作成 B)病院見学・レポート作成	演習： 清野晃孝 准教授(麻酔) 講演： 鈴木史彦 教授(高齢)	① ～ ⑨ ⑱ ⑲ ㉑
46 47 48	10／17 5，6，7限	第14回チーム医療学演習：歯薬合同セミナー(1)	『薬害と社会』・SGD演習・レポート作成	薬害被害者 増山ゆかり 先生 ㈱いしずえ 理事(演習：①～⑨)	① ～ ⑨
49 50 51	10／24 5，6，7限	第15回チーム医療学演習：歯薬合同セミナー(2)	『認知症サポーター講習』・SGD演習・レポート作成	押尾　茂 教授(薬学部教授)(演習：①～⑨)	① ～ ⑨ ㉑
52 53 54	10／31 5，6，7限	第16回チーム医療学演習：歯薬合同セミナー(3)	『B型肝炎患者の感染拡大防止及び偏見差別防止』 ・SGD演習・レポート作成	B型肝炎患者 (演習：①～⑨)	① ～ ⑨
55 56	11／7 5，6限	第17回チーム医療学演習：特別講演(10)	『総合病院における歯科の役割とは』 ・SGD演習・レポート作成	講演： 菅野勝也 非常勤講師 (口外)・ 髙橋文太郎 講師(口外) 演習： 今井　元 准教授(生物)	① ⑳
57 58	11／14 5，6限	第18回チーム医療学演習：特別講演(11)	『歯科医師会と歯科医師の将来のために』『奥羽大学歯学部同窓会の役割と活動』・レポート作成	講演： 菅野勝也 非常勤講師 (口外)・ 髙橋文太郎 講師(口外) 演習： 今井　元 准教授(生物)	① ⑳

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
59	11／21 5限	第19回チーム医療学演習：特別講演(12)	『大学教員を目指す諸君に伝えたいこと』・レポート作成	感染 清浦有祐 教授(感染／大学院研究科長)	① ⑩
60	11／21 6限	1D総合演習-21：効果的な学修法(21) ～日本語リテラシー3	医療コミュニケーションの進め方(3)	コA-4-1)，A-4-2)／ 必-9-アc・d， 必-9-ウa～c	③
61	11／21 7限	1D総合演習-22：効果的な学修法(22) ～日本語リテラシー4	医療コミュニケーションの進め方(4)	コA-4-1)，A-4-2)／ 必-9-アc・d， 必-9-ウa～c	③
62	11／28 5限	1D総合演習-24：効果的な学修法(24) ～統計数理学-2	統計手法の適用	C-1-2)	⑫
63	11／28 6限	1D総合演習-25：効果的な学修法(25) ～統計数理学-1	統計の基礎	C-1-2)	⑫
64	11／28 7限	1D総合演習-26：効果的な学修法(26) ～英語-3	英文読解，英会話(3)	A-7-2)／ 必13-ウ	⑦
65	12／5 5限	1D総合演習-27：効果的な学修法(27) ～心理学概論-3(1)	心因性疾患と心療歯科，性格の分類と測定法	E-5-3)①～⑥／総Ⅴ2-オabc， 13-イ	⑬
66	12／5 6限	1D総合演習-28：効果的な学修法(28) ～医療倫理学-3(2)	生命倫理の原則，患者の権利，医療面接の技法	A-1-1)①～⑥，A-1-2)①～④A-41)①②③／ 必1-アab， 1-イab， 必9-ウabc	㉑
67	12／5 7限	1D総合演習-29：効果的な学修法(29) ～英語-4	英文読解，英会話(4)	A-7-2)／ 必13-ウ	⑦
68	12／12 5限	1D総合演習-30：効果的な学修法(30) ～臨床心理学-1	さまざまな精神疾患や心理的葛藤の原因，症状，治療法や対応について	E-5，6／ 総Ⅳ2-キ， Ⅶ1-エg	⑬
69	12／12 6限	1D総合演習-31：効果的な学修法(31) ～基礎物理学-3	物質界の基本法則(2)	C-1-2)	⑥
70	12／12 7限	1D総合演習-32：効果的な学修法(32) ～基礎物理学-4	力と運動(1)，力と運動(2)	C-1-2)	⑥
71	12／19 5限	1D総合演習-33：効果的な学修法(33) ～基礎化学-4	原子構造と電子配置 周期表と化学的性質	C-1-1) C-1-2)／ 必13-イ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
72	12／19 6限	1D総合演習-34：効果的な学修法(34) ～基礎化学-5	化学反応式，モル計算	C-1-1)／ 必13-イ	②
73	12／19 7限	1D総合演習-35：効果的な学修法(35) ～基礎化学-6	物質の状態と変化，放射能	C-1-1) C-1-2)／ 必13-イ	②
74	12／20 5限	1D総合演習-36：効果的な学修法(13) ～基礎生物学-4	生体の分子／細胞の代謝，遺伝子，生殖と初期発生	C-2-1)～3)， C-3-2)／ 必5-ア， 総Ⅱ-9-ア	①
75	12／20 6限	1D総合演習-37：効果的な学修法(14) ～基礎生物学-5	脊椎動物の組織と機能	C-3-4)／ 必5-ア， 総Ⅱ-1-ア～ク	①
76	12／20 7限	1D総合演習-38：効果的な学修法(15) ～基礎生物学-6	刺激の受容と反応 体内環境の維持	C-3-2)，4)／ 必5-ア， 総Ⅱ-1-ア～ク，総Ⅱ-4-カ，Ⅱ-6-ア，ウ	①

総合演習2D（通年）

D①②③④－1600

科目責任者：玉井　利代子（感染・准教授）
科目担当者：①玉井利代子（感染），②菊地　尚志（物理），
③阿部　匡聡（化学），④今井　　元（生物），
⑤宇佐美晶信（解剖），⑥安部　仁晴（組織），
⑦川合　宏仁（生理），⑧加藤　靖正（生化），
⑨清浦　有祐（感染），⑩鈴木　礼子（薬理），
⑪岡田　英俊（材料），⑫荒木　　威（物理），
⑬斎藤昇太郎（化学），⑭前田　豊信（生化），
⑮大須賀謙二（生理），⑯古山　　昭（生理），
⑰芹川　雅光（解剖），⑱小林美智代（衛生）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を総合的に理解することを目的として，２学年までに履修する科目を中心に，知識の確認を行う。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために，その基礎となる知識の習得を目指す。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

1）物質の物理的，電磁的な性質に関する基礎的な原理・法則を説明できる。
2）基本的な無機化合物と有機化合物の構造・性質・反応を説明できる。
3）人体の正常な形態と構造を説明できる。
4）細胞，組織，口腔諸器官の正常微細構造と発生過程を説明できる。
5）生体機能，生命現象の機序を説明できる。
6）生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
7）病原微生物，生体防御のメカニズムおよび感染防御手段（滅菌，消毒，化学療法）について説明できる。
8）薬理作用，薬物の適用と体内動態，及び，医薬品の分類に関する基礎的事項を説明できる。
9）生体材料・歯科材料の組成，特性および正しい使用法を説明できる。
10）集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を説明できる。
11）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 総合試験受験資格

アセスメントポリシーに準じる。

7. 教本

各科目指定の教本に準ずる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11 4限	総合演習	口腔感染免疫学	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
2	4／11 5限	総合演習	口腔組織学	C-2-3)／ 必5-ア	⑥

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／11 6限	総合演習	基礎物理学	E-1-2)／ 必13-イ	⑫
4	4／18 4限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	D-2-②／ 総XI-4, 5	⑪
5	4／18 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2／ 総Ⅲ-2	⑯
6	4／18 6限	総合演習	基礎物理学	E-1-2)／ 必13-イ	⑫
7	4／25 4限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
8	4／25 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑰
9	4／25 6限	総合演習	基礎化学	C-1-1)／ 必13-イ	⑬
10	5／9 4限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
11	5／9 5限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	D-2-②／ 総XI-4, 5	⑪
12	5／9 6限	総合演習	基礎化学	C-1-1)／ 必13-イ	⑬
13	5／16 4限	総合演習	口腔感染免疫学	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
14	5／16 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2／ 総Ⅲ-2	⑯
15	5／16 6限	総合演習	基礎生物学	C-3-2), E-2-3)／ 総II-9-ア	④
16	5／23 4限	総合演習	口腔生化学Ⅰ	C-2／ 必5-ア	⑭
17	5／23 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑰
18	5／23 6限	総合演習	基礎生物学	C-3-2), 4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ-4-カ, Ⅱ-6-ア, ウ	④
19	5／30 4限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ	C-6-2)／ 必12-コ	⑩
20	5／30 5限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ1-ア	⑥
21	5／30 6限	総合演習	基礎物理学	E-1-2)／ 必13-イ	⑬
22	6／6 4限	総合演習	公衆衛生学	B-4-1), 2)／ 総Ⅰ-6-ア, イ	⑱
23	6／6 5限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	D-2-②／ 総XI-4, 5	⑪
24	6／6 6限	総合演習	基礎物理学	E-1-2) ／ 必13-イ	⑬
25	6／13 4限	総合演習	口腔生化学Ⅰ	C-2／ 必5-ア	⑭
26	6／13 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑰
27	6／13 6限	総合演習	基礎化学	C-1-1) ／ 必13-イ	⑫
28	6／20 4限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ1-イ, 9-ウ	⑥
29	6／20 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2／ 総Ⅲ-1	⑮
30	6／20 6限	総合演習	基礎化学	C-1-1)／ 必13-イ	⑫
31	6／27 4限	総合演習	公衆衛生学	B-4-1), 2)／ 総Ⅰ-6-ア, イ	⑱
32	6／27 5限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ	C-6-2)／ 必12-コ	⑩
33	6／27 6限	総合演習	統計数理学	B-4／ 必13-イ	②
34	7／4 4限	第１回実力試験A	第２学年前期全科目（教養科目を含む）	本年度（2022年７月４日㈪3限まで）行った授業内容について	
35	7／4 5限	第１回実力試験B	〃	〃	
36	7／11 4限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	D-2-②／ 総XI-4, 5	⑪
37	7／11 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑰
38	7／11 6限	総合演習	基礎生物学	C-2-1)～3), C-3-2)／ 必5-ア, 総Ⅱ-9-ア	④
39	7／25 4限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2／ 総Ⅲ-1	⑮
40	7／25 5限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ1-イ,オ,キ	⑥
41	7／25 6限	総合演習	基礎生物学	C-3-2), 4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ-4-カ, Ⅱ-6-ア, ウ	④
42	9／5 5限	総合演習	物理学	D-1／ 必13-イ	②
43	9／5 6限	総合演習	化学	C-1-1)／ 必5-ア	③
44	9／26 5限	総合演習	物理学	D-1／ 必13-イ	②
45	9／26 6限	総合演習	化学	C-1-1)／ 必5-ア	③
46	10／3 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
47	10／3 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅱ-1-ウ, Ⅲ-2, Ⅳ-3-ア	⑦
48	10／17 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
49	10／17 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅱ-1-ウ, Ⅲ-2, Ⅳ-3-ア	⑦
50	10／24 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	C-4-2)／ 総Ⅱ-3	① ⑨
51	10／24 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2／ 総Ⅲ-2	⑯
52	10／31 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	E-3-1) ／ 総Ⅱ-5-ア	⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
53	10／31 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ1-ウ, エ, カ, ク	⑥
54	11／7 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
55	11／7 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-2), E-2-3)／ 必6-ア, 総Ⅱ9-ア, イ	⑥
56	11／14 5限	総合演習	口腔組織学	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ5-イ	⑥
57	11／14 6限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
58	11／21 5限	総合演習	口腔組織学	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ5-イ	⑥
59	11／21 6限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
60	11／28 5限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ	C-6／ 必12-コ	⑩
61	11／28 6限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク	⑭
62	12／5 5限	第２回実力試験Ａ	第２学年後期全科目（教養科目を含む）	本年度（2022年12月５日㈪4限まで）行った授業内容について	
63	12／5 6限	第２回実力試験Ｂ	〃	〃	
64	12／5 7限	第２回実力試験Ｃ	〃	〃	
65	12／12 5限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	D-1, 2／ 総Ⅷ	⑪
66	12／12 6限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク	⑭
67	12／19 5限	総合演習	口腔生化学Ⅰ	C-2／ 必5-ア	⑧
68	12／19 6限	総合演習	公衆衛生学	B-4-2)／ 総Ⅰ-6-イ	⑱

総合演習3D（通年）

D①②③④⑤－2600

科目責任者：前田　豊信（生化・准教授）

科目担当者：①前田　豊信（生化），②岡田　英俊（材料），
③川合　宏仁（生理），④古山　　昭（生理），
⑤安部　仁晴（組織），⑥宇佐美晶信（解剖），
⑦小林美智代（衛生），⑧清浦　有祐（感染），
⑨鈴木　礼子（薬理），⑩柴田　達也（薬理），
⑪南　健太郎（衛生），⑫大須賀謙二（生理），
⑬櫻井　裕子（病理），⑭廣瀬　公治（衛生），
⑮川嶋　雅之（口外），⑯遊佐　淳子（病理），
⑰加藤　靖正（生化），⑱石田　喜紀（材料），
⑲山森　徹雄（有床），⑳松本　知生（有床），
㉑山田　嘉重（修復），㉒原田　卓哉（放射），
㉓馬場　　優（医学），㉔板橋　　仁（矯正），
㉕大橋　明石（衛生），㉖鈴木　史彦（高齢），
㉗羽鳥　弘毅（冠橋）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を理解することを目的として，三学年に履修する科目を中心に，演習と解説講義を行う。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために，その基礎となる知識の習得を目指す。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

1）人体の正常な形態とその機能を説明できる。
2）感染と生体防御のメカニズムについて説明できる。
3）病変の特徴と成因および治療法について説明できる。
4）全身疾患と口腔病変について説明が出来る。
5）薬物の体内動態と特徴について説明できる。
6）歯科材料とその特徴について説明できる。
7）健康増進，疾病予防と保健活動について説明が出来る。
8）クラウンブリッジ補綴と全部床義歯補綴について説明が出来る。
9）保存修復について概略が説明できる。
10）歯科医療における放射線の取り扱いに必要な知識が説明できる。
11）高齢者の特徴と治療上の留意点が説明できる。
12）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 総合試験受験資格

アセスメントポリシーに準じる。

7. 教本

各科目指定の教本に準じる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準じる。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	総合演習３Ｄ	ガイダンス	C-1～6，D	①
2	〃	総合演習４Ｄ	口腔生化Ⅰ	C-1～7，D	①
3	4／18	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅰ	C-3-4)，E-2-2／必5-ア，総Ⅱ1ア-ク	④
4	〃	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅰ	C-3-4)，E-2-2／必5-ア，総Ⅱ1ア-ク	④
5	4／25	総合演習３Ｄ	口腔組織学	C-2-3)，-3-4)／必5-ア，総Ⅱ1-ア-ク	⑤
6	〃	総合演習３Ｄ	口腔組織学	C-3-2)，E-3-1)／必6-ア，総Ⅱ4-オ，5-イ	⑤
7	5／9	総合演習３Ｄ	解剖学	C-3-1)，C-3-4)／必5-ア	⑥
8	〃	総合演習３Ｄ	口腔解剖学	E-2-1)，E-2-2)／必5-ア	⑥
9	5／16	総合演習３Ｄ	公衆衛生学	A-6-3)，B-3-1)／総I-7-ア	⑦
10	〃	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅰ	C4-1)-①／総Ⅲ1-カ-a, b	⑧
11	5／23	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅰ	C-6／必12コ，総Ⅶ-8	⑨
12	〃	総合演習３Ｄ	生体材料	D-1, 2／総Ⅷ-1～11	②
13	5／30	総合演習３Ｄ	第２学年で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
14	〃	総合演習３Ｄ	第２学年で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
15	〃	総合演習３Ｄ	第２学年で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
16	6／6	総合演習３Ｄ	口腔生化学Ⅱ	C-2-3／総Ⅲ-2	①
17	〃	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅱ	C-6／必12コ，総Ⅶ-8	⑩
18	6／13	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅱ	C4-1)-①／総Ⅲ1-カ-a, b	⑧
19	〃	総合演習３Ｄ	生体材料Ⅱ	D-1, 2／総Ⅷ-1～11	②
20	6／20	総合演習３Ｄ	社会歯科学	B-2-1, 2／必2-イ	⑪
21	〃	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅱ	C-3-4)，E-2-2／必5-ア，総Ⅱ1ア-ク	⑫
22	6／27	総合演習３Ｄ	口腔病理学	C-5-6／総Ⅲ1-ク	⑬
23	〃	総合演習３Ｄ	口腔衛生学	B-4-1, 2／総Ⅰ-6	⑭
24	7／4	総合演習３Ｄ	口腔内科学	E-2／必，総Ⅳ，Ⅵ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ	⑮
25	〃	総合演習３Ｄ	口腔外科学Ⅰ	E-2-4／各Ⅳ-16	⑮
26	7／11	総合演習３Ｄ	口腔病理学	C-5-6／総Ⅲ1-ク	⑯
27	〃	総合演習３Ｄ	口腔生化学Ⅱ	C-2-3／総Ⅲ-2	⑰
28	7／25	総合演習３Ｄ	生体材料Ⅱ	D-1, 2／総Ⅷ-1～11	②
29	〃	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅱ	C-6／必12コ，総Ⅶ-8	⑩
30	7／29	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅱ	C-4-2)-①，②，③／総Ⅱ-3-ウ，エ	⑧
31	〃	総合演習３Ｄ	補習時間	C-1～6，D	①
32	9／5	総合演習３Ｄ	第３学年前期で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
33	〃	総合演習３Ｄ	第３学年前期で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
34	〃	総合演習３Ｄ	第３学年前期で習得した知識の確認	C-1～6，D	①②③
35	9／12	総合演習３Ｄ	口腔病理学	C-5-6／総Ⅲ1-ク	⑬
36	〃	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅱ	C4-1)-①／総Ⅲ1-カ-a, b	⑧
37	9／26	総合演習３Ｄ	生体材料Ⅱ	D-1，2／総Ⅷ-1～11	⑱
38	〃	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅱ	C-3-4)，E-2-2／必5-ア，総Ⅱ1ア-ク	⑫
39	10／3	総合演習３Ｄ	社会歯科学	B-2-1, 2／必2-イ	⑪
40	〃	総合演習３Ｄ	口腔衛生学	B-4-1, 2／総Ⅰ-6	⑭
41	10／17	総合演習３Ｄ	口腔生化学Ⅱ	C-2-3／総Ⅲ-2	⑰
42	〃	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅱ	C-6／必12コ，総Ⅶ-8	⑩
43	10／24	総合演習３Ｄ	口腔内科学	E-2／必，総Ⅳ，Ⅵ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ	⑮
44	〃	総合演習３Ｄ	口腔外科学Ⅰ	E-2／必，総Ⅳ，Ⅵ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ	⑮
45	10／31	総合演習３Ｄ	口腔病理学	C-5-6／総Ⅲ1-ク	⑯
46	〃	総合演習３Ｄ	有床義歯補綴学Ⅰ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	⑲⑳
47	11／7	総合演習３Ｄ	保存修復学Ⅰ	E-3／各Ⅱ-1，必-8，総Ⅷ-5, 9	㉑
48	〃	総合演習３Ｄ	歯科放射線学Ⅰ	E-1-2／必修10-カ，総Ⅲ-1-コ-b，Ⅵ-2，Ⅵ-7	㉒
49	11／14	総合演習３Ｄ	口腔病理学	C-5-6／総Ⅲ1-ク	⑯

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
50	11／14	総合演習３Ｄ	総合臨床医学	E-6／総Ⅶ-1-エ	㉓
51	11／21	総合演習３Ｄ	口腔衛生学	B-4-1, 2／総Ⅰ-6	⑭
52	〃	総合演習３Ｄ	災害歯科学	A-7-1／総Ⅰ-1-エ	㉔
53	11／28	総合演習３Ｄ	口腔内科学	E-2／必, 総Ⅳ, Ⅵ, Ⅷ, Ⅸ, Ⅹ	⑮
54	〃	総合演習３Ｄ	口腔外科学Ⅰ	E-2-4／各Ⅳ-16	⑮
55	12／5	総合演習３Ｄ	歯科医療管理学	E-1-6）／必-3-ク	㉕
56	〃	総合演習３Ｄ	高齢者歯科学Ⅰ	E-5-1／各Ⅴ-1	㉖
57	12／12	総合演習３Ｄ	有床義歯補綴学Ⅰ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	⑲ ⑳
58	〃	総合演習３Ｄ	有床義歯補綴学Ⅰ	E-3-4）／各Ⅳ-6-ア～ウ	⑲ ⑳
59	12／19	総合演習３Ｄ	冠橋義歯補綴学Ⅰ	E-3-4／各Ⅳ-3	㉗
60	〃	総合演習３Ｄ	保存修復学Ⅰ	E-3／各Ⅱ-1, 必-8, 総Ⅷ-5, 9	㉑
61	12／20	総合演習３Ｄ	歯科放射線学Ⅰ	E-1-2／必修10-カ, 総Ⅲ-1-コ-b, Ⅵ-2, Ⅵ-7	㉒
62	〃	総合演習３Ｄ	補習時間	C-1～6, D	①

総合演習4D（通年）

D①②③④⑤－3100

科目責任者：板橋　　仁（矯正・准教授）
科目担当者：①板橋　　仁（矯正），②宇佐美晶信（解剖），③安部　仁晴（組織），④古山　　昭（生理），⑤大須賀謙二（生理），⑥加藤　靖正（生化），⑦清浦　有祐（感染），⑧石田　喜紀（材料），⑨長岡　正博（薬理），⑩櫻井　裕子（病理），⑪廣瀬　公治（衛生），⑫遊佐　淳子（病理），⑬小林美智代（衛生）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに必要不可欠な総合的知識を身につけるために，生命科学教育科目を中心に歯科医学的知識の理解を深める。また，学年末のCBTに合格できる総合力を身につける。

2. 一般目標

生命科学教育科目を中心とした歯科医学的知識を復習し理解を深める。また，学年末のCBTに合格できる総合力を身につける。

3. 到達目標

1）生命科学教育科目について理解する。
2）学年末のCBTに合格できる総合力を身につける。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

該当科目の参考資料・講義ノートを読む（15分）。

6. 総合試験受験資格

アセスメントポリシーに準じる。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	総合演習／解剖学・口腔解剖学（1）	解剖学総論・骨学	C-3-1), C-3-4)／必5-ア	②
2	4／11	総合演習／解剖学・口腔解剖学（2）	筋学	C-3-4)／必5-ア	②
3	4／18	総合演習／口腔組織学（1）	細胞と組織	C-2-3), C-3-4)／必5-ア	③
4	4／18	総合演習／口腔組織学（2）	各組織の特徴	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ1ア, イ	③
5	4／25	総合演習／口腔生理学（1）	神経・筋・シナプス伝達	C-2-3), E-2-2)／総Ⅲ-1, 3, 総Ⅳ-4	④
6	4／25	総合演習／口腔生理学（2）	自律神経・内分泌	C-2-3)／総Ⅲ-2	⑤
7	5／9	総合演習／口腔生化学（1）	細胞外マトリックスⅠ(コラーゲン, 接着性糖蛋白質)	C-2／必5-ア	⑥

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／9	総合演習／口腔生化学(2)	細胞外マトリックスIII(グリコサミノグリカン，プロテオグリカン)	C-2／必5-ア，総II-5-イ・9-ウ	⑥
9	5／16	総合演習／口腔感染免疫学(1)	病原微生物の種類とその性状	C-4-1)-①，②，③／総III-1-カ	⑦
10	5／16	総合演習／口腔感染免疫学(2)	微生物に対する感染防御	C-4-2)-①，②，③／必5-ア-f	⑦
11	5／23	総合演習／生体材料・歯科材料学(1)	歯科材料の基本事項	D-1／総VIII-1	⑧
12	5／23	総合演習／生体材料・歯科材料学(2)	成形修復材料	D-2／総VIII-5, 8	⑧
13	5／30	総合演習／歯科薬理学(1)	薬理作用と作用機序	C-6／必12-コ，総VII-8	⑨
14	5／30	総合演習／歯科薬理学(2)	薬物動態と相互作用	C-6／必12-コ，総VII-8	⑨
15	6／6	総合演習／口腔病理学(1)	問題演習(1)	C-5-1)～5)／総III-1-オ	⑩
16	6／6	総合演習／口腔病理学(2)	病因論と先天異常 細胞傷害，組織障害及び萎縮	C-5-1)～5)／総III-1-オ	⑩
17	6／13	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(1)	健康の概念・環境と健康	B-1，B-2-4／必2-ア	⑬
18	6／13	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(2)	疫学・保健医療統計	B-4／総I-6-ア	⑬
19	6／20	総合演習／解剖学・口腔解剖学(3)	脈管学	C-3-4)／必5-ア	②
20	6／20	総合演習／解剖学・口腔解剖学(4)	神経学	C-3-4)／必5-ア	②
21	6／27	総合演習／口腔組織学(3)	各器官の組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア，総II 13-7	③
22	6／27	総合演習／口腔組織学(4)	口腔周囲器官	E-2-1)／必5-ア，総II 4-オ	③
23	7／4	総合演習／口腔生理学(3)	口腔感覚・味覚と中枢神経系の機能	C-2-3)／総III-1, 2	④
24	7／4	総合演習／口腔生理学(4)	唾液・排泄	C-2-3)，E-2-2)／総IV-1, 2, 3, 5	⑤
25	7／11	総合演習／口腔生化学(3)	石灰化，骨吸収，軟骨内骨化	C-2／必5-ア，総II-5-イ・9-ウ	⑥
26	7／11	総合演習／口腔生化学(4)	血清カルシウム濃度の調節機構，慢性腎不全	C-2／必5-ア，総II-9-ウ	⑥
27	7／25	総合演習／口腔感染免疫学(3)	常在微生物叢の意義と役割	C-4-1)-①／総II 2-ア	⑦
28	7／25	総合演習／口腔感染免疫学(4)	感染症の種類	C-4-1)-③／総III-1-カ-a, b, c	⑦
29	7／29	総合演習／生体材料・歯科材料学(3)	印象用材料，模型用材料	D-2／総VIII-3, 4	⑧
30	7／29	総合演習／生体材料・歯科材料学(4)	金属材料	D-2／総VIII-4, 6, 7	⑧
31	9／5	総合演習／歯科薬理学(3)	総括と問題演習	C-6／必12-コ，総VII-8	⑨
32	9／5	総合演習／歯科薬理学(4)	総括と問題演習	C-6／必12-コ，総VII-8	⑨
33	9／12	総合演習／口腔病理学(3)	修復と再生 循環障害	C-5-3), 4)／総III-1-オ	⑫
34	9／12	総合演習／口腔病理学(4)	炎症 腫瘍	C-5-5), 6)／総III-1-オ	⑫
35	9／26	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(3)	健康と社会-2 社会保障	B-2-1)／必2-イ	⑪
36	9／26	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(4)	健康と社会-2 医療関係法令	B-2-2)／必2-イ	⑪
37	10／3	総合演習／解剖学・口腔解剖学(5)	内臓学1	C-3-4)／必5-ア	②
38	10／3	総合演習／口腔組織学(5)	歯と歯周組織	E-3-1)／必5-ア，総II 5-イ	③
39	10／3	総合演習／口腔生理学(5)	顎運動・顎反射	C-2-3)，E-2-1)／総IV-1, 3	④
40	10／17	総合演習／口腔生化学(5)	核酸，DNA複製，転写，スプライシング	C-2／必5-ア	⑥
41	10／17	総合演習／口腔感染免疫学(5)	抗体と補体	C-4-2)-①，②／総II-3-エ	⑦
42	10／17	総合演習／生体材料・歯科材料学(5)	義歯床用材料	D-2／総VIII-6, 7	⑧
43	10／24	総合演習／歯科薬理学(5)	総括と問題演習	C-6／必12-コ，総VII-8	⑨
44	10／24	総合演習／口腔病理学(5)	問題演習(2)	C-5-1)～5)／総III-1-オ	⑫
45	10／31	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学(5)	母子保健と母子歯科保健	A-7-1)／必4-イ，総I-2-ア	⑬
46	10／31	総合演習／解剖学・口腔解剖学(6)	内臓学2	C-3-4)／必5-ア	②
47	11／7	総合演習／口腔組織学(6)	初期発生と顎顔面の発生	C-3-2)，E-2-3)／必6-ア，総II 9-ア, イ	③
48	11／7	総合演習／口腔生理学(6)	発声・構音	E-2-2)／総VII-3	⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
49	11／14	総合演習／口腔生化学（6）	テロメラーゼ，アポトーシス，癌遺伝子，癌抑制遺伝子	C-2／必5-ア	⑥
50	11／14	総合演習／口腔感染免疫学（6）	アレルギー	C-4-2)-⑤，⑥／総 Ⅲ-1-キ-a, b, c, d	⑦
51	11／21	総合演習／生体材料・歯科材料学（6）	歯冠色材料	D-2／総Ⅷ-6, 7	⑧
52	11／21	総合演習／歯科薬理学（6）	総括と問題演習	C-6／必12-コ，総Ⅶ-8	⑨
53	11／28	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学（6）	学校保健と学校歯科保健	A-7-1）／必4-イ，総I-2-イ	⑬
54	11／28	総合演習／解剖学・口腔解剖学（7）	人体の構造と機能まとめ	C-3-3, 4）／必5-ア，必6-ウ, エ	②
55	12／5	総合演習／口腔生理学（7）	摂食・嚥下	E-2-1）／総Ⅶ-1-エ	④
56	12／5	総合演習／口腔生化学（7）	唾液蛋白質の機能，菌体外多糖，プラーク，糖代謝	C-2／必5-ア，総Ⅱ-6-オ・7-イ	⑥
57	12／12	総合演習／口腔感染免疫学（7）	ワクチン	C-4-2)-⑧／総Ⅱ-3-エ	⑦
58	12／12	総合演習／生体材料・歯科材料学（7）	歯科用機器	D-1／総Ⅷ-2, 7	⑧
59	12／19	総合演習／口腔衛生学・公衆衛生学（7）	口腔衛生学・公衆衛生学 フッ素の基礎とフッ化物の応用	B-3-2）／必4-ウ，各II-1-イ	⑬
60	12／19	総合演習／歯科薬理学（7）	総括と問題演習	C-6／必12-コ，総Ⅶ-8	⑨

第１学年

教養系教育・基礎科学教育科目

美　　術 …… 57
統 計 数 理 学 …… 58
情報リテラシーⅠ …… 59
体　　育 …… 61
英 語 基 礎 …… 62
英　　語　Ⅰ …… 63
心　　理　　学 …… 64
経　　営　　学 …… 65
郡山学／福島学 …… 66
日 本 語 学 Ⅰ …… 67
医 療 倫 理 学 …… 69
基 礎 物 理 学 …… 70
物 理 学 実 験 …… 72
基 礎 化 学 …… 73
化 学 実 験 …… 75
基 礎 生 物 学 …… 76
生 物 学 実 験 …… 79
歯 科 医 学 演 習 …… 81
歯 科 医 療 概 論 …… 82
基礎歯学概論Ⅰ …… 83
臨 床 歯 学 概 論 …… 84
臨 床 心 理 学 …… 85
歯科医療人間学Ⅰ …… 86

美術（前期・１単位）

D①②－0201

科目責任者：渡部　憲生（非常勤）
科目担当者：①渡部　憲生（非常勤）

1. 科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり，造形的な表現と鑑賞を通したビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りに存在している「美術」は，意識・無意識にかかわらず，私たちの生活に大きな影響を与えている。たとえば衣服の選択や日用品の購入，住居の環境構成など，それぞれの趣味やセンスとして認識され，顕在化される。「美術」の授業では，そんな私たちの生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである“美術”について，よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して，認識を新たにするとともに，造形的な表現活動の楽しさを味わい，文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとして学習活動を行う。

2. 一般目標

造形表現の意味や価値について学び，美術への興味･関心･理解を深めるとともに，文化的・精神的な豊かさについて考察する。

3. 到達目標

1）造形表現に関心をもち，それらを通した学びの意味を考え，意義深い学習活動を構築することができる。
2）造形的要素を用いた表現を体験し，日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
3）学習活動から得られた認識力，表現技術により，知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
4）ものやことに触れ，描画センスや配色の調和感覚，手の巧緻性を高めることができる。
5）授業準備，計画実施，学習意欲等について，多面的に自らの姿勢を振り返り，自己改善することができる。
6）情報や資料の収集に努め，主体的に授業に参加することができる。
7）文化の伝承や民族性について理解し，人々の営みと文化の多様性，芸術活動について理解することができる。
8）美術史学習から造形的な文化について洞察を深め，「美」を求めてきた意義について考察することができる。
9）表現活動を通して，条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

4. 履修の進め方

映像やプリント，板書等による講義，紙材や粘土などを用いた表現実習を行う。表現活動では，主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ペースを考え，主体的に授業に参加することが求められる。

［準備物］スケッチブック，鉛筆（H～４Bを３本程度），色鉛筆セット（12色～24色），水彩用具一式（絵の具〈12色〉，パレット，絵筆，筆洗など），ハサミ，カッターナイフ，スティック糊

5. 準備学修

予　習：授業計画を基に表現内容について理解し，主題を明確にした構想を練り上げるとともに，表現の進め方や材料・用具を確認し，表現計画を構想する。（60分）
復　習：スケッチブックの描画や作品を自己評価し，自分なりの表現のよさを味わったり修正を加えたりして進度の調整をする。（60分）
その他：手の巧緻性や集中力，人間関係力などの自己評価に基づき，学習姿勢や自己管理について考える。

6. 評価方法

提出された作品（スケッチブック）〈50％〉，毎時の授業感想（出席カード記録）及び授業総括レポート〈30％〉，出席状況〈20％〉により評価する。

提出作品については，主題の捉え方，表現技術（作品の質）の他，資料収集力，表現の丁寧さなど，授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため，スケッチブックを定められた方法・内容，期日で提出する。

筆記による試験は行わないが，出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。また，授業最終日に授業全体を振り返る総括レポート（1500字程度）の提出を求める。

なお，提出されたスケッチブックは評価後返却する。

7. 教本

テキスト等については特に指定しない。実習材料として，スケッチブック，色紙（トーナルカラー65色），紙粘土を各自購入する。授業に使用する資料等は，必要に応じて各題材ごとにプリント資料の配付，データ提示を行う。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／8	オリエンテーション 表現体験Ⅰ 「線で表す」①	本授業のねらい・学習計画等の確認 身辺の造形美の発見 線による表現①［基本形］ （筆記用具・スケッチブック）		①
3 4	4／15	表現体験Ⅰ 「線で表す」②	線による表現② ［立体感・遠近感］ （　〃　）		〃
5 6	4／22	表現体験Ⅰ 「線で表す」③	線による表現③ ［自画像］① （　〃　）		〃
7 8	5／6	表現体験Ⅰ 「線で表す」④	線による表現④ ［自画像］② （　〃　）		〃
9 10	5／13	表現体験Ⅰ 「線で表す」⑤	線による表現⑤ ［自画像］③，作品鑑賞 （　〃　）		〃
11 12	5／20	表現体験Ⅱ 「色で表す」①	色の性質とデザインの要素 色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成① ［構想］ （スケッチブック・色鉛筆・色紙）		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13 14	5／27	表現体験Ⅱ 「色で表す」②	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成② [表現] (スケッチブック・色鉛筆・色紙)		①
15 16	6／3	表現体験Ⅱ 「色で表す」③	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成③ [表現] (　〃　)		〃
17 18	6／10	表現体験Ⅱ 「色で表す」④	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成④ [表現] (　〃　)		〃
19 20	6／17	表現体験Ⅱ 「色で表す」⑤	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成⑤ [表現・完成], 作品鑑賞 (　〃　)		〃
21 22	6／24	表現体験Ⅲ 「粘土で表す」 ①	粘土による動物の立体表現①[構想] (スケッチブック･紙粘土)		〃
23 24	7／1	表現体験Ⅲ 「粘土で表す」 ②	粘土による動物の立体表現②[成形] (　〃　)		〃
25 26	7／8	表現体験Ⅲ 「粘土で表す」 ③	粘土による動物の立体表現③[成形] (　〃　)		〃
27 28	7／15	表現体験Ⅲ 「粘土で表す」 ④	粘土による動物の立体表現④「着彩」 (　〃　)		〃
29 30	7／22	表現体験Ⅲ 「粘土で表す」 ⑤	粘土による動物の立体表現⑤ 「着彩・完成」, 作品鑑賞 授業総括 レポート作成 (　〃　)		〃

統計数理学（通年・２単位）

D②－0303

科目責任者：菊地　尚志（物理・教授）
科目担当者：①菊地　尚志（物理）

1. 科目の概要

ある病気の発症の頻度に地域差がありそうだとか，あの病気には今回開発したこの新薬が有効だろう，と言った推測は医療の現場で頻繁に生じそうだ。経験や感覚に基づく判断が十分な場合もあるだろうが，より客観的な根拠に基づくやり方が統計学を用いた判断だ。統計学が教えてくれる「推定」や「検定」という技術がそれに当たる。授業ではこの技術の基本的な考え方を理解して初歩的でも現実に応用できることを目指す。その為に前期は，母集団と標本を結びつける確率分布について理解する。具体的には，一様分布，ベルヌイ分布，二項分布，正規分布を区別して理解する。後期に推定と検定の具体的な応用を習う。前期に学習した分布に加えてt-分布，χ^2-分布を覚え，平均値や分散についての推定と検定をできる様にする。

2. 一般目標

統計学の方法を理解して，歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養う。

3. 到達目標

1）統計資料を整理する。
2）統計量を計算する。
3）様々な確率分布を説明する。
4）統計的推定ができる。
5）統計的検定ができる。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業を行います。授業をよく聞きノートをきちんと取って，さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めて行きましょう。

5. 準備学修

予習（30分）と復習（60分）をしっかり行ってください。

6. 評価方法

定期試験で評価する。

7. 教本

統計解析がわかる　涌井良幸，涌井貞美著　技術評論社

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14		授業への導入	B-4-2／ 必13-イ	①
2	4／21	記述統計学	度数分布とヒストグラム	B-4-2／ 必13-イ	〃
3	4／28		平均値と分散	B-4-2／ 必13-イ	〃
4	5／12		分散の性質	B-4-2／ 必13-イ	〃
5	5／19		統計学と確率論	B-4-2／ 必13-イ	〃
6	5／26		母集団と標本	B-4-2／ 必13-イ	〃
7	6／2	確率論	標本空間	B-4-2／ 必13-イ	〃
8	6／9		独立な試行	B-4-2／ 必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	6／16		確率変数の期待値と分散	B-4-2／必13-イ	①
10	6／23		ベルヌイ分布と二項分布	B-4-2／必13-イ	〃
11	6／30		二項分布の計算	B-4-2／必13-イ	〃
12	7／7		二項分布と正規分布	B-4-2／必13-イ	〃
13	7／14		度数分布と確率分布	B-4-2／必13-イ	〃
14	7／21		問題演習	B-4-2／必13-イ	〃
15	7／28		問題演習の振り返り	B-4-2／必13-イ	〃
16	9／1	推測統計学	母集団と標本	B-4-2／必13-イ	〃
17	9／8	推定	平均値の区間推定	B-4-2／必13-イ	〃
18	9／15		母平均の推定（分散既知）	B-4-2／必13-イ	〃
19	9／22		演習	B-4-2／必13-イ	〃
20	9／29		母平均の推定（母分散未知）	B-4-2／必13-イ	〃
21	10／6		一般の母平均の推定	B-4-2／必13-イ	〃
22	10／13		母比率の推定	B-4-2／必13-イ	〃
23	10／20		母分散の推定	B-4-2／必13-イ	〃
24	10／27	検定	統計学的検定の考え方	B-4-2／必13-イ	〃
25	11／10		母平均の検定	B-4-2／必13-イ	〃
26	11／17		母比率の検定	B-4-2／必13-イ	〃
27	11／24		母平均の差の検定	B-4-2／必13-イ	〃
28	12／1		臨床試験での検定	B-4-2／必13-イ	〃
29	12／8		問題演習	B-4-2／必13-イ	〃
30	12／15		問題演習の振り返り	B-4-2／必13-イ	〃

情報リテラシーⅠ（通年・1単位）

D②－0305

科目責任者：古山　　昭（生理・講師）
科目担当者：①古山　　昭（生理），②黒田　栄子（矯正），
③芹川　雅光（解剖）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

情報化社会また，歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシーⅠではネット社会における適切な情報の取り扱い方法，ワードプロセッサによる文章の作成，表計算ソフトによる表とグラフの作成，プレゼンテーションソフトによるスライド作成，画像処理ソフトによる画像加工を習得する。

また，演習においては学生自ら作問を行う。将来，試験の様々な出題形式についての理解が深まり，コンピュータを使った試験形式にも早期から対応できる。

2. 一般目標

医療に対して探求力，解決力，発信力を獲得するために，コンピュータやインターネットの操作に習熟することを目的とする。

3. 到達目標

1）インターネットで適切な情報の取り扱いができる。
2）コンピュータを操作できる。
3）Wordを用いて文書を作成できる。
4）Excelを用いて表およびグラフを作成できる。
5）PowerPointを用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
6）GIMPを用いて画像加工ができる。
7）課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

4. 履修の進め方

コンピュータの基本操作，ネット接続，ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要事項について問題作成を行う。

5. 準備学修

講義の最後に，次回の講義に必要な学習項目および，目を通すべき資料を提示し，簡単な宿題を課す。学習内容は10～30分で遂行可能なものとする。宿題は講義の前日までにメール等で提出させ，教員がチェックして学生の習熟度を把握した上で講義を行う。

6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。前期後期一回ずつの試験（40%），単元別まとめ課題提出（40%），宿題（予習課題）提出（20%）により評価を行う。

7. 教本

定平　誠著「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版」技術評論社

Noa出版編集部　編「情報倫理ハンドブック」noa出版

できるシリーズ編集部著「できるクリエイター GIMP2.10独習ナビ」インプレスジャパン

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	オリエンテーション	授業の概要説明，個人情報保護，著作権の保護		①～③
2	4／20	情報倫理	コンピュータの基本操作，ウィルス対策ネット接続など		〃
3	4／27	ワードプロセッサ①	Wordの基本操作，文書作成		〃
4	5／11	ワードプロセッサ②	文書デザインとレイアウト，書式設定		〃
5	5／18	ワードプロセッサ③	オブジェクトの設定，図の応用		〃
6	5／25	ワードプロセッサ④	ラベルの作成		〃
7	6／1	表計算①	Excelの基本操作，表の作成		〃
8	6／8	表計算②	計算式の入力，関数の応用		〃
9	6／15	表計算③	グラフの作成		〃
10	6／22	表計算④	データの整理と検索		〃
11	6／29	表計算⑤	表計算弱点補強		〃
12	7／6	プレゼンテーション①	Power Pointの基本操作スライドの作成		〃
13	7／13	プレゼンテーション②	スライドのデザイン，スライドの編集		〃
14	7／20	試験	前期試験		〃
15	7／27	プレゼンテーション③	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
16	9／6	プレゼンテーション④	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
17	9／13	プレゼンテーション⑤	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
18	9／20	プレゼンテーション⑥	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
19	9／27	プレゼンテーション⑦	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
20	10／4	プレゼンテーション⑧	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
21	10／11	画像処理①	画像加工（1）		〃
22	10／18	画像処理②	画像加工（2）		①～③
23	10／25	画像処理③	画像加工（3）		〃
24	11／1	画像処理④	画像加工（4）		〃
25	11／8	画像処理⑤	画像加工（5）		〃
26	11／15	画像処理⑥	画像処理弱点補強		〃
27	11／22	試験	後期試験		〃
28	11／29	問題作成①	問題作成		〃
29	12／6	問題作成②	問題のブラッシュアップ		〃
30	12／13	問題作成③	問題のプレゼンテーション		〃

体育（前期・１単位）

D①②－0202

科目責任者：二瓶美智子（体育・非常勤）
科目担当者：①二瓶美智子（体育）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

グローバル化が進む現代社会において，コミュニケーション能力や社会的スキルが求められている。社会的スキルの充実を図るためには生活の質（QOL：Quality of life）を向上させることが重要であり，健康保持・増進，体力の維持・向上が基本となる。

フィットネストレーニングを通じて各自の健康保持・増進，体力を維持・向上させるとともに，スポーツなどのゲームを通じて，自己形成，他者との良好な関係づくりができるようになることを目的とする。また，体を動かすことを通じて楽しさを体感し，生涯スポーツとして継続できるように知識と技能を深めていく。

2. 一般目標

体を動かすことの楽しさを体験する中で，健康保持・増進，体力の維持・向上，他者との良好な関係づくりができるようになることを目的とする。また，心身ともに豊かなライフスタイルを確立するため，身体活動の重要性について理解を深めることを目的とする。

3. 到達目標

1）自ら進んで運動を楽しむ能力を修得する。
2）運動の特性を身につける。
3）自身の運動能力を理解し，適切な運動方法を選択できる能力を身につける。
4）競技特性，技術，ルール等を理解し，仲間と運動を楽しみながら協調性を養う。
5）自身の運動経験から，他者への助言などが出来る能力を養う。

4. 履修の進め方

体育はA・Bクラスに分かれて実施する。内容は，スポーツ実技を中心に展開していく。実技は競技種目を主とするが，学生自身の持久力・筋力・柔軟性の向上を図るために毎回の講義でフィットネストレーニングも実施する。また，授業終了時に簡易的な自己評価表を記載する。

5. 準備学修

準備物：動きやすい服装(ジャージ等)，シューズ(室内用)
※第１回目の授業時から準備すること。
※アクセサリーや腕時計を身に付けての活動は認めない。
科目担当より次回の講義について提示された内容について各自で15分程度の予習（競技種目のルールなど）をすること。

6. 評価方法

1）レポート課題２回実施（70％）
評価方法：ユニパを活用し課題提示および提出
内　　容：競技特性，技術，ルール等の理解度を確認
2）実技試験４回実施（30％）
評価方法：授業内における実技評価および自己評価表の作成
内　　容：各種目の最終回に試験を実施，各種目における動作の理解度を確認

以上の評価を行い，100点満点中65点以上を合格とする。
レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／13	オリエンテーション フィットネストレーニング レクリエーション	授業概要の説明 フィットネストレーニング レクリエーション的活動		①
3 4	4／20	バスケットボール①	ドリブル，パス，シュート，ミニゲーム		〃
5 6	4／27	バスケットボール②	ドリブル，パス，シュート，ミニゲーム		〃
7 8	5／11	バスケットボール③	ドリブル，パス，シュート，ミニゲーム		〃
9 10	5／18	バスケットボール④	ゲーム中心		〃
11 12	5／25	バドミントン①	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
13 14	6／1	バドミントン②	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
15 16	6／8	バドミントン③	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
17 18	6／15	バドミントン④	ゲーム中心		〃
19 20	6／22	卓球①	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
21 22	6／29	卓球②	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
23 24	7／6	卓球③	基礎基本の練習，ミニゲーム		〃
25 26	7／13	バレーボール①	パス，トス，サーブ，ミニゲーム		〃
27 28	7／20	バレーボール②	パス，トス，サーブ，ミニゲーム		〃
29 30	7／27	バレーボール③	パス，トス，サーブ，ミニゲーム		〃

英語基礎（通年・１単位）

D①②－0204

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

当講義は英語の基礎力向上を目的とし，英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより，頻出語彙や時事表現，基礎文法を学ぶ。次に，テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

1）基礎的な文法を復習し，表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
2）国内外の社会問題の背景を英語で学び，語彙・構文，時事表現を覚える。
3）論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
4）英語で発信するための基礎スキルを身につける。

4. 履修の進め方

英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより，頻出語彙や時事表現，基礎文法を学ぶ。次に，テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

5. 準備学修

＜予習＞
①各Unitの英文の音声を聞いて，発音やリズムを確認（20分）
②英文を読み，語彙の意味を確認（30分）
③講義で質問すべき点をリストアップ（10分）
＜復習＞
講義で学んだ英文の音声を，発音やリズム，意味などを確認しながらリスニング（30分）
＜その他＞
日常的に，映画や雑誌・新聞など，できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

定期試験（80％），課題提出（20％）により評価し，65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

植田一三，Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, Cengage Learning

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	Unit 1	Internet Safety or Freedom of Expression? (1)	A-7-2)／必13-ウ	①
2	4／20		Internet Safety or Freedom of Expression? (2)	A-7-2)／必13-ウ	①
3	4／27	Unit 2	Honor or Burden (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
4	5／11		Honor or Burden (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
5	5／18	Unit 3	Clean Energy or Potential Threat? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
6	5／25		Clean Energy or Potential Threat? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
7	6／1	Unit 4	Real Risk or Great Technology? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
8	6／8		Real Risk or Great Technology? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
9	6／15	Unit 5	Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
10	6／22		Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
11	6／29	Unit 6	Separate Smoking Area or Total Ban (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
12	7／6		Separate Smoking Area or Total Ban (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
13	7／13	Unit 7	Right to Die or Responsibility to Live? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
14	7／20		Right to Die or Responsibility to Live? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
15	7／27		Unit 1-7 Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
16	9／6	Unit 8	Punishment or Discipline? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
17	9／13		Punishment or Discipline? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
18	9／20	Unit 9	To Skip or Not to Skip? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
19	9／27		To Skip or Not to Skip? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
20	10／4	Unit 10	Performance or Seniority? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
21	10／11		Performance or Seniority? (2)	A-7-2)／必13-ウ	①
22	10／18	Unit 11	Free Trade or Protection? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
23	10／25		Free Trade or Protection? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
24	11／1	Unit 12	Animal Rights or Human Profits? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
25	11／8		Animal Rights or Human Profits? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
26	11／15	Unit 13	Peace Constitution or Revision? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
27	11／22		Peace Constitution or Revision? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
28	11／29	Unit 14	Death Penalty or Human Rights? (1)	A-7-2)／必13-ウ	〃
29	12／6		Death Penalty or Human Rights? (2)	A-7-2)／必13-ウ	〃
30	12／13		Unit 8-14 Review	A-7-2)／必13-ウ	〃

英語Ⅰ（通年・1単位）

D②－0301

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義は,「英語基礎」の科目で学んだ内容の応用編である。グループワークを中心に，課題テーマについてグループで調査し，英語での発表を経験する。

2. 一般目標

国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び，論理的に自分の意見を述べる基礎的なライティング力とスピーキング力を身につける。

3. 到達目標

1）「英語基礎」科目で学んだテーマについて，テキスト以外の資料を読むことで理解を深める。
2）大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
3）関心テーマについてグループで調査し，英語で発表する経験を積む。

4. 履修の進め方

「英語基礎」で学んだ知識をもとに，プレゼンテーションスキルの向上を目的とした講義内容となる。グループワークが中心となる。

5. 準備学修

予習については基本的に「英語基礎」と同じであるため，下記の復習に力を入れること。

＜復習＞

「英語基礎」の復習（リスニング）に加え，講義で指摘された重要語句・表現を含む英文を何度も音読したり，書いたりしながら覚える（約30分）

＜その他＞

「英語基礎」で使用するテキストの英文を習熟すること。また，映画や雑誌・新聞など，日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

定期試験（80％），課題提出（20％）により評価し，65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

「英語基礎」と同じ（植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues，Cengage Learning）

8. 参考書

特になし。

必要に応じて，新聞や雑誌などの特集記事のコピーを配布。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	Unit 1	Controlling Internet content	A-7-2)／必13-ウ	①
2	4／20		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
3	4／27	Unit 2	Hosting the Olympics	A-7-2)／必13-ウ	〃
4	5／11		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
5	5／18	Unit 3	Restoring nuclear power generation	A-7-2)／必13-ウ	①
6	5／25		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
7	6／1	Unit 4	GM foods	A-7-2)／必13-ウ	〃
8	6／8		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
9	6／15	Unit 5	Legalizing gay marriage	A-7-2)／必13-ウ	〃
10	6／22		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
11	6／29	Unit 6	Banning smoking in public places	A-7-2)／必13-ウ	〃
12	7／6		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
13	7／13	Unit 7	Euthanasia	A-7-2)／必13-ウ	〃
14	7／20		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
15	7／27		Unit 1-7 Review Test	A-7-2)／必13-ウ	〃
16	9／6	Unit 8	Corporal punishment	A-7-2)／必13-ウ	〃
17	9／13		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
18	9／20	Unit 9	Grade-skipping	A-7-2)／必13-ウ	〃
19	9／27		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
20	10／4	Unit 10	The performance-based pay system	A-7-2)／必13-ウ	〃
21	10／11		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
22	10／18	Unit 11	The TPP	A-7-2)／必13-ウ	〃
23	10／25		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
24	11／1	Unit 12	Animal Testing	A-7-2)／必13-ウ	〃
25	11／8		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
26	11／15	Unit 13	Revising Article 9	A-7-2)／必13-ウ	〃
27	11／22		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
28	11／29	Unit 14	Capital punishment	A-7-2)／必13-ウ	〃
29	12／6		Review	A-7-2)／必13-ウ	〃
30	12／13		Unit 8-14 Review Test	A-7-2)／必13-ウ	〃

心理学（前期・1単位）

D①②－0205

科目責任者：佐藤　　歩（心理・講師）
科目担当者：①佐藤　　歩（心理）
※この科目は，公認心理師である教員が担当する

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ，多様性をそのまま引き受けざるを得ず，一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して，人間理解の特性を学習する。また歯科医療との摺り合わせを鑑み，臨床心理学を大きく取り上げ，臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し，自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

先ず，心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために，心の探究の歴史を理解する。続いて，病む人の心理ならびにその援助法にあたり，医療従事者として配慮すべきことを考えるために，臨床心理学を習得する。

3. 到達目標

1）現代における心の問題を述べられる。
2）心理学の基本的な立場を説明できる。
3）性格を分類できる。
4）歯科口腔外科領域における心身症を説明できる。
5）心の援助（事例読解）を実施できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

予　習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し，予め教科書を熟読しておくこと（30分）。
復　習：板書された重要箇所をノートで確認し，質問等があれば，積極的にオフィスアワーを利用すること（30分）。

6. 評価方法

定期試験（本試験，追試験，再試験）で65点以上を合格とする。全授業範囲を記述式で実施する。

7. 教本

ベーシック心理学　第２版　二宮克美編著　医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	オリエンテーション	講義の主題と進行について		①
2	4／19	現代における心の問題①	虐待といじめ	／必修17-イ	〃
3	4／26	現代における心の問題②	嗜癖問題	／必修17-イ	〃
4	5／10	現代における心の問題③	アダルトチルドレン	／必修17-イ	〃
5	5／17	心理学の基本的な立場①	行動療法および認知療法	／必修17-イ，総論x-10-ク	〃
6	5／24	心理学の基本的な立場②	認知行動療法	／必修17-イ，総論x-10-ク	〃
7	5／31	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患	E-4-5)-①／必修17-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	6／7	臨床心理学入門②	心因性疾患と心療歯科	E-4-5)-②，⑤／必修17-イ	①
9	6／14	心の発達①	幼年期の発達課題と危機	／必修17-イ	〃
10	6／21	心の発達②	青年期の発達課題と危機	／必修17-イ	〃
11	6／28	心の発達③	成人期および高齢期の危機	／必修17-イ	〃
12	7／5	性格とその把握①	性格の分類と測定法	／必修10-ケ-a，17-イ	〃
13	7／12	性格とその把握②	エゴグラムの活用①	／必修10-ケ-a，17-イ	〃
14	7／19	性格とその把握③	エゴグラムの活用②	／必修10-ケ-a，17-イ	〃
15	7／26	心の援助の実際	事例読解	／必修17-イ	〃

経営学（後期・１単位）

D②－0302

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義では，将来，経営や組織運営に関与する時に経験や思い付きだけに頼るのではなく，ヒト，モノ，カネといった限られた資源と常に変化する市場環境の中で，迅速かつ最良の戦略を導くための基礎的なフレームワークを学ぶことを目的としている。

2. 一般目標

多様な業界における注目企業の事例を学ぶことにより，企業経営に興味をもつことが第一の目標である。

3. 到達目標

1）基礎的な分析フレームワークの理解
2）定番のビジネスモデルの概要理解
3）論理的考察の基礎習得
4）将来的な経営イメージ構築と継続的な考察・修正プロセスの習慣化

4. 履修の進め方

理論やフレームワークを学ぶとともに，いくつかの企業事例を取り上げ，考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく，各設定テーマに関する分析と議論をグループワークや発表を通じて深めていきたい。

当科目では学生の積極的な発言や議論を歓迎する。

5. 準備学修

＜予習＞

シラバスで次回講義内容を確認し，教本の該当する章を事前に読み，論点や質問事項などを整理しておく（60分）

＜復習＞

講義で学んだフレームワークや企業戦略が歯科業界に応用できないか考察してみる（30分）

＜その他＞

講義で取り上げた企業の商品やサービスを実際に体験したり，新聞や雑誌，経営書を読んだり，日常的に経営に関する知識と考察を深めてほしい。

6. 評価方法

定期試験（80％），課題提出およびグループ発表（20％）により評価する。フィードバックに関しては，筆記試験の場合，添削後，個人に返却し，グループ発表に対しては講義中に質疑応答の形式で行う。

7. 教本

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学［第３版］』有斐閣ブックス

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／7	第１章　企業の誕生	事例：メルカリ		①
2	9／14	第２章　会社とは誰のものか	事例：カゴメ		〃
3	9／21	第3章　環境・戦略・組織	事例：フォードとGM		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／28	第４章　競争戦略の基本型	事例：マクドナルドとモスバーガー		①
5	10／5	第５章　事業のリストラクチャリングと組織改革	事例：GE		〃
6	10／12	第６章　ビジネス・システム	事例：コマツ		〃
7	10／19	第７章　破壊的技術への対応と新規事業創造	事例：富士フィルム		〃
8	10／26	第８章　プラットフォーム・ビジネス	事例：アップル		〃
9	11／2	第９章　グローバル戦略	事例：サムスン電子		〃
10	11／9	第10章　経営理念と組織文化	事例：リクルート		〃
11	11／16	第11章　人材のマネジメント	事例：双日		〃
12	11／30	第12章　日本的生産システム	事例：トヨタ		〃
13	12／7	第13章　成熟市場における商品開発	事例：サントリー		〃
14	12／14	第14章　環境変化期のマーケティング活動	事例：良品計画		〃
15	12／21	復習と考察	経営理論をいかに歯科医療分野に活用するか		〃

郡山学／福島学（後期・１単位）

D①②－0203

科目責任者：安藤　　勝（図書館）
科目担当者：①安藤　　勝（図書館），②柳田　春子（非常勤），
③渡部　育夫（非常勤），④森田　鉄平（非常勤），
⑤清水　修二（非常勤），⑥久保田雄大（非常勤）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

私たちが生活の拠点としている郡山／福島に関する諸々の事象を地域の視点から学びます。歴史や文化を通して地域の「いま」を見つめ，ひいては地域の活性化に貢献できることを願っています。

旧制安積中学で学んだ明治時代の文芸評論家であり，思想家でもある高山樗牛は「自分が立っているところを深く掘りなさい。そこから泉が湧き出てきます」という名言を残しました。私たちは自分が「いま」「ここに」いる自分を認識し，自分の生き方を問い，足元から世界へ世界から足元へと，思考の回路を豊かにしていくことが求められます。

この科目では郡山／福島に関する自然，歴史，文化，社会，産業，人物，地域政策など多岐にわたります。地域について理解を深め，地域づくりに主体的に関わっていく力を養います。

2. 一般目標

・地域について学ぶ意義を理解する。
・歩く，見る，聞く，調べることにより，地域についてより深く知る。
・いま，ここにいる自分を発見する。
・ここから世界を見つめ，世界からここを見つめる。

3. 到達目標

1）郡山，福島の歴史，地理，文化，人物，社会などについて他の人に説明ができ，文章も書ける。
2）地域づくりに主体的に関わることができる。
3）地域のさまざまな出来事や情報に関心がもてる。
4）地域の未来像をある程度描き，述べることができる。

4. 履修の進め方

講義形式で，プリントや映像により履修する。

5. 準備学修

・新聞，テレビ，ラジオ，ネット情報などにより，郡山，福島県などに関する地域情報には常時注目し，知識の獲得に努力すること。
・図書館で所蔵している郡山，福島に関する図書にはどんなものがあるか，特に関心を覚えたものは借りて読んでみよう（60分）。
・図書館には「郡山へようこそ」という図書コーナーがある。借りて読んでみよう（60分）。
・郡山近代の歴史，とくに安積疏水と安積開拓には注目して，関連文献を読んでおこう（60分）。

6. 評価方法

レポート70％，出席30％

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／7	郡山の地名	郡山地名考		①
2	9／14	郡山の近代①	安積疏水		〃
3	9／21	郡山の人物①	安積艮斎		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	９／28	郡山の歴史	近世の郡山		②
5	10／５	郡山の人物②	朝河貫一		①
6	10／12	地域と新聞	新聞を読む		③
7	10／19	会津を知る①	戊辰戦争		①
8	10／26	郡山の人物③	蒲生　明		〃
9	11／２	会津を知る②	野口英世		④
10	11／９	郡山の近代②	安積開拓		①
11	11／16	福島県	歴史と文化		〃
12	11／30	震災と原発	東日本大震災		⑤
13	12／７	郡山のいま	未来に向けて		⑥
14	12／14	レポート発表	まとめ		①
15	12／21	レポート発表	まとめ		〃

日本語学Ⅰ（通年・４単位）

D②－0304

科目責任者：本多　真史（日本語・講師）
科目担当者：①本多　真史（日本語）

1. 科目の概要

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になる」ため，「大学で何を学ぶべきなのか」を理解し，歯学の学びに欠かせない知識・姿勢の他，倫理観をも養成しつつ，他者とのコミュニケーションが円滑にいくような技能を修得する。また，文章を正確に読み・書き，他者の意見をきちんと理解し，自らの考えを整理し，それを正しく・わかりやすく伝えることができるようにする。様々な角度から「日本語について」学び，歯学の専門学習の基礎となる日本語運用能力を養う。

2. 一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な，「読む，聞く，話す，書く，考える」の基本姿勢，知識，技能を身につける。また，図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法といったリサーチ，プレゼンテーション技法，さらには論理的な文章・レポートの書き方の技能も身につける。加えて，日本語コミュニケーション能力，文章表現能力などを高め，上記の基本姿勢の他，まとめる力，伝える力をも向上させる。

3. 到達目標

1）歯科医療人となるための「読む，聞く，話す，書く，考える」の基礎力を身につける。
2）正確，かつ，わかりやすい日本語を用いて，説得力のある文章を作ることができる。
3）論理構造を理解しつつ，書籍・論文を正確に読むことができる。
4）講義及び他者の発表をきちんと聞くことができる。
5）敬語を正しく使い，コミュニケーション力及びマナー力を向上させる。
6）手紙，メールの正式な書き方，電話のかけ方・対応の仕方がきちんとできる。
7）図書館を効果的に利用でき，情報収集能力を高める。
8）歯学の専門学習に必要な「学習法」を理解できる。

4. 履修の進め方

教本及び講義資料をもとに，最初に講義形式で読解力の育成を行う。次に各回の内容に従い，参加型・実践形式で展開していく。

5. 準備学修

講義受講前に，シラバスで内容を確認し，それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間５分前後）。日本語分野で培われる読解力，ならびに聞く力・読む力，考える力・思う力，話す力・書く力は，国家試験を解く際はもちろん，医療関係の仕事では必ず必要になる。そのため，講義受講後は，その内容を復習（所要時間30分前後）し，日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

定期試験（70％），ワークシート等（30回）の提出状況及びその内容（30％）で評価し，65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは，講義内で行う。また，ワークシート等については，点検して個人へ返却する。

7. 教本

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』，『読解現代文必携　キーワードの卵』，『１日10分の言語力ドリル　聞く･話す』，『１日10分の言語力ドリル　読む』

8. 参考書

『質問力』，『大学生のための社会人入門トレーニング』，『看護系学生のための日本語表現トレーニング』，『「質問力」の教科書』

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	オリエンテーション	大学で日本語を学ぶ意義を理解しよう		①
2	4／13	〃	〃		〃
3	4／20	読解力向上演習（1）	「読解力」とは何かを理解しよう		〃
4	4／20	自己紹介	具体的に話そう		〃
5	4／27	読解力向上演習（2）	「論理的思考力」とは何かを理解しよう		〃
6	4／27	大学でのノートの取り方	授業を再現できるノートを作ろう		〃
7	5／11	図書館利用術	図書館の利用の仕方〈基礎・実践〉		〃
8	5／11	〃	〃		〃
9	5／18	読解力向上演習（3）	「言い換える力（同等関係整理力）」とは何かを理解しよう		〃
10	5／18	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう		〃
11	5／25	読解力向上演習（4）	文章読解問題の，読み解くべき対象について理解しよう		〃
12	5／25	様々な文章の読み取り方	論理的に考える力を身につけよう		〃
13	6／1	グループ討論1	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
14	6／1	〃	〃		〃
15	6／8	読解力向上演習（5）	「読解問題における主要な設問」について理解しよう		〃
16	6／8	説明のコツ	「全体⇒部分（部分⇒全体）」で説明しよう		〃
17	6／15	読解力向上演習（6）	「比べる力（対比関係整理力）」とはどのようなものなのかを理解しよう		〃
18	6／15	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう		〃
19	6／22	読解力向上演習（7）	生きていく上で読解力は必要であることを理解しよう		〃
20	6／22	確実なメモ	5W1Hでチェックしよう		①
21	6／29	読解力向上演習（8）	「分かる」とは，「分ける」ことであることを知ろう		〃
22	6／29	伝えるコミュニケーション	その重要性・必要性を理解しよう		〃
23	7／6	読解力向上演習（9）	文章中の対比の関係を読み取ろう		〃
24	7／6	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう		〃
25	7／13	読解力向上演習(10)	譲歩構文とは何かを理解しよう		〃
26	7／13	堅実なレポートの書き方	具体的な手順，体裁を身につけよう		〃
27	7／20	読解力向上演習(11)	「たどる力（因果関係整理力）」とはどのようなものかを理解しよう		〃
28	7／20	大学生になるということ	読む力・書く力・聞く力・議論する力を身につけよう〈まとめ1〉		〃
29	7／27	グループ討論2	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
30	7／27	〃	〃		〃
31	9／2	読解力向上演習(12)	主張・具体例を見分けられるようになろう		〃
32	9／2	メールの書き方	依頼メールの基本を学ぼう		〃
33	9／9	読解力向上演習(13)	理由説明について学ぼう		〃
34	9／9	敬語基礎	基本ルールをマスターしよう		〃
35	9／16	読解力向上演習(14)	指示語についての理解を深めよう		〃
36	9／16	履歴書の書き方	しっかりとした履歴書を書こう		〃
37	9／30	読解力向上演習(15)	「要点把握の仕方」について学ぼう		〃
38	9／30	面接の受け方	質問内容を予想して準備しよう		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
39	10／7	読解力向上演習(16)	複数の該当箇所のまとめ方について学ぼう		①
40	10／7	手紙の書き方	書式とマナーの基本を身につけよう		〃
41	10／14	読解力向上演習(17)	要点の抜き取り方について学ぼう		〃
42	10／14	電話の応対	電話のかけ方・受け方・アポのとり方を身につけよう		〃
43	10／21	グループ討論3	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
44	10／21	〃	〃		〃
45	10／28	読解力向上演習(18)	段落区分について学ぼう		〃
46	10／28	要約の仕方	文章の構成を考えよう		〃
47	11／4	読解力向上演習(19)	要旨の整理とまとめ方について学ぼう		〃
48	11／4	相手を納得させるコツ	説得力のある文章の書き方を身につけよう		〃
49	11／11	読解力向上演習(20)	主張・理由・具体例のつかみ方について学ぼう		〃
50	11／11	効果的なプレゼンテーション	レジュメ・視覚資料を作成しよう		〃
51	11／18	読解力向上演習(21)	要旨を読み取ろう		〃
52	11／18	ディベートの仕方	総合的な力を身につけよう		〃
53	11／25	読解力向上演習(22)	主張・理由・具体例が区別しにくい文章に触れよう		〃
54	11／25	(小)論文の書き方	予め型を決めておこう(卒業論文を含む)		〃
55	12／2	歯科医療人になるということ	歯科医師に必要な能力を理解しよう〈まとめ2〉		〃
56	12／2	〃	〃		〃
57	12／9	グループ討論4	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
58	12／9	〃	〃		〃
59	12／16	グループ討論5	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
60	12／16	〃	〃		〃

医療倫理学（後期・1単位）

D①②③－0402

科目責任者：長岡　正博（薬理・講師）
科目担当者：①長岡　正博（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

医療倫理学は，医師･歯科医師など，医療の担い手と患者との間を調整するためのルールの学問であり，またその基盤となる人間の道徳的･倫理的･法的規範についての意識を養うことを目的とした学問である。その必要性は，医療はどんな場合でも患者の立場を重んじ，患者との信頼関係の中で行わなければならないからである。医療はそもそもの始まりから「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律するルール」と一体となり行われてきたため，倫理と切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており,独立したものではないため,単なる暗記物ではあってはならず，問題意識を持ちながら臨み学ぶことが大切である。

2. 一般目標

医療倫理の必要性，すなわち医療行為の特殊性からみて，歯科医師にはその職に固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し，全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し，問題解決のための具体的指針を習得する。

3. 到達目標

1）医療倫理とは何かについて説明できる。
2）倫理学について概説できる。
3）医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて説明できる。
4）現代医療の倫理問題について説明できる。
5）臨床現場で直面する倫理的問題を説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

予　習：新聞等から医療倫理に関わる情報を取得しておくこと。(30分)
復　習：講義内容の板書のカラー文字およびスライドにて強調された部分を復習しておくこと。(30分)

6. 評価方法

定期試験（本試験，追試験，再試験）で65点以上を合格とする。全授業範囲を記述式で実施する。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／7	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論,歯科医師に求められる医療倫理	／必修17-イ	①
2	9／14	倫理学とは何か①	倫理の原理,倫理的行為の原則	／必修17-イ	〃
3	9／21	倫理学とは何か②	法と倫理の関係・倫理と道徳	／必修17-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／28	生命・医療倫理とは何か①	バイオエシックスの誕生	A-2-①②③／必修1-ア-abc	①
5	10／5	生命・医療倫理とは何か②	医の倫理との相違，パターナリズム	A-2-①②③／必修1-ア-abc	〃
6	10／12	生命・医療倫理とは何か③	生命倫理の原則・患者の権利	A-2-①②③／必修1-ア-abc	〃
7	10／19	現代医療の倫理問題①	告知するための条件，末期患者の苦痛と心理	A-2-①②③／必修1-イ-abc	〃
8	10／26	現代医療の倫理問題②	脳死と臓器移植	A-2-①②③／必修1-ア-abc，15-ホ-b	〃
9	11／2	生命・医療倫理講義	患者と医療専門職①	A-2-③／必修1-ア-a，17-イ	〃
10	11／9	生命・医療倫理演習	患者と医療専門職②	A-1-①②③／必修1-ア-a，17-イ	〃
11	11／16	医療現場で直面する倫理的問題①	ケーススタディ，インプラント治療における倫理的問題とその解釈	A-2-①②③／必修2-ア，イ	〃
12	11／30	医療現場で直面する倫理的問題②	ターミナルケアとランディング	A-2-①②③／必修2-ア，イ	〃
13	12／7	医療面接①	医療面接の目的･基本･流れ	A-3-④，A-4-①②／必修8-ア-abc	〃
14	12／14	医療面接②	医療面接の技法①	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a～f，ウ-a～f	〃
15	12／21	医療面接③	医療面接の技法②	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a～f，ウ-a～f	〃

基礎物理学（通年・４単位）

D③－0601

科目責任者：荒木　　威（物理・講師）
科目担当者：①荒木　　威（物理）

1. 科目の概要

本学では「物理学」という言葉だけでアレルギー反応を起こす学生が多いです。しかし，物理学の歴史を振り返って見ると，私たちの身の回りの自然界の至る所で起こっている現象への素直な疑問がその発展の原動力でした。「基礎物理学」では物理学を日常的に感じられるように授業を進めていきます。物理学が問題とする非常に広範な事柄，具体的には力学，熱力学，原子論から，歯学部の学生にとって将来具体的に必要になると共に，広く一般教養を身につける上で大事と思われる題材を選び，授業を進めて行きます。とりわけ，エネルギーという言葉は物理を専門とする人でなくてもよく聞く言葉です。それは諸々の自然現象の中で，形態は変えるが絶対量は変化しないという性質を持ちます。そのため，例えば，歯科医師が日常的に使っているＸ線の被曝の程度もエネルギーを用いて測られます。エネルギーについての正しい感覚が身につくことがひとつの目標になります。

2. 一般目標

歯科医師として的確な病態把握と適切な治療計画の立案ができるための基礎づくりとして以下を目標とする。

・物理学の基本的な知識を身につける。
・初等関数を含んだ基本的な計算ができる。
・原理と現象を通じ物事の因果性を理解する。
・論理的思考に基づいた問題解決を図ることができる。

3. 到達目標

１）力の性質を理解する。
２）運動とエネルギーの性質を理解する。
３）熱とエネルギーの性質を理解する。
４）X線と放射線に関する基本的な知識を持つ。

4. 履修の進め方

前半にスライドによる解説を行い，後半でその内容に関する演習を行います。講義スライドと演習問題および解答はすべてユニバーサル・パスポート上で公開します。

5. 準備学修

・前回行った演習の自己採点を行う（30分）
・前回の講義スライドを読んで内容を復習する（30分）
・次回の講義スライドを読んで内容を予習する（30分）

6. 評価方法

毎回の演習（20%），中間試験（40%），定期試験（40%）で評価し65点以上で合格とします。フィードバックはすべてユニバーサル・パスポート上で行います。

7. 教本

シップマン自然科学入門新物理学，J. T. Shipman（勝守寛監訳），学術図書出版社.

8. 参考書

・高校で使用していた物理の教科書.
・医療系のための物理学入門，木下順二，講談社.
・医歯系の物理学，赤野松太郎・鮎川武二・藤城敏幸・村田治，東京教学社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	ガイダンス	授業の進め方	C-1	①
2	4／14		授業の目的	C-1	〃
3	4／21	物理数学１	ベクトルと三角比	C-1	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	4／21		演習	C-1	①
5	4／28	力の物理学	身の回りの力	C-1	〃
6	4／28		演習	C-1	〃
7	5／12		力の合成と力の釣り合い	C-1	〃
8	5／12		演習	C-1	〃
9	5／19		力のベクトル表示	C-1	〃
10	5／19		演習	C-1	〃
11	5／26		骨格筋の釣り合い	C-1	〃
12	5／26		演習	C-1	〃
13	6／2		力のモーメントと回転	C-1	〃
14	6／2		演習	C-1	〃
15	6／9		人体におけるテコの原理	C-1	〃
16	6／9		演習	C-1	〃
17	6／16		重心と人体の安定性	C-1	〃
18	6／16		演習	C-1	〃
19	6／23	運動の物理学	１次元の運動	C-1	〃
20	6／23		演習	C-1	〃
21	6／30		運動方程式	C-1	〃
22	6／30		演習	C-1	〃
23	7／7		２次元の運動	C-1	〃
24	7／7		演習	C-1	〃
25	7／14		仕事と運動エネルギー	C-1	〃
26	7／14		演習	C-1	〃
27	7／21		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則	C-1	〃
28	7／21		演習	C-1	〃
29	7／28		非保存力の仕事と全エネルギー保存則	C-1	〃
30	7／28		演習	C-1	〃
31	9／7	流体の物理学	液体と気体の性質	C-1	〃
32	9／7		演習	C-1	〃
33	9／14	熱の物理学	熱と温度	C-1	〃
34	9／14		演習	C-1	〃
35	9／21		熱力学第１法則	C-1	〃
36	9／21		演習	C-1	〃
37	9／28		理想気体の状態方程式と状態変化	C-1	〃
38	9／28		演習	C-1	〃
39	10／5		サイクルと熱機関	C-1	〃
40	10／5		演習	C-1	〃
41	10／12		熱力学第２法則とエントロピー	C-1	①
42	10／12		演習	C-1	〃
43	10／19	物理数学２	指数関数と対数関数	C-1	〃
44	10／19		演習	C-1	〃
45	10／26	波の物理学	単振動	C-1	〃
46	10／26		演習	C-1	〃
47	11／2		波	C-1	〃
48	11／2		演習	C-1	〃
49	11／9		電磁波と光	C-1	〃
50	11／9		演習	C-1	〃
51	11／16		X線と画像診断	C-1	〃
52	11／16		演習	C-1	〃
53	11／30	原子核の物理学	電子と原子核	C-1	〃
54	11／30		演習	C-1	〃
55	12／7		原子のスペクトル	C-1	〃
56	12／7		演習	C-1	〃
57	12／14		原子核の崩壊と放射線	C-1	〃
58	12／14		演習	C-1	〃
59	12／21		核反応と核分裂	C-1	〃
60	12／21		演習	C-1	〃

物理学実験（後期・１単位）

D③－0701

科目責任者：菊地　尚志（物理・教授）
科目担当者：①菊地　尚志（物理），②荒木　　威（物理）

1. 科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して，例えば，法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし，現象から法則を引き出す事は，目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来，理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で，我々は物理学を発展させてきました。実験実習の第一の目的は．物理学のそのような性格を実感する事です。さらに，歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。

2. 一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために，様々な実験を実施する。その経験を通し，将来直面する問題を理性的に判断するために，合理的に解決できる能力を養う。自分の判断，解決を理路整然と文章にまとめ，他者へ説明する能力も養う。

3. 到達目標

１）自然現象を説明する。
２）機器を正しく取り扱う。
３）誤差を含む数値を処理する。
４）報告書を分かり易く書く。

4. 履修の進め方

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を，他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

5. 準備学修

実験の割り当ては毎回変わります。終了時に次の実験の割り当てをしっかり確認して，予習をしましょう（40分）。

6. 評価方法

毎回の実験を，出席し実験を行なったとき40％，提出された報告書をその内容によって最大60％で評価する。半期分全体の成績の総和で合否を決める。

7. 教本

奥羽大学歯学部物理学教室編『物理学実験』

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	A) 9／1 B) 9／2	重力加速度	ボルダ振り子で重力加速度を測る。	D-1，E-1／必13-イ	① ②
4 5 6	A) 9／8 B) 9／9	ヤング率	ユーイングの装置で金属のヤング率を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
7 8 9	A) 9／15 B) 9／16	ヤング率	サールの装置で金属のヤング率を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
10 11 12	A) 9／22 B) 9／30	液体の密度	ヘアーの装置で液体の密度を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
13 14 15	A) 9／29 B)10／7	剛性率	ねじれ振り子で金属の剛性率を測る。	D-1，E-1／必13-イ	① ②
16 17 18	A)10／6	気象	気温，気圧，湿度を図る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
16 17 18	10／13 AB合同	弾性率	弾性率について合同で講義する。	D-1，E-1／必13-イ	〃
19 20 21	10／13 AB合同	弾性率	弾性率について合同で講義する。	D-1，E-1／必13-イ	〃
19 20 21	B)10／14	屈折率	透明な物質の屈折率を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
22 23 24	A)10／20 B)10／21	旋光性	検糖計でショ糖の旋光性を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
25 26 27	A)10／27 B)10／28	光のスペクトラム	分光器で様々な光源のスペクトラムを測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
28 29 30	A)11／10 B)11／11	電位	電位の空間分布を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
31 32 33	A)11／17 B)11／18	電気抵抗	金属の電気抵抗を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
34 35 36	A)11／24 B)11／25	電気抵抗	溶液の電気抵抗を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
37 38 39	A)12／1 B)12／2	熱の仕事等量	ニクロム線の電力のジュール熱への変換を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
40 41 42	A)12／8 B)12／9	周波数と位相差	シンクロスコープで正弦波の位相を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃
43 44 45	A)12／15 B)12／16	半導体素子	トランジスタとダイオードの電気特性を測る。	D-1，E-1／必13-イ	〃

基礎化学（通年・４単位）

D③－0602

科目責任者：斎藤昇太郎（化学・講師）
科目担当者：①斎藤昇太郎（化学）

1. 科目の概要

化学は生活や産業・医療と密接な関連があり，歯学においても基本的な知識として身につけることが求められます。入学前において化学を充分に学修する機会が無かった方にも理解しやすいように，身の回りの現象や物質などの例をあげながら，大学の化学として入門・基礎的な事項を中心に講義を行います。

2. 一般目標

自然科学の基本である化学を学修することで，科学への興味・理解を深める。教養としてだけでなく，生命科学分野の知識を得ることで，基礎系科目・臨床系科目の理解・修得のために必要な知識・計算技術，および物質の構造や名称・性質を理解する。

3. 到達目標

1）原子構造を理解し，元素名，元素記号，原子番号を記述できる。
2）重要な化合物の構造式と名称，性質を理解し記述・説明できる。
3）基本的な化学反応式が記述・説明できる。
4）例題・演習を通して計算問題を解くことができる。
5）IUPAC命名法に従って，構造式から有機化合物名を記述できる。
6）IUPAC命名法を理解し，有機化合物名から構造式を記述できる。
7）生命の化合物を規則に従って，構造や名称を示すことができる。

4. 履修の進め方

講義の内容は概ね教科書に沿って進めますが，教科書に記載されていない重要な内容も解説しますので復習は重要です。講義中の演習あるいは宿題により，学習が不足している要素の把握，および総合的な理解を促します。講義や教科書の内容で理解できない事項については学友と活発に議論し，解決されない疑問点は，講義直後やオフィスアワー，科目選択ゼミナールを活用して教員に遠慮なく質問してください。

5. 準備学修

講義前に教科書を読み，用語や概要を確認し，「自分が知らないこと」を把握しておくこと。(20分)

講義後は配布される課題等を活用し，講義内容を充分に復習の上，「予習時に自分が知らなかったこと」を理解できたか確認すること。(60分)

6. 評価方法

定期試験（75％）および提出物（25％）で評価し，65点以上で合格とする。フィードバックとして，定期試験は解答例を開示する。提出物は採点して返却する。

7. 教本

前期：Molly M.Bloomfield 著　伊藤俊洋　他訳「生命科学のための基礎化学-無機物理化学編」 丸善出版

後期：Molly M.Bloomfield 著　伊藤俊洋　他訳「生命科学のための基礎化学-有機・生化学編」 丸善出版

8. 参考書

小島一光 著 「基礎固め 化学」化学同人
齋藤勝裕 他 著 「メディカル化学」裳華房
岡崎三代 他 著 「臨床検査学講座 化学」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	ガイダンス	講義の内容と進め方について，化学の概説	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	①
2	4／12	物質の分類と性質	組成と種類，定義	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
3	4／19	測定(1)	精確さと誤差，有効数字	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
4	4／19	測定(2)	換算とSI単位系	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
5	4／19	エネルギー(1)	定義と種類	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
6	4／26	エネルギー(2)	保存則，エントロピー	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
7	5／10	原子の構造	原子の構成要素と原子番号	C-1-1)／必13-イ	〃
8	5／10	電子配置	化学的性質との関連	C-1-1)／必13-イ	〃
9	5／17	周期表	周期表の見方と重要性	C-1-1)／必13-イ	〃
10	5／17	生命元素	生命活動と微量元素	C-1-1)／必13-イ	〃
11	5／24	化学結合	イオン結合，共有結合	C-1-1)／必13-イ	〃
12	5／24	電気陰性度	極性と非極性，水素結合	C-1-1)／必13-イ	〃
13	5／31	化学反応式	基本的な化合物と反応	C-1-1)／必13-イ	〃
14	5／31	酸化と還元	酸化還元反応とイオン化	C-1-1)／必13-イ	〃
15	6／7	モル	アボガドロ数とモルの概念	C-1-1)／必13-イ	〃
16	6／7	モル計算	モル計算の演習	C-1-1)／必13-イ	〃
17	6／14	物質の状態と変化	物質の三態と運動量	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
18	6／14	気体	圧力と理想気体の法則	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
19	6／21	放射能(1)	放射線と半減期	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
20	6／21	放射能(2)	身近な放射能と生物への影響	C-1-1)，C-1-2)／必13-イ	〃
21	6／28	反応速度	エネルギーと反応速度の変化	C-1-1)／必13-イ	〃
22	6／28	化学平衡	ルシャトリエの原理	C-1-1)／必13-イ	〃
23	7／5	コロイド	界面活性剤と性質	C-1-1)／必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
24	7／5	溶質・溶媒・溶液	電解質と非電解質	C-1-1)／必13-イ	①
25	7／12	濃度(1)	%，モル濃度，当量	C-1-1)／必13-イ	〃
26	7／12	濃度(2)	濃度計算の演習	C-1-1)／必13-イ	〃
27	7／19	酸と塩基(1)	定義とpH	C-1-1)／必13-イ	〃
28	7／19	酸と塩基(2)	pHの計算	C-1-1)／必13-イ	〃
29	7／26	酸と塩基(3)	中和反応と緩衝溶液	C-1-1)／必13-イ	〃
30	7／26	前期の復習	演習	C-1-1)／必13-イ	〃
31	9／6	前期試験の講評	解説と要点の確認	C-1-1)／必13-イ	〃
32	9／6	有機化合物	炭素原子の特異性	C-1-1)／必13-イ	〃
33	9／13	飽和炭化水素(1)	アルカン	C-1-1)／必13-イ	〃
34	9／13	飽和炭化水素(2)	炭素骨格，構造異性体	C-1-1)／必13-イ	〃
35	9／20	不飽和炭化水素(1)	アルケン・アルキン	C-1-1)／必13-イ	〃
36	9／20	不飽和炭化水素(2)	シス・トランス異性体	C-1-1)／必13-イ	〃
37	9／27	環式炭化水素(1)	シクロ化合物	C-1-1)／必13-イ	〃
38	9／27	環式炭化水素(2)	立体異性体と表記	C-1-1)／必13-イ	〃
39	10／4	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体	C-1-1)／必13-イ	〃
40	10／4	有機演習(1)	性質とIUPACの確認	C-1-1)／必13-イ	〃
41	10／11	含酸素有機化合物(1)	アルコール	C-1-1)／必13-イ	〃
42	10／11	含酸素有機化合物(2)	エーテル	C-1-1)／必13-イ	〃
43	10／18	含酸素有機化合物(3)	アルデヒドとケトン	C-1-1)／必13-イ	〃
44	10／18	含酸素有機化合物(4)	カルボン酸	C-1-1)／必13-イ	〃
45	10／25	含酸素有機化合物(5)	エステル	C-1-1)／必13-イ	〃
46	10／25	有機演習(2)	性質とIUPACの確認	C-1-1)／必13-イ	〃
47	11／1	含窒素有機化合物(1)	アミンとイミン	C-1-1)／必13-イ	〃
48	11／1	含窒素有機化合物(2)	アミドとイミド	C-1-1)／必13-イ	〃
49	11／8	含窒素有機化合物(3)	複素環式化合物	C-1-1)／必13-イ	〃
50	11／8	有機演習(3)	性質とIUPACの確認	C-1-1)／必13-イ	〃
51	11／15	炭水化物(1)	単糖類の種類と構造	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
52	11／15	炭水化物(2)	不斉炭素と生理活性	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	①
53	11／22	炭水化物(3)	グリコシド結合と二糖類	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
54	11／22	炭水化物(4)	多糖類	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
55	11／29	脂質(1)	脂質と脂肪酸および単純脂質	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
56	11／29	脂質(2)	複合脂質と誘導脂質	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
57	12／6	タンパク質(1)	アミノ酸	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
58	12／6	タンパク質(2)	構造と変性	C-1-1)，C-2-1)／必13-イ	〃
59	12／13	核酸	塩基とDNAの構造	C-1-1)，C-2-2)／必13-イ	〃
60	12／13	後期の復習	演習	C-1-1)，C-2-1)，C-2-2)／必13-イ	〃

化学実験（後期・１単位）

D③－0702

科目責任者：阿部　匡聡（化学・講師）
科目担当者：①阿部　匡聡（化学），②斎藤昇太郎（化学）

1. 科目の概要

歯科医学を学んでいくうえで，生命現象や物質の変化を分子機構的に捉えていく素養を身に着けることは重要である。化学実験は，基本的な化合物について，構造・性質・反応を理解するとともに，物質の濃度を測定するしくみを理解する目的で，定量分析と有機定性分析で構成されている。定量分析では，化学反応や測定機器を利用し，試料中の目的成分の定量を行う。有機定性分析では，定性反応による化合物中の特定の官能基の検出や，生成した化合物の性質・機能の解析を行う。

2. 一般目標

ディプロマポリシー（1）探求力と解決力のため，
1）学修者は，教本を読んで実験操作・手順を理解する。
2）学修者は，定量分析・有機定性分析についての基本的知識，基本的技能を習得する。

3. 到達目標

1）学修者は，教本に示された手順通りに，実験を行う。
2）学修者は，実験器具を正しく取り扱う。
3）学修者は，精密測容器具の目盛りを，正確に読み取る。
4）学修者は，行った実験の過程で進行した反応を説明する。
5）学修者は，得られた測定データや観察結果を，正確に記録する。
6）学修者は，記録に基づいて，正確なレポートを作成する。

4. 履修の進め方

実験実習により進める。無機定量分析では，３～４人のグループ単位で行い，得られた数値データを整理し，各人が計算やグラフ作成を行い，結論を導き出し，レポートとして記述し，提出する。有機定性分析では，個人単位で行い，得られた観察結果について，試料として用いた化合物の構造・性質に基づいた考察を行い，レポートとして記述し，提出する。

5. 準備学修

基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は，２年次で履修する化学に接続する。さらに，歯科基礎医学に関連し，特に，口腔生化学Ⅰ，Ⅱ，生体材料・歯科材料学Ⅰ，Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（15分）：教本の，当該項目のページを読み，実験操作の流れを把握し，記録すべき事柄チェックしておく。
事後学習（45分）：実験ノートに書いたデータ，観察結果を用いて，レポートを作成する。

6. 評価方法

提出物（レポートおよび演習課題）の評価（90%），実習態度（10%）で評価し，65点以上で合格とする。

7. 教本

奥羽大学歯学部生体材料学講座化学分野編「化学実験テキスト」および配布プリント

8. 参考書

基礎化学の講義で使用する教科書

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	B) 9／1 A) 9／2	ガイダンス	化学実験の概要；化学実験での注意事項	C-1-1)／ 必13-イ	① ②
4 5 6	B) 9／8 A) 9／9	実験準備-１：有機定性分析	有機定性分析の概要；器具の確認，取り扱いの練習	C-1-1)／ 必13-イ	〃
7 8 9	B) 9／15 A) 9／16	炭化水素の反応	アルケンの臭素化；バイヤー試験；ベンゼンのニトロ化，スルホン化	C-1-1)／ 必13-イ	〃
10 11 12	B) 9／24 A)10／14	フェノール類の反応	フェノールのアルカリに対する溶解性；フェノール類の臭素化，エステル化，塩化鉄(Ⅲ)反応；フェノールフタレインの生成と性質	C-1-1)／ 必13-イ	〃
13 14 15	B) 9／29 A) 9／30	アルコールの反応	アルコールの酸化，脱水，エステル化；ルーカス試験；ヨードホルム反応	C-1-1)／ 必13-イ	〃
16 17 18	B)10／6 A)10／7	アルデヒドおよびケトンの反応	アルデヒド・ケトンのフェーリング反応，銀鏡反応，2,4-ジニトロフェニルヒドラジンとの反応；ベンズアルデヒドの酸化；アセトフェノンの生成	C-1-1)／ 必13-イ	〃
19 20 21	B)10／20 A)10／21	アミンの反応	アミンの塩基性；アミン塩酸塩の溶解性；カルボン酸アミドの生成；アリザリンイエローRの生成と性質；パラレッドの生成と染色	C-1-1)， C-2-1)-②／ 必13-イ	〃
22 23 24	B)10／27 A)10／28	糖質の反応	モーリッシュ反応；バーフォード反応；セリワノフ反応；フェーリング反応;ヨウ素･デンプン反応	C-1-1)／ 必13-イ	〃
25 26 27	AB合同 11／4	演習	化学実験の内容全般についての演習	C-1-1)， C-2-1)-②／ 必5-ア， 必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28 29 30	B)11／10 A)11／11	実験準備-２：定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習（１）	C-1-1)／必13-イ	① ②
31 32 33	B)11／17 A)11／18	中和滴定-１	中和滴定の原理；実験器具取り扱いの練習（２）	C-1-1)／必13-イ	〃
34 35 36	B)11／24 A)11／25	中和滴定-２	水酸化ナトリウム水溶液の標定；塩酸の標定	C-1-1)／必13-イ	〃
37 38 39	B)12／1 A)12／2	キレート滴定	Ca^{2+}，Mg^{2+}混合溶液の分別定量	C-1-1)／必13-イ	〃
40 41 42	B)12／8 A)12／9	飲料水の硬度測定	EDTA溶液の標定；水道水および飲料水の硬度測定	C-1-1)／必13-イ	〃
43 44 45	B)12／15 A)12／16	イオン電極法	試料および水道水のF^-の定量	C-1-1)／必13-イ	〃

基礎生物学（通年・４単位）

D③－0603

科目責任者：今井　　元（生物・准教授）
科目担当者：① 今井　　元（生物）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指す学生は，物質の科学を基礎として，生体の構成要素である細胞，細胞によって構成された個体の機能を理解し，生物がどのように地球上で進化適応してきたか，現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では，生命体の基本となる個体の階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」及び「その構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系（解剖生理学的体系）の中で理解し，さらに，「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより，長期記憶を形成する。履修方法は，学習効果ピラミッドに準じて行う。具体的には，「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し，各講義に対する課題（問題形式）について討議した後，課題の解答をサブノートにまとめ，教え合うことによって長期記憶を形成する。

2. 一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために，初期段階として生命科学の基礎 及び 生物学的なものの見方・考え方を通じて，科学的にものを観察・理解をする姿勢を修得する。また，専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し（脳内コンテンツ：目次）」を確立するために，脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に説明できるようにする。

3. 到達目標

1）生命体の基本となる階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」を説明できる。
2）生物（原核生物・真核生物など）における「細胞の構造と機能」を説明できる。
3）脊椎動物における「四大組織の基本構造と機能」を分類し，系統的に説明できる。
4）人体の「器官・器官系の構造と機能」を分類し，その全体像を包括的に説明できる。
5）「刺激の受容と反応」における，各器官の役割の全体像を説明できる。
6）「体内環境の調節と恒常性の維持」における，各器官の役割の全体像を説明できる。
7）脊椎動物と人体の「生殖と初期発生」について説明できる。
8）脊椎動物と人体の「各器官の発生過程」について説明できる。
9）脊椎動物の「進化と多様性」「生態と行動」について説明できる。

4. 履修の進め方

履修方法は，学習効果ピラミッドに準じて行う。講義では，講義プリントを使用して履修する。項目ごとに問題形式の課題（サブノート）を用いて形成的評価をしながら進み，サブノートを作成することで履修する。また，サブノートの問題を学生自身が討議し，教え合うことで完成し，能動的に修得する。

5. 準備学修

事前学習：配布プリント，および，実習で用いる教科書（得意になる解剖生理学）を復習・熟読し，高校生物学との違いを理解しておく（30分）。
事後学習：講義後にサブノートを完成し，講義内容のポイ

ントを確認する。

それによって，医療系大学における脊椎動物の体（人体と構造と機能）の全体像を理解し，２～３年次の高度で専門的な歯科基礎医学の科目（解剖学・組織学・生理学など）に備える（120分）。

6. 評価方法

総括的評価は，前期と後期の中間試験および定期試験（計４区分）にて行う。試験の実施は，中間試験は，６月～７月（前期），11 ～ 12月（後期）の月曜日１限の試験枠で行い，定期試験は，学期末の試験期間（前期；８月／後期；１月）に行う。各試験の範囲は，【前期中間試験】は，『基礎生物学１～ 16』，【前期定期試験】の範囲は，『基礎生物学14 ～ 30』，【後期中間試験】は，『基礎生物27 ～ 45』，【後期定期試験】の範囲は，『基礎生物学46 ～ 60』とする。したがって，最終評価（100%）は，前期中間試験（25%）・前期定期試験（25%）・後期中間試験（25%）・後期定期試験（25%）の得点を合算して評価し，65点以上を合格とする。

尚，已む負えない理由があり（コロナ感染予防や生活指導委員会が認めた学生など），試験の最終評価において，基準点を下回る学生については，試験の評価（80%）と各試験毎に提出する課題の点数（20%）を用いて，式【最終評価（点）＝試験の総合評価×0.8＋課題点×0.2】で算出し，最終評価とする場合がある。この場合も，65点以上を合格とする。（但し，課題の提出が，提出期限（各試験の実施日）より遅れた場合は，25%/日の減点となる）

7. 教本

指定しない。前期は，配布プリントを用い，後期は，実習の教科書『得意になる解剖生理学』に沿って進める。

8. 参考書

1）得意になる解剖生理学：美田誠二（著）照林社・・・生物学実験で購入済
2）人体の正常構造と機能　改訂２版：坂井建雄，河合克雅 総編集 日本医事新報社
3）ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳）MEDSi社
4）カラー図解　アメリカ版 大学生物学の教科書 第１巻～第３巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）講談社
5）生物学 （歯科衛生士教本）第１版：河合進次郎，高畑悟朗（著）医歯薬出版株式会社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／14	細胞の構造と機能❶	原核細胞・真核細胞	C-2-3)／必5-ア	①
2	４／14	細胞の構造と機能❷	細胞膜・核・細胞内小器官	C-2-3)／必5-ア	〃
3	４／21	細胞の構造と機能❸	細胞骨格・細胞外基質(1)	C-2-3)／必5-ア	〃
4	４／21	細胞の構造と機能❹	細胞骨格・細胞外基質(2)	C-2-3)／必5-ア	〃
5	４／28	細胞の構造と機能❺	細胞分裂（体細胞分裂／減数分裂）	C-2-3)／必5-ア	〃
6	４／28	細胞の構造と機能❻	細胞周期（分裂期／分裂間期）	C-2-3)／必5-ア	〃
7	５／12	脊椎動物の組織１：～上皮組織	上皮と腺の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-ア	〃
8	５／12	脊椎動物の組織２：～結合組織１	結合組織の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア	①
9	５／19	脊椎動物の組織３：～結合組織２	軟骨の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
10	５／19	脊椎動物の組織４：～結合組織３	骨の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
11	５／26	脊椎動物の組織５：～筋組織	筋の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
12	５／26	脊椎動物の組織６：～神経組織１	神経組織と神経系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
13	６／２	脊椎動物の組織７：～神経組織２	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
14	６／２	刺激の受容と反応１：～神経系１	神経の伝導と伝達１：静止膜電位・活動電位	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
15	６／９	刺激の受容と反応２：～神経系２	神経の伝導と伝達２：神経の伝導と伝達	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
16	６／９	刺激の受容と反応３：～神経系３	神経の伝導と伝達３：神経の興奮から効果器の作動までの流れ	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
17	６／16	刺激の受容と反応４：～感覚器１	感覚と感覚受容器の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
18	６／16	刺激の受容と反応５：～感覚器２	体性感覚：皮膚感覚・深部感／頭頸部の感覚	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
19	６／23	刺激の受容と反応６：～感覚器３	特殊感覚１：視覚１ 視覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
20	６／23	刺激の受容と反応７：～感覚器４	特殊感覚１：視覚２ 焦点調節，眼の保護，眼球の動きの調節	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
21	６／30	刺激の受容と反応８：～感覚器５	特殊感覚２：平衡聴覚１ 平衡聴覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
22	６／30	刺激の受容と反応９：～感覚器６	特殊感覚２：平衡聴覚２ コルチ器，平衡斑，膨大部稜の構造と機能	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
23	7／7	刺激の受容と反応10：～感覚器7	特殊感覚３：嗅覚 嗅覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-6-ア	①
24	7／7	刺激の受容と反応11：～感覚器8	特殊感覚４：味覚 味覚器の構造と機能の全体像	E-2-2)／必5-ア, 総Ⅱ-6-ア	〃
25	7／14	体内環境の維持１：～内分泌系１	内分泌器官の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
26	7／14	体内環境の維持２：～内分泌系２	体温・血糖の調節	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
27	7／21	体内環境の維持３：～消化器系１	消化器系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
28	7／21	体内環境の維持４：～消化器系２	口腔・咽頭と機械的消化の概要：咀嚼・嚥下・蠕動	E-2-1)／必5-ア, 総Ⅱ-6-ウ	〃
29	7／28	体内環境の維持５：～消化器系３	消化管による消化と吸収の概要：管腔内消化と膜消化	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
30	7／28	体内環境の維持６：～消化器系４	外分泌腺：胃・肝臓・胆嚢・膵臓による消化	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
31	9／1	体内環境の維持７：～呼吸器系１	呼吸器系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
32	9／1	体内環境の維持８：～呼吸器系２	呼吸のしくみの調節	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
33	9／8	体内環境の維持９：～泌尿器系１	泌尿器系の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
34	9／8	体内環境の維持10：～泌泌器系２	濾過・再吸収・浸透圧の調節(1)	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
35	9／15	体内環境の維持11：～泌尿器系３	濾過・再吸収・浸透圧の調節(2)	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
36	9／15	体内環境の維持12：～生殖器系１	生殖器の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
37	9／22	体内環境の維持13：～生殖器系２	生殖器のホルモン調節機構	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
38	9／22	体内環境の維持14：～循環器系１	循環器系の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
39	9／29	体内環境の維持15：～循環器系２	心臓と血管の役割	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
40	9／29	体内環境の維持16：～循環器系３	心拍数の調節（刺激伝導系と心周期・心音）	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	①
41	10／6	体内環境の維持17：～循環器系４	血圧の調節（神経性調節・液性調節）	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
42	10／6	体内環境の維持18：～血液１	血球の全体像及び造血	C-3-4)／必5-ア, 総Ⅱ-1-オ	〃
43	10／13	体内環境の維持19：～生体防御系１	赤血球・白血球・血小板の役割の概要	C-3-4)／必5-ア	〃
44	10／13	体内環境の維持20：～生体防御系２	生体防御系の全体像自然免疫と獲得免疫	C-4-2)／必5-ア, 総Ⅱ-3-ウ, エ	〃
45	10／20	体内環境の維持21：～生体防御系３	一次リンパ性器官・二次リンパ性器官	C-4-2)／必5-ア, 総Ⅱ-3-ア	〃
46	10／20	生殖と初期発生(1)：～発生学-総論①	生殖子形成：体細胞分裂・減数分裂	C-2-3), C-3-2)／必5-ア, 必6-ア	〃
47	10／27	生殖と初期発生(2)-１：～発生学-総論②-１	生殖器系の調節機構：視床下部-下垂体-性腺系の役割	C-3-2)／必6-ア	〃
48	10／27	生殖と初期発生(3)-２：～人体発生学-総論②-２	排卵～着床の過程：排卵・受精・卵割・着床と性ホルモン	C-3-2)／必6-ア	〃
49	11／10	生殖と初期発生(3)：～人体発生学-総論③	２層性胚盤の形成：内(部)細胞塊の分化(胚盤葉の形成)・外(部)細胞塊の分化(胎盤の形成)	C-3-2)／必6-ア	〃
50	11／10	生殖と初期発生(4)：～人体発生学-総論④	３胚葉の形成：２層性胚盤から３層性胚盤へ	C-3-2)／必6-ア	〃
51	11／17	生殖と初期発生(5)-１：～人体発生学-総論⑤-１	３胚葉の分化運命-１：内胚葉・中胚葉・外胚葉の分化の法則	C-3-2)／必6-ア	〃
52	11／17	生殖と初期発生(5)-２：～人体発生学-総論⑤-２	３胚葉の分化運命-２：器官原基の形成と初期発生に関わる遺伝子	C-3-2)／必6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
53	11／24	器官発生と進化(1)： ～人体発生学-各論①	頭頸部の発生： 頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要(鰓弓・鰓溝・咽頭嚢の形成と分化の全体像)	C-3-2)／ 総Ⅱ-9-ア	①
54	11／24	器官発生と進化(2)： ～人体発生学-各論②	頭頸部の発生： 口腔と顔面の器官発生と先天異常の概要(第１～３鰓弓領域と前頭鼻隆起の分化)	E-2-3)／ 総Ⅱ-9-ア	〃
55	12／１	器官発生と進化(3)： ～人体発生学-各論③	呼吸器系の発生： 喉頭・気管・気管支・肺の器官発生の概要(第４～６鰓弓領域の分化)	C-3-2)／ 必6-ア	〃
56	12／１	器官発生と進化(4)： ～人体発生学-各論④	消化器系の発生： 消化管と付属器官の器官発生の概要(原始腸管と側板中胚葉の分化)	C-3-2)／ 必6-ア	〃
57	12／８	器官発生と進化(5)： ～人体発生学-各論⑤	泌尿器系の発生： 腎臓・尿管・膀胱・尿道の器官発生の概要(中間中胚葉と排泄腔の分化)	C-3-2)／ 必6-ア	〃
58	12／８	器官発生と進化(6)： ～人体発生学-各論⑥	生殖器系の発生： 生殖器系の器官発生の概要(男性と女性の構造的性分化のしくみ)	C-3-2)／ 必6-ア	〃
59	12／15	器官発生と進化(7)-１： ～人体発生学-各論⑦-１	神経系の発生-１： 中枢神経系の器官発生の概要(神経管の分化)	C-3-2)／ 必6-ア	〃
60	12／15	器官発生と進化(7)-２： ～人体発生学-各論⑦-２	神経系の発生-２： 末梢神経系の器官発生の概要(神経堤と外胚葉性プラコードの分化)	C-3-2)／ 必6-ア	〃

生物学実験（前期・１単位）

D③－0703

科目責任者：今井　　元（生物・准教授）
科目担当者：①今井　　元（生物），②前田　豊信（生化），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生命体の基本単位である細胞は，それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに，細胞が機能的な集団をなし組織系となり，その組織系の複合体が，器官となる。本科目においては，まず，動物愛護の精神（３R）を学んだ上で，植物，動物，微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また，カエルを材料とした肉眼解剖により，個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列，さらには，基本的体制を把握する。また，これらの実験を通して，実験での心構えやルール，レポートの作成法等を学び，さらに，人体の正常構造と機能における学修項目について議論する。

2. 一般目標

生命科学教育を受け，得た知識をさらに深めるため，実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに，今後も必要になる対象の観察方法を，顕微鏡操作や解剖により修得する。

3. 到達目標

１）動物愛護の精神（３つのR）を理解し，実践できる。
２）顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
３）観察のための試料を適切に準備できる。
４）構造の概要を説明できる。
５）細胞分裂における染色体の動態を説明できる。
６）セントラルドグマについて説明できる。
７）DNAの構造と半保存的複製について説明できる。
８）胚の発生過程を説明できる。
９）各器官系を適切に分類できる。
10）実験結果を正確，かつ，適切にまとめることができる。

4. 履修の進め方

①実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し予習する。
②ガイダンス（映像やスライド）において，実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識 及び 実習手順を理解する（60分）。
③顕微鏡を適正に用いて，様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し，正しくスケッチする。また，器具を適正に用いて解剖を行い，各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し，スケッチする（180分）。
④実習で学ぶべき学習項目について，グループディスカッション（SGD）により議論し，グループワーク（GW）プロダクトを提出する。
⑤各自，実習内容をレポートやスケッチ課題にまとめ，提出期限日（原則，次の実習日）の朝８：30までに薬学実習棟３階の所定の提出場所に提出する。

5. 準備学修

事前学修：実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し，実習に関連する項目を調べ予習する。予習課題やグループワーク（GW）がある場合は，自習し生物学の試験の際に提出する。(30分)
事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに，レポート課題やスケッチ課題を期日までに作成し提出する。この際，結果を下記の教本１）～３）等で得た情報をもとに解釈し，与えられた課題の意義を理解する。(120分)

6. 評価方法

リクワイアメント【＝レポート課題（100点×６回分）＋スケッチ課題（100点×６回分）＝総点（1200点）】を基に算定する。最終評価点は，12回の課題の総点から，課題点が悪い２回分の点数を除き，10回分の課題の総和の平均点，すなわち，式【最終評価（点）＝（課題12回の総点数－点が悪い課題2回分の点数）÷10】で算定し，65点以上を合格とする。各課題は，原則，実習日の１週間後の朝８：20までに提出する。期限に遅れた場合は，課題点が遅延１日毎に25％減ぜられる。

尚，無断欠席の場合や未提出課題がある場合，総点から悪い方の課題点２回分を除いて10で割るので，１回の無断欠席/未提出で90点満点（９回分），２回で80点満点（８回分），３回で70点満（７回分）点となる。したがって，４回分の課題未提出と無断欠席があると，60点満点（６回分）となり不合格となる。但し，已む得えない理由がある欠席の場合（新型コロナ感染予防対策や学生生活委員会が認める疾病や傷による公欠など）は，その欠席分の課題点は考慮し（総点から引く課題点や割る数を調整し），100点満点になるように換算する。また，GW／形成的試験（15回）の課題提出などにより，最終評価が10点まで加点されることもある。

7. 教本

1）基本的に配布プリント（第１～15回生物学実験ガイダンス／輪読）で進める。

2）得意になる解剖生理学：美田 誠二（著）照林社

3）高校の生物学の教科書，または，参考書などを用いる。また，下記1）～４）参考書を用いる。

8. 参考書

1）基礎から学ぶ　生物学・細胞生物学　第２版：和田勝　著　羊土社

2）アメリカ版 大学生物学の教科書 第１巻～第３巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）

3）ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳）MEDSi社

4）人体の正常構造と機能　改訂２版：坂井建雄，河合克雅 総編集 日本医事新報社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	A) 4／11 B) 4／8	第１回オリエンテーション： 動物愛護の精神	実験目的・実験上の注意・動物愛護の精神(3R)／SGD・GW・3Rの確認試験	A-1-1), A-2-1), 2)／ 必1-ア	① ～ ③
4 5 6	A) 4／19 B) 4／15	第２回生物学実験： 顕微鏡の使い方とレポート作成	光学顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	A-2-2)／ 必5-ア	〃
7 8 9	A) 4／26 B) 4／22	第３回生物学実験： 細胞と細胞小器官の観察Ⅰ	タマネギ鱗茎葉の表皮細胞の観察／SGD・GW・レポート（１）の作成	C-2-3)／ 必5-ア	〃
10 11 12	A) 5／10 B) 5／6	第４回生物学実験： 細胞と細胞小器官の観察Ⅱ	ユスリカの唾腺染色体の観察 ／ SGD・GW・レポート（２）の作成	C-2-3)／ 必5-ア	〃
13 14 15	A) 5／17 B) 5／13	第５回生物学実験： 細胞と細胞小器官の観察Ⅲ	ラットの血球細胞の観察／SGD・GW・レポート（３）の作成	C-2-3)／ 必5-ア	① ～ ③
16 17 18	A) 5／24 B) 5／20	第６回生物学実験： 細胞分裂①-体細胞分裂	タマネギ根端細胞の体細胞分裂の観察／SGD・GW・レポート（４）の作成	C-2-3)／ 必5-ア	〃
19 20 21	A) 5／31 B) 5／27	第７回生物学実験： 細胞分裂②-減数分裂	パラフィン切片とH-E染色法：精巣または卵巣の染色／SGD・GW・レポート(5)-1の作成	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
22 23 24	A) 6／7 B) 6／3	第８回生物学実験： 細胞分裂③-生殖子形成	生殖子形成減数分裂(精細管と卵胞）の観察／SGD・GW・レポート(5)-２の作成	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
25 26 27	A) 6／14 B) 6／10	第９回生物学実験： 細胞分裂④-卵割と初期発生	カエルの卵割と初期発生の観察／SGD・GW・レポート（６）の作成	C-3-2)／ 必6-ア	〃
28 29 30	A) 6／21 B) 6／17	第10回生物学実験： 動物の組織	動物の組織：…四大組織のスケッチの練習 ／ SGD・GW・スケッチ課題Ⅰの作成	C-3-4)／ 必5-ア	〃
31 32 33	A) 6／28 B) 6／24	第11回生物学実験： 器官系の分類Ⅰ（カエルの解剖１）	外形と消化器官系・呼吸器系の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅱの作成	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
34 35 36	A) 7／5 B) 7／1	第12回生物学実験： 器官系の分類Ⅱ（カエルの解剖２）	心臓と泌尿生殖器系・脈管系の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅲの作成	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-ウ, カ	〃
37 38 39	A) 7／12 B) 7／8	第13回生物学実験： 器官系の分類Ⅲ（カエルの解剖３）	筋肉系と神経系の観察と神経筋標本の作成 ／ SGD・GW・スケッチ課題Ⅳの作成	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ-1-イ	〃
40 41 42	A) 7／19 B) 7／15	第14回生物学実験： 器官系の分類Ⅳ（カエルの解剖４）	頭骨と神経孔の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅴの作	E-2-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ-4-イ	〃
43 44 45	A) 7／26 B) 7／22	第15回生物学実験： 歯の機能の違い	さまざまな動物の頭骨と歯の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅵの作成	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ-5-ア	〃

歯科医学演習（前期・１単位）

D①②③－0405

科目責任者：大野　　敬（外科・教授）
科目担当者：①大野　　敬（外科），②菊井　徹哉（修復），
③木村　裕一（歯内），④高橋　慶壮（歯周），
⑤羽鳥　弘毅（冠橋），⑥川嶋　雅之（外科），
⑦山森　徹雄（有床），⑧山崎　信也（麻酔），
⑨山野辺晋也（矯正），⑩島村　和宏（小児），
⑪原田　卓哉（放射），⑫船川　竜生（イン），
⑬佐々木重夫（歯内），⑭清野　晃孝（病院），
⑮馬場　　優（医学）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって，歯科医学と歯科医療における知識，歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目，基礎歯科医学，社会歯科学及び臨床歯科医学の各科目を通して修得し，歯科医療の技術と歯科医師としての態度は，臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで，技術の学習は歯科医療にとって重要であり，歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は，歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに，これから６年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習方法には，手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや，臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる演習が主体となる。

教育スタッフは，本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び，歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

2. 一般目標

専門課程における各科実習を行うために，基礎的な技術訓練に係る知識，技能および態度を習得する。

3. 到達目標

１）学生同士で口腔内の状態を記録する。
２）歯の硬組織治療を模倣して，歯冠修復における造形的治療を理解する。
３）歯内治療で用いる器具の操作を模倣する。
４）プラークコントロール，とりわけ歯周病患者のブラッシング方法を習得する。
５）彫刻刀を利用して，石膏を実際に彫刻する。
６）外科手術の縫合を想定した糸結びを実践する。
７）クラスプワイヤーの屈曲を体験する。
８）マネキンで一次救命処置を実践する。
９）顔の形態を評価する。
10）小児の治療を想定した器具の使用法を実践する。
11）エックス線検査および超音波検査を実践する。
12）インプラント治療の特徴と意義を説明する。
13）頭頚部の診察をする。
14）口腔内状態を正確に診療録に記載する。
15）手洗いを実践する。
16）バイタルサインの測定を習得する。

4. 履修の進め方

スライドと資料を使用し，各分野の特徴的な技術を演習形式で履修する。

5. 準備学修

授業内容についてのポイントをまとめること。

6. 評価方法

担当教員の各レポートまたは制作物を提出する。各レポートまたは制作物は秀（35点）・優（30点）・良（20点）・可（10点）・不可（０点）で採点し，平均点を65点に加点して最終評価とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	A) 4／8 B) 4／12	口腔診断	口腔内検査を体験する	E-1-1)／ 必9-ア～エ, 10-イ	①
3 4	A) 4／15 B) 4／19	保存修復学	歯の治療（窩洞形態）を模倣する	E-3-3)-(1)／ 各Ⅲ-5-イ, ウ	②
5 6	A) 4／22 B) 4／26	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する	E-3-3)-(2)／ 各Ⅱ-2-ア, イ	③
7 8	A) 5／6 B) 5／10	歯周病学	プラークコントロール，とりわけ歯周病患者のブラッシング方法の習得	E-3-3)-(3)／ 各Ⅲ-8-ア, 9-イ	④
9 10	A) 5／13 B) 5／17	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る	E-3-4)-(1)／ 各Ⅳ-3	⑤
11 12	A) 5／20 B) 5／24	口腔外科学	手術器材を知り，縫合を体験する	E-1-5)／ 総Ⅶ-4, 5-ア	⑥
13 14	A) 5／27 B) 5／31	有床義歯学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する	E-3-4)-(2)／ 必-12-ケ-e	⑦
15 16	A) 6／3 B) 6／7	歯科麻酔学	マネキンで一次救命処置（BLS）を実践する	E-1-6)	⑧
17 18	A) 6／10 B) 6／14	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する	E-4-1)／ 各Ⅰ-3	⑨
19 20	A) 6／17 B) 6／21	小児歯科学	小児の治療を想定した器具を理解する	E-4-2)／ 必12-ウ	⑩
21 22	A) 6／24 B) 6／28	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする	E-1-2)／ 各Ⅸ-2	⑪
23 24	A) 7／1 B) 7／5	口腔インプラント学	インプラント治療の意義と特徴を理解する	E-3-4)-(3) ／各Ⅳ-6	⑫
25 26	A) 7／8 B) 7／12	臨床総合演習①	頭頸部の診察，口腔内状態の記録	F-2-2)-③／ 必-10-オ-a, c, d	⑬ ⑭
27 28	A) 7／15 B) 7／19	臨床総合演習②	手指の消毒を実践する	F-3-1)-①／ 総Ⅷ-4, 5-ア	⑥
29 30	A) 7／22 B) 7／26	総合臨床医学	バイタルサインを実践する	E-6／ 総Ⅶ-1-エ	⑧ ⑮

歯科医療概論（前期・１単位）

D①②③－0404

科目責任者：瀬川　　洋（衛生・教授）
科目担当者：①瀬川　　洋（衛生）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学した学生にとって，歯科医学を学び歯科医療を行う上で必要な心構えと６年間の学習の目標を設定することは重要である。また歯科医療ではどのようなことを行うのかを理解し，早期に歯科医師になるための意識を持たせことが必要である。

2. 一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために，歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

3. 到達目標

１）歯科医師の使命，魅力について説明する。
２）歯科医学教育について説明する。
３）歯科学生に必要な学修態度，学修方法を説明する。
４）歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
５）歯科医療と社会との関わりについて説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体および配布資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前学習：配布資料を熟読しておくこと。(10分)
事後学習：受講後に，その内容を復習すること。(15分)

6. 評価方法

講義内容について，時間内に講義した内容について小論文を行い，65点以上を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／14	序説	本学の理念と歴史	－	①
2	４／21	教育目標	本学の歯学教育と教育システム	－	〃
3	４／28	基本事項１	医の倫理と歯科医療の意義	A-1, 2／必1-ア	〃
4	５／12	基本事項２	歯科医師の責務	A-3／必1-イ	〃
5	５／19	基本事項３	インフォームドコンセント	A-4／必1-イ	〃
6	５／26	歯学史	世界，日本の歯学史①	A-7-2)／必-13-ウ	〃
7	６／２	歯学史	世界，日本の歯学史②	A-2-2)／必-13-ア	〃
8	６／９	医療安全１	歯科医療における安全性の確保	A-5／必2-オ	〃
9	６／16	医療安全２	医療上の事故等への対処と予防	A-5／必2-オ	〃
10	６／23	医療安全３	医療従事者の健康と安全	A-5／必2-オ	①
11	６／30	チーム歯科医療１	歯科における医療連携	A-7／必8-ア, イ	〃
12	７／７	チーム歯科医療２	歯科医師の社会貢献	B-2／必8-ア, イ	〃
13	７／14	学修方法	歯学教育における学修法	－	〃
14	７／21	生涯学習７	歯科医師の生涯学習	A-6／必1-ア	〃
15	７／28	まとめ	歯科医療の未来	－	〃

基礎歯学概論Ⅰ（通年・２単位）

D②－0501

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）
科目担当者：①安部　仁晴（組織），②中川　敏浩（組織），
③宇佐美晶信（解剖），④芹川　雅光（解剖），
⑤川合　宏仁（生理），⑥大須賀謙二（生理），
⑦古山　　昭（生理），⑧清浦　有祐（感染）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で，専門基礎科目は特に重要となる。その中で，２年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に，履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（３）の病態を解析するための基礎となる第２学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に，その知識を習得する。

3. 到達目標

１）歯と歯周組織の種類とそれらの微細構造を説明する。
２）口腔顎顔面の形態の概要について説明できる。
３）からだの基本的なはたらきを説明できる。
４）微生物の構造とその病原性を説明する。
５）歯の発生と加齢変化について説明する。
６）微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド，プリント，板書で適宜進める。ノートをとり，プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や，図書館の資料を用いる。また，事前に次回プリントを配布される場合は，講義前にプリントを熟読しておくこと（事前学習：15分）。加えて，講義受講後に，その内容を復習すること（事後学習：30分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し，65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは，答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／８	口腔組織学概論①	歯の構造（エナメル質）	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
2	４／15	口腔組織学概論②	歯の構造（象牙質）	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
3	４／22	口腔組織学概論③	歯の構造（歯髄）	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	②
4	５／６	口腔組織学概論④	歯周組織の構造（１）	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
5	５／13	口腔解剖学概論①	歯の解剖（総論）	E-3-1)／総Ⅱ5-ア	③
6	５／20	口腔解剖学概論②	歯の解剖（各論）	E-3-1)／総Ⅱ5-ア	〃
7	５／27	口腔解剖学概論③	骨学	C-3-4)／必5-ア	④
8	６／３	口腔解剖学概論④	脈管学	C-3-4)／必5-ア	〃
9	６／10	口腔生理学概論①	体液	C-2／総Ⅲ1	⑤
10	６／17	口腔生理学概論②	循環と呼吸	C-2／総Ⅲ2	⑥
11	６／24	口腔生理学概論③	細胞膜と膜電位	C-2／総Ⅲ1	⑦
12	７／１	口腔生理学概論④	口腔感覚	E-2／総Ⅳ1, 2, 4	〃
13	７／８	口腔感染免疫学概論①	微生物の種類	C-4-1)／総Ⅲ1-カ	⑧
14	７／15	口腔感染免疫学概論②	微生物の病原性について	C-4-1)／総Ⅲ1-カ	〃
15	７／22	口腔感染免疫学概論③	滅菌の種類とその特徴	C-4-1)／必修12-エ	〃
16	９／２	口腔組織学概論⑤	歯周組織の構造（２）	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	②
17	９／９	口腔組織学概論⑥	歯の発生	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	①
18	９／16	口腔組織学概論⑦	歯と歯周組織の加齢変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各Ⅴ2-イ	〃
19	９／30	口腔解剖学概論⑤	神経学	C-3-4)／必5-ア	④
20	10／７	口腔解剖学概論⑥	筋学	C-3-4)／必5-ア	③
21	10／14	口腔解剖学概論⑦	機能解剖学	E-2-1)／総Ⅱ4-キ	〃
22	10／21	口腔生理学概論⑤	自律機能	C-2／総Ⅲ2	⑥
23	10／28	口腔生理学概論⑥	内分泌	C-2／総Ⅲ2	〃
24	11／４	口腔生理学概論⑦	排泄	C-2／総Ⅲ2	〃
25	11／11	口腔感染免疫学概論④	消毒薬の種類とその特徴	C-4-1)／必修12-エ	⑧
26	11／18	口腔感染免疫学概論⑤	細菌の病原因子	C-4-1)／総Ⅲ1-カ	〃
27	11／25	口腔感染免疫学概論⑥	自然免疫と獲得免疫	C-4-2)／総Ⅱ3-ウ, エ	〃
28	12／２	口腔感染免疫学概論⑦	新たな感染症	C-4-1)／総Ⅲ1-カ	〃
29	12／９	口腔感染免疫学概論⑧	ワクチンによる感染予防	C-4-2)／総Ⅱ3-エ	〃
30	12／16	口腔組織学概論⑧	歯と歯周組織の構造	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	①

臨床歯学概論（前期・１単位）

D①②③－0403

科目責任者：大野　　敬（外科・教授）
科目担当者：①大野　　敬（外科），②菊井　徹哉（修復），
③木村　裕一（歯内），④高橋　慶壮（歯周），
⑤羽鳥　弘毅（冠橋），⑥川嶋　雅之（外科），
⑦山森　徹雄（有床），⑧山崎　信也（麻酔），
⑨山野辺晋也（矯正），⑩島村　和宏（小児），
⑪原田　卓哉（放射），⑫船川　竜生（イン），
⑬鈴木　史彦（高齢），⑭佐々木重夫（歯内），
⑮馬場　　優（医学）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学した直後に歯科医療の現場を知ることは，これから６年間の勉強の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には，①社会人として信頼できること，②歯科医療に対する知識・技能を有すること，③保健に関する助言・援助ができること，④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること，⑤患者に対して十分な説明を行い，同意を得るという考え方を尊重すること，などがある。

2. 一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために，先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解し，歯科医療を行う上での問題を発見し，解決に必要な情報を収集・分析・整理し，その問題を解決できる力を身につける。

3. 到達目標

1）歯科の臨床を視て今後の学習の目標を認識する。
2）う蝕・非う蝕性硬組織疾患の種類と歯冠修復治療の概要を把握する。
3）歯内療法の概要を説明する。
4）歯周病学について概説する。
5）クラウンブリッジにより補綴治療を説明する。
6）口腔外科領域で行われる小手術を列挙する。
7）有床義歯による欠損補綴の概要を説明する。
8）歯科麻酔科の仕事内容を説明する。
9）歯科矯正治療の手順を説明する。
10）乳幼児期の特徴について概論を理解する。
11）画像検査法の目的と意義を説明する。
12）インプラントによる補綴治療を説明する。
13）摂食嚥下リハビリテーションを説明する。
14）障がい者の概要を説明する。
15）歯科医師に必要な医学知識を習得する。

4. 履修の進め方

基本的には講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

授業内容についてのポイントをまとめること（30分）。

6. 評価方法

担当教員の各レポート提出をする。各レポートは秀（35点）・優（30点）・良（20点）・可（10点）・不可（０点）で採点し，平均点を65点に加点して最終評価とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	A) 4／8 B) 4／12	科目の説明	基本的診療技能	E-1-1)／ 必9-ア～エ， 10-イ	①
2	A) 4／15 B) 4／19	歯冠修復治療	う蝕と硬組織疾患の診断と治療	E-3-3) (1)／ 各Ⅲ-2-ア， イ	②
3	A) 4／22 B) 4／26	歯内治療	歯髄・根尖歯周疾患の診断と治療	E-3-3) (2)／ 各Ⅱ-2-ア，イ	③
4	A) 5／6 B) 5／10	歯周治療	歯周疾患の病態，診断および治療	E-3-3) (3)／ 各Ⅲ-8-ア， 9-イ	④
5	A) 5／13 B) 5／17	冠橋義歯治療	クラウンブリッジの治療	E-3-4) (1)- ／各Ⅳ-3	⑤
6	A) 5／20 B) 5／24	口腔外科治療	小手術の基本	E-1-5)／ 総Ⅶ-4-ア	⑥
7	A) 5／27 B) 5／31	有床義歯治療	有床義歯による欠損補綴の概要	E-3-4) (2)- ／必-1	⑦
8	A) 6／3 B) 6／7	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本	E-1-4)	⑧
9	A) 6／10 B) 6／14	歯科矯正治療	不正咬合の治療	E-4-1)／ 各Ⅰ-3-フ	⑨
10	A) 6／17 B) 6／21	小児歯科治療	小児の歯科治療	E-4-2)／ 必6-イ	⑩
11	A) 6／24 B) 6／28	歯科放射線治療	画像検査	E-1-2)／ 各Ⅸ-2	⑪
12	A) 7／1 B) 7／5	インプラント治療	インプラントによる補綴治療	E-3-4) (3)- ／各Ⅳ-6	⑫
13	A) 7／8 B) 7／12	摂食嚥下治療	摂食嚥下リハビリテーションの基本	E-5-1)／各 Ⅴ-6-ア～オ	⑬
14	A) 7／15 B) 7／19	障がい者歯科診療	スペシャルニーズを有する人への対応	E-5-2)， 必-2-ア， 総Ⅴ-3-ア， イ，ウ，オ	⑭
15	A) 7／22 B) 7／26	歯科と医学の知識	歯科と医学の知識	E-6／ 総Ⅶ-1-エ	⑮

臨床心理学（後期・１単位）

D①②③－0401

科目責任者：佐藤　　歩（心理・講師）
科目担当者：①佐藤　　歩（心理）
※この科目は，公認心理師である教員が担当する

1. 科目の概要

臨床心理学とは，様々な心の障害を乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み，悩みに陥る心の構造とプロセス，支援の方法を学んでいく。「臨床心理学Ⅰ」では，代表的な精神疾患および心理的問題を項目別に学んでいく。

2. 一般目標

臨床心理学の基礎を学び，人間が人間を心理的に支援することの意味と患者の立場や背景を理解する（ディプロマ・ポリシー「１」に該当する）。

臨床心理学を学ぶことで，医療者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に，患者を尊重することの重要性を理解する（ディプロマ・ポリシー「１」に該当する）。

臨床心理学の知識を生かし，自己のパーソナリティ特性を理解する。

3. 到達目標

１）ストレス障害について説明できる。
２）うつ病について説明できる。
３）統合失調症について説明できる。
４）不安障害について説明できる。
５）心身症について説明できる。
６）依存症について説明できる。
７）発達障害について説明できる。
８）愛着障害について説明できる。
９）パーソナリティ障害について説明できる。
10）自殺予防，自傷行為の予防について説明できる。

4. 履修の進め方

授業では先ず，その時間のテーマが示される。次ぎにそのテーマに沿った質問が明示される。学生は各自で質問について考え，次ぎにグループで対話する。その後グループ毎に発表する。教師は学生の発表をまとめ，その後プリントを配付し講義を行う。本科目では，このようにアクティヴ・ラーニングを重視した授業を行う。アクティヴ・ラーニングを重視したプロセスで授業を行うことによって，学生に対して臨床心理学を学ぶための動機付けを行うとともに，授業の双方向性も重視する。つまり，授業をとおして学生のコミュニケーション能力も開発していく。

5. 準備学修

予　習：次時のテーマについて，歯科医療の場面で自分であれば，どのように対応するかを具体的に考えておく。
復　習：授業中の思考，対話，発表，講義の内容を自分の問題としてまとめておく。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し，100点満点で65点以上の者を合格とする。

7. 教本

なし。毎回プリントを配付する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／７	ストレス対応とＰＴＳＤ	ストレッサーとストレス反応，ストレスコーピング，PTSDの予防	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	①
2	９／14	うつ病の予防	うつ病の心理特性と対応及び予防	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
3	９／21	自殺の予防	自殺の心理特性と対応及び予防	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
4	９／28	自傷行為の予防	自傷行為の心理特性と対応及び予防	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
5	10／５	統合失調症	統合失調症の症状と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
6	10／12	依存症	依存症の分類と心理特性	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
7	10／19	摂食障害	摂食障害の心理特性と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
8	10／26	不安障害	不安障害の心理特性と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
9	11／２	パニック障害	パニック障害の心理特性と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
10	11／９	心身症と歯科心身症	心身症の心理特性と不安障害との相違	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
11	11／16	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の分類及び心理特性と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
12	11／30	発達障害	発達障害の分類及び心理特性と対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
13	12／７	愛着障害	愛着障害の原因及び対応	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅴ2オ，Ⅶ1エg	〃
14	12／14	災害心理学	災害を含めた危機状況での心理	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃
15	12／21	まとめ	全体の振り返り，ポイントの整理	E-5, 6／総Ⅳ2キ，Ⅶ1エg	〃

歯科医療人間学Ⅰ（後期・２単位）

D①－0101

科目責任者：中川　敏浩（組織・准教授）
科目担当者：①中川　敏浩（組織），②吉田いくよ（非常勤），
③鈴木　俊子（非常勤），④本多　真史（日本語），
⑤清浦　有祐（感染），⑥佐藤　　歩（心理）
※この科目は，主に一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

3. 到達目標

1）医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
2）患者の訴えを正確に聞き取る。
3）平易な言葉で順序立てて説明する。
4）医療現場で必要な言葉でコミュニケートする。

4. 履修の進め方

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学修

予　習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。(30分)
復　習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

プレゼンテーション（50%），記述式試験（50%）により評価を行う。

7. 教本

日本学術振興会編　「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」　テキスト版　日本学術振興会　2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	A) 9／5	パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
〃	B) 9／5	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
3 4	A) 9／12	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
3 4	B) 9／12	パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
5 6	A) 9／26	あいさつについて	あいさつの重要性を実感し，信頼関係の重要性について演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B) 9／26	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
7 8	A)10／3	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)10／3	あいさつについて	あいさつの重要性を実感し，信頼関係の重要性について演習する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
9 10	A)10／17	エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)10／17	医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
11 12	A)10／24	医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)10／24	エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
13 14	A)10／31	説明力－伝わる話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)10／31	医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
15 16	A)11／7	医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)11／7	説明力－伝わる話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
17 18	A)11／14	医療人の恕・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
〃	B)11／14	グループディスカッション	文章から事実を理解要約し，考えや意見を伝える	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
19 20	A)11／21	グループディスカッション	文章から事実を理解要約し，考えや意見を伝える	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19 20	B)11／21	医療人の恕・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
21 22	A)11／28	ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
〃	B)11／28	歯科診療とアサーション①	患者の訴えを，ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
23 24	A)12／5	歯科診療とアサーション①	患者の訴えを，ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)12／5	ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	① ② ③
25 26	A)12／12	表現・自分を知る	演習を通し，自分の表現を客観視する	A-7-1)-①②③／必修-9イ-a～f	〃
〃	B)12／12	歯科診療とアサーション②	患者の訴えを，ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	④
27 28	A)12／19	歯科診療とアサーション②	患者の訴えを，ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f	〃
〃	B)12／19	表現・自分を知る	演習を通し，自分の表現を客観視する	A-7-1)-①②③／必修-9イ-a～f	① ② ③
29	AB合同 12／20	研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み	A-6-2)／ 必修-17-イ	⑤
30	AB合同 12／20	試験評価	試験評価試験を行う	A-7-1)-①②③／必修-8イ-a～f, 9イ-a～f	① ～ ④

第２学年

教養系教育・基礎科学教育科目

社　会　学 …… 91
情報リテラシーⅡ …… 92
英　語　Ⅱ …… 93
日本語学Ⅱ …… 95
物　理　学 …… 96
化　学 …… 97
生　物　学 …… 98
基礎歯学概論Ⅱ …… 99
歯科医療人間学Ⅱ …… 101

生命科学教育科目

口腔解剖学 …… 102
口腔解剖学実習 …… 104
解　剖　学 …… 105
解剖学実習 …… 106
口腔組織学 …… 107
口腔組織学実習 …… 110
口腔生理学Ⅰ …… 111
口腔生理学実習 …… 113
口腔生化学Ⅰ …… 115
口腔感染免疫学Ⅰ …… 116
歯科薬理学Ⅰ …… 117
生体材料・歯科材料学Ⅰ …… 118
公衆衛生学 …… 120

社会学（前期・１単位）

D①②－1003

科目責任者：高橋　嘉代（非常勤）
科目担当者：①高橋　嘉代（非常勤）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

この授業においては，現代社会で発生する社会現象に対する客観的な分析視角を身につけることを目的とする。社会学的な視角と社会学の基礎理論を学ぶことを目標として，社会学の領域において特に議論が深められてきた分野を多角的に取り上げ,本学ディプロマポリシー１の「倫理とコミュニケーション」の実現をめざす。更に，今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックに関する議論について学び，本講義における学習を通して，本学ディプロマポリシー６「奥羽プロフェッショナリズム」の「超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる」社会学的な思考力・分析力の獲得をめざす。

2. 一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために，社会学の基礎知識を学び，現代社会の基本的構造，様々な集団・組織の構成原理，人々のつながりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになる。

3. 到達目標

１）社会学の基礎概念を学び，理解する。
２）社会学の成立過程について学ぶことを通して，近代社会の形成過程についての認識を深める。
３）医療者および生活者として，社会学的な分析力及び考察力を身につける。

4. 履修の進め方

授業は講義形式で行い，配布資料とスライドとを適宜用いる。授業の際に簡単な課題（所要時間10分程度）を課す。

5. 準備学修

講義科目は社会学だが，法学，心理学，文化人類学等の他の社会科学領域との関連は深い。また，授業の内容に関連した各種政府統計（人口動態調査など）についても紹介する予定である。事前の予習はとくに必要はないが，授業中に紹介した事項について学修後に再度確認されたい。

授業内容として紹介した各種統計のソースを確認しておくこと（20分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）。100点満点中65点以上を合格とする。試験時は授業で配布した資料に限り持ち込み可。

7. 教本

なし。教員作成の資料を配布する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	近代社会の形成と社会学の誕生	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。		①
2	4／20	社会の作りをどう見るか	社会学の基礎理論を学ぶ。		〃
3	4／27	自我と役割	自我論・役割論について学ぶ。		〃
4	5／11	相互行為と社会	相互行為論について学ぶ。		①
5	5／18	家族の構造と機能	家族類型と家族の機能について学ぶ。		〃
6	5／25	地域社会とその変動	地域社会の構造と変動について学ぶ。		〃
7	6／1	集団と組織	社会集団と組織についての理論を学ぶ。		〃
8	6／8	教育と労働	社会における教育と労働の機能を学ぶ。		〃
9	6／15	社会移動と社会階層	社会移動と社会階層について学ぶ。		〃
10	6／22	社会的役割としての性別	ジェンダー（社会的役割としての性）について学ぶ。		〃
11	6／29	社会的行為としてみた医療	医療を社会的行為の一つとして把握する。		〃
12	7／6	専門職と医療	社会学における専門職についての議論から医療職について考察する。		〃
13	7／13	感情労働と医療	医療の現場における感情労働について学ぶ。		〃
14	7／20	社会問題と逸脱	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。		〃
15	7／27	グローバリゼーションとリスク社会	グローバリゼーションの展開と影響を学ぶ。		〃

情報リテラシーⅡ（通年・１単位）

D①②－1002

科目責任者：宇佐美　晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②阿部　匡聡（化学），
③荒木　啓吾（組織），④石田　喜紀（材料），
⑤大須賀謙二（生理），⑥前田　豊信（生化），
⑦茂呂祐利子（放射）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータの操作を習熟し，学習にも応用することは必須である。そこで，学習効率を向上させるためにチュートリアル教育の要素も取り入れた環境下で学生個人がコンピュータを用いて，歯学基礎系科目の問題作成を行う。次に，他の学生が作成した問題のブラッシュアップを行い，グループ内で検討する。最後にグループ内で選択した問題について教員が解説を行い，フィードバックするとともに形成的評価を行う。各科目の内容について講義３回を１つのセッションとして演習を中心とした学習を行う。

2. 一般目標

コンピュータを駆使して問題作成，ブラッシュアップを行い，さらに教員からの問題解説を受講することで歯学基礎科目の「知識」をより深く理解する。

3. 到達目標

１）各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
２）問題を的確に説明する。
３）他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。

4. 履修の進め方

コンピュータを用いて，出された課題について学生個人で問題を作成し，その問題に対するブラッシュアップを行う。学生により選択された問題ファイルは「学習支援システム」にアップロードする。各セッション最終回で学生により選択されたブラッシュアップ問題に対して教員から解説を行うとともに，教員による更なるブラッシュアップを行った問題により試験を行う。

5. 準備学修

問題作成およびブラッシュアップはいずれも講義時間内に行う。ブラッシュアップした問題を学習資料提示システムにアップロードするので，事後学習としてすべての課題について確認すること（事後復習：30分）。

6. 評価方法

３コマ毎に１回20点のテストを各期でそれぞれ５回行い，合計が65点以上を合格とする。CBT-Medicalで正答を開示するので，講義時間内に各自でフィードバックを行う。

7. 教本

岩田幸一 他編「基礎歯科生理学」第７版　医歯薬出版　2020

森本俊文 他編「基礎歯科生理学」第６版　医歯薬出版　2014

磯川桂太郎 他著 「組織学・口腔組織学」第３版　わかば出版　2010

明坂年隆 他著 「カラーアトラス　口腔組織発生学」第３版　わかば出版　2009

伊與田正彦 他著 「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店　2013

安孫子宣光 他著「スタンダード生化学・口腔生化学」第３版　学建書院　2016

中嶌　裕 他著 「スタンダード歯科理工学」 第７版　学建書院　2019

井出吉信 他著 「図説新歯牙解剖学」 第５版　わかば出版　2021

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／８	人体の生理	人体の機能に関する問題作成	C-3-4)，E-2-1)，2)／総Ⅱ-1-ア～ケ，6-ア～オ	①②⑤⑦
2	４／15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
3	４／22	〃	問題解説	〃	〃
4	５／６	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成	C-2-3)／総Ⅱ-1-ア～ク	①②③⑦
5	５／13	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
6	５／20	〃	問題解説	〃	〃
7	５／27	生体分子	生体分子の構造と性質に関する問題作成	C-2-1)，C-2-2)／必5-ア	①②⑦
8	６／３	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
9	６／10	〃	問題解説	〃	〃
10	６／17	歯の形態	歯の形態に関する問題作成	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
11	６／24	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
12	７／１	〃	問題解説	〃	〃
13	７／８	人体の機能	人体を構成する物質に関する問題作成	C-2-1)，C-2-3)，C-2-4)／必-5-ア-b	①②⑥⑦
14	７／15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
15	７／22	〃	問題解説	〃	〃
16	９／２	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	C-3-4)，E-2-1)，2)／総Ⅱ-1-ア～ケ，6-ア～オ	①⑤⑦
17	９／９	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
18	９／16	〃	問題解説	〃	〃
19	９／30	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	E-2-2)，3)　E-3-1)／総論Ⅳ-4-ア～オ，キ，ケ，コ	①③⑦
20	10／７	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
21	10／14	〃	問題解説	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
22	10／21	頭頚部の構造	頭頚部の構造に関する問題作成	E-2-2)／総Ⅱ-4-ア～キ	①⑥⑦
23	10／28	〃	作成した問題のブラッシュアップ	E-2-2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
24	11／4	〃	問題解説	〃	〃
25	11／11	人体の機能	代謝に関する問題作成	C-2-1, C-2-4／必-5-ア-a, e	〃
26	11／18	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
27	11／25	〃	問題解説	〃	〃
28	12／2	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	D-1, 2／総Ⅷ-1-ア～イ	①④⑥⑦
29	12／9	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12／16	〃	問題解説	〃	〃

英語Ⅱ（通年・1単位）

D①②－1001

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義の大きな目的は，歯科医療分野の英語表現に慣れることである。また，歯科医療に関する基礎的な知識を学ぶことに加え，論理的に自分の意見を述べる発信力を身につける。そのために，課題テーマについてグループで調査し，英語での発表を経験する。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度，そして発信力を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習すると同時に，歯科医療分野の英語表現および自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

1）歯科医療分野の英語表現に慣れる。
2）基礎文法を復習し，表現方法の細かなニュアンスを理解できるようになる。
3）歯科医療分野の英文を「訳せる」だけで満足せず，英語で知識を「吸収できる」ようになる。
4）あるテーマについてグループで調べ，その成果を英語で発表する経験を積む。
5）自分の意見を英語と日本語の両言語で論理的に述べる発信力を身につける。

4. 履修の進め方

履修前半は基礎的な文法力や読解力の向上を図りつつ，歯科医療分野の専門用語や頻出語彙表現，基礎文法を学ぶ。履修後半は，各テーマについてグループで調査し，その成果を英語でプレゼンテーションする。

5. 準備学修

＜予習＞
①各Unitの英文の音声を聞いて，発音やリズム，意味などを確認（20分）
②語彙や英文の意味を確認（30分）
③理解できない部分を把握し，講義で確認すべきリストを作成（10分）

＜復習＞
①講義で学んだ英文を，発音やリズム，意味などを確認しながらリスニング（20分）
②講義で学んだ英文を再度熟読（40分）

＜その他＞
日常的に，映画や雑誌・新聞など，できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

定期試験（80％），課題提出（20％）により評価し，65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

影山幾男編著『歯科学生のための医学英語』学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	1. Toothache	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	①
2	4／15		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
3	4／22	2. Oral Hygiene	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
4	5／6		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
5	5／13	3. Periodontal Disease	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
6	5／20		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
7	5／27	4. Cleft Lip	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
8	6／3		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
9	6／10	5. Bell's Palsy	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
10	6／17		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
11	6／24	6. Leukoplakia	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
12	7／1		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
13	7／8	7. Herpes Simplex	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
14	7／15		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
15	7／22		Review Test 1	A-7-2)／必13-ウ	〃
16	9／2	8. The Temporo-mandibular Joint	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
17	9／9		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
18	9／16	9. Sialolithiasis	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
19	9／30		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
20	10／7	10. Danger Triangle of the Face	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
21	10／14		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
22	10／21	11. Inferior Alveolar Nerve Block	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
23	10／28		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
24	11／4	12. Trigeminal Neuralgia	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
25	11／11		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
26	11／18	13. Paranasal Sinusitis	Dialogue	A-7-2)／必13-ウ	〃
27	11／25		Reading	A-7-2)／必13-ウ	〃
28	12／2		Review Test 2	A-7-2)／必13-ウ	①
29	12／9	国家試験既出英語問題		A-7-2)／必13-ウ	〃
30	12／16	歯科医療に関する英語重要表現総復習		A-7-2)／必13-ウ	〃

日本語学Ⅱ（前期・１単位）

D②－0306

科目責任者：本多　真史（日本語・講師）
科目担当者：①本多　真史（日本語）

1. 科目の概要

歯科医師免許という「高度な資格」を取得するためには，国家試験への合格が必要不可欠とされている。歯科医師国家試験問題を解く際には，問題を正確に読み，内容をきちんと理解し，自らの考えを整理し，正しく答えられる力が必要になる。

本講義では，歯科医師国家試験問題を解く際に必要とされる「読解力」を培うことを目指す。１年時に習得した内容をもとに，より実践的な読解方法を身につける演習を行う。

2. 一般目標

問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢，論理的な思考，記号読解などの技能を身につける。また，「問題文を読み，理解し，思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を体得させる。加えて，国家試験で要求される「問題を時間内に正確に解く」力をも向上させる。

3. 到達目標

１）重要語句等の，問題を解くために必要な基礎的な知識を身につける。
２）論理構造を理解しつつ，問題を正確に読むことができる。
３）問われている内容をきちんと理解することができる。
４）自らの考えを整理し，解答への筋道を立てることができる。
５）客観的に判断し，問題を解決することができる。

4. 履修の進め方

講義資料をもとに，講義および演習形式で読解力の育成を行う。

5. 準備学修

講義受講前に，シラバスで内容を確認し，それに関する事柄を理解しておくことが望ましい(所要時間５分前後)。また，講義受講後は，その内容を復習（所要時間30分前後）し，日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

記述式試験により形成的評価を行う。

7. 教本

指定しない。プリントを配布し，それに沿って進める。

8. 参考書

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』，『日本語練習帳』，『「ロンリ」の授業』，『「考える技術」と「地頭力」がいっきに身につく東大思考』 など

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	オリエンテーション	練習問題を通して,「なんとなく解く」ことから脱却しよう		①
2	4／20	読解力向上演習(1)	単語に敏感になろう		〃
3	4／27	読解力向上演習(2)	文の構造をしっかりとらえられるようになろう		〃
4	5／11	読解力向上演習(3)	段落と段落の「つながり方」を意識してみよう		①
5	5／18	読解力向上演習(4)	「印つけ」読解法を確実に身につけよう		〃
6	5／25	読解力向上演習(5)	文章を要約してみよう【要約実践演習①】		〃
7	6／1	読解力向上演習(6)	文章を要約してみよう【要約実践演習②】		〃
8	6／8	読解力向上演習(7)	文章を縮約してみよう【縮約実践演習①】		〃
9	6／15	読解力向上演習(8)	文章を縮約してみよう【縮約実践演習②】		〃
10	6／22	読解力向上演習(9)	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習①】		〃
11	6／29	読解力向上演習(10)	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習②】		〃
12	7／6	読解力向上演習(11)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習①】		〃
13	7／13	読解力向上演習(12)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習②】		〃
14	7／20	読解力向上演習(13)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習③】		〃
15	7／27	形成的評価	形成的評価試験を行う		〃

物理学（前期・２単位）

D③－1201

科目責任者：菊地　尚志（物理・教授）
科目担当者：①菊地　尚志（物理）

1. 科目の概要

物理学は自然界の最も基本的な現象について記述する学問です。それゆえ歯科医学でも物理学の知識を基にそれを応用している分野が多いです。１年生の物理学の教養科目「基礎物理学」を基に，歯科医学で物理学が応用されていることがらについて歯科の専門的な知識と関係つけながら授業を進めます。基礎物理学で学んだことを復習しながら，具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

歯科材料学では物質の弾性の大きさについての理解が大切になります。国家試験でも歪み・応力曲線に関しての問題が多く出されています。基礎物理学で学んだ原子の構造をもとに，クーロン力についての電磁気学を新たに学んで物質の弾性について理解を深めます。

歯科ではレントゲン写真は言うに及ばず，最近はCTやPET などの断層写真による診断も使われています。これらの歯科放射線学の技術を安全にまた正しく使う上でやはり原子と原子核の構造や電子と電磁波について思い出すことが必要になります。陽子，中性子，電子，さらには陽電子などの物質の基本的な構成粒子について理解を深め，歯科への応用を知るようにします。

2. 一般目標

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。

3. 到達目標

１）クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する。
２）電磁波の発生と物質との相互作用を説明する。
３）物質の弾性を分子・原子間力で説明する。
４）陽子，中性子，電子という基本粒子の存在を説明し，放射線との相互作用を理解する。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業をします。ノートをしっかり取る習慣をつけましょう。

5. 準備学修

教科書の授業内容のところをよく読んでくる。(30分)
講義で行った内容の復習を行う。(30分)

6. 評価方法

定期試験により評価する。

7. 教本

シップマン自然科学入門　新物理学（学術図書出版）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	ガイダンス	科目の内容を歯科との関係で説明する。	D-1，E-1／必13-イ	①
2	4／12		科目の内容を歯科との関係で説明する。	D-1，E-1／必13-イ	〃
3	4／19	物性物理学	電荷の間の力	D-1，E-1／必13-イ	〃
4	4／19		クーロンの法則	D-1，E-1／必13-イ	〃
5	4／26		バネ定数と弾性率	D-1，E-1／必13-イ	①
6	4／26	弾性	原子の構造と弾性率	D-1，E-1／必13-イ	〃
7	5／10		応力歪み曲線１	D-1，E-1／必13-イ	〃
8	5／10		弾性エネルギー	D-1，E-1／必13-イ	〃
9	5／17		応力歪み曲線２	D-1，E-1／必13-イ	〃
10	5／17		固体の応力	D-1，E-1／必13-イ	〃
11	5／24		問題演習	D-1，E-1／必13-イ	〃
12	5／24	熱	熱伝導	D-1，E-1／必13-イ	〃
13	5／31		問題演習	D-1，E-1／必13-イ	〃
14	5／31		熱膨張	D-1，E-1／必13-イ	〃
15	6／7		問題演習	D-1，E-1／必13-イ	〃
16	6／7	放射能と放射線	放射性核種	D-1，E-1／必13-イ	〃
17	6／14		放射能の種類	D-1，E-1／必13-イ	〃
18	6／14		放射能の強さと半減期	D-1，E-1／必13-イ	〃
19	6／21		放射能の医学への応用	D-1，E-1／必13-イ	〃
20	6／21	原子の構造	原子模型	D-1，E-1／必13-イ	〃
21	6／28		電子配置と周期表	D-1，E-1／必13-イ	〃
22	6／28		X線管	D-1，E-1／必13-イ	〃
23	7／5		制動放射と特性X線	D-1，E-1／必13-イ	〃
24	7／5		光電効果とコンプトン散乱	D-1，E-1／必13-イ	〃
25	7／12		放射線被曝	D-1，E-1／必13-イ	〃
26	7／12		放射線被曝	D-1，E-1／必13-イ	〃
27	7／19		陽電子とPET	D-1，E-1／必13-イ	〃
28	7／19		問題演習	D-1，E-1／必13-イ	〃
29	7／26		問題演習	D-1，E-1／必13-イ	〃
30	7／26		まとめ	D-1，E-1／必13-イ	〃

化学（前期・２単位）

D③－1202

科目責任者：阿部　匡聡（化学・講師）
科目担当者：①阿部　匡聡（化学）

1. 科目の概要

生体内で働く物質や，私たちの身近にある物質（燃料，塗料，プラスチック製品，衣類，食品，医薬品など）には，多くの有機化合物が存在している。さらに，歯科医学で用いられる，抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり，印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も，基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり，有機化学の知識・概念は，生命現象の分子機構的理解，歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解に不可欠である。本科目では，基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。本科目の履修を通じ，生命現象や，物質の変化を，分子機構的に探究する志向性を抱いてほしい。

2. 一般目標

学修者は，ディプロマポリシー（1）探求力と解決力のため，基本的な有機化合物の構造･性質･反応についての知識･概念を習得する。

3. 到達目標

1）学修者は，官能基の種類により化合物を分類し，各化合物の性質・反応を説明できる。
2）学修者は，異性体について説明し，構造式で示すことができる。
3）学修者は，置換反応，付加反応，脱離反応，酸化還元反応，ラジカル反応を説明し，反応式を記述できる。
4）学修者は，芳香族化合物の性質・反応について，脂肪族化合物との違いを示し，説明できる。

4. 履修の進め方

教科書の内容編成に沿い，主に板書により講義する。ミニマムリクワイアメントを口頭試問で確認しながら進める。レポートにより，形成的評価を行う。適宜，プリントを用いた問題演習を導入する。

5. 準備学修

１年次で履修する基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は，歯科基礎医学，歯科基礎病態治療学区分に関連し，特に，口腔生化学Ⅰ，Ⅱ，歯科薬理学Ⅰ，Ⅱ，生体材料・歯科材料学Ⅰ，Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（10分）：教科書の当該箇所を読んでおく。
事後学習（30分）：教科書やノートを読み返し，学習内容の理解を深め，知識・概念を覚えるよう努める。内容を理解し覚える上で，構造式や反応式を書いてみることが特に有効である。

6. 評価方法

中間試験（45%）と定期試験（55%）で評価し，65点以上で合格とする。

7. 教本

伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店 2013年

8. 参考書

中川徹夫著「化学の基礎　－元素記号からおさらいする化学の基本－」 化学同人　2010年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	原子の構造と電子配置	原子の構造；電子配置；価電子	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	①
2	4／13	共有結合と分子の形成	共有結合；混成軌道	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
3	4／20	有機分子の形と構造異性体	構造式；官能基；構造異性体	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
4	4／20	立体異性体	不斉炭素と光学異性体；アミノ酸・糖の構造；cis-trans異性体	C-1-1)，C-2-1)／必5-ア，必13-イ	〃
5	4／27	分子の中の電子の偏りと非局在化１	結合の分極；結合の開裂と電子の流れ	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
6	4／27	分子の中の電子の偏りと非局在化２	形式電荷；誘起効果と共鳴効果；共鳴安定化と芳香族性	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
7	5／11	分子間力	ファンデルワールス力；双極子-双極子相互作用；水素結合	C-1-1)，C-2-1)／必5-ア，必13-イ	〃
8	5／11	アルカン	アルカンの構造・性質・反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
9	5／18	アルケンとアルキン１	アルケンとアルキンの構造・性質；アルケンの合成	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
10	5／18	アルケンとアルキン２	アルケンの反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
11	5／25	アルケンとアルキン３	アルキンの合成・反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
12	5／25	ハロゲン化アルキル１	ハロゲン化アルキルの構造・性質・合成	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
13	6／1	ハロゲン化アルキル２	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
14	6／1	アルコールとエーテル１	アルコールの構造・性質・合成	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
15	6／8	アルコールとエーテル２	アルコールの反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
16	6／8	アルコールとエーテル３	エーテルの構造・性質・合成・反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
17	6／15	ベンゼンと芳香族炭化水素１	ベンゼンの構造；アルケンとベンゼンの反応性の違い	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	①
18	6／15	ベンゼンと芳香族炭化水素２	芳香族化合物とヒュッケル則；芳香族求電子置換反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
19	6／22	ベンゼンと芳香族炭化水素３	求電子置換反応における配向効果と活性化効果	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
20	6／22	置換ベンゼン類の合成と反応１	フェノールの性質・合成；フェノール類ハロゲン化アリールの反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
21	6／29	置換ベンゼン類の合成と反応２	アニリンの反応；ジアゾニウム塩の合成と反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
22	6／29	カルボニル化合物１	カルボニル化合物の構造・性質・合成	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
23	7／6	カルボニル化合物２	カルボニル化合物の求核付加反応，酸化，還元	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
24	7／6	カルボニル化合物３	エノールおよびエノラートイオンの反応；アルドール縮合	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
25	7／13	カルボン酸	カルボン酸の構造・性質・合成；弱酸の解離定数；酸塩基平衡	C-1-1)，C-2-1)／必5-ア，必13-イ	〃
26	7／13	カルボン酸誘導体１	エステル，カルボン酸塩化物の合成・反応	C-1-1)，C-2-1)／必5-ア，必13-イ	〃
27	7／20	カルボン酸誘導体２	カルボン酸無水物，アミド，ニトリルの合成・反応	C-1-1)，C-2-1)／必5-ア，必13-イ	〃
28	7／20	アミン１	アミンの構造・性質・合成；局所麻酔薬とアミン	C-1-1)，E-1-4)-(3)／必5-ア，必13-イ，総Ⅶ-4-ウ	〃
29	7／27	アミン２	アミンの反応	C-1-1)／必5-ア，必13-イ	〃
30	7／27	高分子	高分子化合物の分類；歯科材料と高分子；重合反応	D-1／総Ⅷ-1	〃

生物学（前期・２単位）

D③－1203

科目責任者：前田　豊信（生化・准教授）
科目担当者：①前田　豊信（生化）

1. 科目の概要

本科目では，歯科医師として必要な生命現象を理解するために，必要な分子生物学の知識を中心に講義を行う。具体的には，細胞生物学と細胞間情報伝達について講義する。各臓器の機能について，分子生物学的観点から講義する。さらに遺伝子工学の現状を解説し，生命倫理について考察する。

2. 一般目標

歯科口腔疾患の病態を解析し，治療の要素を把握するために必要な，基礎系科目の知識を理解・習得するために，必要な生物学の知識を身につける。

3. 到達目標

1）細胞の構造と機能について説明できる。
2）生体を構成する基本分子とその代謝について説明できる。
3）細胞間情報伝達について説明できる。
4）中心命題とその制御について説明できる。
5）血液の成分と機能について説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に配布資料を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておくこと（10分）。

6. 評価方法

定期試験で評価し，65点以上で合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　第４版　和田　勝著（羊土社）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	細胞の構造と機能①	小器官の機能	C-2-3)／必5-ア	①
2	〃	細胞の構造と機能②	細胞骨格	C-2-3)／必5-ア	〃
3	4／18	細胞の構造と機能③	形質膜と膜輸送	C-2-3)／必5-ア	〃
4	〃	人体を構成する成分①	糖 甘味料	C-2-1)／必5-ア	〃
5	4／25	人体を構成する成分②	アミノ酸	C-2-1)／必5-ア	〃
6	〃	人体を構成する成分③	タンパク質	C-2-1)／必5-ア	〃
7	5／9	人体を構成する成分④	脂質	C-2-1)／必5-ア	〃
8	〃	栄養素の消化と吸収①	栄養素の消化	C-3-4)-(7)／必5-ア，総Ⅱ-1-エ	〃
9	5／16	栄養素の消化と吸収②	栄養素の吸収と輸送	C-3-4)-(7)／必5-ア，総Ⅱ-1-エ	〃
10	〃	栄養素の代謝①	エネルギー産生１	C-2-1)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	5／23	栄養素の代謝②	エネルギー産生２	C-2-1）／必5-ア	①
12	〃	栄養素の代謝③	排泄１	C-2-1）／必5-ア	〃
13	5／30	栄養素の代謝④	排泄２	C-2-1）／必5-ア	〃
14	〃	血液	血液の構成	C-3-4)-(4)／必5-ア	〃
15	6／6	内蔵の機能①	肝臓の機能	C-2-1)／必5-ア	〃
16	〃	内蔵の機能②	脾臓の機能	C-2-1）／必5-ア	〃
17	6／13	内蔵の機能③	膵臓の機能	C-2-1）／必5-ア	〃
18	〃	生体恒常性	緩衝作用	C-3-4)-(4)／必5-ア	〃
19	6／20	細胞間情報伝達④	ホルモン①	C-2-4)，C-3-4)-(9)／必5-ア，総Ⅱ-1-ク	〃
20	〃	細胞間情報伝達④	ホルモン②	C-2-4)，C-3-4)-(9)／必5-ア，総Ⅱ-1-ク	〃
21	6／27	細胞間情報伝達④	細胞内シグナル伝達	C-2-4)，C-3-4)-(9)／必5-ア，総Ⅱ-1-ク	〃
22	〃	細胞間情報伝達④	成長因子	C-2-4)／必5-ア	〃
23	7／4	細胞間情報伝達⑤	エイコサノイド	C-2-1)，C-3-4)-(9)／必7-ア	〃
24	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂	C-2-3)／必5-ア	〃
25	7／11	細胞分裂と細胞死	核酸合成	C-2-3)，C-2-2)／必5-ア	〃
26	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂と細胞死	C-2-3)／必5-ア，必6-エ	〃
27	7／25	中心命題①	転写と転写因子	C-2-2）／必5-ア	〃
28	〃	中心命題②	翻訳と翻訳後修飾	C-2-2）／必5-ア	〃
29	7／29	遺伝	遺伝	C-2-2）／必5-ア	〃
30	〃	遺伝子工学	遺伝子工学	C-2-2）／必5-ア	〃

基礎歯学概論Ⅱ（前期・２単位）

D②－0901

科目責任者：遊佐　淳子（病理・講師）
科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②廣瀬　公治（衛生），③小林美智代（衛生），④鈴木　礼子（薬理），⑤岡田　英俊（材料），⑥櫻井　裕子（病理），⑦前田　豊信（生化），⑧加藤　靖正（生化）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で，専門基礎科目は特に重要となる。その中で，２年時の後期から３年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に，履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（３）の病態を解析するための基礎となる第２学年時の後期から第３学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に，その知識を習得する。

3. 到達目標

１）生体を構成する成分と機能を説明できる。
２）歯と歯周組織の疾患の病因と病態を説明できる。
３）健康の保持・増進の方策を説明できる。
４）社会保障の概要を理解する。
５）地域保健における歯科医師の役割を説明できる。
６）疫学と調査について概念を説明できる。
７）歯科材料，診療用機械について基本的な事項を説明できる。
８）食品衛生と栄養摂取基準を説明できる。
９）医薬品の開発と薬害を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド，プリント，板書で適宜進める。ノートをとり，プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や，図書館の資料を用いる。
新聞やTVニュースなどから保健・医療・福祉に関する社会の流れを把握すること（事前学習15分）。加えて，講義受講後に，その内容を復習すること（事後学習30分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し，65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは，答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。口腔衛生学概論ではスタンダード衛生・公衆衛生，口腔生化学概論ではスタンダード生化学口腔生化学を持参のこと。

8. 参考書

坪井貴司著「そうだったのか！ヒトの生物学」 丸善出版 2019年
田村浩一著「図解入門　よくわかる病理学の基本としくみ」 秀和システム　2011年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	口腔衛生学概論①	公衆衛生学序論社会変化と健康	B-1／必2-ア	②
2	4／8	口腔衛生学概論②	疾病構造と健康問題国際保健協力	B-1／必4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／15	口腔衛生学概論③	健康の保持増進−１健康日本21(第二次)	B-1／必4-ア	②
4	4／15	口腔衛生学概論④	健康の保持増進−２感染症と生活習慣病	B-1／必4-ア	〃
5	4／22	口腔衛生学概論⑤	統計学の基礎−１	B-4-1, 2)／総Ⅰ-6-ア	③
6	4／22	口腔衛生学概論⑥	統計学の基礎−２	B-4-1, 2)／総Ⅰ-6-ア	〃
7	5／6	歯科薬理学概論①	薬物と医薬品１	C-6-1)／必2-イ	④
8	5／6	歯科薬理学概論②	薬物と医薬品２	C-6-1)／必2-イ	〃
9	5／13	口腔病理学概論①	齲蝕１	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	①
10	5／13	口腔病理学概論②	齲蝕２	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	〃
11	5／20	生体材料学概論①	歯科修復用材料(１)	D-1, 2／総Ⅷ	⑤
12	5／20	生体材料学概論②	歯科修復用材料(２)	D-1, 2／総Ⅷ	〃
13	5／27	生体材料学概論③	歯科修復用材料(３)	D-1, 2／総Ⅷ	〃
14	5／27	生体材料学概論④	歯科修復用材料(４)	D-1, 2／総Ⅷ	〃
15	6／3	生体材料学概論⑤	歯科修復用材料(５)	D-1, 2／総Ⅷ	〃
16	6／3	生体材料学概論⑥	歯科修復用材料(６)	D-1, 2／総Ⅷ	〃
17	6／10	口腔衛生学概論⑦	食生活と健康−１	B-1／総Ⅰ-8-ア, イ	③
18	6／10	口腔衛生学概論⑧	食生活と健康−２	B-1／総Ⅰ-8-ア, イ	〃
19	6／17	口腔病理学概論③	歯周病１	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	⑥
20	6／17	口腔病理学概論④	歯周病２	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	〃
21	6／24	口腔生化学概論①	アミノ酸基本構造・アミノ酸残基の修飾アミノ酸代謝	C-2／必5-ア	⑦
22	6／24	口腔生化学概論②	タンパク質の基本構造・フォールディング，翻訳	C-2／必5-ア	〃
23	7／1	口腔生化学概論③	ビタミンの種類，機能，欠乏症	C-2／必5-ア	〃
24	7／1	口腔生化学概論④	補酵素とその役割	C-2／必5-ア	〃
25	7／8	口腔生化学概論⑤	酵素反応速度論Ⅰ：ミカエリスメンテンの式	C-2／必5-ア	⑧
26	7／8	口腔生化学概論⑥	酵素反応速度論Ⅱ：アロステリック酵素酵素反応阻害様式	C-2／必5-ア	〃
27	7／15	歯科薬理学概論③	医薬品の開発	C-6-4)／必2-ウ	④
28	7／15	歯科薬理学概論④	薬害	C-6-4)／必2-ク	〃
29	7／22	口腔生化学概論⑦	糖質の種類と構造	C-2／必5-ア	⑧
30	7／22	口腔生化学概論⑧	脂質の種類と構造	C-2／必5-ア	〃

歯科医療人間学Ⅱ（前期・１単位）

D①－0102

科目責任者：大橋　明石（衛生・講師）
科目担当者：①大橋　明石（衛生），②南　健太郎（衛生），③吉田いくよ（非常勤），④鈴木　俊子（非常勤），⑤本多　真史（日本語）
※この科目は，診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

3. 到達目標

１）医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
２）患者の訴えを正確に聞き取る。
３）平易な言葉で順序立てて説明する。
４）医療現場で必要な言葉でコミュニケートする。

4. 履修の進め方

グループワークおよびペアによるActive Learningを行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学修

予　習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける（30分）。
復　習：プリント学習や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

ビデオ撮影や記述式試験および客観的試験により，平均値を算出し65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	2－A 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	A-1-2)／ 必-1-ア-a	① ②
〃	〃	2－B 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	A-1-2)／ 必-1-ア-a	〃
2	4／19	2－A 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
2	4／19	2－B 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
3	4／26	2－A 医療人とアサーション②	医療コミュニケーションの進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
〃	〃	2－B 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
4	5／10	2－A 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	〃
〃	〃	2－B 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
5	5／17	2－A 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療人とアサーション②	医療コミュニケーションの進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
6	5／24	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－１①	自分の表現の仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療面接と傾聴力①	好感度，信頼度を上げる会話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
7	5／31	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－１②	自分の表現の仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療面接と傾聴力②	好感度，信頼度を上げる会話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
8	6／7	2－A 医療面接と傾聴力①	好感度，信頼度を上げる会話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－１①	自分の表現の仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
9	6／14	2－A 医療面接と傾聴力②	好感度，信頼度を上げる会話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－１②	自分の表現の仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
10	6／21	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－２①	自分の表現の仕方実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	〃
〃	〃	2－B 医療面接の実践トレーニング①	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
11	6／28	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－２②	自分の表現の仕方実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6／28	2－B 医療面接の実践トレーニング②	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 <グループワーク>	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
12	7／5	2－A 医療面接の実践トレーニング①	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 <グループワーク>	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－2①	自分の表現の仕方実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
13	7／12	2－A 医療面接の実践トレーニング②	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 <グループワーク>	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑤ ②
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－2②	自分の表現の仕方実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	③ ④ ①
14	7／19	形成的評価	形成的評価試験を行う。	関連範囲	① ～ ⑤
15	7／26	形成的評価	形成的評価試験を行う。	関連範囲	〃

口腔解剖学（通年・３単位）

D③－1302

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科医学を学修するのに先立ち，歯および口腔領域の正常な形態と構造について講義で学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な歯や口腔周囲の構造についての「知識」を身に付けるために，ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

1）永久歯，乳歯の形態を説明できる。
2）歯列・咬合について説明できる。
3）口腔領域の筋・神経・脈管について説明できる。
4）口腔内臓について説明できる。
5）顎関節の構造と機能について説明できる。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回講義内容をCBT-Medicalによる小テストで形成的評価を行いながら講義を進めていく。また，各項目ごとの形成的評価を行う。これにより学修するすべての項目についての理解を確実なものとして，項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに，形成的評価のために前回講義内容を復習をしておく。事前配布プリントを読むこと（15分），形成的評価のための事後学習（30分）。

6. 評価方法

定期試験（90%）と講義時間内でおこなうCBT-Medicalによる前回講義内容の試験（10％）の合計が65点以上を合格とする。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

井出吉信 編著「図説　新歯牙解剖学-歯牙解剖実習」第５版　わかば出版　2021

8. 参考書

高橋和人 他著「図説　歯の解剖学」第２版　医歯薬出版
近藤信太朗ら編 著「歯の解剖学」第１版　わかば出版
松村譲児ら編 著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	口腔解剖学総論１	口腔解剖学とは	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	①
2	4／14	口腔解剖学総論２	歯の種類，歯列，歯式と方向用語	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
3	4／21	永久歯の形態①	切歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
4	4／21	永久歯の形態②	切歯のスケッチ，スケッチ方法論	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
5	4／28	永久歯の形態③	犬歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
6	4／28	永久歯の形態④	犬歯のスケッチ，歯の彫刻の実際	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
7	5／12	永久歯の形態⑤	上顎小臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／12	永久歯の形態⑥	下顎小臼歯の形態	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	①
9	5／19	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
10	5／19	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
11	5／26	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
12	5／26	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
13	6／2	慰霊式説明	慰霊式説明，死体解剖保存法	A-1-1)／必1-ア	〃
14	6／2	慰霊式	慰霊式	A-1-1)／必1-ア	〃
15	6／9	永久歯の形態⑪	永久歯のまとめ	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
16	6／9	乳歯の形態①	乳歯総論	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	②
17	6／16	乳歯の形態②	乳歯の形態１	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
18	6／16	乳歯の形態③	乳歯の形態２歯齢	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
19	6／23	歯の形態異常	歯の形態異常	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
20	6／23	歯列，咬合	歯列，咬合	E-2-2)／総Ⅱ-5-ア	〃
21	6／30	乳歯の形態④	乳歯のまとめ	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
22	6／30	臨床と口腔解剖	臨床からみた口腔解剖	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	①
23	7／7	神経学①	神経学総論	C-3-4)／必5-ア	②
24	7／7	神経学②	中枢神経１・総論	C-3-4)／必5-ア	〃
25	7／14	神経学③	中枢神経２・大脳	C-3-4)／必5-ア	〃
26	7／14	口腔の解剖①	口腔内臓総論	E-2-2)／総Ⅱ-4-ア	①
27	7／21	神経学④	中枢神経３・脳幹，小脳	C-3-4)／必5-ア	②
28	7／21	口腔の解剖②	口蓋，口峡	E-2-2)／総Ⅱ-4-オ	①
29	7／28	神経学⑤	中枢神経４・脊髄	C-3-4)／必5-ア	②
30	7／28	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺	E-2-2)／総Ⅱ-4-オ	①
31	9／5	神経学⑥	末梢神経１・脳神経総論	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
32	9／12	神経学⑦	末梢神経２・脳神経Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅵ，Ⅶ	C-3-4)／総Ⅱ-1-キ	〃
33	9／26	神経学⑧	末梢神経３・脳神経Ⅶ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
34	10／3	神経学⑨	末梢神経４・脳神経Ⅶ，Ⅻ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
35	10／17	神経学⑩	末梢神経５・脳神経Ⅴ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
36	10／24	神経学⑪	末梢神経６・脳神経Ⅴ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	①
37	10／31	神経学⑫	末梢神経７・脳神経Ⅸ，Ⅹ，Ⅺ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
38	11／7	神経学⑬	末梢神経８・自律神経	C-3-4)／総Ⅱ-1-キ	〃
39	11／14	神経学⑭	末梢神経９・脊髄神経	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
40	11／21	頭頚部の筋①	顔面筋と咀嚼筋	E-2-1)／総Ⅱ-4-ウ	〃
41	11／28	頭頚部の筋②	舌筋，舌骨上筋，舌骨下筋	E-2-1)／総Ⅱ-4-ウ	〃
42	12／5	神経学⑮	末梢神経まとめ	C-3-4)／総Ⅱ-4-カ	〃
43	12／12	嚥下	嚥下関連の解剖学	E-2-1)／総Ⅱ-4-オ	〃
44	12／19	筋膜隙	臨床関連の解剖学	E-2-1)／総Ⅱ-4-キ	〃
45	12／20	顎関節	顎関節の機能と構造	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	②

口腔解剖学実習（前期・１単位）

D②③－1402

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

前半の７回で歯の形態をスケッチおよび彫刻実習により理解する。後半の８回で骨の形態と構造を骨標本を用いた実習により理解する。

2. 一般目標

歯の形態と全身の骨の構造を理解することにより歯科医師として必要な歯と骨に関連した「知識」を身に付ける。

3. 到達目標

１）歯の形態を２次元的にスケッチできる。
２）歯の形態を３次元的に彫刻できる。
３）頭蓋骨や全身の骨の形態および構造を説明できる。

4. 履修の進め方

永久歯の３倍大のスケッチと彫刻の実習を行う。骨学実習ではテキストの内容を骨標本で確認する。

5. 準備学修

歯の彫刻実習には歯種に応じた大きさの石膏棒を用意するとともに歯の形態を確認しておく（15分）。

骨学実習では「口腔顎顔面ノート」の該当部分を確認しておく（30分）。

実習後に歯のスケッチ又は「口腔顎顔面ノート」を確認しておく（15分）。

6. 評価方法

各回の提出物の評価（85%），態度評価（15％）で評価する。提出物の評価基準については実習の第１回目で説明する。フィードバックは提出物返却時に適宜行う。欠席は１回につき５点減点とする。

7. 教本

井出吉信 監修「口腔顎顔面解剖ノート」第３版　学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	４／14	口腔解剖学実習①	評価基準の説明，Wax棒彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	① ②
5 6 7 8	４／21	口腔解剖学実習②	切歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
9 10 11 12	４／28	口腔解剖学実習③	犬歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
13 14 15 16	５／12	骨学実習①	骨の貸出と確認	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
17 18 19 20	５／19	口腔解剖学実習④	小臼歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
21 22 23 24	５／26	口腔解剖学実習⑤	上顎大臼歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	① ②
25 26 27 28	６／２	慰霊式	慰霊式	A-1-1)／ 必1-ア	〃
29 30 31 32	６／９	口腔解剖学実習⑥	下顎大臼歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
33 34 35 36	６／16	骨学実習②	頭蓋冠，頭蓋底	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
37 38 39 40	６／23	骨学実習③	蝶形骨，側頭骨，眼窩	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
41 42 43 44	６／30	骨学実習④	上顎骨，口蓋骨，鼻腔	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
45 46 47 48	７／７	骨学実習⑤	下顎骨，舌骨	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
49 50 51 52	７／14	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
53 54 55 56	７／21	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窩	C-3-4)， E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
57 58 59 60	７／28	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	C-3-4)， E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃

解剖学（通年・３単位）

D③－1301

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③佐藤　功二（非常勤），④阿部　伸一（非常勤），
⑤井出　吉昭（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学を学修するのに先立ち，肉眼解剖による人体の正常構造を講義により学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な肉眼解剖学の「知識」を身に付けるために，人体の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

1）身体の部位と方向用語を説明できる。
2）身体を構成する器官系について説明できる。
3）人体の骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明できる。
4）鰓弓および顎顔面の発生を説明できる。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回の講義内容を形成的評価を行いながら講義を進めていく。また，各項目終了時にも形成的評価を行う。これによりすべての項目についての理解を確実なものとして，項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに，形成的評価のために前回講義内容を復習をしておく。事前配布プリントを読むこと（15分），形成的評価のための事後学習（30分）。

6. 評価方法

定期試験（90%）と講義時間内でおこなうCBT-Medicalによる前回講義内容の試験（10％）の合計が65点以上を合格とする。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

なし。　講義資料はプリントを事前に配布する。

8. 参考書

脇田稔ら監修「口腔解剖学」第２版　医歯薬出版　2018年
藤田恒太郎 著「入門人体解剖学」第４版　南江堂　2009年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	解剖学総論	解剖学とは，方向用語	C-3-1)／総Ⅲ-2-ア～ク	①
2	4／19	骨学①	骨学総論	C-3-4)／総Ⅳ-1-ア, オ	〃
3	4／26	骨学②	頭蓋冠・外頭蓋底	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
4	5／10	骨学③	内頭蓋底	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
5	5／17	骨学④	蝶形骨１	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
6	5／24	骨学⑤	蝶形骨２	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
7	5／31	骨学⑥	側頭骨	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
8	6／7	骨学⑦	上顎骨	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
9	6／14	骨学⑧	下顎骨	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	①
10	6／21	骨学⑨	体幹の骨	C-3-4)／総Ⅱ-1-イ	〃
11	6／28	骨学⑩	体肢の骨	C-3-4)／総Ⅱ-1-イ	〃
12	7／5	骨学⑪	骨学のまとめ	C-3-4)／総Ⅱ-4-イ	〃
13	7／12	脈管学①	脈管学総論	C-3-4)／総Ⅱ-1-ウ	②
14	7／19	脈管学②	動脈	E-2-1)／総Ⅱ-4-エ	〃
15	7／26	脈管学③	静脈，リンパ	E-2-1)／総Ⅱ-4-エ	〃
16	9／1	内臓学①	筋学１	C-3-4)／総Ⅱ-1-イ	①
17	9／1	局所解剖学１	人体解剖学実習１のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
18	9／8	内臓学②	筋学２	C-3-4)／総Ⅱ-1-イ	〃
19	9／8	局所解剖学２	人体解剖学実習２のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
20	9／15	内臓学③	消化器１	C-3-4)／総Ⅱ-1-エ	〃
21	9／15	局所解剖学３	人体解剖学実習３のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
22	9／22	内臓学④	消化器２	C-3-4)／総Ⅱ-1-エ	〃
23	9／22	局所解剖学４	人体解剖学実習４のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
24	9／29	内臓学⑤	呼吸器	C-3-4)／総Ⅱ-1-ウ	〃
25	9／29	局所解剖学５	人体解剖学実習５のための解説	C-3-4)／総Ⅲ-2-ア, ウ, エ, キ	〃
26	10／6	内臓学⑥	感覚器１	C-3-4)／総Ⅱ-1-キ	〃
27	10／6	局所解剖学６	人体解剖学実習６のための解説	C-3-4)／総Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
28	10／13	内臓学⑦	感覚器２	C-3-4)／総Ⅱ-1-キ	〃
29	10／13	局所解剖学７	人体解剖学実習７のための解説	C-3-4)／総Ⅲ-2-ア, イ, エ, キ	〃
30	10／20	内臓学⑧	泌尿生殖器	C-3-4)／総Ⅱ-1-カ	〃
31	10／20	局所解剖学８	人体解剖学実習８のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
32	10／27	内臓学⑨	内分泌器	C-3-4)／総Ⅱ-1-ク	〃
33	10／27	局所解剖学９	人体解剖学実習９のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34	11／10	内臓学⑩	内臓学のまとめ	C-3-4)／総Ⅱ-1-ア～ク	①
35	11／10	局所解剖学10	人体解剖学実習10のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
36	11／17	発生①	鰓弓	C-3-2)／総Ⅱ-9-ア	②
37	11／17	局所解剖学11	人体解剖学実習11のための解説	C-3-4)／必5-ア	①
38	11／24	発生②	顎顔面の発生	C-3-2)／総Ⅱ-9-ア	②
39	11／24	局所解剖学12	人体解剖学実習12のための解説	C-3-4)／必5-ア	①
40	12／1	局所解剖学13	人体解剖学実習13のための解説	C-3-4)／必5-ア	〃
41	12／1	臨床解剖①	咀嚼嚥下の機能解剖	E-2-1)／総Ⅱ-4-キ	④
42	12／8	局所解剖学14	人体解剖学実習14のための解説	C-3-4)／必5-ア	①
43	12／8	発生③	舌	C-3-2)／総Ⅱ-9-ア	③
44	12／15	局所解剖学15	人体解剖学実習15のための解説	C-3-4)／必5-ア	①
45	12／15	臨床解剖②	頭頚部の臨床解剖	E-2-1)／総Ⅱ-4-キ	⑤

解剖学実習（後期・１単位）

D②③－1401

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③佐藤　功二（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体を用いた肉眼解剖学の実習を行う。この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。人体の構造についての知識を深めるだけでなく，医の倫理を考え，死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な解剖学の「知識」を関連付けて理解するだけでなく，実習期間中に各班がプレゼンテーションを行うことにより「研究志向と解決力」を涵養する。

3. 到達目標

1）身体の部位と方向用語を説明できる。
2）身体を構成する器官系について説明できる。
3）人体の骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明できる。

4. 履修の進め方

特に頭頚部を中心とした人体解剖実習を行う。各回の内容手順は事前にプリントを「授業資料提示システム」にアップロードしておくとともに，実習前に講義により手順の解説を行う。また，班ごとに指定された課題について期間中に１回のプレゼンテーションを行う。

5. 準備学修

事前に教科書，プリントで解剖手順を確認しておくとともに（15分），総括的評価のために前回実習内容を復習をしておく（30分）。実習の第１回目に各班の課題を提示するので発表日までに班ごとにプレゼンテーションの準備を行う。

6. 評価方法

毎回講義前に行う前回内容のCBT-Medicalによる小テスト（70％），各班１回のプレゼンテーション（15％）と態度評価（15％）の合計が65点以上を合格とする。フィードバックはCBT-Medicalにおいて正答を開示する。プレゼンテーション評価基準については実習の第１回目で説明する。態度評価は欠席１回について５点減点とする。

7. 教本

寺田春水，藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂
佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第１版 MEDSi

8. 参考書

上條雍彦著「口腔解剖学１～５」 アナトーム社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	9／1	人体解剖学実習１	解剖実習オリエンテーション，体表観察 頚部皮神経・皮静脈	C-3-4)／必5-ア	① ②
5 6 7 8	9／8	人体解剖学実習２	頚部浅層・中層の筋･脈管･神経浅胸筋，腹部の筋	C-3-4)，E-2-1)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9 10 11 12	9／15	人体解剖学実習３	頚部深層の筋・脈管・神経，甲状腺，腋窩，大腿伸筋，大腿三角	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	① ②
13 14 15 16	9／22	人体解剖学実習４	耳下腺，顔面神経，鎖骨下動静脈，腕神経叢，上肢屈筋	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
17 18 19 20	9／29	人体解剖学実習５	表情筋，顔面動静脈，肺，開胸	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
21 22 23 24	10／6	人体解剖学実習６	耳下腺神経叢顔面動静脈，後縦隔，心臓	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
25 26 27 28	10／13	人体解剖学実習７	顔面神経，舌骨上筋，開腹腹部動脈	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
29 30 31 32	10／20	人体解剖学実習８	後頭筋浅層，背部の浅層・中層の筋	C-3-4)／ 必5-ア	〃
33 34 35 36	10／27	人体解剖学実習９	後頭下三角，頭部切断，脊髄，殿部深層	C-3-4)／ 必5-ア	〃
37 38 39 40	11／10	人体解剖学実習10	咽頭，頭部矢状断，腹部内臓	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
41 42 43 44	11／17	人体解剖学実習11	眼窩，舌，鼻腔，後腹壁，横隔膜腰神経叢	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
45 46 47 48	11／24	人体解剖学実習12	咀嚼筋，顎動脈，骨盤内臓	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
49 50 51 52	12／1	人体解剖学実習13	顎関節，側頭下窩，下顎管中枢神経	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	〃
53 54 55 56	12／8	人体解剖学実習14	口蓋，舌下神経管，三叉神経，喉頭，気管	E-2-1)／ 必5-ア	① ② ③
57 58 59 60	12／15	人体解剖学実習15	三叉神経，副鼻腔，後片付け及び納棺	C-3-4)， E-2-1)／ 必5-ア	① ②

口腔組織学（通年・４単位）

D③－1303

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）
科目担当者：①安部　仁晴（組織），②中川　敏浩（組織），
③荒木　啓吾（組織），④山本　　仁（客員）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

組織学は，細胞・組織・器官について，正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として，細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と，受精に始まり，死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学があり，この二つの分野を包括的に捉えて講義する。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において，如何に知識を融合させて修得できるか否かが，歯科医師としての成否を握っているといっても過言ではない。本教科は，他の基礎科目の基盤であり，さらに診断や治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

2. 一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために，細胞，組織，人体諸器官，さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ，それらの発生過程，加齢変化を理解する。

3. 到達目標

1）細胞および上皮，結合，軟骨，骨，筋，神経組織の構造と機能を説明する。
2）消化器，呼吸器，循環器，免疫性器官，内分泌器，泌尿生殖器，感覚器，中枢神経系各器官の構造と機能を説明する。
3）歯と歯周組織および口腔周囲器官の微細構造と機能を説明する。
4）顔面と口腔の発生および加齢変化を説明する。

4. 履修の進め方

講義を主体として，媒体には穴埋めプリント，スライド，コンピュター画像，教科書，参考図書を用いて，細胞や組織像について説明を加える。

5. 準備学修

事前に当日の授業内容に関して，教科書を一読してくる（事前学習：20分）。講義後は，ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ，細胞や組織の特徴と機能を把握する（事後学習：20分）。また，疑問点は，オフィスアワーを活用して解決する。

6. 評価方法

組織学では総論（前期中間試験）と各論（前期定期試験），口腔組織学では発生学，歯の三硬組織と歯髄（後期中間試験），歯周組織，口腔諸器官，歯の発生および加齢変化（後期定期試験）において，計４回の記述試験（各25%）を行い，65点以上で合格とする。フィードバックは，不合格者に答案を開示して解説を行う。

7. 教本

磯川桂太郎，渡邊弘樹 他著「組織学・口腔組織学」第４版 わかば出版 2018

8. 参考書

藤田尚男 藤田恒夫著「標準組織学」総論 各論 医学書院 2002

Alan Stevens著 内山安男 他訳「人体組織学」原書第２版 南江堂 2004

脇田　稔 他編「口腔組織・発生学」第２版 医歯薬出版 2015

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	組織学総論，細胞学（1）	組織学の研究手法 核の構造と機能	C-2-3)／必5-ア	①
2	4／12	細胞学（2）	細胞小器官の構造と機能（1）	C-2-3)／必5-ア	〃
3	4／19	細胞学（3）	細胞小器官の構造と機能（2）	C-2-3)／必5-ア	〃
4	4／19	細胞学（4）	細胞骨格の構造，細胞膜の構造と機能	C-2-3)，4)／必5-ア	〃
5	4／26	細胞学（5）	細胞周期と細胞分裂，接着装置と接着分子	C-2-3)／必5-ア	〃
6	4／26	上皮組織（1）	上皮の形態的分類とその特徴，機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
7	5／10	上皮組織（2）	上皮の機能的分類，基底膜	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
8	5／10	腺組織	外分泌腺の一般構造と分泌様式	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ6-オ	〃
9	5／17	結合組織（1）	結合組織の分類と存在する線維の種類	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
10	5／17	結合組織（2）	結合組織に存在する細胞の特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
11	5／24	軟骨組織	軟骨組織の分類と特徴および微細構造	C-3-4)／必5-ア	〃
12	5／24	骨組織（1）	骨組織の組織学的特徴とリモデリング	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
13	5／31	骨組織（2）	骨芽細胞，骨細胞，破骨細胞の特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ，9-ウ	〃
14	5／31	骨組織（3）	骨の発生と石灰化機序	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ9-ウ	〃
15	6／7	血液	血液とリンパの成分	C-3-4)／必5-ア	〃
16	6／7	造血器	造血器と血球の形成過程	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-オ	〃
17	6／14	筋組織（1）	骨格筋の構造と収縮機構	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
18	6／14	筋組織（2）	心筋と平滑筋の特徴および微細構造	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
19	6／21	神経組織（1）	神経細胞の分類と微細構造	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
20	6／21	神経組織（2）	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	①
21	6／28	神経系	中枢神経と末梢神経の組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
22	6／28	循環器系	血管系の構造と特徴および差異	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ウ	〃
23	7／5	消化器系（1）	消化管の基本構造 食道，胃の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
24	7／5	消化器系（2）	小腸，大腸の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
25	7／12	消化器系（3）	肝臓，膵臓の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
26	7／12	呼吸器系	鼻腔，気管，肺の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ウ	〃
27	7／19	泌尿器系	腎臓，膀胱の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-カ	〃
28	7／19	内分泌系（1）	下垂体，甲状腺の構造と分泌するホルモン	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ク	②
29	7／26	内分泌系（2）	副腎，副甲状腺，松果体の構造と分泌するホルモン	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ク	〃
30	7／26	免疫系	免疫に関与する細胞の組織学的特徴と機能 リンパ節，胸腺，脾臓の特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ3-ア	〃
31	9／6	感覚器系（1）	嗅覚器の特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	③
32	9／6	感覚器系（2）	視覚器の組織学的特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
33	9／13	感覚器系（3）	聴覚・平衡感覚器の特徴と機能	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
34	9／13	生殖器系（1）	男性生殖器の構造と機能 精子の形成過程	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-カ	①
35	9／20	生殖器系（2）	女性生殖器の構造と機能 卵子の形成過程	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-カ	〃
36	9／20	顎・顔面の発生（1）	個体発生，器官発生	C-3-2)／必6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
37	9／27	顎・顔面の発生（2）	鰓弓，鰓嚢，鰓溝から形成される組織	E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	①
38	9／27	顎・顔面の発生（3）	顔面と口蓋の形成	E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
39	10／4	顎・顔面の発生（4）	舌，唾液腺，甲状腺，下垂体の発生	E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
40	10／4	エナメル質（1）	エナメル質の基本構造	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
41	10／11	エナメル質（2）	エナメル質の成長線と構造物	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
42	10／11	象牙質（1）	象牙質の基本構造と石灰化機構	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
43	10／18	象牙質（2）	象牙質の成長線と構造物	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
44	10／18	歯髄（1）	歯髄にみられる細胞と線維	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
45	10／25	歯髄（2）	歯髄表層の構造，歯髄の脈管と神経	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
46	10／25	セメント質	セメント質の基本構造，分類と形成過程	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
47	11／1	歯根膜（1）	歯根膜の細胞と機能	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
48	11／1	歯根膜（2）	歯根膜線維の種類と走行	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
49	11／8	歯肉	歯肉の分類と上皮の組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
50	11／8	歯槽骨	歯槽骨の区分と形態学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	②
51	11／15	皮膚と粘膜，口腔粘膜	皮膚と粘膜の基本構造，口腔粘膜の分類と特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
52	11／15	顎関節と扁桃	顎関節，扁桃の構造と組織学的特徴	E-2-1)／必5-ア 総Ⅱ4-イ，オ	〃
53	11／22	舌，口蓋	舌，硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
54	11／22	唾液腺	大唾液腺，小唾液腺の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
55	11／29	歯の発生（1）	歯胚の構造と分化	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	④
56	11／29	歯の発生（2）	歯根および歯周組織の発生	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	〃
57	12／6	歯の発生（3）	エナメル質の形成と石灰化	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	①
58	12／6	歯の発生（4）	象牙質の形成と石灰化	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	〃
59	12／13	口腔の加齢変化（1）	歯と歯周組織の加齢変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各Ⅴ2-イ	〃
60	12／13	口腔の加齢変化（2）	唾液腺，舌，顎関節の加齢変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各Ⅴ2-イ	〃

口腔組織学実習（後期・１単位）

D②③－1403

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）
科目担当者：①安部　仁晴（組織），②中川　敏浩（組織），
③荒木　啓吾（組織），④山本　　仁（客員），
⑤釜田　　朗（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

近年の歯科医学は，疾患の原因，病状の把握，更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては，病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから，その基盤となる組織学，口腔組織学の修得が重要となる。本実習は，上皮，結合，筋，神経などの総論，消化器，呼吸器，循環器，内分泌などの各論，歯，歯周組織，舌，唾液腺，口蓋，扁桃，歯の発生などの口腔組織について実習する。本実習は，講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し，理解を深めることが主たる目的である。

2. 一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために，光学顕微鏡を用いて，細胞，組織の正常構造，歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造，それらの発生過程の知識を修得する。

3. 到達目標

1）上皮，腺，軟骨，骨，筋，血液，血管，神経の各細胞と組織について，各部の名称と機能を説明する。
2）消化器系，呼吸器系，内分泌系，泌尿生殖器系，感覚器系，中枢神経系の器官について，組織の構造と機能を説明する。
3）歯の研磨標本と脱灰標本を観察し，エナメル質，象牙質，セメント質の微細構造を説明する。
4）歯周組織の微細構造と組織学的特徴を説明する。
5）歯の発生の標本からエナメル質，象牙質，セメント質，歯周組織の形成機構を説明する。
6）口腔粘膜，唾液腺，舌，口蓋，扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を説明する。

4. 履修の進め方

毎回画像説明を中心とした実習前講義を受け，各種細胞，組織の形態学的特徴を把握し，スケッチを行う。なお，媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書，参考図書，スライド，PC画像，講義プリント等を使用する。

5. 準備学修

「組織学・口腔組織学実習の指針」を一読し，当日の実習内容を把握する。実習の指針に沿った内容で，毎回小テストを行うので，内容は必ず把握しておく（事前学習：20分）。実習後は，実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し，講義で学んだ内容の理解を深める（事後学習：15分）。

6. 評価方法

組織学と口腔組織学の実習終了時に行う実習試験にて評価する。試験の合計点数（80%）に，リクワイアメント（20%）を加え最終評価とし，65点以上で合格とする。フィードバックは，答案を開示して行う。

7. 教本

磯川桂太郎 他編「カラーアトラス口腔組織発生学」第４版　わかば出版　2016
「組織学・口腔組織学実習の指針」教室作成　2022

8. 参考書

Paul R. Wheater著 柴崎晋 監訳「カラーアトラス組織学」西村書店　2010
相磯貞和 訳「人体組織図譜」原書第11版　南江堂　2011

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	9／6	上皮組織・筋組織	単層円柱上皮，多列線毛上皮，重層扁平上皮，平滑筋，骨格筋，心筋	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア，イ	① ② ③
5 6 7 8	9／13	軟骨組織・骨組織・骨の発生	硝子，弾性，線維軟骨 骨の研磨標本と膜内骨化，軟骨内骨化	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ，9-ウ	〃
9 10 11 12	9／20	消化器系①	食道，胃，小腸，大腸	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
13 14 15 16	9／27	消化器系②・泌尿器系	肝臓，膵臓，腎臓	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-エ，カ	① ② ③ ⑤
17 18 19 20	10／4	呼吸器系・中枢神経系	気管，肺，小脳，脊髄	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ウ，キ	① ② ③
21 22 23 24	10／11	血液・免疫系	血液の塗抹標本 リンパ節，脾臓，胸腺	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ3-ア	〃
25 26 27 28	10／18	内分泌系	副腎，甲状腺，下垂体	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ク	〃
29 30 31 32	10／25	一般組織のまとめ	各組織と各器官系のまとめ	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア～キ 総Ⅱ3-ア	〃
33 34 35 36	11／1	歯の研磨標本，脱灰標本	エナメル質，象牙質，セメント質の微細構造，歯髄の構造と細胞	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	① ② ③ ⑤
37 38 39 40	11／8	歯周組織	歯根膜，歯肉，歯槽骨の微細構造	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	① ② ③
41 42 43 44	11／15	口唇，扁桃	口唇，舌扁桃，口蓋扁桃の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
45 46 47 48	11／22	軟口蓋，舌	軟口蓋，舌乳頭(味蕾)の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
49 50 51 52	11／29	唾液腺	耳下腺，顎下腺，舌下腺の組織学的差異	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	① ② ③ ④
53 54 55 56	12／6	歯の発生	蕾状期，帽状期，鐘状期の歯胚 エナメル質，象牙質の形成	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	① ② ③ ⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
57 58 59 60	12／13	口腔組織学のまとめ	歯と歯周組織および口腔諸器官のまとめ	E-2-2)， -3-1)／ 必5ア，6-ウ 総Ⅱ4-オ， 5-イ，9-イ	① ② ③

口腔生理学Ⅰ（通年・３単位）

D③－1304

科目責任者：川合　宏仁（生理・教授）
科目担当者：①川合　宏仁（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は，細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され，その修復が困難な時に病気となる。それゆえ，正しい治療や予防措置を施すためには，病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり，それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することことはできないと言ってよい。講義には，近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち，独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され，多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として，生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学，あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では，臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し，把握することを目標とする。したがって，学習に際しては，基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では，顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては，種々の生命現象を営む生体の機構，特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき，また，各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること，および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために，生体機能，生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

１）生命現象を営む生体の機構を説明できる。
２）各器官の協調活動を説明できる。
３）歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し，人体の構造，詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため，これらの科目と連動させて学習すること。予習は，シラバスで内容を確認して，教科書・参考書で学習する（10分）。復習は，講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する（40分）。履修後は，すべての科目につながるため，繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験，および後期の中間試験と定期試験の各試験において，65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

前期の定期試験，および後期の中間試験と定期試験の合計

3回の平均点が，65点以上獲得した者を進級とする。

後期の中間試験の施行日に関しては，講義の進行具合をみて，変更することがあるので注意すること。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版　学建書院　2014

岩田幸一・井上富雄ほか 編　第7版「基礎歯科生理学」医歯薬出版　2020

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	口腔生理学総論	口腔生理機能の意義および特徴	E-2-4)／各Ⅳ-1	③
2	4／20	興奮性組織(Ⅰ)	興奮性細胞の基本動作	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
3	4／27	興奮性組織(Ⅱ)	刺激と興奮のしくみ	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
4	5／11	興奮性組織(Ⅲ)	イオンチャネル，活動電位発生のメカニズム	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
5	5／18	興奮性組織(Ⅳ)	興奮伝導のメカニズム	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
6	5／25	シナプス伝達	シナプスの種類と構造，伝達の特徴，神経伝達物質	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
7	6／1	感覚(Ⅰ)	感覚受容器と感覚の種類，感覚神経	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
8	6／8	感覚(Ⅱ)	体性感覚(触・圧・温度・痛覚)	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
9	6／15	感覚(Ⅲ)	特殊感覚(視覚，聴覚，平衡感覚・嗅覚)	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
10	6／22	咀嚼(Ⅰ)	咀嚼の生理的意義，咀嚼運動	E-2-1)／総Ⅳ-3	〃
11	6／29	咀嚼(Ⅱ)	咀嚼運動の神経・筋機構	E-2-1)／総Ⅳ-3	〃
12	7／6	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅰ)	歯髄感覚と歯痛，歯根膜感覚	C-2-3)／総Ⅲ-1	③
13	7／13	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅱ)	顎顔面領域・口腔領域の体性感覚	E-2-1)／総Ⅳ-1，3	〃
14	7／20	自律機能(Ⅰ)	自律神経系の構造，性質	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
15	7／27	自律機能(Ⅱ)	自律神経の中枢性調節	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
16	9／7	神経束の興奮伝導	末梢神経伝導検査・局所麻酔	C-2-3)／総Ⅲ-1 C-3-4)／必12-カa	③
17	9／7	血液(Ⅰ)	血液の役割	C-3-4)／総Ⅴ-6-ア	①
18	9／14	血液(Ⅱ)	細胞成分の種類と役割	C-3-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
19	9／14	血液(Ⅲ)	血漿成分と機能	C-3-4)／総Ⅴ-6-ア	①
20	9／21	循環(Ⅰ)	体循環と肺循環，血管の特性	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
21	9／21	循環(Ⅱ)	心臓の構造と心筋の特性	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
22	9／28	循環(Ⅲ)	刺激興奮伝達系	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
23	9／28	循環(Ⅳ)	血圧と心拍の調節	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
24	10／5	呼吸(Ⅰ)	呼吸器の形態と呼吸運動	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
25	10／5	呼吸(Ⅱ)	ガスの交換・運搬，酸塩基平衡	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
26	10／12	呼吸(Ⅲ)	呼吸器の形態と呼吸運動	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
27	10／12	呼吸(Ⅳ)	スパイロメーターと肺気量	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
28	10／19	味覚(Ⅰ)	味覚受容機構と中枢機序	E-2-2)／総Ⅱ-6-ア	③
29	10／19	味覚(Ⅱ)	味覚障害と歯科臨床における味覚	E-2-2)／総Ⅱ-6-ア	〃
30	10／26	咬合・下顎位	生理的咬合・下顎位の種類	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
31	10／26	唾液(Ⅰ)	唾液腺，唾液の種類と性状	E-2-2)／総Ⅳ-1，3，5	②
32	11／2	唾液(Ⅱ)	唾液腺の分泌機構と機能，唾液の生成機序	E-2-2)／総Ⅳ-1，3，5	〃
33	11／2	唾液(Ⅲ)	唾液腺の代謝と血流，唾液と口腔疾患	E-2-2)／総Ⅳ-1，3，5	〃
34	11／9	心筋・平滑筋の収縮	心筋・平滑筋の構造，効果器としての役割	E-2-2)／総Ⅳ-2，3	③
35	11／9	顎運動(Ⅰ)	咀嚼筋と顎関節の役割，咬合と下顎位	E-2-1)／総Ⅳ-1，3	〃
36	11／16	内分泌(Ⅰ)	ホルモンの種類と受容・作用機序	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
37	11／16	内分泌(Ⅱ)	ホルモンの働きと機能，生体恒常性の液性調節	E-2-1)／総Ⅳ-1，3 C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
38	11／30	顎運動(Ⅱ)	顎運動の神経機構，顎反射Ⅰ 顎運動の筋機構，顎反射Ⅱ	E-2-1)／総Ⅳ-1，3	③
39	11／30	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構 舌反射，舌運動の神経・筋機構	E-2-2)／総Ⅳ-3	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40	12／7	内分泌(Ⅲ)	神経ー液性調節の仕組み	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
41	12／7	内分泌(Ⅳ)	内分泌のまとめ	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
42	12／14	消化と吸収(Ⅰ)	胃腸の構造と運動および神経支配	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
43	12／14	消化と吸収(Ⅱ)	消化液と栄養分の吸収	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
44	12／21	受容体	自律神経のシナプスと受容体	C-2-3)／総Ⅲ-3	③
45	12／21	まとめ	興奮性組織のまとめ	C-2-3)／総Ⅲ-1 E-2-2)／総Ⅳ-2, 3	〃

口腔生理学実習（後期・１単位）

D②③－0401

科目責任者：川合　宏仁（生理・教授）
科目担当者：①川合　宏仁（生理），②大須賀謙二（生理），③古山　　昭（生理），④山崎　信也（麻酔），⑤富田　祐介（非常勤）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学実習の意義は，学生が講義で学んだことを目でみて理解することにある。講義で習得した知識を自ら実習で実証し，体系化した知識にして一層の理解を深めることである。

実習では，動物あるいはヒトを対象に，いろいろな道具を用いて生物現象，運動および感覚機序がどのようなものであるかを体験し，教科書や講義の内容を十分に理解することが重要である。

実習を通じて，創意工夫を養い，注意深い観察，記録，考察ができるように努力することが必要である。

2. 一般目標

生体機能と生命機能の理解を深めるために，全身および口腔の機能について実体験する。

3. 到達目標

1）心電図を測定できる。
2）呼吸機能を測定できる。
3）神経の興奮伝導速度を測定できる。
4）筋の収縮機能を説明できる。
5）血圧を測定できる。
6）味覚閾値を測定できる。
7）感覚点を測定できる。
8）２点弁別閾を測定できる。
9）咀嚼能率を測定できる。
10）出血時間を測定できる。
11）血液型を判定できる。

4. 履修の進め方

本実習では，一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は，大きく４グループに分かれ各グループ毎に実習する。内容は，臨床に結びつく内容のため，実習と講義を織り交ぜながら学習する。実習後は，レポート作成を行い，復習を兼ねて，学生自ら知識の総まとめを行う。

5. 準備学修

オリエンテーション時に配布する実習予定表を確認して実習内容の予習を行う（10分）。実習後に課せられた課題について復習し，分からない点は解決するように努力する（60分）。

6. 評価方法

全出席をすることが実習試験の受験資格となる。

各グループで行う到達目標１）～ 11）をクリアした場合，40点満点として評価する。

各グループで課せられたレポートを30点満点として評価する。

各グループから出題された実習試験の結果を30点満点として評価する。

各グループ毎に，採点された結果を平均して，65点以上を合格とする。

レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

7. 教本

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編　令和３年度版

8. 参考書

「ビジュアル　生理学・口腔生理学　第３版」学建書院
「基礎　歯科生理学　第７版」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／7	オリエンテーション	生理学実習を行う際の心構え，留意事項，レポート提出方法を伝達し，動物実験の３Ｒについて説明する。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	① 〜 ⑤
4 5 6	9／14 〜 10／19	口腔内体性感覚	刺激毛，針，熱伝導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また，歯牙の触域値と位置感覚についても検査する。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	〃
7 8 9	9／14 〜 10／19	咀嚼機能	篩分法により咀嚼能率を求め，咀嚼能率に影響する因子を考える。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	〃
10 11 12	9／14 〜 10／19	血圧測定	触診法，聴診法による血圧測定を学ぶ。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	〃
13 14 15	9／14 〜 10／19	出血時間測定と血液型判定	出血時間の測定方法と血液型判定法を行い，そのしくみと判定する機序について学ぶ。	C-3-4)， E-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅳ-1-ウ，オ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-3-ア， 総Ⅵ-4-ア	〃
16 17 18	9／14 〜 10／19	神経束の興奮伝導	カエルの坐骨神経標本による活動電位を記録後，興奮伝導速度を測定し，不応期および麻酔効果について学ぶ。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	〃
19 20 21					
22 23 24	10／26	実習試験１回目	実習内容に対する筆記試験		〃
25 26 27	11／2 〜 12／14	換気機能	スパイロメータを用いて，時間肺活量を測定後，努力性肺活量や１秒率を評価し換気機能障害について考察する。	C-3-4)， E-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅳ-1-ウ，オ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-3-ア， 総Ⅵ-4-ア	① 〜 ⑤
28 29 30	11／2 〜 12／14	骨格筋の収縮	ヒトとカエルの骨格筋の収縮を観察し，筋収縮機構について考察する。	C-3-4)， E-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅳ-1-ウ，オ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-3-ア， 総Ⅵ-4-ア	〃
31 32 33	11／2 〜 12／14	味覚	味覚感受性について，全口腔法，ろ紙法，あるいは電気味覚法により，閾値を調べ個人差を検討する。	C-3-4)， E-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅳ-1-ウ，オ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-3-ア， 総Ⅵ-4-ア	〃
34 35 36	11／2 〜 12／14	心電図	心電図を採得し，臨床生理学的意味を考察する。	C-3-4)， E-2-2)， F-2-2)／ 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-8-ウ， 総Ⅳ-1-ウ， 総Ⅵ-1-イ， 総Ⅵ-4-ア	〃
37 38 39					
40 41 42					
43 44 45	12／21	実習試験２回目	実習内容に対する筆記試験		〃

口腔生化学Ⅰ（後期・１単位）

D③－1305

科目責任者：加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：①加藤　靖正（生化），②前田　豊信（生化）

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが，生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ，糖やアミノ酸，リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅰでは，一般生化学として代謝を中心に学習し，医師やパラメディカルスタッフなどの医療従事者との間で共通の認識を養うことを目的とする。また，３年次で行われる口腔生化学Ⅱを理解するのに必要な知識の整理を行う。

2. 一般目標

生体を構成する成分や機能について，個々に理解を深めるとともに，異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また，代謝の破たんが原因となる疾患については，その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

3. 到達目標

１）生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
２）遺伝情報の保存と発現について説明できる。
３）代謝における酵素の働きを説明できる。
４）糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
５）糖新性，脂質合成の機序を説明できる。
６）代謝の破たんと疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

4. 履修の進め方

予　習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
講　義：予習内容の確認と知識の整理を行う。また，予習中に見出された疑問点を解決する。
復　習：学修内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）を読み，予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験で65点以上を合格とする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学　第６版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／７	核酸Ⅰ	核酸の種類と構造，半保存的複製	C-2／必5-ア	②
2	９／14	核酸Ⅱ	PCRの原理，遺伝子発現，タンパク質合成	C-2／必5-ア	〃
3	９／21	核酸Ⅲ	ヌクレオチド代謝，痛風，Lesch-Nyhan症候群	C-2／必5-ア	〃
4	９／28	糖質Ⅰ	グリコシド結合とグリコシダーゼ，解糖系	C-2／必5-ア	①
5	10／５	糖質Ⅱ	シャトル，嫌気的解糖，好気的解糖	C-2／必5-ア	〃
6	10／12	糖質Ⅲ	酸化的リン酸化，電子伝達系	C-2／必5-ア	〃
7	10／19	糖質Ⅳ	基質準位のリン酸化，エネルギー収支	C-2／必5-ア	〃
8	10／26	糖質Ⅴ	ペントースリン酸経路，糖新性	C-2／必5-ア	〃
9	11／２	糖質Ⅵ	血糖調節	C-2／必5-ア	〃
10	11／９	脂質Ⅰ	脂質の分類，細胞膜とリン脂質，脂質の輸送	C-2／必5-ア	〃
11	11／16	脂質Ⅱ	脂質の消化吸収とリポ蛋白質	C-2／必5-ア	〃
12	11／30	脂質Ⅲ	脂肪酸代謝（β酸化），飢餓と糖尿病とアシドーシス	C-2／必5-ア	〃
13	12／７	脂質Ⅳ	脂質の合成（脂肪酸，中性脂肪，グリセロリン脂質）	C-2／必5-ア	〃
14	12／14	脂質Ⅴ	脂質の合成（コレステロール）	C-2／必5-ア	〃
15	12／21	脂質Ⅵ	アラキドン酸代謝，エイコサノイド	C-2／必5-ア	〃

口腔感染免疫学Ⅰ（通年・２単位）

D③④－1501

科目責任者：清浦　有祐（感染・教授）
科目担当者：①清浦　有祐（感染），②玉井利代子（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで病原微生物を排除する。この免疫応答を担う白血球の様々な働きや抗体の作用について分子レベルまで掘り下げて詳しく説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

1）微生物の種類とその特性を理解する。
2）病原微生物の病原性を理解する。
3）滅菌，消毒及び化学療法について理解する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
5）微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

3. 到達目標

1）微生物の種類とその特性を説明する。
2）病原微生物の病原性を説明する。
3）滅菌，消毒及び化学療法について説明する。
4）微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に学習者に質問し，それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので，当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験（100点満点）で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し，学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第７版　学建書院　2021年

8. 参考書

標準微生物学　第14版　医学書院　2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスとその病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1-カ-b	②
2	4／15	微生物概論	微生物の種類とその特徴	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
3	4／22	細菌の形態	細菌の形態と構造	C-4-1)-①／必5-イ-b	〃
4	5／6	細菌の毒素	細菌の毒素	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
5	5／13	特殊な細菌	芽胞・リケッチア・クラミジア	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
6	5／20	細菌の遺伝学と生理学	細菌の遺伝子伝達と増殖メカニズム	C-4-1)-①／必5-イ-b	〃
7	5／27	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの特徴と種類	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	②
8	6／3	感染症	新興感染症・再興感染症・輸入感染症・院内感染	C-4-1)-③／総Ⅲ-1-カ-c	〃
9	6／10	細菌の病原因子	細菌の病原因子の特徴とその病原性のメカニズム	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
10	6／17	細菌感染症Ⅰ	AMRのメカニズムと感染症	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
11	6／24	細菌感染症Ⅱ	結核症	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
12	7／1	細菌感染症Ⅲ	抗酸菌感染症	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
13	7／8	細菌感染症Ⅳ	レンサ球菌感染症	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
14	7／15	細菌感染症Ⅴ	大腸菌・赤痢菌・マイコプラズマ感染症	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
15	7／22	真菌感染症	カンジダ症・クリプトコッカス症・アスペルギルス症・ニューモシスチス肺炎	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
16	9／5	滅菌	滅菌法の種類とその特徴	C-4-1)-④／必12-エ-a	〃
17	9／12	消毒	消毒法の種類とその特徴	C-4-1)-④／必12-エ-a	〃
18	9／26	ヘルペスウイルス	ヘルペスウイルスの種類	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
19	10／3	Ｂ型肝炎ウイルス	B型肝炎ウイルスの病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
20	10／17	Ｃ型肝炎ウイルス	C型肝炎ウイルスの病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
21	10／24	ヒト免疫不全ウイルス	ヒト免疫不全ウイルスの病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
22	10／31	ヒトT細胞白血病ウイルス	ヒトT細胞白血病ウイルスの病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
23	11／7	動物介在ウイルス感染症	節足動物などの動物を介するウイルス感染症	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
24	11／14	寄生虫感染症	原虫を含む寄生虫感染の種類	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
25	11／21	微生物に対する化学療法	抗ウイルス薬・抗真菌薬の種類と作用メカニズム	C-4-1)-⑤／総Ⅶ-8-ウ	〃
26	11／28	自然免疫	自然免疫の役割とその特徴	C-4-2)-①／総Ⅱ-3-ウ	①
27	12／5	獲得免疫	獲得免疫の役割とその特徴	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-a,b	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／12	抗原	抗原の種類とその特徴	C-4-2)-①，②，③／総Ⅱ-3-イ	〃
29	12／19	抗体Ⅰ	IgGとIgAについて	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-b	〃
30	12／20	抗体Ⅱ	IgEとIgM及びIgDについて	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-b	〃

歯科薬理学Ⅰ（後期・１単位）

D③④－1502

科目責任者：鈴木　礼子（薬理・准教授）
科目担当者：①鈴木　礼子（薬理），②柴田　達也（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学の履修意義は，歯科臨床において適切な処方ができ，また，患者が他科で処方された薬についても十分に理解できるようになることである。本科目では，薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学について，講義主体で学修する。

2. 一般目標

歯科医療現場において，個々の患者の背景を理解し，思いやりを持った言動ができるようになるため，更に，安全かつ適確に薬物を使用できるようになるため，薬理学の基礎的な知識を修得する。

3. 到達目標

1）薬理作用の基本形式と分類及び作用機序を説明できる。
2）薬理作用を規定する要因（用量と反応，感受性）を説明できる。
3）薬物動態（吸収，分布，代謝，排泄）を説明できる。
4）薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。
5）薬物の併用による影響（協力作用，拮抗作用）を説明できる。
6）薬物の連用による影響（耐性，蓄積及び薬物依存）を説明できる。
7）ライフステージに応じた，医薬品を適用する際の注意点を説明できる。
8）日本薬局方を説明できる。
9）医薬品の分類，毒薬・劇薬及び麻薬等の表示と保管を説明できる。
10）医薬品の開発と薬害を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体で，スライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に各回の授業内容を確認し，教科書の該当部分を読むこと。その際，授業内容に関連する基礎知識（既に他科目で学修した事項）で不確実な事項があれば，確認しておくこと（１時間）。授業後は，配布プリントの復習課題に取り組み，毎回の授業内容を確実にすること（１時間）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し，100点満点中65点以上で合格とする。試験のフィードバックは，正答の掲示等により適宜行う。

7. 教本

大谷啓一　監著　「現代歯科薬理学」第６版　医歯薬出版　2018

8. 参考書

鈴木邦明ほか　「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学」第２版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／２	薬理学総論1：薬物の作用1	薬理作用の基本形式・分類，薬物療法の種類	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	①
2	９／９	薬理学総論2：薬物の作用2	用量-反応関係	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	9／16	薬理学総論3：薬物の作用3	受容体を介する薬物の作用	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	①
4	9／30	薬理学総論4：薬物の作用4	受容体を介さない薬物の作用	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
5	10／7	薬理学総論5：薬物動態1	薬物の作用の復習と，薬物動態の概略	C-6-2),3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
6	10／14	薬理学総論6：薬物動態2	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
7	10／21	薬理学総論7：薬物の適用方法1	薬物動態の復習と，薬物の適用方法の概略	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
8	10／28	薬理学総論8：薬物の適用方法2	薬物の適用方法の種類と特徴	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
9	11／4	薬理学総論9：薬物の作用に影響を与える因子	薬物の効果に影響する因子，薬物の併用と連用	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
10	11／11	薬理学総論10：薬物と医薬品1	薬物の作用に影響を与える因子の復習と，日本薬局方	C-6-1)／必2-イ	〃
11	11／18	薬理学総論11：薬物と医薬品2	医薬品の分類，毒薬・劇薬及び麻薬等の表示と保管	C-6-1)／必2-イ	〃
12	11／25	薬理学総論12：医薬品を適用する際の注意	服薬指導，ライフステージと薬物	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
13	12／2	薬理学総論13：医薬品の開発・薬害	医薬品を適用する際の注意の復習と，医薬品の開発・薬害	C-6-4)／必2-ウ，ク，総Ⅶ-8-イ	〃
14	12／9	薬理学総論14：薬理学総論のまとめ1	問題演習と解説	C-6-1)～4)／必12-コ，総Ⅶ-8	① ②
15	12／16	薬理学総論15：薬理学総論のまとめ2	問題演習と解説	C-6-1)～4)／必12-コ，総Ⅶ-8	〃

生体材料・歯科材料学Ⅰ
（後期・２単位）

D③④－1503

科目責任者：岡田　英俊（材料・教授）
科目担当者：①岡田　英俊（材料），②石田　喜紀（材料），③大木　達也（材料），④齋藤　龍一（材料）

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料，無機材料，有機材料，およびこれらを複合した材料があり，印象用，模型用，義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は，これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学，化学，および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて，材料毎に所要性質，構成成分，その役割，物理化学的および機械的性質などを理解するとともに，それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで，治療に必要な機材，材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

1）歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
2）成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
3）さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し，視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また，学生は板書の内容，教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。各項目終了後に配布するプリントを解かせ，次回の授業で解説を行う。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）。

授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）。

6. 評価方法

定期試験で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は選択式とする。

7. 教本

中嶌　裕 他 「スタンダード歯科理工学第７版」 学建書院　2019年

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	歯科材料学総論（1）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	D-1,-2／総Ⅷ	①
2	9／2	歯科材料学総論（2）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	D-1,-2／総Ⅷ	〃
3	9／9	歯科材料学総論（3）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	D-1,-2／総Ⅷ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／9	歯科材料学総論(4)	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	D-1, -2／総Ⅷ	①
5	9／16	歯科材料学総論(5)	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	D-1, -2／総Ⅷ	〃
6	9／16	予防填塞材料	予防材料の成分と特性	D-2／総Ⅷ-5, 15	②
7	9／30	歯質の切削-1	歯質切削の理論と使用する機械・器材	D-1／総Ⅷ-2	〃
8	9／30	歯質の切削-2	歯質切削の理論と使用する機械・器材	D-1／総Ⅷ-2	〃
9	10／7	成形修復材-1	成形修復材の分類と所要性質	D-2／総Ⅷ-5	④
10	10／7	成形修復材-2	コンポジットレジンの成分，特性および操作法(1)	D-2／総Ⅷ-5	〃
11	10／14	成形修復材-3	コンポジットレジンの成分，特性および操作法(2)	D-2／総Ⅷ-5	〃
12	10／14	成形修復材-4	歯質接着理論	D-2／総Ⅷ-5	〃
13	10／21	成形修復材-5	酸処理剤	D-2／総Ⅷ-5	〃
14	10／21	成形修復材-6	接着性モノマー	D-2／総Ⅷ-5	〃
15	10／28	成形修復材-7	歯質に対する接着操作	D-2／総Ⅷ-5	〃
16	10／28	成形修復材-8	グラスアイオノマーセメント	D-2／総Ⅷ-5	〃
17	11／4	歯科用印象材-1	印象採得概説，印象材の分類および所要性質	D-2／総Ⅷ-3	③
18	11／4	歯科用印象材-2	弾性印象材の種類，成分および性質(1)	D-2／総Ⅷ-3	〃
19	11／11	歯科用印象材-3	弾性印象材の種類，成分および性質(2)	D-2／総Ⅷ-3	〃
20	11／11	歯科用印象材-4	弾性印象材の種類，成分および性質(3)	D-2／総Ⅷ-3	〃
21	11／18	歯科用印象材-5	弾性印象材の種類，成分および性質(4)	D-2／総Ⅷ-3	〃
22	11／18	歯科用印象材-6	非弾性印象材の種類，成分および性質	D-2／総Ⅷ-3	〃
23	11／25	歯科用模型材	模型材料の成分，特性および使用法	D-2／総Ⅷ-3	〃
24	11／25	歯科用合金-1	歯科用合金の種類と特性	D-1／総Ⅷ-6	①
25	12／2	歯科用合金-2	貴金属合金-1	D-1／総Ⅷ-6	〃
26	12／2	歯科用合金-3	貴金属合金-2	D-1／総Ⅷ-6	〃
27	12／9	歯科用合金-4	非貴金属合金	D-1／総Ⅷ-6	〃
28	12／9	歯科用合金-5	金属の熱処理，加工硬化	D-2／総Ⅷ-6	〃
29	12／16	歯科用合金-6	金属の接合	D-2／総Ⅷ-6	〃
30	12／16	矯正用材料	矯正用材料の成分と特性	D-2／総Ⅷ-6	②

公衆衛生学（後期・１単位）

D③－1306

科目責任者：小林美智代（衛生・講師）
科目担当者：①小林美智代（衛生）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

公衆衛生学は個人ではなく「集団」を主な対象とし，社会全体の健康増進と疾病予防に対する解決策を求めていく学問である。歯科医師は，公衆衛生の向上・増進に寄与することが求められる。本科目では，その基礎となる公衆衛生学の基本としくみ，疫学的手法による疾病への関わり，生活環境対策および人口問題などについて講義を行う。

2. 一般目標

学修者が歯科医師として必要な公衆衛生学的な考え方を学び，社会や環境が求める必要性に対して，的確に対応し解決できる能力を身につける。

3. 到達目標

１）健康の概念と予防の段階を説明出来る。
２）疫学の研究方法とその活用を説明出来る。
３）感染症の成り立ちとその予防策を説明出来る。
４）公害や地球環境破壊と健康との関わりを説明出来る。
５）食品衛生と栄養摂取基準を説明出来る。
６）人口構造の変化と疾病構造との関連を説明出来る。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当ページ）を読み，講義内容の概略を把握しておくこと。
講義：講義内容に関するプリントを配布するので，必要に応じて該当プリントに記録を取りながら履修する。
復習：学習内容を整理するとともに，講義中に行った練習問題の見直しを行う。もし疑問点があった際には教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

各回の講義範囲について教科書該当部分を読み，内容の概略を把握する（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し，65点以上を合格とする。

7. 教本

安井利一 他編　スタンダード衛生・公衆衛生　第17版　学建書院　2021

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／５	公衆衛生概論	公衆衛生学概要，公衆衛生学の歴史，国際保健協力	A-7-2)，B-1／必4-ア，総I-1-ア，総I-5-ア	①
2	９／12	公衆衛生と健康の概念	健康の定義と自然史，健康保持増進対策	B-1，B-3-1)／必2-ア，必4-ア，総I-1-ア，エ	〃
3	９／26	疫学Ⅰ	疫学の概念，疫学要因	B-4-1)／総論I-6-ア	〃
4	10／３	疫学Ⅱ	疫学の研究方法（記述疫学，分析疫学，実験疫学，臨床疫学）	B-4-1)／必2-ウ，総論I-6-ア	〃
5	10／17	疫学Ⅲ	疫学研究の実際（スクリーニング検査，統計手法）	B-4-1)／必2-ウ，総I-6-ア	①
6	10／24	授業前段総括	１～５回の講義範囲の総括と問題演習		〃
7	10／31	疾病予防と健康管理Ⅰ	疾病予防の概念，感染症の予防，感染症関連法規	A-6-3)，B-3-1)／総I-7-ア	〃
8	11／７	疾病予防と健康管理Ⅱ	院内感染の予防，生活習慣病の予防，保健医療の統計調査	A-6-3)，B-3-1)／必2－カ，総I-7-ア	〃
9	11／14	環境と健康Ⅰ	環境関連法規，環境問題，上下水道，大気と大気汚染	B-2-4)／総I-9-ア	〃
10	11／21	環境と健康Ⅱ	温熱環境，放射線，廃棄物	B-2-4)／総I-9-ア	〃
11	11／28	食生活と健康Ⅰ	日本人の食事摂取基準，食品保健	B-1／総1-8-ア，イ	〃
12	12／５	食生活と健康Ⅱ	食中毒の予防	B-1／総1-8-ア，イ	〃
13	12／12	人口問題Ⅰ	人口静態統計，人口指数，割合，生命表	B-4-2)／総I-6-イ	〃
14	12／19	人口問題Ⅱ	人口動態統計（出生，死亡の指標）	B-4-2)／総I-6-イ	〃
15	12／20	人口問題Ⅲ	社会環境と人口	B-4-2)／総I-6-イ	〃

第３学年

教養系教育・基礎科学教育科目

歯科医療管理学 …… 123
社会歯科学 …… 124
歯科医療人間学Ⅲ …… 125

生命科学教育科目

口腔生理学Ⅱ …… 126
口腔生化学Ⅱ …… 127
口腔生化学実習 …… 129
口腔病理学 …… 130
口腔病理学実習 …… 133
口腔感染免疫学Ⅱ …… 135
口腔感染免疫学実習 …… 136
歯科薬理学Ⅱ …… 137
歯科薬理学実習 …… 139
生体材料・歯科材料学Ⅱ …… 140
生体材料・歯科材料学実習 …… 141
口腔衛生学 …… 142
口腔衛生学実習 …… 144

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ …… 145
冠橋義歯補綴学Ⅰ …… 147
有床義歯補綴学Ⅰ …… 148
有床義歯補綴学Ⅰ実習 …… 150
口腔外科学Ⅰ …… 151
口腔内科学 …… 152
歯科放射線学Ⅰ …… 154
高齢者歯科学Ⅰ …… 155
災害歯科医学 …… 156
総合臨床医学 …… 157

歯科医療管理学（後期・１単位）

D①②－1702

科目責任者：大橋　明石（衛生・講師）
科目担当者：①大橋　明石（衛生），②瀬川　　洋（衛生）

1. 科目の概要

歯科医療管理学は，歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理 論管理論で捉え，それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問である。そこで，本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し，患者満足度を高めることにより，地域社会に貢献していくための実践的な知識を総合的に講義する。

2. 一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して，実践できるようする。

3. 到達目標

1）歯科医療管理の概要について説明できる。
2）歯科医師の義務について説明できる。
3）診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
4）医療安全確保，医療事故の回避及び発生後の原因追及について説明できる。
5）歯科診療所の開設・管理について説明できる。
6）感染の予防と管理について説明できる。
7）社会保障制度について説明できる。
8）国民医療費について説明できる。

4. 履修の進め方

講　義：授業内容に関するプリントを配布するので，必要に応じて当該プリントに記録を取りながら履修する。
復　習：授業内容に関する練習問題のプリントを配布するので，即日解答し，もしわからないことや疑問点があった際には教員に質問し，放置しないようにする。

5. 準備学修

前期に履修する社会歯科学と関連があるので，履修済みの内容に関しては復習しておくこと（30分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し，65点で合格とする。

7. 教本

［新版］歯科医療管理学　安全・安心・信頼の歯科医療を提供するために　第１版　医歯薬出版株式会社　2018

8. 参考書

スタンダード社会歯科学　第７版　学健書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／1	歯科医療管理学総論，歯科医師法①	歯科医療管理学とは，歯科医師法	B-2-1)-①／必-2-イ	①②
2	9／8	歯科医師法②医療情報管理	歯科医師の義務，診療録・電子診療録・SOAP，各種記録等保存期間と根拠法	B-2-1)-①／必-2-イ，B-4-3)／必-2-コ	①
3	9／15	医療法①	医療法に規定されている事項	B-2-1)-②／必-2-イ	〃
4	9／22	医療法②	医療計画①	B-2-1)-②／必-2-イ，総Ⅰ-1-エ	①
5	9／29	医療法③，歯科医療安全①	医療計画②，歯科診療所及び医療機関の開設と管理，ハインリッヒの法則・フールプルーフ・フェールセーフ，医療機関における医療安全対策，医療事故調査制度①	B-2-1)-②／必-2-イ，総Ⅰ-1-エ，A-6-2)／必-2-オ	〃
6	10／6	歯科医療安全②	医療機関における医療安全対策，医療事故調査制度②，感染予防管理，医療廃棄物管理	A-6-2)／必-2-オ	〃
7	10／13	歯科医療事故への対応	医療過誤の民事・刑事・行政責任	A-6-3)／必-2-カ	〃
8	10／20	社会保障制度①	社会保障とは社会保障の種類，社会保険とは，社会保険の種類，医療保険①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
9	10／27	社会保障制度②	医療保険②	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
10	11／10	社会保障制度③	医療保険③，年金保険	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
11	11／17	社会保障制度④	社会保障給付費，国民医療費	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
12	11／24	社会保障制度⑤	公的扶助，社会福祉①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
13	12／1	社会保障制度⑥	公的扶助，社会福祉②，介護保険①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
14	12／8	社会保障制度⑦	介護保険②	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
15	12／15	社会保障制度⑧，歯科医療管理学のまとめ	介護保険③，地域包括ケアシステム，歯科医療管理学のまとめ	A-7-1)，B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	①②

社会歯科学（前期・１単位）

D①②－1701

科目責任者：南　健太郎（衛生・講師）
科目担当者：①南　健太郎（衛生），②瀬川　　洋（衛生），
③矢野　淳也（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

社会歯科学は，歯科医師が歯科医療と保健指導を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では，歯科医師として当然具備すべき法律の知識や社会情勢の変遷について学ぶ。

2. 一般目標

学修者は歯科医師として稼働するのに必要な法的知識と社会保障制度について学び，社会の変化やニーズに対応できる基礎的能力を習得する。

3. 到達目標

学修者は以下の到達目標を説明できる。
１）わが国の行政機構を説明できる。
２）歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
３）歯科医療関連法規を説明できる。
４）社会保障制度を説明できる。
５）医療保険制度と国民医療費を説明できる。
６）わが国の社会構造の変化に伴う歯科医療・保健の変化を説明できる。

4. 履修の進め方

スライド，配布資料を使用して，教科書の内容をより分かりやすく解説する。

5. 準備学修

教科書（シラバスより授業内容を確認）をよく読み，講義の内容を把握しておくこと（15分）学習した内容を整理し，疑問点がないか確認すること。(30分)

6. 評価方法

定期試験で評価し，65％以上で合格とする。

7. 教本

石井拓男　他　編　スタンダード社会歯科学　第７版　学研書院

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	A-1-1)／必1-ア，必2ウ，A1-1-2)／必イ	①②
2	4／18	医療と法律	歯科医療と法令	A-1-3)，A-6-2)，B-2-1)／必2-キ	①
3	4／25	医療と法律	歯科医師法-1	B-2-1)／必2-イ	〃
4	5／9	医療と法律	歯科医師法-2 歯科衛生士法 歯科技工士法	B-2-1)／必2-イ	〃
5	5／16	医療と法律	医療法	A-7-1)，B-2-1)／必2-ウ，3-1	〃
6	5／23	医療と法律	チーム医療の実践医療の質と安全管理	A-5-1)／必3-ア，イ B-2-1)／必2-イ，必4-イ	①
7	5／30	医療と法律	薬事衛生法規 衛生行政	B-2-1)／必2-イ，必4-イ	〃
8	6／6	医療と法律	衛生行政その他の衛生法規	B-2-2)／必3-ア，イ	〃
9	6／13	社会保険制度	社会保険制度（概要１）	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	③
10	6／20	社会保険制度	社会保険制度（概要２）	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
11	6／27	社会保障制度	社会保険制度（医療）	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	①
12	7／4	社会保障制度	社会保険制度（年金・雇用）	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
13	7／11	社会保障制度	社会保険制度（介護）地域包括ケアシステム	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア，総1-1-オ	〃
14	7／25	社会保障制度	社会保障制度（生活保護，社会福祉）	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	〃
15	7／29	国民医療費	国民医療費	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅲ（前期・１単位）

D①－0103

科目責任者：清野　晃孝（病院・准教授）
科目担当者：①清野　晃孝（病院），②中川　敏浩（組織），
③長岡　正博（薬理），④吉田いくよ（非常勤），
⑤鈴木　俊子（非常勤），⑥本多　真史（日本語）
※この科目は，診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である。

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

3. 到達目標

１）医療現場でのルールを理解する。
２）医療人として謙虚な態度を示す。
３）患者の訴えを正確に聞き取る。
４）基本的な会話で診療室情報を尋ねる。

4. 履修の進め方

講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前にシラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。参考書や参考資料は特にないが配付したプリント活用して自然に実践できるように日々訓練をする。(30分)

6. 評価方法

最終日のビデオ撮影や記述式試験，客観的試験により平均値を算出し65点以上を合格とする。

7. 教本

特になし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	オリエンテーション	３年次の歯科医療人間学の目的を概説する	A-1-1)／必-1・2	①〜⑥
2	4／21	ある医療事故から(KJ法)	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る	A-6-3)／必-2-オ	①②③
3	4／28	ある医療事故から(KJ完成)	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る	A-6-3)／必-2-オ	〃
4	5／12	３－A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅰ	コミュニケーションの復習と実践・演習	A-4-1)／必-12	⑥
〃	5／12	３－B 聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	A-4-1)／必-12	④⑤③
5	5／19	３－A 聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	A-4-1)／必-12	〃
〃	5／19	３－B 口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅰ	コミュニケーションの復習と実践・演習	A-4-1)／必-12	⑥
6	5／26	３－A 聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	A-4-1)／必-12	④⑤③
〃	5／26	３－B口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅱ	好感度，信頼度アップの会話とは？	A-4-1)／必-12	⑥
7	6／2	３－A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅱ	好感度，信頼度アップの会話とは？	A-4-1)／必-12	〃
〃	6／2	３－B 聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	A-4-1)／必-12	④⑤③
8	6／9	３－A パワーパフォーマンスを身に付けようⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	A-4-1)／必-12	〃
〃	6／9	３－B 医療面接に向けて①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	A-4-1)／必-12	⑥
9	6／16	３－A 医療面接に向けて①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	A-4-1)／必-12	〃
〃	6／16	３－B パワーパフォーマンスを身に付けようⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	A-4-1)／必-12	④⑤③
10	6／23	３－A パワーパフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルスキルを会得する	A-4-1)／必-12	〃
〃	6／23	３－B 医療面接に向けて②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	A-4-1)／必-12	⑥
11	6／30	３－A 医療面接に向けて②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	A-4-1)／必-12	〃
11	6／30	３－B パワーパフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルスキルを会得する	A-4-1)／必-12	④⑤③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
12	7／7	ある医療事故から(KJ法 発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し,防止策を探る(発表)	A-6-3)／必-2-オ	①②
13	7／14	ある医療事故から(二次元展開法作成)	実際に起こった歯科医療事故を二次元展開法により検証し，防止策を探る。	A-6-3)／必-2-オ	〃
14	7／21	ある医療事故から(発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し,防止策を探る(発表)	A-6-3)／必-2-オ	〃
15	7／28	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	②③〜⑥

口腔生理学Ⅱ（前期・1単位）

D③−1801

科目責任者：川合　宏仁（生理・教授）
科目担当者：①川合　宏仁（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は，細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され，その修復が困難な時に病気となる。それゆえ，正しい治療や予防措置を施すためには，病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり，それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することことはできないと言ってよい。講義には，近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち，独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され，多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として，生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学，あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では，臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し，把握することを目標とする。従って，学習に際しては，基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では，顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては，種々の生命現象を営む生体の機構，特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき，また，各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること，および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために，生体機能，生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

1）生命現象を営む生体の機構を説明できる。
2）各器官の協調活動を説明できる。
3）歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し，人体の構造，詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため，これらの科目と連動させて学習すること。予習は，シラバスで内容を確認して，教科書・参考書で学習する（10分)。復習は，講義内容について講義ノート（プリント)・教科書・参考書で学習する（40分)。履修後は，すべての科目につながるため，繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験において，65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

和泉博之･浅沼直和　編　「ビジュアル生理学･口腔生理学」

第３版　学建書院　2014
　岩田幸一・井上富雄ほか 編 「基礎歯科生理学」第７版　医歯薬出版　2020

8. 参考書

　なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	排泄(Ⅰ)	ネフロンの働き，尿の生成，再吸収と分泌	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
2	4／21	排泄(Ⅱ)	細胞外液量の調節と浸透圧の調節	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
3	4／28	排泄(Ⅲ)	ホルモン，排尿の神経機序	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
4	5／12	運動(Ⅰ)	随意運動，脊髄反射と姿勢反射	C-2-3)／総Ⅲ-2	③
5	5／19	運動(Ⅱ)	運動制御のしくみ，運動中枢と大脳基底核	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
6	5／26	運動(Ⅲ)連合系	脳幹と小脳の機能，大脳皮質感覚－運動連合系の役割	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
7	6／2	脳と行動(Ⅰ)	大脳皮質の機能局在，情動と本能行動	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
8	6／9	脳と行動(Ⅱ)	大脳辺縁系，視床下部，意識	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
9	6／16	脳の統合機能	脳波，睡眠，記憶	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
10	6／23	構音と発声(Ⅰ)	喉頭の構造と発声のしくみ，発声器官としての口腔	E-2-2)／総Ⅳ-3	②
11	6／30	構音と発声(Ⅱ)	言語音形成のしくみ	E-2-2)／総Ⅳ-3	〃
12	7／7	摂食・嚥下	嚥下運動の特徴と中枢性機序	E-2-1)／総Ⅶ-1-エ	①
13	7／14	嘔吐	嘔吐の特徴と発生機序	E-2-1)／総Ⅶ-1-エ	〃
14	7／21	体温調節と代謝(Ⅰ)	体温調節と代謝	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
15	7／28	体温調節と代謝(Ⅱ)	体温調節と中枢	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃

口腔生化学Ⅱ（前期・２単位）

D③－1802

科目責任者：加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：①加藤　靖正（生化），②前田　豊信（生化），③半田　慶介（非常勤）

1. 科目の概要

　生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが，生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ，糖やアミノ酸，リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは，歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また，癌やメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに，遺伝学の一端として，先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち，これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などを通じて病態との関連性に対する理解を深める。

2. 一般目標

　歯科・口腔領域として，細胞外マトリックス分子，骨，軟骨，歯，唾液，及び齲蝕について焦点を絞り，構造と機能について学修する。また，染色体異常，結合組織の異常，色素沈着のみられる疾患，新生児のマススクリーニング対象疾患などについて焦点を絞り，遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

3. 到達目標

　1）細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
　2）硬組織の構造と機能を説明できる。
　3）血清カルシウムのホメオスタシスについて説明できる。
　4）唾液・プラーク・齲蝕の分子機構について説明できる。
　5）細胞内情報伝達機構について説明できる。
　6）DNAの損傷と修復について説明できる。
　7）遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。
　8）生活習慣病の成因ついて説明できる。

4. 履修の進め方

　予　習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
　講　義：板書やパワーポイントを使用した解説を聴講し，予習内容の確認と知識の整理を行うとともに，予習中に見出された疑問点を解決する。
　復　習：学修内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
　その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

　講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）や口腔生化学　第６版（医歯薬出版）を用いて内容を把握するとともに，予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

　定期試験にて65点以上を合格とする。

7. 教本

　スタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）

8. 参考書

　口腔生化学　第６版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	細胞外マトリックス分子Ⅰ	コラーゲンの構造，分布	C-2／必5-ア	①
2	4／8	細胞外マトリックス分子Ⅱ	コラーゲンの合成，壊血病	C-2／必5-ア	〃
3	4／15	細胞外マトリックス分子Ⅲ	弾性繊維・エラスチン・フィブリリン，Marfan症候群	C-2／必5-ア	〃
4	4／15	細胞外マトリックス分子Ⅳ	細胞接着性糖蛋白質，種類と分布	C-2／必5-ア	〃
5	4／22	細胞外マトリックス分子Ⅴ	RGD配列，細胞外マトリックス受容体，インテグリン細胞外マトリックス分子の分解（ＭＭＰ，その他のプロテアーゼ）	C-2／必5-ア	〃
6	4／22	細胞外マトリックス分子Ⅵ	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン	C-2／必5-ア	〃
7	5／6	硬組織Ⅰ	石灰化機構①無機質：ヒドロキシアパタイト，石灰化機構の３つの説	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
8	5／6	硬組織Ⅱ	石灰化機構②有機質：コラーゲン性石灰化，象牙質・エナメル質の石灰化	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
9	5／13	硬組織Ⅲ	骨形成（膜性骨化・軟骨性骨），軟骨細胞の分化	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	②
10	5／13	硬組織Ⅳ	骨芽細胞の分化	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
11	5／20	硬組織Ⅴ	破骨細胞の分化，生理的骨吸収，炎症性骨吸収，骨のリモデリング	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
12	5／20	血清カルシウム濃度の調節機構Ⅰ	血清カルシウム濃度の調節機構	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
13	5／27	血清カルシウム濃度の調節機構Ⅱ	血清カルシウム濃度の調節機構の破綻：（原発性・続発性）副甲状腺機能亢進症	C-2／必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
14	5／27	唾液腺と唾液	唾液腺の種類，役割	C-2／必5-ア，総Ⅱ-6-オ	〃
15	6／3	唾液の機能	唾液の成分と機能，排泄作用	C-2／必5-ア，総Ⅱ-6-オ	②
16	6／3	ペリクル・プラーク	組成と機能	C-2，E-3／必5-ア，イ，総Ⅱ-6	〃
17	6／10	齲蝕Ⅰ	齲蝕の成因，プラーク（グルカン，フルクタン），酸産生	E-3／必5-イ，総Ⅱ-7-イ	③
18	6／10	齲蝕Ⅱ	アパタイトの崩壊，ステファン曲線，再石灰化，酸抵抗性，軟化象牙質	E-3／必5-イ，総Ⅱ-7-イ	〃
19	6／17	細胞間コミュニケーションⅠ	分泌様式，細胞内情報伝達機構①（細胞内受容体）	C-2／必5-ア，総Ⅱ-1	①
20	6／17	細胞間コミュニケーションⅡ	細胞内情報伝達機構②（三量体Gタンパク質共役型受容体）	C-2／必5-ア，総Ⅱ-1	〃
21	6／24	細胞間コミュニケーションⅢ	細胞内情報伝達機構③（チロシンキナーゼ型受容体，セリンスレオニン型受容体）	C-2／必5-ア，総Ⅱ-1	〃
22	6／24	細胞の老化	テロメアとテロメアーゼ	C-2／必5-ア	〃
23	7／1	細胞周期の制御機構	E2F，サイクリン，p53，RB	C-2／必5-ア	〃
24	7／1	細胞周期とアポトーシス	TNFα，FasL，カスパーゼ，CAD，プログラム細胞死	C-2，5／必5-ア	〃
25	7／8	癌Ⅰ	癌の特性，DNAの修復機構，発癌機構，癌遺伝子，癌抑制遺伝子	C-2，5／必5-ア，7-ア	〃
26	7／8	癌Ⅱ	アポトーシスの回避，老化の回避，転移機構	C-2，5／必5-ア，7-ア	〃
27	7／15	遺伝性疾患と代謝異常症Ⅰ	遺伝，染色体異常症，色素沈着を伴う疾患	C-2，5／必5-ア，7-ア	〃
28	7／15	遺伝性疾患と代謝異常症Ⅱ	結合組織の疾患，血友病，サラセミアと鎌状赤血球症	C-2，5／必5-ア，7-ア	〃
29	7／22	生活習慣病の成因基盤Ⅰ	メタボリックシンドローム（診断基準，成因），摂食ホルモン	C-2，／必4-ア，5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
30	7／22	生活習慣病の成因基盤Ⅱ	糖尿病(診断基準，成因，病態)，動脈硬化，痛風	C-2，／必4-ア，5-ア	①

口腔生化学実習（前期・１単位）

D③－1901

科目責任者：加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：①加藤　靖正（生化），②前田　豊信（生化），③内山　梨夏（有床），④鈴木　厚子（非常勤），⑤原元　信貴（非常勤）

1. 科目の概要

生化学は，物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは，核酸を主として扱うことに特化した学問で，生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により，染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも，分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで，本実習では，生体を構成する基本的な物質，医学的に重要な血液検査項目，さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい，座学での知識をさらに深めることを目的としている。

2. 一般目標

1）測定機器の取り扱い方を習得する。
2）測定法の原理と特異性を理解する。
3）解析方法の理論と技術を習得する。

3. 到達目標

1）測定機器の基本的な取り扱いができる。
2）生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
3）測定法の原理を説明できる。
4）測定した結果をまとめることができる。
5）測定した値の意味を考察できる。

4. 履修の進め方

予　習：教科書の該当箇所を読み，当日の実習内容に関連した項目を把握しておく。
実　習：配布されるプリントに従って実習を行い，予習内容の知識を用いて考察する。
復　習：学修内容を整理するとともに，疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）や口腔生化学　第６版（医歯薬出版），生化学実習（医歯薬出版）を用いて内容を把握するとともに，予め疑問点を見出しておく（10分）。復習（15分）。

6. 評価方法

筆記による実習内容と関連知識を問う試験３回の平均（70％）とレポート（30％）により評価し，65点以上を合格とする。レポートは，項目ごとに配布された記入用紙に，実習中に記載し即日提出する。記載項目がすべて網羅されていることをミニマムリクワイアメントとする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学　第３版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学　第６版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／13	基本操作	生化学実習の諸注意，器具の取扱い方，測定機器の取扱い方		① ～ ④

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4 5 6	4／20	タンパク質Ⅰ(血清蛋白質)	血清蛋白質の分離とその意義	C-2／必5-ア	① 〜 ④
7 8 9	4／27	タンパク質Ⅱ(酵素)	AST，ALT活性の測定その意義	C-2／必5-ア	〃
10 11 12	5／11	糖	血糖の測定とその意義	C-2／必5-ア	〃
13 14 15	5／18	解説講義	糖，蛋白質，酵素(Ⅰ，Ⅱ)についてのまとめ	C-2／必5-ア	〃
16 17 18	5／25	振返り学習：試験①	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃
19 20 21	6／1	石灰化Ⅰ	アルカリホスファターゼの活性測定	C-2／総Ⅱ-9	〃
22 23 24	6／8	石灰化Ⅱ	硬組織の無機質(CaとPの定量)	C-2／総Ⅱ-9	〃
25 26 27	6／15	唾液	アミラーゼ活性の測定とその意義	C-2／必5-ア，総Ⅱ-6	〃
28 29 30	6／22	解説講義	石灰化(Ⅰ，Ⅱ)，唾液についてのまとめ	C-2／必5-ア，総Ⅱ-6, 9	〃
31 32 33	6／29	振返り学習：試験②	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃
34 35 36	7／6	核酸Ⅰ	DNAの取り扱い方。PCR法	C-2／必5-ア	① 〜 ⑤
37 38 39	7／13	核酸Ⅱ	アメロゲニン遺伝子の制限酵素切断部位の相違を利用した性別鑑定	C-2／必5-ア	① 〜 ④
40 41 42	7／20	解説講義	核酸(Ⅰ，Ⅱ)についてのまとめ	C-2／必5-ア	〃
43 44 45	7／27	振返り学習：試験③	自学習(知識の整理)：学習効果を確認する		〃

口腔病理学（通年・４単位）

D③④－2101

科目責任者：遊佐　淳子（病理・講師）
科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②櫻井　裕子（病理），
③高橋　慶壮（歯周）

1. 科目の概要

口腔病理学は病気の原因，経過およびその結果生じる形態的・機能的変化を学ぶことによって，病気の本質を理解することを目的としている。口腔病理学の講義ではまず病理学総論として，細胞傷害と細胞の適応現象，代謝障害，循環障害，炎症，免疫異常，遺伝性疾患と奇形，および腫瘍について講義する。病理学総論に引き続き，齲蝕を初めとする歯牙硬組織疾患，歯髄，根尖部歯周組織，辺縁部歯周組織，顎骨，口腔粘膜，唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について，分類，原因，病理発生，臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから，臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

2. 一般目標

1）疾病を総括的に理解するために病理学総論として，細胞の傷害と細胞の適応現象，代謝障害，循環障害，免疫異常，炎症，腫瘍，遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。
2）歯科臨床における疾病を理解するために，病理学各論（口腔病理学）として，齲蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患，歯髄，根尖部および辺縁部の歯周組織，顎骨，口腔粘膜，唾液腺等の顎口腔領域全般における疾患について，分類，原因，病理発生，臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

3. 到達目標

1）細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
2）代謝障害の病変を説明する。
3）循環障害の病変を説明する。
4）炎症の原因と分類を説明する。
5）免疫異常による病変を説明する。
6）遺伝性疾患の病変を説明する。
7）腫瘍の特徴と病変を説明する。
8）顎口腔領域疾患の分類，原因および病変を説明する。

4. 履修の進め方

スライド投影を用いた説明を主体とした講義を行う。また，講義プリントを配布する。

5. 準備学修

事前学習（30分）：第２学年の解剖学・組織学・感染免疫学で履修した事項で，各回の口腔病理学講義に関連することを事前に復習する。
事後学習（１時間）：講義プリント，教本および参考書を使って各回講義の内容の理解を深める。

6. 評価方法

前期及び後期定期試験がともに65点以上で合格とする。フィードバックは，解答を開示して適宜行う。

7. 教本

坂本穆彦ら編 「標準病理学」第６版　医学書院　2019年
下野正基ら編 「新口腔病理学」第３版　医歯薬出版　2021年

8. 参考書

坪井貴司 著「そうだったのか！ヒトの生物学」 丸善出版　2019年
田村浩一 著 「図解入門　よくわかる病理学の基本としくみ」 秀和システム　2011年
青笹克之 総監修 「解明 病理学」第４版　医歯薬出版　2021年

髙木　實 監修 「口腔病理アトラス」第３版　文光堂 2018年

下野正基ら監修 「新編口腔外科･病理診断アトラス」医歯薬出版　2017年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	病理学概論，病因論	病理学とは何かについて説明し，内因と外因について述べる	C-5-1)／総Ⅲ1-ア	①
2	4／13	細胞傷害(Ⅰ)	細胞傷害のメカニズムと細胞傷害によって生じる変性について述べる	C-5-2)／総Ⅲ1-イ	〃
3	4／20	細胞傷害(Ⅱ)	脂肪変性，硝子変性，石灰変性，萎縮を説明する	C-5-2)／総Ⅲ1-イ	〃
4	4／20	細胞死	ネクローシスとアポトーシスの形態学的特徴を説明する	C-5-2)／総Ⅲ1-イ	〃
5	4／27	細胞の適応現象(Ⅰ)	刺激に対する細胞の適応現象である肥大と過形成を説明する	C-5-3)／総Ⅲ1-ウ	〃
6	4／27	細胞の適応現象(Ⅱ)	刺激に対する細胞の適応現象である化生を説明する	C-5-3)／総Ⅲ1-ウ	〃
7	5／11	組織の再生と修復	細胞の分裂周期と組織の再生，修復を説明する	C-5-3)／総Ⅲ1-ウ	〃
8	5／11	肉芽組織と創傷治癒	肉芽組織の構成要素，役割，および創傷治癒，器質化を説明する	C-5-3)／総Ⅲ1-ウ	〃
9	5／18	物質代謝障害	脂質，タンパク質，糖質，血色素の代謝異常に基づく疾患を概説する	C-2-1)／総Ⅲ1-イ	〃
10	5／18	循環障害(Ⅰ)	虚血，充血，うっ血の徴候，原因，転帰を説明する	C-5-4)／総Ⅲ1-エ	②
11	5／25	循環障害(Ⅱ)	出血の原因，種類，転帰を説明する	C-5-4)／総Ⅲ1-エ	〃
12	5／25	循環障害(Ⅲ)	血栓症，塞栓症，梗塞を説明する	C-5-4)／総Ⅲ1-エ	〃
13	6／1	循環障害(Ⅳ)	水腫とショック，高血圧を説明する	C-5-4)／総Ⅲ1-エ	〃
14	6／1	炎症(Ⅰ)	炎症の定義，原因，分類を説明する	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	②
15	6／8	炎症(Ⅱ)	急性炎症および慢性炎症での組織反応の特徴を説明する	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	〃
16	6／8	炎症(Ⅲ)	滲出性炎の各型を説明する	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	〃
17	6／15	炎症(Ⅳ)	肉芽腫性炎の特徴と，その代表例を説明する	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	〃
18	6／15	炎症(Ⅴ)	炎症反応に関わる細胞，ケミカルメディエーターを説明する	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	〃
19	6／22	感染症	各種病原体による感染症について病理学的立場から概説する	C-5-5)／総Ⅲ1-カ	〃
20	6／22	免疫異常	アレルギーと自己免疫疾患を説明する	C-4-2)／総Ⅲ6-カ，キ	〃
21	6／29	遺伝と疾患，奇形	遺伝性疾患の代表例を説明し，奇形について概説する	C-5-1)／総Ⅲ2-ア	〃
22	6／29	腫瘍(Ⅰ)	腫瘍の定義，形態と基本構造を説明する	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	①
23	7／6	腫瘍(Ⅱ)	良性腫瘍と悪性腫瘍の生物学的性状を比較説明する	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	〃
24	7／6	腫瘍(Ⅲ)	上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	〃
25	7／13	腫瘍(Ⅳ)	非上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	〃
26	7／13	腫瘍(Ⅴ)	腫瘍と遺伝子異常の関連について説明する	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	〃
27	7／20	歯の機械的・化学的損傷，歯の発育異常	歯の発育異常，咬耗症，磨耗症，酸触症，歯折，脱臼について説明する	E-3-3)／各Ⅱ1-ア	〃
28	7／20	歯の沈着物，着色，変色	沈着物としての歯垢・歯石，歯の着色・変色について説明する	E-3-3)／各Ⅱ1-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
29	7／27	齲蝕症(Ⅰ)	概論(定義),疫学,病因について述べる	E-3-2)／各Ⅱ1-ア	①
30	7／27	齲蝕症(Ⅱ)	臨床所見に基づく分類(部位,急性と慢性,二次齲蝕)を説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
31	9／2	齲蝕症(Ⅲ)	エナメル質初期齲蝕の組織学的特徴と再石灰化を説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
32	9／2	齲蝕症(Ⅳ)	象牙質,セメント質各齲蝕病変の組織像を説明する	E-3-2)／各Ⅱ3-ア	〃
33	9／9	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質,セメント質増殖症,歯の内部吸収を説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	②
34	9／9	歯髄の病変(Ⅰ)	加齢による変化,変性,歯髄充血,急性漿液性歯髄炎について説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
35	9／16	歯髄の病変(Ⅱ)	化膿性歯髄炎(急性,慢性)について説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
36	9／16	歯髄の病変(Ⅲ)	潰瘍性歯髄炎,増殖性歯髄炎について説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
37	9／30	根尖部歯周組織の病変(Ⅰ)	根尖性歯周炎,歯根肉芽腫,歯根嚢胞について互いの関連性を説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
38	9／30	根尖部歯周組織の病変(Ⅱ)	歯槽膿瘍の継発症として骨髄炎,頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する	E-3-2)／各Ⅱ2-ア	〃
39	10／7	辺縁部歯周組織の病変(Ⅰ)	歯周疾患の概念,疫学,病因について説明する	E-3-2)／各Ⅱ3-ア	〃
40	10／7	辺縁部歯周組織の病変(Ⅱ)	プラーク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生と病理組織像を詳説する	E-3-2)／各Ⅱ3-ア	〃
41	10／14	辺縁部歯周組織の病変(Ⅲ)	歯周ポケット発生のメカニズム,外傷性咬合に伴う組織変化を説明する	E-3-2)／各Ⅱ-2-ア,3-ア	〃
42	10／14	辺縁部歯周組織の病変(Ⅳ)	非プラーク性歯肉病変,侵襲性歯周炎,壊死性歯周疾患について説明する	E-3-2)／各Ⅱ3-ア	②
43	10／21	辺縁部歯周組織の病変(Ⅴ)	歯肉の増殖性病変(エプーリスを含む)について説明する	E-3-2)／各Ⅱ3-ア	〃
44	10／21	口腔領域の嚢胞(Ⅰ)	嚢胞の定義,発生メカニズム,分類を説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-エ,各Ⅲ2-オ	①
45	10／28	口腔領域の嚢胞(Ⅱ)	歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	E-2-4)／各Ⅲ1-エ,各Ⅲ2-オ	〃
46	10／28	口腔領域の嚢胞(Ⅲ)	非歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	E-2-4)／各Ⅲ1-エ,各Ⅲ2-オ	〃
47	11／4	口腔領域の腫瘍(Ⅰ)	歯原性腫瘍の分類と各論(エナメル上皮腫など)を概説する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ2-カ	〃
48	11／4	口腔領域の腫瘍(Ⅱ)	歯原性腫瘍各論(エナメル上皮線維腫など)と顎骨腫瘍について説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ3-カ	〃
49	11／11	口腔領域の腫瘍(Ⅲ)	非歯原性良性上皮性腫瘍を説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ4-カ	〃
50	11／11	口腔領域の腫瘍(Ⅳ)	非歯原性良性非上皮性腫瘍を説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ5-カ	〃
51	11／18	口腔領域の腫瘍(Ⅴ)	非歯原性良性非上皮性腫瘍と非歯原性悪性非上皮性腫瘍を説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ6-カ	〃
52	11／18	口腔領域の腫瘍(Ⅵ)	非歯原性悪性非上皮性腫瘍の主要なものを説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-オ,各Ⅲ7-カ	〃
53	11／25	口腔粘膜の病変(Ⅰ)	皮膚科的疾患,自己免疫疾患の口腔粘膜発現について説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-ク	〃
54	11／25	口腔粘膜の病変(Ⅱ)	白板症の病理組織像について説明する	E-2-4)／各Ⅲ1-ク	〃
55	12／2	口腔粘膜の病変(Ⅲ)	色素沈着,感染症(細菌,真菌,ウイルス)を概説する	E-2-4)／各Ⅲ1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
56	12／2	唾液腺の非腫瘍性病変	化生，唾石症，唾液腺炎，シェーグレン症候群，IgG4関連疾患について説明する	E-2-4)／総Ⅲ3-ア	②
57	12／9	唾液腺腫瘍	良性腫瘍・悪性腫瘍について概説する	E-2-4)／総Ⅲ3-ア	〃
58	12／9	顎骨の非腫瘍性病変	顎骨骨髄炎，遺伝性顎骨疾患について説明する	E-2-4)／各Ⅲ2-エ	〃
59	12／16	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎，糖尿病などとの関わりについて説明する	E-3-3)／各Ⅱ2-ア	③
60	12／16	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎，糖尿病などとの関わりについて説明する	E-3-3)／各Ⅱ2-ア	〃

口腔病理学実習（後期・１単位）

D③④－2102

科目責任者：遊佐　淳子（病理・講師）
科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②櫻井　裕子（病理），③山﨑　幹子（病理）

1. 科目の概要

人体の病変から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより，講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを学んでいく。この実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し，その組織像を理解する。それをもとに後半では，顎口腔領域の病変を観察し，他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。実習に際しては顕微鏡観察を行うだけでなく，顕微鏡像のスケッチを主体とした，実習レポートを各学生に課す。これにより各自の理解度を高めると同時に，病変を的確に把握しているかどうかを判定する。

2. 一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために，諸病変の病理組織像を理解し，かつ，それを説明できる能力を習得することを目標とする。

3. 到達目標

1）病変の組織像を正確に理解することができる。
2）スケッチと文により，病理組織像を説明することができる。
3）病変の組織像を観察して，その病変の病理組織診断名を述べることができる。

4. 履修の進め方

病理組織像を観察したのち，観察した組織像の説明を書いた実習レポートを作製する。

5. 準備学修

事前学習：第２学年で講義された口腔組織学の事項で，各回実習に関連するものを再確認する（10分）。各回実習に関連する，口腔病理学講義の事項を，教本，講義プリント，講義ノートなどを読んで再確認する（20分）。
事後学習：各回実習の内容を実習プリント，実習レポート，教本，参考書で復習する（60分）。

6. 評価方法

実習試験（80％）と小テスト（20％）で評価し，65点以上を合格とする。フィードバックとして，小テスト及び実習試験終了後，解説を行う。

7. 教本

北川昌伸ら 編「標準病理学」第６版　医学書院　2019年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第３版　医歯薬出版　2021年
髙木　實 監修「口腔病理アトラス」第３版　文光堂　2018年

8. 参考書

下野正基ら 監修「新編口腔外科・病理診断アトラス」 医歯薬出版　2017年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／1	変性，代謝障害	硝子変性，脂肪変性，黄疸，粥状動脈硬化症	C-5-2)／総Ⅲ-1-イ	① 〜 ③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4 5 6	9／8	壊死，組織の増殖	凝固壊死，融解壊死，肉芽組織	C-5-2)，C-5-3)／総Ⅲ-1-イ,ウ	① ～ ③
7 8 9	9／15	循環障害	出血，うっ血，水腫，梗塞	C-5-4)／総Ⅲ1-エ	〃
10 11 12	9／22	炎症	線維素性炎，化膿性炎，肉芽腫性炎(小テスト)	C-5-5)／総Ⅲ1-オ	〃
13 14 15	9／29	感染症，免疫異常	アスペルギルス症，巨大細胞封入体症，橋本病，結節性多発動脈炎	C-4-1)，C-4-2)／総Ⅲ1-カ,キ	〃
16 17 18	10／6	腫瘍	上皮性良性腫瘍，上皮性悪性腫瘍，非上皮性良性腫瘍，非上皮性悪性腫瘍	C-5-6)／総Ⅲ1-ク	〃
19 20 21	10／13	齲蝕，歯髄炎	エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕，化膿性歯髄炎，開放性歯髄炎(小テスト)	E-3-2)／総Ⅲ2-ア，各Ⅱ2-ア	〃
22 23 24	10／20	根尖性歯周炎，歯周病，エプーリス	歯根嚢胞，プラーク単独性歯肉炎，慢性歯周炎，エプーリス	E-3-2)／総Ⅲ2-ア，各Ⅱ2-ア	〃
25 26 27	10／27	嚢胞(1)	含歯性嚢胞，鼻口蓋管嚢胞，類表皮嚢胞	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ1-エ，各Ⅲ2-オ	〃
28 29 30	11／10	嚢胞(2)，歯原性腫瘍(1)	歯原性角化嚢胞，腺腫様歯原性腫瘍，セメント質骨形成線維腫(小テスト)	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ2-オ,カ	〃
31 32 33	11／17	歯原性腫瘍(2)	濾胞型エナメル上皮腫，網状型エナメル上皮腫，エナメル上皮線維腫	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ2-カ	〃
34 35 36	11／24	非歯原性腫瘍	乳頭腫，扁平上皮癌，悪性リンパ腫	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ2-カ，Ⅲ3-ア	〃
37 38 39	12／1	粘膜疾患，唾液腺疾患(1)	天疱瘡，口腔扁平苔癬，白板症(上皮過形成，上皮性異形成)，口腔カンジダ症，粘液瘤	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ1-ク，Ⅲ3-ア，Ⅲ4-オ	〃
40 41 42	12／8	唾液腺疾患(2)	慢性硬化性唾液腺炎，多形腺腫，腺様嚢胞癌(小テスト)	E-2-4)／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ3-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
43 44 45	12／15	実習試験実習試験(全範囲)			① ～ ③

口腔感染免疫学Ⅱ（前期・２単位）

D③④－2001

科目責任者：清浦　有祐（感染・教授）
科目担当者：①清浦　有祐（感染），②玉井利代子（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対するヒトの免疫応答について講義を行う。特に免疫応答については２年次における口腔感染免疫学Ⅰの講義を基に掘り下げて詳しく解説する。さらにヒトの二大口腔感染症である齲蝕と歯周病の原因菌とその性状を説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

１）微生物感染に対する免疫応答を理解する。
２）免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。
３）免疫応答に関係する液性因子を理解する。
４）齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
５）齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを理解する。

3. 到達目標

１）微生物感染に対する免疫応答を説明する。
２）免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
３）免疫応答に関係する液性因子を説明する。
４）齲蝕と歯周病の原因菌を説明する。
５）齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に，学習者に質問し，それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験（50点）及び中間試験（50点）で評価する。65点以上を合格とする。定期試験及び中間試験の試験問題はどちらも記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し，学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第７版　学建書院　2021年

8. 参考書

標準微生物学　第14版　医学書院　2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	補体	補体の種類と活性化経路	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3-エ-b	①
2	4／13	補体	補体産物の役割	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3-エ-b	〃
3	4／20	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類	C-4-2)-③／総Ⅱ-3-ア	〃
4	4／20	サイトカインⅠ	サイトカインの種類	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3-ウ,エ-a	〃
5	4／27	サイトカインⅡ	サイトカインの病態への影響	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3-ウ,エ-a,	①
6	4／27	抗原認識Ⅰ	T細胞による外来性抗原の認識	C-4-2)-③／総Ⅱ-3-ア	〃
7	5／11	抗原認識Ⅱ	T細胞による内在性抗原の認識	C-4-2)-③／総Ⅱ-3-ア	〃
8	5／11	アレルギーⅠ	Ⅰ型・Ⅱ型アレルギーのメカニズム	C-4-2)-⑤,⑥／総Ⅲ-1キ-d	〃
9	5／18	アレルギーⅡ	Ⅲ型・Ⅳ型・Ⅴ型アレルギーのメカニズム	C-4-2)-⑤,⑥／総Ⅲ-1キ-d	〃
10	5／18	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	C-4-2)-④／総Ⅱ-3-エ-a,b	〃
11	5／25	自己免疫疾患と免疫不全	自己免疫疾患と免疫不全のメカニズム	C-4-2)-④,⑥／総Ⅲ-1-キ-c	〃
12	5／25	粘膜免疫	粘膜免疫のメカニズム	C-4-2)-⑦／総Ⅱ-3-オ	〃
13	6／1	ワクチンⅠ	生ワクチン	C-4-2)-⑧／総Ⅲ-1-カ-c	②
14	6／1	ワクチンⅡ	不活化ワクチン	C-4-2)-⑧／総Ⅲ-1-カ-c	〃
15	6／8	免疫応答の全体像	免疫応答の全体像とその役割	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3-ア～オ	①
16	6／8	口腔微生物学概論	口腔微生物の役割と病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
17	6／15	プラークの形成と口腔細菌	口腔細菌のプラーク形成における役割	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
18	6／15	口腔レンサ球菌	口腔内のレンサ球菌の種類と役割	C-4-1)-①／必5-イ-a, c	〃
19	6／22	齲蝕原性細菌Ⅰ	齲蝕の原因菌とその種類	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
20	6／22	齲蝕原性細菌Ⅱ	齲蝕の発症メカニズム	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
21	6／29	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
22	6／29	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
23	7／6	口腔細菌の総括	口腔細菌の種類とその役割	C-4-1)-①／必5-イ-a, c	〃
24	7／6	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスとその病原性	C-4-1)-②／総Ⅲ-1カ-b	〃
25	7／13	口腔真菌と原虫	口腔原虫の病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
26	7／13	口腔ウイルスⅠ	口腔内のウイルスの種類	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
27	7／20	口腔ウイルスⅡ	口腔内のウイルスの病原性	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	①
28	7／20	口腔ウイルスⅢ	口腔内のウイルスの感染症	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃
29	7／27	口腔真菌・原虫・ウイルスの総括	口腔内の細菌以外の微生物の病原性	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	〃
30	7／27	薬剤耐性菌	抗菌薬に対する耐性のメカニズム	C-4-1)-①,②,④／必2カ-b	〃

口腔感染免疫学実習（前期・1単位）

D③④－2201

科目責任者：清浦　有祐（感染・教授）
科目担当者：①清浦　有祐（感染），②玉井利代子（感染），③眞島いづみ（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで，歯科医師としての日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を修得するために行う。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識と技術を身につける。具体的には以下のことである。

1）細菌と真菌の取り扱いに関する手技を習得する。
2）細菌と真菌の基本的な形態を理解する。
3）薬剤の細菌への効果を知ることで，化学療法の原理を理解する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌の性状を理解する。
5）ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

3. 到達目標

1）細菌と真菌の取り扱いに関する手技を説明する。
2）細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
3）薬剤の細菌への効果を知ることで，化学療法の原理を説明する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌の性状を説明する。
5）ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

実習の内容に関する講義を行ってから，実習テキストに従って実習を行っていく。原則として当日の実習結果を指定されたレポート形式で記載して次回の実習時に提出する。

5. 準備学修

毎回の実習終了時に次回の実習予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

筆記試験と実技試験の成績（40点），提出されたレポートの採点結果（50点），出席（出席率100%で10点）で評価する。65点以上を合格とする。筆記試験及び実習試験終了後，学生全員を対象に解説を行う。レポートは，採点後に記載内容についての講評を学生全員に対して行う。学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第７版　学建書院　2021年
講義・実習解説書　2021年

8. 参考書

標準微生物学　第14版　医学書院　2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／14	オリエンテーション	口腔感染免疫学実習の特色とその注意点	C-4-1)-①,②／総Ⅲ-1カ-b	① 〜 ③
4 5 6	4／21	グラム染色	細菌のグラム染色法の理論とその実技	C-4-1)-①,②／必10-エ-e	〃
7 8 9	4／28	細菌のコロニー	細菌のコロニーの観察	C-4-1)-①,②／必10-エ-e	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10 11 12	5／12	特殊染色	特殊染色による細菌の染色	C-4-1)-①, ②／ 必10-エ-e	① ～ ③
13 14 15	5／19	消毒と無菌試験	各種消毒薬に対する細菌の感受性	C-4-1)-①, ②／ 必10-エ-a	〃
16 17 18	5／26	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性	C-4-1)-⑤／ 総Ⅶ-8-ウ-c	〃
19 20 21	6／2	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃
22 23 24	6／9	歯垢細菌	歯垢中の細菌の観察	C-4-1)-①, ②／ 必5-イ-c	〃
25 26 27	6／16	齲蝕原性細菌	齲蝕原性細菌の観察	C-4-1)-①, ②／ 各Ⅱ-1-ア-a	〃
28 29 30	6／23	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌の観察	C-4-1)-①, ②／ 各Ⅰ-3-ア-c	〃
31 32 33	6／30	口腔真菌	口腔真菌の観察	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-b	〃
34 35 36	7／7	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応	C-4-2)-①, ②／ 総Ⅱ-3エ-b	〃
37 38 39	7／14	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括	C-4-1), 2)- ①, ②／ 必5-イ-a	〃
40 41 42	7／21	実習実技試験	細菌のグラム染色法の実技試験		〃
43 44 45	7／28	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃

歯科薬理学Ⅱ（前期・２単位）

D③④－2002

科目責任者：柴田　達也（薬理・准教授）
科目担当者：①柴田　達也（薬理），②鈴木　礼子（薬理），
③長岡　正博（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学Ⅰ（薬理学総論）では薬物の作用機序，薬物の生体内運命（薬物動態），薬物の適用方法などを学修した。歯科薬理学Ⅱ（薬理学各論・歯科薬理学）では，全身疾患および歯科疾患の治療に用いられる個々の薬物について作用機序，薬物動態，副作用・相互作用などを学修する。

2. 一般目標

適切な歯科治療計画を立案し，高度な歯科医療を実践するための基盤として

１）全身疾患の治療に用いられる薬物の特徴を理解する。
２）歯科医療現場で使用・処方される薬物の特徴を理解する。

3. 到達目標

１）薬理学各論：神経系，循環器系，呼吸器系，消化器系，血液および造血器，内分泌系，代謝系に作用する薬物，抗腫瘍薬の特徴を説明できる。
２）歯科薬理学：歯科医療現場で使用頻度が高い薬物（局所麻酔薬，鎮痛薬，抗炎症薬，抗感染症薬，唾液腺作用薬，消毒薬）の特徴を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドとプリントを使用して履修する。

5. 準備学修

事前に，各回の授業内容を確認し，教科書の該当部分を読むこと（15分）。授業後は，配布プリントや教科書を見直して，毎回の授業内容を確実にすること（15分）。

6. 評価方法

定期試験（50%）と中間試験（50%）で評価し，100点満点で65点以上を合格とする。試験のフィードバックは，総合演習３D，科目選択ゼミナールにおける講義や，配布物等により適宜行う。

7. 教本

大谷啓一 監修 「現代歯科薬理学」第６版　医歯薬出版　2018

8. 参考書

浦部晶夫ほか「今日の治療薬2022」 南江堂　2022
鈴木邦明ほか「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学」第２版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	薬理学各論1：末梢神経系に作用する薬物①	末梢神経系，神経伝達物質	C-6-2)／ 必12-コ, 総Ⅶ-8-ア	①
2	4／11	薬理学各論2：末梢神経系に作用する薬物②	自律神経系に作用する薬物，筋弛緩薬	C-6-2)／ 必12-コ, 総Ⅶ-8-ア	〃
3	4／18	薬理学各論3：中枢神経系に作用する薬物①	全身麻酔薬，睡眠薬・抗不安薬，抗てんかん薬	C-6-2)／ 必12-コ, 総Ⅶ-8-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	4／18	薬理学各論4：中枢神経系に作用する薬物②	抗精神病薬，抗うつ薬，気分安定薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	①
5	4／25	薬理学各論5：中枢神経系に作用する薬物③	中枢神経系興奮薬，Parkinson病治療薬，認知症治療薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
6	4／25	薬理学各論6：循環器系に作用する薬物①	高血圧治療薬，心不全治療薬，抗不整脈薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
7	5／9	薬理学各論7：循環器系に作用する薬物②	狭心症治療薬，利尿薬，脂質異常症治療薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
8	5／9	薬理学各論8：呼吸器系，消化器系に作用する薬物	気管支喘息・COPD治療薬，鎮咳薬，上部・下部消化管疾患治療薬，肝疾患治療薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
9	5／16	薬理学各論9：血液および造血器系に作用する薬物	貧血治療薬，止血線溶機構，抗血栓薬・止血薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
10	5／16	薬理学各論10：抗腫瘍薬	抗腫瘍薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
11	5／23	薬理学各論11：内分泌系に作用する薬物	糖尿病治療薬，性ホルモン関連薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
12	5／23	薬理学各論12：代謝系に作用する薬物	カルシウム代謝調節機構，骨粗鬆症治療薬，ビタミン	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
13	5／30	薬理学各論13：免疫系に作用する薬物	抗アレルギー薬，免疫抑制薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
14	5／30	薬理学各論14：まとめ	薬理学各論のまとめ	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，ウ	〃
15	6／6	歯科薬理学1：局所麻酔薬①	局所麻酔薬総論	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	③
16	6／6	歯科薬理学2：局所麻酔薬②	局所麻酔薬各論	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
17	6／13	歯科薬理学3：鎮痛薬①	鎮痛薬総論	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
18	6／13	歯科薬理学4：鎮痛薬②	鎮痛薬各論	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
19	6／20	歯科薬理学5：抗炎症薬①	炎症の発症機序，ステロイド性抗炎症薬	C-6-2)，4)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
20	6／20	歯科薬理学6：抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬	C-6-2)，4)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
21	6／27	歯科薬理学7：抗感染症薬①	抗菌薬総論・抗菌薬各論1	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
22	6／27	歯科薬理学8：抗感染症薬②	抗菌薬各論2，抗真菌薬・抗ウイルス薬	C-6-2)，4)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	③
23	7／4	歯科薬理学9：消毒薬	消毒薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	①
24	7／4	歯科薬理学10：唾液腺作用薬，漢方薬	口腔乾燥の原因となる薬物，口腔乾燥症治療薬，歯科における漢方薬	C-6-2)，4)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
25	7／11	歯科薬理学11：顎口腔領域における薬物療法	神経疾患治療薬	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
26	7／11	歯科薬理学12：薬物の副作用・有害反応①	薬物の一般的な副作用・有害反応	C-6-4)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	① ②
27	7／25	歯科薬理学13：薬物の副作用・有害反応②	薬物の顎口腔領域に現れる副作用・有害反応	C-6-4)／必7-イ，必8-エ，総Ⅶ-8-イ	〃
28	7／25	歯科薬理学14：薬物相互作用①	薬力学的相互作用	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
29	7／29	歯科薬理学15：薬物相互作用②	薬物動態学的相互作用	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
30	7／29	歯科薬理学16：まとめ	歯科薬理学のまとめ	C-6-2)，4)／必7-イ，必8-エ，必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ，ウ	〃

歯科薬理学実習（前期・１単位）

D③④－2202

科目責任者：鈴木　礼子（薬理・准教授）
科目担当者：①鈴木　礼子（薬理），②柴田　達也（薬理），
③長岡　正博（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータ・シミュレーション（課題演習を含む）と標本解析を通じて，歯科薬理学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識を生きた知識にすることを目的とした実習である。近年，動物愛護の精神を遵守することが強く求められており，たとえ教育目的であっても，動物実験に替わる方法によって目的が達成されるならば，積極的に代替法を採用するべきであるとされている。本実習では，実際の患者のデータや，過去，多数の実験動物の犠牲の元に蓄積された実験データをPC上で再現できるシミュレーション，及び，過去に骨粗鬆症モデル動物から採取した標本のデジタルデータを採用する。

2. 一般目標

超高齢社会における歯科医療現場において，個々の患者の背景を理解し，問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できるようになるため，また，歯科口腔疾患に対する適切な薬物療法の計画立案と実施ができるようになるために，目の前の客観的データと，学んだ知識を結びつけて論理的に考える姿勢を身につける。

3. 到達目標

1）薬物によって，適した投与方法があることを説明できる。
2）有病者・高齢者における薬物動態の変化について説明できる。
3）骨格筋に作用する薬物，及び，腸管平滑筋に作用する薬物を例に，薬物相互作用について説明できる。
4）歯科診療の際に遭遇する機会の多い循環動態の変動に関わる受容体と，それらに作用する薬物について説明できる。
5）卵巣摘出動物の骨形成能の評価を通じて，骨粗鬆症の病態を説明できる。

4. 履修の進め方

実習形式によって履修する。但し，理解を深めるための解説講義の回を含む。

5. 準備学修

実習項目について，歯科薬理学Ⅰ及びⅡで使用している教科書や配布プリントの該当箇所を読んで予習しておくこと（30分）。

6. 評価方法

提出課題（40%），実習内容に関する筆記試験（60%）で評価し，100点満点中65点以上で合格とする。実習試験のフィードバックは，解説講義や正答の掲示等により，適宜行う。

7. 教本

島田和幸 他編 「今日の治療薬 2022」南江堂　2022

8. 参考書

大谷啓一 監著 「現代歯科薬理学」第６版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／8	薬物動態１	薬物動態に関する基礎知識の確認	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	①～③
4 5 6	4／15	薬物動態２	健康成人の薬物血中濃度シミュレーション	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	①～③
7 8 9	4／22	薬物動態３	腎機能・肝機能低下患者の薬物血中濃度シミュレーション	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
10 11 12	5／6	薬物動態のまとめ	問題演習	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
13 14 15	5／13	薬物相互作用１	薬力学的薬物相互作用に関する基礎知識の確認	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
16 17 18	5／20	薬物相互作用２	ラット横隔膜神経－筋標本のシミュレーション	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
19 20 21	5／27	薬物相互作用３	モルモット摘出腸管標本のシミュレーション	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
22 23 24	6／3	薬物相互作用のまとめ	問題演習	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
25 26 27	6／10	循環器系に作用する薬物１	血圧と心拍数の調節に関する基礎知識の確認	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
28 29 30	6／17	循環器系に作用する薬物２	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション１	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
31 32 33	6／24	循環器系に作用する薬物３	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション２	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
34 35 36	7／1	循環器系に作用する薬物のまとめ	問題演習	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
37 38 39	7／8	試験	実習内容（薬物動態，薬物相互作用，循環器系に作用する薬物）に関する筆記試験と解説	C-6-2)，3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
40 41 42	7／15	硬組織の薬理	卵巣摘出動物の骨形成能の評価(標本データの解析)	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
43 44 45	7／22	歯科薬理学実習のまとめ	実習総括	C-6-2)，3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア，イ，ウ	〃

生体材料・歯科材料学Ⅱ
（前期・２単位）

D③④－2003

科目責任者：岡田　英俊（材料・教授）
科目担当者：①岡田　英俊（材料），②石田　喜紀（材料），
③覚本　嘉美（非常勤）

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料，無機材料，有機材料，およびこれらを複合した材料があり，印象用，模型用，義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は，これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学，化学，および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて，材料毎に所要性質，構成成分，その役割，物理化学的および機械的性質などを理解するとともに，それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで，治療に必要な機材，材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

1）歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
2）成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
3）さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し，視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また，学生は板書の内容，教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。各項目終了後に配布するプリントを解かせ，次回の授業で解説を行う。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）

授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）

6. 評価方法

定期試験で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は選択式とする。

7. 教本

中嶌　裕　他　「スタンダード歯科理工学第７版」　学建書院　2019年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	歯科精密鋳造-1	歯科用ワックスの成分，特性および使用法	D-2／総Ⅷ-7	①
2	〃	歯科精密鋳造-2	埋没材の種類，性質，役割および操作法	D-2／総Ⅷ-7	〃
3	4／19	歯科精密鋳造-3	歯科精密鋳造の基礎理論	D-2／総Ⅷ-7	〃
4	〃	歯科精密鋳造-4	歯科精密鋳造の工程と器械	D-2／総Ⅷ-7	〃
5	4／26	歯科精密鋳造-5	鋳造体の製作工程ー埋没法，鋳造法	D-2／総Ⅷ-7	①
6	〃	歯科精密鋳造-6	鋳造欠陥の成因とその対策	D-2／総Ⅷ-7	〃
7	5／10	歯科精密鋳造-7	鋳造欠陥の成因とその対策	D-2／総Ⅷ-7	〃
8	〃	義歯用材料-1	床用アクリルレジンの特性	D-2／総Ⅷ-6	〃
9	5／17	義歯用材料-2	アクリルレジンによる義歯床の作製方法	D-2／総Ⅷ-6	〃
10	〃	義歯用材料-3	床用材料の比較	D-2／総Ⅷ-6	〃
11	5／24	義歯用材料-4	人工歯とノンクラスプデンチャー	D-2／総Ⅷ-6	〃
12	〃	義歯用材料-5	義歯裏装材，義歯洗浄剤について	D-2／総Ⅷ-6	〃
13	5／31	歯冠用材料-1	歯科用陶材の臨床応用と所要性質	D-2／総Ⅷ-6	②
14	〃	歯冠用材料-2	歯科用陶材の理工学的性質	D-2／総Ⅷ-6	〃
15	6／7	歯冠用材料-3	陶材焼付鋳造冠の特性と作製法	D-2／総Ⅷ-6	〃
16	〃	歯冠用材料-4	歯科用陶材冠の作製法	D-2／総Ⅷ-6	〃
17	6／14	歯冠用材料-5	歯科用陶材冠の作製法（2）	D-2／総Ⅷ-6	〃
18	〃	歯冠用材料-6	硬質レジン前装冠の特性	D-2／総Ⅷ-6	〃
19	6／21	歯科用セメント-1	歯科用合着材の用途	D-2／総Ⅷ-9	①
20	〃	歯科用セメント-2	歯科用合着材の成分と特性-1	D-2／総Ⅷ-9	〃
21	6／28	歯科用セメント-3	歯科用合着材の成分と特性-2	D-2／総Ⅷ-9	〃
22	〃	歯科用セメント-4	歯科用合着材の成分と特性-3	D-2／総Ⅷ-9	〃
23	7／5	歯科用セメント-5	接着の理論	D-2／総Ⅷ-9	〃
24	〃	歯内療法関連材料-1	裏層材，覆髄材および根管充填材の特性-1	D-2／総Ⅷ-9	〃
25	7／12	歯内療法関連材料-2	裏層材，覆髄材および根管充填材の特性-2	D-2／総Ⅷ-9	〃
26	〃	歯内療法関連材料-3	支台築造用材料	D-2／総Ⅷ-9	〃
27	7／19	生体材料	組織工学用材料の種類と特性	D-1，-2／総Ⅷ-11	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	7／19	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質	D-2／総Ⅷ-11	③
29	7／26	修復物の研磨-1	研磨に関する理論，研磨用工具の種類と特性	D-1／総Ⅷ-2	②
30	〃	修復物の研磨-2	切削研磨用機械の種類と特性	D-1／総Ⅷ-2	〃

生体材料・歯科材料学実習
（前期・１単位）

D③④－2203

科目責任者：岡田　英俊（材料・教授）
科目担当者：①岡田　英俊（材料），②石田　喜紀（材料），
③大木　達也（材料），④齋藤　龍一（材料），
⑤松本　英莉（材料），⑥熊倉　　学（非常勤），
⑦覚本　嘉美（非常勤），⑧泉　　俊郎（非常勤）

1. 科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の特性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学，保存修復学をはじめ，その他臨床で使用する材料や機器を，化学的法則に基づいてより効率的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって，歯科理工学の実習では講義で学んだ理論を実証し，講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い，目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

2. 一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器材を正しく使用するために，その特性と操作法を理解する。

3. 到達目標

1）印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
2）義歯床と鋳造物について関連材料の特性を理解し，操作法を習得する。
3）切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
4）成形修復材および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
5）金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

4. 履修の進め方

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し，実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け，各項目で担当教員がチェックを行う。また，知識の習得と技術の向上のために試験を行い理解を深める。実習中は疑問点を聞き出し解説を行う。

5. 準備学修

実習内容や使用機材を実習書にて確認し，準備することで実習をスムーズに行えるようにする（10分）。また，実習書の各項目に記載されている「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる（10～20分）

6. 評価方法

①実習の各項目に対するチェック，作品の提出および作品の評価（30％），②小試験（20％），③総合試験と実技試験（40％）により評価する。①＋②＋③の合計で65点以上を合格とする。なお，全て出席した場合には10％の加点をする。小試験および総合試験のフィードバックは科目選択ゼミナールなどで解説を行う。

7. 教本

①生体材料学講座　編「生体材料・歯科材料学実習書」日進堂印刷所　2021
②中嶌　裕 他　編「スタンダード歯科理工学第７版」 学建書院　2019

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／12	オリエンテーション，印象材・模型材（1）	器材チェック，印象用関連機材の操作法	D-2／ 総Ⅷ-3-イ	① ～ ⑧
4 5 6	4／19	印象材・模型材（2）	口腔模型の印象採得と模型製作	D-2／ 総Ⅷ-3-イ,エ,オ，4-ア,イ	〃
7 8 9	4／26	印象材・模型材（3）	義歯床用模型の製作	D-2／ 総Ⅷ-4-ア	〃
10 11 12	5／10	印象材・模型材（4）	支台歯原形の印象採得と作業用模型製作	D-2／ 総Ⅷ-3-イ,エ,オ，4-ア,イ	〃
13 14 15	5／17	歯科精密鋳造-1	ワックスパターンの製作	D-2／ 総Ⅷ-4-イ	〃
16 17 18	5／24	歯科精密鋳造-2	ワックスパターンの埋没	D-2／ 総Ⅷ-7-ウ	〃
19 20 21	5／31	歯科精密鋳造-3	鋳造操作と鋳造体の掘り出し，小試験①	D-2／ 総Ⅷ-7-ウ	〃
22 23 24	6／7	歯科精密鋳造-4	適合性の測定と鋳造体の研磨	D-1,2／ 総Ⅷ-2-ア,イ,6-ウ	〃
25 26 27	6／14	床用レジン-1	ワックスパターンの作製，人工歯の配列	D-2／ 総Ⅷ-4-イ，6-オ	〃
28 29 30	6／21	床用レジン-2	埋没と流ロウ	D-2／ 総Ⅷ-7-ア	〃
31 32 33	6／28	床用レジン-3	レジン混和物の填入と重合	D-2／ 総Ⅷ-7-ア	〃
34 35 36	7／5	床用レジン-4	適合性の測定と重合体の研磨	D-1,2／ 総Ⅷ-2-ア,イ,6-ア	〃
37 38 39	7／12	成形修復材成	形修復材の充填と硬さの測定	D-2／ 総Ⅷ-5-ア，7-ア	〃
40 41 42	7／19	合着用セメント，金属の熱処理	セメントの被膜厚さの測定，鋳造体の熱処理，小試験②	D-2／ 総Ⅷ-7-ウ，9-ア	〃
43 44 45	7／26	実習試験	総合試験，実技試験	D-1,2／ 総Ⅷ-2～9	〃

口腔衛生学（通年・２単位）

D③－1803

科目責任者：廣瀬　公治（衛生・教授）

科目担当者：①廣瀬　公治（衛生），②小林美智代（衛生）
③相馬　親良（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔衛生学は，他の臨床歯科医学と異なり，学問の出発点が疾病ではなく健康にあること，そして，その対象を集団を主としていところに大きな特徴を持つ。また，歯科医師法第１条にあるように，歯科医師は保健指導を掌り，公衆衛生の向上・増進に寄与するとある。よって，この基礎となる本科目では，前期では主に2年生で履修した衛生学の基本的内容を再確認し，それを基盤に地域保健について学ぶ。後期は主に口腔疾患の予防を目的とした予防歯科学について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師として具備すべき公衆衛生学・口腔衛生学の知識を履修し，地域口腔保健支援及び予防歯科診療を根拠に基づき適切に対応できる基礎を修得する。

3. 到達目標

1）健康の概念と予防の段階を説明できる。
2）疫学の研究方法とその活用を説明できる。
3）感染症の成り立ちと予防対策を説明できる。
4）公害や地球環境破壊と健康との関りを説明できる。
5）食品衛生と栄養摂取基準を説明できる。
6）人口構造の変化と疾病構造との関連を説明できる。
7）地域保健法と健康増進法の実施事業等について説明できる。
8）地域保健（母子・学校・成人・老人・産業・精神・障害者）のあらましを説明できる。
9）口腔疾患の成り立ちとその予防法を説明できる。
10）口腔疾患の予防をライフコースアプローチの視点をもって説明できる。
11）国際保健協力機構について説明できる。
12）口腔疾患の成り立ちと予防法を説明できる。
13）口腔保健支援活動の実施内容と方法およびその法的枠組みを説明できる。

4. 履修の進め方

教科書を傍用した講義で履修する。

5. 準備学修

シラバスを参照し，教科書の該当頁を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

前期および後期定期試験が，ともに65点以上で合格とする。

7. 教本

末高武彦 他　編　スタンダード衛生学・公衆衛生学　学建書院　2021

安井利一 他　編　口腔保健・予防歯科学　医歯薬出版　2021

8. 参考書

安井利一 他　編　新編　衛生学・公衆衛生学　医歯薬出版　2021

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	口腔衛生学概論	健康の定義，健康保持増進対策，PHCとHP，国際保健協力，健康増進法と健康日本21（第二次），健康の社会的決定要因	A-7-2)，B1，B-3-1，B-4-1)／必4-ア，総Ⅰ-1-ア，イ，エ，総Ⅰ-5-ア	①
2	4／21	疫学	疫学の概念と疫学要因，交絡とバイアス，疾病・死亡の指標	B-4-1)／総Ⅰ-6-ア	〃
3	4／28	疫学	記述疫学，患者対照研究，コホート研究	B-4-1)／総Ⅰ-6-ア	〃
4	5／12	疫学	介入研究(RCT)とEBM，メタアナリシス，システマティックレビュ	B-4-1)／必2-ウ，総Ⅰ-6-ア	〃
5	5／19	疫学	スクリーニングテスト	B-4-1，2)／必10-ア，総Ⅰ-1-イ，Ⅰ-6-ア	〃
6	5／26	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防の３相５段階，感染症の予防，感染症関連法規，院内感染予防，B型肝炎訴訟，予防接種	A-6-1，3)，B-3-1)／必4-ア，総Ⅰ-7-ア)，総Ⅰ-1ア，イ，エ	〃
7	6／2	疾病予防と健康管理，環境衛生	NCD予防対策，地球環境破壊と保全条約，典型公害（水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそく）	B-2-4)，B-4-2，3)／必2-オ，総Ⅰ-6-エ，総Ⅰ-9-ア	〃
8	6／9	食品衛生	日本人の食事摂取基準，食中毒	B-1／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
9	6／16	人口問題	最近の我が国の人口状況，生命表関数	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
10	6／23	地域保健	地域保健法（保健所と市町村保健センター），健康増進法と市町村保健事業，精神保健	B-2-1／必4-イ．総Ⅰ-1-ウ	〃
11	6／30	地域保健	地域保健の進め方（ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ），ライフコースアプローチ，PDCAサイクル，費用効果等分析	B-3-2／総Ⅰ-1-エ	①
12	7／7	口腔環境	口腔の発育と唾液の機能，口腔内不潔物	B-3-2)／必5-イ，総Ⅰ-1-イ	〃
13	7／14	口腔環境，歯口清掃	口腔内不潔物とブラッシング法，歯磨剤	B-3-2)／必4-ウ，エ，必5-イ，総Ⅰ-1イ，各Ⅱ-1ア，イ	〃
14	7／21	歯科疫学指標	歯口清掃関連指標（OHI，OHI-S，PHP，PCR，PlI）	B-4-1)／総Ⅰ-6-イ	②
15	7／28	歯科疫学指標	硬組織関連指標（ＤＭＦ，CFI，齲蝕抑制率），歯周組織関連指標（CPI，PMA，GI）	B-4-1)／総Ⅰ-6-イ	〃
16	9／5	齲蝕の予防	齲蝕の疫学，齲蝕病因論	B-3-2)，B-4-1)／必4-ウ，総Ⅰ-6-イ，各Ⅱ-１-イ	①
17	9／12	齲蝕の予防	フッ化物の基本，フッ化物の応用	B-3-2)／必4-ウ，総Ⅷ-5-イ，各Ⅱ-1ア，イ	〃
18	9／26	齲蝕の予防	フッ化物の応用と急性・慢性フッ素中毒，フィッシャーシーラント	B-3-2)／必4-ウ，総Ⅷ-5-イ，各Ⅱ-1ア，イ	〃
19	10／3	歯周病の予防	歯周病の原因と修飾要因，歯周病と全身疾患，喫煙の害	B-3-2)／総Ⅰ-6-ウ，各Ⅱ-3-イ	〃
20	10／17	口臭の予防	口臭の原因と予防・治療	B-3-2)／各Ⅵ1-ア，各Ⅲ5-ア	〃
21	10／24	母子保健	母子保健法	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ア	②
22	10／31	母子歯科保健	妊産婦歯科健康診査，１歳６か月児歯科健康診査，３歳児歯科健康診査	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
23	11／7	学校保健	学校保健安全法，学校保健活動，学校保健の３管理	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-イ	①
24	11／14	学校保健	学校保健関係者，学校歯科医の職務の準則，学校保健管理(健康診断)	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-イ	〃
25	11／21	学校歯科保健	学校歯科健康診断	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-イ	〃
26	11／28	産業保健	労働安全衛生法，労働衛生３管理	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ウ	〃
27	12／5	産業保健	トータルヘルスプロモーションプラン，職業性疾患	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ウ	〃
28	12／12	産業歯科保健	産業歯科医による特殊健康診断，労働者災害補償保険	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ウ	〃
29	12／19	成人・老人歯科保健	健康増進法事業，特定健康診査における標準的な質問票，介護予防の基本チエックリスト，オーラルフレイル，禁煙支援	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-エ，オ	③
30	12／20	国家統計	歯科疾患実態調査，国民生活基礎調査，患者調査，医師･歯科医師･薬剤師調査，国民健康・栄養調査	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	①

口腔衛生学実習（後期・１単位）

D③－1902

科目責任者：廣瀬　公治（衛生・教授）
科目担当者：①廣瀬　公治（衛生），②瀬川　　洋（衛生），
③大橋　明石（衛生），④南　健太郎（衛生），
⑤小林美智代（衛生），⑥窪田　明久（非常勤），
⑦相馬　親良（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

本実習では，人間の健康に影響を与える環境要因の測定と，地域歯科保健活動の主軸をなす歯科疫学指標の収集の実際と，さらには予防歯科臨床で多用される小窩裂溝填塞とフッ化物応用について実技を通しその基本を習得することを目的に実施する。

2. 一般目標

環境要因を測定するための基本的技能と，集団における口腔疾患の状況を正しく分析・評価し，疾病予防のための方策を立案するための基本的技能を習得する。

3. 到達目標

１）環境測定を行い評価できる。
２）口腔内を適切な指標で評価できる。
３）口腔清掃状況を評価し適切な指導を実施できる。
４）フッ化物応用とシーラントの基本的手技を実施できる。
５）統計分析の意義を説明できる。
６）各測定資料から個人及び集団の口腔内状況を評価し予防対策を立案できる。
７）実習で習得したことをスライドにまとめ発表できる。

4. 履修の進め方

実習実技についての説明，実技を取り入れた実習及び実習成果のスライドを作成し発表，この３つを柱として履修する。

5. 準備学修

実習項目に関連する項目について，実習書，教科書及び講義ノートを読むこと（15分）。

6. 評価方法

出席（10％），レポート（20％），効果測定（70％）の合計で65点以上を合格とする。

出席点は次に定める方法に従う。
15回全出席：10点
14回出席　：６点
13回出席　：３点
12回出席　：０点
11回以下　：未修了

7. 教本

荒川浩久 他 編 「生活と健康－測定と評価法－」 学建書院　2020.

8. 参考書

末高武彦 他 編　スタンダード衛生学・公衆衛生学　学建書院　2020

安井利一 他 編　口腔保健・予防歯科学　医歯薬出版　2021

安井利一 他 編　新編　衛生学・公衆衛生学　医歯薬出版　2021

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／7	環境衛生実習オリエンテーション	環境衛生実習概説	B-2-4)／総Ⅰ-9-ア	① ～ ⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4 5 6	9／14	1．水の衛生 2．空気の衛生 3．騒音と疲労	3グループ編成で，1～3の内容を3週ローテーションで行う。	B-2-4)／ 総Ⅰ-9-ア	① ～ ⑤
7 8 9	9／21	1．水の衛生 2．空気の衛生 3．騒音と疲労	3グループ編成で，1～3の内容を3週ローテーションで行う。	B-2-4)／ 総Ⅰ-9-ア	〃
10 11 12	9／28	1．水の衛生 2．空気の衛生 3．騒音と疲労	3グループ編成で，1～3の内容を3週ローテーションで行う。	B-2-4)／ 総Ⅰ-9-ア	〃
13 14 15	10／5	環境衛生実習 発表効果測定	発表媒体作成，発表，効果測定	B-2-4)／ 総Ⅰ-9-ア	〃
16 17 18	10／12	予防歯科実習 オリエンテーション	予防歯科実習概説	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
19 20 21	10／19	齲蝕活動性試験	宿主要因と寄生体要因についての検査	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
22 23 24	10／26	1．小窩裂溝填塞 2．フッ化物基礎実習	2グループ編成で1，2の内容をローテーションで行う。	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
25 26 27	11／2	口腔診査 (硬組織)	DMF関連指標	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	① ～ ⑦
28 29 30	11／9	口腔診査 (歯周組織)， DMF関連， 歯周組織関連指標計算演習	PMA，GI， PlI	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
31 32 33	11／16	口腔診査 (歯口清掃)	OHI，OHI-S， PHP，PCR	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
34 35 36	11／30	保健統計演習	疫学統計実習	B-4／ 総Ⅰ-6-イ	⑤
37 38 39	12／7	口腔内総合評価(個人・集団)演習	総合評価	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	① ～ ⑤
40 41 42	12／14	口腔内総合評価発表効果測定	発表媒体作成，発表，効果測定	B-3-2)／ 必4-ウ， 総Ⅰ-6イ， 各Ⅱ-1-イ	〃
43 44 45	12／21	全実習の総括 再効果測定	統括演習， 再効果測定	実施全範囲	〃

保存修復学Ⅰ（後期・２単位）

D③④－2401

科目責任者：山田　嘉重（修復・教授）
科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

齲蝕，歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して，病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに，審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学Ⅰでは総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術，特に齲蝕の診断，処置方法，窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義する。板書，スライド，配布資料を用いた講義が主体となる。

2. 一般目標

齲蝕，非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するために，基礎知識として疾患の診断と処置方法，窩洞および各種修復方法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。ディプロマ・ポリシーの２：探求力と解決力，４：知識と診断能力を養い各種硬組織疾患の診断や処置法など歯科治療の基礎となる項目を確実に履修することを目標とする。

3. 到達目標

1）齲蝕，非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態が説明できる。
2）エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕，根面齲蝕の診査方法および治療方法が説明できる。
3）切削機器，器具の名称と用途が説明できる。
4）窩洞の分類，特徴および形成方法が説明できる。
5）象牙質知覚過敏症，変色歯，破折歯の処置法が説明できる。
6）歯髄障害の原因と対策を説明できる。
7）コンポジットレジン修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。
8）グラスアイオノマーセメント修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。

4. 履修の進め方

1）講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
2）板書，スライド，配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
3）学生は板書，スライドおよび配付資料に沿って独自に授業ノート等を作成し，要点および追加事項を記入する。
4）学生は理解が不十分な点について，適宜教員に質問して理解を深める。
5）学生の授業の予習・復習の確認のため，授業の前後で小試験を行うこともある。

5. 準備学修

シラバスを確認して，授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う（30分）。授業終了後，講義ノートや配布資料を用いてその日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する（30分から１時間程度）。

6. 評価方法

定期試験で評価する。定期試験で65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斎藤隆史（編）「保存修復学21　第６版」 永末書店　2022年版

8. 参考書

千田　彰, 宮崎真至, ･林美加子, 向井義晴, 斎藤隆史（偏）「保存修復学　第７版」 医歯薬出版　2019年版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／5	保存修復学概論①	保存修復学の概念と目的，歴史，修復材料の一般的性質，治療器械の変遷	E-3／必-12，総Ⅷ-2	①
2	9／5	保存修復学概論②	保存修復の種類と適応症．歯の構造と機能，硬組織の加齢に伴う変化	E-3／総Ⅱ-5	〃
3	9／12	硬組織疾患①	齲蝕の病因と病態①，エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕	E-3／各Ⅱ-1	〃
4	9／12	硬組織疾患②	齲蝕の病因と病態②．根面齲蝕・二次齲蝕	E-3／各Ⅱ-1	〃
5	9／26	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患．変色歯，象牙質知覚過敏	E-3／必-8，各Ⅱ-1	②
6	9／26	診断と治療計画①	医療面接，硬組織疾患の検査法，問題点の抽出	E-3／総Ⅴ-1，Ⅵ-1	〃
7	10／3	診断と治療計画②	治療計画，インフォームドコンセント	E-3／総Ⅶ-1	〃
8	10／3	硬組織切削	診療設備，姿勢，切削器具，医療用レーザー等	D-1／総Ⅷ-2	〃
9	10／17	齲蝕の処置①	初期エナメル質齲蝕，エナメル質齲蝕の処置法	E-3／各Ⅱ-1	①
10	10／17	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕，根面齲蝕の処置法	E-3／各Ⅱ-1	〃
11	10／24	窩洞①	窩洞の分類，窩洞の構造と各部の名称，窩洞の具備すべき条件①	E-3／各Ⅱ-1	②
12	10／24	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②，接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い	E-3／各Ⅱ-1	〃
13	10／31	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護，裏層・覆髄および仮封エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕	E-3／各Ⅱ-1	①
14	10／31	修復時の留意点②	治療の前準備・修復補助法，修復物の具備すべき条件	E-3／各Ⅱ-1	①
15	11／7	齲蝕の処置③	回転切削器具を使用しない齲蝕処置	E-3／必-8，各Ⅱ-1	〃
16	11／7	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	E-3／必-8，各Ⅱ-1	〃
17	11／14	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	E-3／必-8，各Ⅱ-1	〃
18	11／14	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	E-3／必-8，各Ⅱ-1	〃
19	11／21	グラスアイオノマーセメント修復①	従来型グラスアイオノマーセメント修復（Ⅰ）	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃
20	11／21	グラスアイオノマーセメント修復②	従来型グラスアイオノマーセメント修復（Ⅱ）	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃
21	11／28	歯冠修復法概論	歯冠修復法概論	E-3／各Ⅱ-1	②
22	11／28	歯質接着システム①	歯質接着システム①	E-3／総Ⅷ-8，各Ⅱ-1	〃
23	12／5	歯質接着システム②	歯質接着システム②	E-3／総Ⅷ-8，各Ⅱ-1	〃
24	12／5	コンポジットレジン修復①	コンポジットレジン修復①	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃
25	12／12	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復②	E-3／各Ⅱ-1	〃
26	12／12	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復③	E-3／各Ⅱ-1	〃
27	12／16	コンポジットレジン修復④	コンポジットレジン修復④	E-3／各Ⅱ-1	〃
28	12／16	コンポジットレジン修復⑤	コンポジットレジン修復⑤	E-3／各Ⅱ-1	〃
29	12／19	グラスアイオノマーセメント修復③	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復（Ⅰ）	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	①
30	12／19	グラスアイオノマーセメント修復④	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復（Ⅱ）	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃

冠橋義歯補綴学Ⅰ（後期・１単位）

D③④－2402

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②清野　晃孝（病院），
③五十嵐一彰（冠橋），④盛植　泰輔（冠橋）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから，安全かつ確実な治療を施すためには，顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず，使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり，かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで，冠橋義歯補綴学Ⅰでは冠橋義歯の歴史と総論およびクラウンの種類，ブリッジの種類と構成などについて教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために，クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

1）クラウンブリッジの歴史を説明する。
2）冠橋義歯補綴学の意義と目的を説明する。
3）クラウンブリッジの要件を説明する。
4）クラウンの種類を説明する。
5）ブリッジの種類と校正を説明する。
6）インフォームドコンセントの考え方と成立要件を説明できる。
7）冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置を説明できる。
8）支台歯形成の目的と原則，手順を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書を中心として，配布プリントとスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために講義時間内に小テストを行う。

5. 準備学修

シラバスを確認して，次回の講義内容について教科書を読むこと。(15分)

講義内で実施する小テストで間違った問題を中心に，教科書と講義内容を再度確認する。(30分)

6. 評価方法

後期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

矢谷博文ら 編「クラウンブリッジ補綴学第６版」医歯薬出版

石橋寛二ら 編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／１	冠橋義歯補綴学の意義と目的	冠橋義歯補綴学の意義と目的	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-3-ア	①
2	９／８	咬合・歯周組織の正常像	咬合・歯周組織の正常像	E-3-4)-(1)-①／必5-ア-e	②
3	９／15	咬合・咀嚼障害	咬合・咀嚼障害	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-1-アイウエオ	①
4	９／22	診察と診断と感染予防	冠橋義歯補綴に必要な診察項目と診断法および感染予防	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-2-アイウ	〃
5	９／29	治療計画を左右する因子	治療計画を左右する局所・全身的因子	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-2-エ	〃
6	10／６	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められる要件	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-3-ア	〃
7	10／13	クラウンの種類と分類①	全部被覆冠の種類と分類	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	④
8	10／20	クラウンの種類と分類②	部分被覆冠の種類と分類	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	③
9	10／27	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義，構成要素，種類と適応症	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	〃
10	11／10	クラウンブリッジの設計	ブリッジの支台歯，支台装置とポンティックの選択	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	〃
11	11／17	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの基本的な考え方，成立要件	E-3-4)-(1)-②／必1-イ-a	①
12	11／24	前処置	冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置の意義，種類	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-イ-a	〃
13	12／１	支台歯形成①	支台歯形成の原則と支台歯の基本形態	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	〃
14	12／８	支台歯形成②	全部被覆冠の支台歯形成	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	④
15	12／15	支台歯形成③	部分被覆冠の支台歯形成	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	①

有床義歯補綴学Ⅰ（後期・３単位）

D③④－2403

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）
科目担当者：①山森　徹雄（有床），②松本　知生（有床），
③高津　匡樹（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と全部欠損（無歯顎）に対する全部床義歯がある。有床義歯補綴学Ⅰでは全部床義歯補綴学を学習する。全部床義歯は上下顎の一方または両方の歯を喪失した症例に対して装着される義歯で，人工歯列を付与することにより顎顔面および口腔の形態，機能，審美性を回復するとともに，患者の健康を維持・増進する補綴装置である。ここでは全部床義歯を製作・装着するための理論を学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために，全部床義歯の臨床的意義を理解し，全部床義歯を製作・装着するための知識を修得する。

3. 到達目標

1）無歯顎の特徴を説明する。
2）全部床義歯の維持力発現の因子を説明する。
3）全部床義歯の製作過程を説明する。
4）無歯顎の診察・検査・診断法および治療計画の立て方を説明する。
5）前処置の内容と方法を説明する。
6）全部床義歯の維持・支持に関する要因を説明する。
7）全部床義歯の製作過程における理論を説明する。
8）全部床義歯に付与する咬合の理論と平衡咬合を得るための削合を説明する。
9）全部床義歯のメインテナンスに対する考え方を説明する。
10）全部床義歯装着後の異常経過と疾病を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において，スライド，プリントなどを用い，講義を中心とした学習を行う。

5. 準備学修

予　習：有床義歯補綴学に関連する基礎科目として，口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容を復習して講義に臨む。(30分)
復　習：講義内容を当日中に必ず復習し，講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート，配布資料，教科書により自己学習を行う。(60分以上)

6. 評価方法

毎回の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は，中間試験（40％），後期定期試験（60％）により行う。なお履修態度に応じて10％を上限とする加点を行う。

7. 教本

市川哲雄 他編：無歯顎補綴治療学　第４版　医歯薬出版　2016

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第５版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／1	無歯顎の特徴	無歯顎の成り立ちと無歯顎の持徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	①
2	9／6	全部床義歯の特徴	全部床義歯の構成要素と特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア	〃
3	9／6	全部床義歯の物理的維持	全部床義歯の維持をもたらす物理的因子を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア	〃
4	9／8	全部床義歯の解剖的維持	全部床義歯の維持をもたらす解剖的因子を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア	〃
5	9／13	全部床義歯の支持と安定	全部床義歯の支持と安定に影響を及ぼす因子	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア	〃
6	9／13	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程・製作手順を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア	〃
7	9／15	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程の概要を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
8	9／20	無歯顎の診察・検査	無歯顎の診察・検査項目を学ぶ	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
9	9／20	無歯顎の診断基準と治療計画	無歯顎の診断基準と治療計画立案を学ぶ	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
10	9／22	前処置	無歯顎補綴治療の前処置を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
11	9／27	無歯顎の筋圧形成	無歯顎の筋圧形成方法・根拠を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
12	9／27	無歯顎の印象	印象材の種類印象方法を学ぶ,	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
13	9／29	作業用模型と咬合床	作業用模型，咬合床の製作における要点を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
14	10／4	咬合採得の進め方	全部床義歯製作のための咬合採得の概要を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
15	10／4	仮想咬合平面の設定	仮想校合平面の決定法について学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
16	10／6	垂直的顎間関係の決定１	形態的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定について学習する	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
17	10／11	垂直的顎間関係の決定２	機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定法について学習する	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
18	10／11	水平的顎間関係の記録１	器具を使用しない水平的顎間関係の記録法	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	①
19	10／13	水平的顎間関係の記録２	特殊な器具を使用する水平的顎間関係の記録法	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
20	10／18	下顎運動の記録法	二次元的，三次元的下顎運動の記録法	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
21	10／18	顔弓と咬合器１	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
22	10／20	顔弓と咬合器２	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
23	10／25	前歯部人工歯の選択	前歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
24	10／25	前歯部人工歯の排列	前歯部人工歯の排列基準と排列法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
25	10／27	臼歯部人工歯の選択	臼歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	③
26	11／１	臼歯部人工歯の排列	臼歯部人工歯の排列の基本原則を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	①
27	11／１	全部床義歯に付与する咬合様式	全部床義歯に付与する咬合様式を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
28	11／８	歯肉形成蠟義歯の口腔内試適	歯肉形成および蠟義歯の口腔内試適時の検査事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	②
29	11／８	歯肉形成蠟義歯の口腔内試適	歯肉形成および蠟義歯の口腔内試適時の検査事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
30	11／10	埋没	蠟義歯の埋没方法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
31	11／15	埋没	蠟義歯の埋没方法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
32	11／15	研磨	義歯床用レジンの研磨方法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
33	11／17	咬合器再装着	重合義歯の咬合器再装着の目的と方法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	③
34	11／22	削合	選択削合と自動削合の理論と実際を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	②
35	11／22	義歯装着	完成義歯の試適，装着時の留意事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
36	11／24	義歯装着	完成義歯の試適，装着時の留意事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	②
37	11／29	義歯装着時の患者教育	義歯装着時に患者へ説明・指導する内容を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ, ウ	〃
38	11／29	義歯装着後の経過	義歯装着後に生じる異常事項と対応を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
39	12／１	義歯の修理	装着後の破損と修理方法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
40	12／６	リラインとリベース	全部床義歯のリライン，リベースを学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	①
41	12／６	オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの特徴適応症，製作法	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
42	12／８	特殊な義歯	暫間義歯，即時義歯，治療用義歯，移行義歯	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
43	12／13	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
44	12／13	口蓋補綴	口蓋裂患者の補綴方法と機能回復を学ぶ	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃
45	12／15	顎補綴	顎欠損に対する顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅴ-2-ア～エ	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習
（後期・１単位）

D④⑤－2501

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）
科目担当者：①山森　徹雄（有床），②松本　知生（有床），
③池田　敏和（有床），④高津　匡樹（非常勤），
⑤浅井　政一（非常勤），⑥和田　裕一（非常勤），
⑦佐久間隆章（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅰで理解した無歯顎補綴の理論と全部床義歯を製作・装着するための基本的技術を模型実習を通して修得する。歯科医療における技術とは，「理論を実践する技」であるとの認識に立ち，単に全部床義歯の製作過程・操作を覚えることにとどまらず，背景にある理論を併せて学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために，全部床義歯を製作・装着するための技術を修得するとともに，その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

1）咬合床の役割と咬合堤の標準的寸法に関する知識を基に，咬合床を製作する。
2）模型を咬合器に装着する方法に関する知識を基に，咬合器を調節する。
3）人工歯排列の基本的原則に則り，咬合堤に人工歯を排列する。
4）回復すべき歯肉形態に関する知識を基に，自然観のある歯肉形態を形成する。
5）蝋義歯をフラスクに埋没する。
6）義歯床用レジンの成形法と重合法に関する知識を基に，レジンを填入・重合する。
7）完成義歯を咬合器に再装着する意義と方法に関する知識を基に，咬合器に再装着する。
8）両側性平衡咬合における咬合接触関係に関する知識を基に，人工歯を削合する。
9）義歯の研磨操作をする。

4. 履修の進め方

中央棟５階の模型実習室において，小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 準備学修

予　習：有床義歯学に関連する基礎科目として，口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰの講義内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント，教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)
復　習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し，理解が不十分な項目については実習プリント，教科書により自己学習を行う。(30分)

6. 評価方法

実習中の口頭試問，レポート等にて形成的評価を行う。総括的評価は実技試験（40％），製作物（40％），実習毎の小テスト（10％）および履修態度（10％）により行う。

7. 教本

細井紀雄 他編：コンプリートデンチャーテクニック　第６版　医歯薬出版　2011年

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第５版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	９／6	基準線の記入	模型に外形線・歯槽頂線を記入する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ア	① ～ ⑥ 他
5 6 7 8	９／13	上顎模型の咬合器装着	咬合採得し，上顎模型を咬合器に装着	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
9 10 11 12	９／20	下顎模型の咬合器装着	顎間関係の記録をもとに下顎模型を咬合器に装着	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
13 14 15 16	９／27	人工歯排列１	上顎前歯部の人工歯を排列する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
17 18 19 20	10／４	人工歯排列２	上顎臼歯部の人工歯を排列する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
21 22 23 24	10／11	人工歯排列３	下顎前歯部の人工歯を排列する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
25 26 27 28	10／18	人工歯排列４	下顎臼歯部の人工歯を排列する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
29 30 31 32	10／25	歯肉形成１	唇・頬側歯肉を形成する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
33 34 35 36	11／１	歯肉形成２	口蓋側・舌側歯肉を形成する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
37 38 39 40	11／８	歯型の採得	咬合器再装着するためのテンチの歯型を採得	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
41 42 43 44	11／15	フラスク埋没	フラスクに蠟義歯を埋没し流蠟する	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
45 46 47 48	11／22	レジン填入・重合・割り出し	レジンを混和・填入・重合し，義歯を割り出す	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
49 50 51 52	11／29	咬合器再装着・削合	重合した義歯を咬合器に再装着し，削合を行う	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
53 54 55 56	12／６	仕上げ研磨，提出準備	義歯の仕上げ研磨を行い，提出の準備をする	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
57 58 59 60	12／13	提出，実技試験	製作物を提出し，人工歯排列の実技試験を受ける	E-3-4)／ 各Ⅳ-5-ウ	〃

口腔外科学Ⅰ（通年・２単位）

D③④－2404

科目責任者：金　　秀樹（外科・教授）
科目担当者：①金　　秀樹（外科），②川原　一郎（外科），
③御代田　駿（外科），④小嶋　忠之（外科）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

科目の概要口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯，の硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など）に生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔外科学Ⅰでは，顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために，１）手術総論，小手術の知識，２）症性疾患，３）腔粘膜疾患，４）血液疾患，５）損傷，６）全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の基礎的および臨床的な知識を習得する。

3. 到達目標

１）消毒法および切開，止血，縫合の種類と器具，基本術式を説明する。
２）外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
３）炎症性疾患の分類と症状を説明する。
４）口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
５）血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
６）損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
７）全身疾患と口腔病態の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと配布資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。(30分)

6. 評価方法

前期と後期の講義終了後，講義内容についてMCQおよび記述式試験を実施し理解度を評価する。再試験は65点未満の不合格者に実施する。最終評価は前期･後期の本試験，追･再試験の全平均点で65点以上を合格とする。

7. 教本

野間弘康，瀬戸晥一　監修　「標準口腔外科学」第４版　医学書院　2018年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／12	手術総論および小手術１	手術用器具と材料の滅菌，術者の手指の消毒	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	④
2	４／19	手術総論および小手術２	切開の器具，切開法，縫の材料・器具，縫合法	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	〃
3	４／26	手術総論および小手術３	出血の種類，止血法	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	〃
4	５／10	手術総論および小手術４	有病者(全身疾患を有する患者）に対する観血処置の問題点	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	〃
5	５／17	炎症性疾患１	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の診断	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	①
6	５／24	炎症性疾患２	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
7	５／31	炎症性疾患３	顎骨炎，歯性上顎洞炎の診断	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
8	６／７	炎症性疾患４	顎骨炎，歯性上顎洞炎の治療	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
9	６／14	炎症性疾患５	骨髄炎，放射線性骨壊死と放射線性骨髄炎の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
10	６／21	炎症性疾患６	顎部放線菌症口腔結核，口腔梅毒の口腔症状と診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
11	６／28	炎症性疾患７	菌血症，敗血症の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
12	７／５	損傷１	歯の脱臼，歯の破折に対する診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	③
13	７／12	損傷２	軟組織損傷に対する診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
14	７／19	損傷３	骨折の診断	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
15	７／26	損傷４	骨折の治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
16	９／２	血液疾患１	造血と血液機能，止血機能，血液検査と鑑別，診断	E-2-4／各Ⅲ-4-サ	②
17	９／９	血液疾患２	貧血の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
18	９／16	血液疾患３	白血病の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-ケ	②
19	９／30	血液疾患４	血小板，凝固因子，血管，線溶系異常の各疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-コ	〃
20	10／７	口腔粘膜疾患１	水疱，紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	④
21	10／14	口腔粘膜疾患２	潰瘍，白斑，色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
22	10／21	口腔粘膜疾患３	舌炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
23	10／28	口腔粘膜疾患４	口唇炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
24	11／４	全身疾患と口腔病態１	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群	E-2-4／各Ⅲ-4-ア	①
25	11／11	全身疾患と口腔病態２	感染症の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-イ	〃
26	11／18	全身疾患と口腔病態３	免疫不全，免疫疾患の診断	E-2-4／各Ⅲ-4-エ	〃
27	11／25	全身疾患と口腔病態４	免疫不全，免疫疾患の治療	E-2-4／各Ⅲ-4-オ	〃
28	12／２	全身疾患と口腔病態５	内分泌障害の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-カ	〃
29	12／９	全身疾患と口腔病態６	代謝異常の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-カ	〃
30	12／16	全身疾患と口腔病態７	栄養障害の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-キ	〃

口腔内科学（通年・２単位）

D③④－2301

科目責任者：髙田　　訓（外科・教授）
科目担当者：①髙田　　訓（外科），②臼田　真浩（外科），
③髙橋文太郎（外科），④川嶋　雅之（外科），
⑤中江　次郎（非常勤），⑥小板橋　勉（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔内科学は，2014年度から正式に標記され取り入れた科目である。現在，奥羽大学歯学部附属病院にも口腔内科として外来が開設されている。1980年代はオーラルメディシンや口腔診断学の概念が強く，口腔疾患の診断がメインと思われがちな科目であった。近年は，全身疾患や心身医学的疾患に関する知識，口腔機能や栄養サポート，院内感染や感染予防，様々な臨床検査や放射線学的診断，口腔病理診断も加えた広範囲で総合的な医学的知識による診断能力を必要とする科目であり，内科的治療の必要性が高い超高齢社会の我が国にとって必要不可欠な科目である。

2. 一般目標

社会の変化や新知見に伴って概念が変わりつつある口腔疾患を広い視野で診断し，全身疾患を把握して他職種と連携して患者個々のニーズに合わせた治療方針を立案できるようになるために，各種疾患を理解して診査・診断・治療法を学ぶ。

3. 到達目標

1）口腔内科学の定義・役割を学ぶ。
2）診断の進め方を理解する。
3）臨床検査とその意義を理解する。
4）口腔疾患に対する治療法を理解する。
5）全身疾患と口腔疾患との関連を理解する。
6）医療連携と他職種連携を理解する。
7）器質的変化を伴う疾患を理解し，診断する。
8）器質的変化を伴わない疾患を理解し，診断する。
9）口腔機能を理解し，患者のニーズを知る。
10）医療安全と感染対策を理解する。

4. 履修の進め方

2016年に教本が出来た新しい科目である。歯学教育モデル・コア・カリキュラムには診療参加型臨床実習に必要な内容として記載されている。通年30コマのうち，前期15コマは口腔領域に関連した疾患の概要を理解し，様々な疾患名を記憶に残すことを目的に講義形式で履修を進める。後期15コマも講義形式で行うが，臨床における口腔内科の現状を供覧する。30コマを通じて口腔内科学の教本に沿って授業をすすめる。

5. 準備学修

口腔内科学は教本に示した口腔内科学（末永書店）の内容のみならず，基礎系科目の口腔解剖，口腔組織，口腔生化，口腔生理，歯科薬理，口腔病理，口腔感染免疫などの基本的な知識とともに修得していく必要がある。特に口腔粘膜疾患や口腔外科学で履修する各疾患，更に歯科口腔心身症や全身疾患とも密接に関連するので，口腔外科学第３版や標準口腔外科学第４版も参考に履修するのが望ましい。また，口腔疾患の診断のために必要な臨床検査や心身医学的検査，放射線診断能力や口腔病理学的診断能力など，広い知識をバランス良く頭に入れておく必要がある。履修日前日に30分程度の事前学修が望ましい。

6. 評価方法

各期の試験形式はMCQ（40～50問）を８割以上，論述を２割未満の配点で作成する。なお，再試験は65点未満の不合格者のみに実施する。追試験は正式な欠席理由による届出を要し，追試験に対する再試は実施しない。最終評価は前・

後期の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔内科学　第２版　末永書店

8. 参考書

口腔外科学　第４版　医歯薬出版

標準口腔外科学　第４版　医学書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	口腔内科とは	口腔内科の定義と役割	E-1-1)／総Ⅳ-1-ア	①
2	4／15	診査･診断-１	インフォームドコンセントと診査・診断の進め方	E-1-1)／総Ⅳ-1-ア	〃
3	4／22	診査･診断-２	他職種連携・病診連携	E-6／総Ⅳ-6-カ	〃
4	5／6	臨床検査-１	血液・尿・生化・免疫学的検査	E-1-3／総Ⅵ-3-ア	〃
5	5／13	臨床検査-２	呼吸器・循環器・病理学的検査	E-1-3／総Ⅵ-4-ア	〃
6	5／20	臨床現状-１	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	③⑤
7	5／27	臨床現状-２	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
8	6／3	臨床現状-３	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	③⑥
9	6／10	臨床現状-４	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
10	6／17	顎口腔機能検査-１	唾液・味覚検査	E-2-4／総Ⅵ-1-イ	①
11	6／24	顎口腔機能検査-２	嚥下・咀嚼・生理学的検査	E-2-4／総Ⅵ-1-イ	〃
12	7／1	治療学-１	薬物療法・理学療法	E-2-4／総Ⅶ-8，9	〃
13	7／8	治療学-２	治療の障害になる疾患	E-2-4／総Ⅶ-1-エ	〃
14	7／15	治療学-３	終末期医療・ランディング	E-2-4／総Ⅶ-5-ア,イ,ウ	〃
15	7／22	前期口腔内科学まとめ	前期15コマ総括	E-2／必,総Ⅳ,Ⅵ,Ⅷ	〃
16	9／2	前期フィードバック	確認試験（形成的評価）	E-2／必,総Ⅳ,Ⅵ,Ⅷ	〃
17	9／9	全身疾患との関連-１	血液疾患・脳卒中	E-6／総Ⅴ-6-ア	②
18	9／16	全身疾患との関連-２	循環器・呼吸器・肝臓・腎臓疾患	E-6／総Ⅴ-6-ア	〃
19	9／30	全身疾患との関連-３	代謝・内分泌疾患	E-6／総Ⅴ-6-ア	〃
20	10／7	全身疾患との関連-４	アレルギー・自己免疫疾患・感染症	E-6／総Ⅴ-6-ア	③
21	10／14	口腔疾患各論-１	炎症性疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1	④
22	10／21	口腔疾患各論-２	皮膚・粘膜疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1	④
23	10／28	口腔疾患各論-３	唾液腺疾患1	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	③
24	11／4	口腔疾患各論-４	唾液腺疾患2	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
25	11／11	口腔疾患各論-５	神経疾患	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	②
26	11／18	口腔疾患各論-６	歯科口腔心身症	E-2-4)／各Ⅲ-4-シ	③
27	11／25	口腔疾患各論-７	顎関節疾患	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	②
28	12／2	医療現場と環境-１	口腔機能と睡眠障害	E-2-4)／各Ⅳ-1-ク	③
29	12／9	医療現場と環境-２	医療安全と感染症対策	E-2-4)／必2-オ,カ	④
30	12／16	口腔内科学まとめ	前期・後期30コマ総括	E-2／必,総Ⅴ,各Ⅲ,Ⅳ	〃

歯科放射線学Ⅰ（後期・２単位）

D③④－2304

科目責任者：原田　卓哉（放射・教授）
科目担当者：①原田　卓哉（放射），②茂呂祐利子（放射），
③矢口　剛士（放射）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり，患者に利益をもたらしている一方で，被曝による危険も共存しています。放射線利用には，知識や技術的なことはもちろん，良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学，放射線生物学，放射線化学を，また臨床放射線学として放射線診断学，放射線治療学，放射線防護学を学びます。基礎放射線学では，放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び，臨床放射線学では放射線を利用した画像診断，放射線治療に必要な撮影技術，腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

1）的確な画像診断を行うために，歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
2）口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために，放射線治療の基礎と実際を理解する。

3. 到達目標

1）電離放射線の種類，性質および単位について述べる。
2）放射線の生体に対する影響について述べる。
3）エックス線画像形成について述べる。
4）口内法エックス線撮影について述べる。
5）パノラマエックス線撮影について述べる。
6）口外法エックス線撮影について述べる。
7）特殊撮影について述べる。
8）腫瘍の放射線治療について述べる。
9）放射線治療患者の口腔管理について述べる。

4. 履修の進め方

1）講義，示説で学習する。
2）文書，視覚媒体を用いる。
3）投影視覚媒体を用いる。

5. 準備学修

予　習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)
復　習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

6. 評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100％により評価する。
試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。
範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏　他「歯科放射線学　第６版」医歯薬出版　2018年

8. 参考書

金田　隆　他著「新歯科放射線学」医学情報社　2017年
日本歯科放射線学会編「歯科臨床における画像診断アトラス　第２版」医歯薬出版　2020年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／7	電離放射線	原子とその構造，電離と励起，電離放射線	E-1-2)／総Ⅵ-2	①
2	9／7	画像検査法の選択	病歴の取り方，画像検査のための推定診断	E-1-1)／総Ⅴ-1	〃
3	9／14	放射線の線量と単位	放射線の種類と分類，線量，放射能，エネルギー	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
4	9／14	口内法撮影	口内法撮影の原理，水平的角度，垂直的角度	E-1-2)／総Ⅵ-2	②
5	9／21	エックス線の特徴	エックス線と物質との相互作用，物質透過作用，電離作用，写真作用	E-1-2)／総Ⅵ-2	①
6	9／21	パノラマエックス線撮影	パノラマ撮影の原理，断層域，障害陰影	E-1-2)／総Ⅵ-2	③
7	9／28	エックス線撮影装置１	エックス線の発生原理，エックス線管	E-1-2)／総Ⅵ-2	①
8	9／28	頭部エックス線撮影	後頭前頭方向撮影法，側方向撮影法，軸方向撮影法	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
9	10／5	エックス線撮影装置２	口内法撮影装置，パノラマエックス線撮影装置	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
10	10／5	顎関節，セファロ	顎関節撮影法，頭部エックス線規格撮影法（セファログラム）	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
11	10／12	デジタルエックス線撮影装置	デジタルデータの意義，デジタルエックス線撮影装置	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
12	10／12	断層撮影，造影撮影	断層撮影の概要，造影剤の種類，造影剤の具備すべき条件	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
13	10／19	エックス線フィルム，増感紙	エックス線フィルムおよび増感紙の構造および種類	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
14	10／19	エックス線CT１	エックス線ＣＴ装置の構造と役割	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
15	10／26	エックス線写真処理	現像(広義)の定義，現像の手順と意義，使用薬剤の意義	E-1-2)／総論Ⅵ-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	10／26	エックス線CT２	組織のエックス線吸収率とＣＴ値との関係	E-1-2)／総Ⅵ-2	①
17	11／２	画像形成	潜像核，潜像，金属銀の生成半影，幾何学的関係	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
18	11／２	MRI原理１	MRIの概要，原子核のスピン，共鳴	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
19	11／９	コントラスト	エックス線コントラスト，特性曲線(黒化度曲線)	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
20	11／９	MRI原理２	縦緩和(スピン－格子緩和)，横緩和(スピン－スピン緩和)	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
21	11／16	鮮鋭度と解像力，画質	画質の定義，画質を低下する因子	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
22	11／16	MRI特徴	組織性状および病変と信号強度の関係，撮影禁忌	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
23	11／30	被曝，生体への影響	放射線の種類による影響，人体への影響	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
24	11／30	超音波検査１	超音波検査の概要，超音波検査装置	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
25	12／７	生物学的作用	組織の放射線感受性，放射線障害	E-1-2)／各Ⅵ-2	〃
26	12／７	超音波検査２	音響インピーダンス，エコーレベル，エラストグラフィ	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
27	12／14	防護	医療被曝，職業被曝，公衆被曝，診断参考レベル	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
28	12／14	核医学検査	単光子放出型ＣＴ，陽電子放出型断層撮影(PET) ほか	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
29	12／21	画像情報システム	ＤＩＣＯＭ，ＰＡＣＳ，画像情報システム病院情報システム	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
30	12／21	放射線治療	放射線治療の概要，外部照射，組織内照射放射線治療の副作用	E-2-4)／総Ⅶ-7	①

高齢者歯科学Ⅰ（後期・１単位）

D③④－2405

科目責任者：鈴木　史彦（高齢・教授）
科目担当者：①鈴木　史彦（高齢），②北條健太郎（麻酔），
③本間　達也（客員）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

現在の日本は高齢化率29.71％の超高齢社である。超高齢社会の問題点の一つは有病・要介護高齢者の増加である。高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した歯科治療のみならず，オーラルフレイルや口腔機能低下症等の口腔機能管理と，誤嚥性肺炎予防のための口腔衛生管理を併せた口腔健康管理が必須となる。また，医療・介護・福祉分野による多職種協働において，歯科の果たすべき役割についても理解する必要がある。高齢者歯科学Ⅰでは高齢者の特徴を理解するとともに，要介護の原因疾患を学習することで，通院が困難な要介護高齢者の在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。本科目は高齢者歯科学の総論に位置するものである。各論として，４年前期に高齢者歯科学Ⅱで摂食嚥下リハビリテーションを学習する。

2. 一般目標

多職種連携を踏まえた訪問歯科診療・在宅歯科医療を安全に実施するために，多職種協働のしくみや高齢者に必要な口腔健康管理に関する知識を習得する。

3. 到達目標

１）老化の身体的，精神的および心理的特徴を説明する。
２）老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明する。
３）高齢者に多く見られる口腔疾患を説明する。
４）高齢者における口腔ケア処置について説明する。
５）口腔機能向上による介護予防について説明する。
６）高齢者の歯科治療時の安全管理を説明する。
７）要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明する。
８）高齢者の歯科治療で注意すべき全身疾患を説明する。
９）歯科訪問診療について説明する。
10）急性期・慢性期・終末期での歯科の役割を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式でスライド，資料および教科書を使用して履修する。

5. 準備学修

一般的な身体的特徴を理解していないと，老化の身体的特徴の理解は難しい。本科目の履修準備として生物学と口腔生理学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち，他分野と関係が深い科目は次の通りである。高齢者で多くみられる全身疾患：総合臨床医学，口腔粘膜疾患:口腔外科学，介護保険:口腔衛生学，チーム医療：チーム医療学，高齢者で高頻度となる歯科治療：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ，保存修復学Ⅰ・Ⅱ，歯内療法学，歯周病学。

事前学習は教科書の該当箇所の重要語句(赤文字･青文字)と国家試験頻出項目（びっくりマーク）を確認しておくこと（15分)。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分)。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

6. 評価方法

論述試験を80点と客観試験を20点とし，65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

7. 教本

よくわかる高齢者歯科学　永末書店

8. 参考書

老年歯科医学　医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	高齢者歯科学	概論高齢者の特性	E-5-1)／必6-エ	①
2	9／9	社会保障	介護保険，高齢者医療	B-2-2)／必2-イ	〃
3	9／16	全身の加齢変化	身体・精神・心理の加齢変化	E-5-1)／必6-エ	〃
4	9／30	口腔の加齢変化	顎・口腔・嚥下機能の加齢変化	E-5-1)／必6-エ	〃
5	10／7	高齢患者の臨床評価	全身の評価，口腔機能の評価	E-5-1)／各Ⅴ-3-ア，イ，ウ，エ	〃
6	10／14	高齢者に多い口腔疾患	硬組織疾患，軟組織疾患	E-5-1)／総Ⅲ-2-ア，イ	〃
7	10／21	高齢者に多い全身疾患Ⅰ	脳血管障害	E-5-1)／総Ⅶ-1-エ	〃
8	10／28	高齢者に多い全身疾患Ⅱ	認知症	E-5-1)／総Ⅶ-1-エ	〃
9	11／4	高齢者に多い全身疾患Ⅲ	その他の全身疾患	E-5-1)／総Ⅶ-1-エ	〃
10	11／11	チーム医療チーム	医療，多職種連携	A-5-1)／必3-ア，イ	③
11	11／18	治療の場	在宅，施設	E-5-1)／必1-エ	①
12	11／25	訪問歯科診療	訪問歯科診療の基本，器具・器材，実際	E-5-1)／各Ⅴ-8-ア	②
13	12／2	各ステージでの歯科の役割	急性期，回復期，終末期	E-5-1)／総Ⅶ-1-ウ	①
14	12／9	口腔健康管理	口腔衛生管理，口腔ケア口腔ケア	E-5-1)／必4-エ	〃
15	12／16	臨床・まとめ	臨床例と講義のまとめ	E-5-1)／各Ⅴ-5-ア～カ	〃

災害歯科医学（後期・１単位）

D③④－2302

科目責任者：板橋　　仁（矯正・准教授）

科目担当者：①板橋　　仁（矯正），②佐々木重夫（歯内），③佐藤　　歩（心理），④岩原　香織（非常勤），⑤瀬川　　洋（衛生）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

今から11年前の未曾有の災害である東日本大震災を経験した本学において，災害時の医療体制・歯科的個人識別等，災害発生時の歯科医師の役割について学び，社会に貢献できる歯科医師となることを目標とする。

2. 一般目標

社会における歯科医師の役割を理解し，個人の尊厳と個人情報を遵守し，将来起こり得る大規模災害等に際して社会に貢献できる歯科医師となるために，災害時の歯科医療について学ぶ。（本学デュプロマポリシー１，２および６）

3. 到達目標

１）大規模災害時における歯科医師の役割を説明する。
２）災害時の医療体制について説明できる。
３）歯科的個人識別について説明できる。
４）法歯学の基本について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について，教科書および授業プリントの該当部分を読むこと（15分）

6. 評価方法

定期試験（100％）により評価し，65点以上で合格とする。

7. 教本

災害歯科医学：槻木恵一・中久木康一　編著：医師薬出版

8. 参考書

災害時の歯科保健医療対策　～連携と標準化に向けて～
日本災害時公衆衛生歯科研究会 編　一世出版
法歯科医学　高橋雅典監修　都筑民幸他編　永末書店
臨床法医学テキスト　第２版　佐藤喜宣編著　中外医学社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／7	総　論／災害歯科各論１	災害の種類と歴史／大規模災害時における歯科医師の役割	A-7-1)，B-2-2)／総Ⅰ-1-エ，総Ⅰ-3-ア	①
2	9／14	災害歯科各論２	災害時の医療体制／CSCATTT・トリアージ	A-7-1)，B-2-2)／総Ⅰ-1-エ，総Ⅰ-3-ア	〃
3	9／21	災害歯科各論３	口腔ケアと誤嚥性肺炎	A-7-1)，E-6)／必4-エ，各V1-ウ	〃
4	9／28	災害歯科各論４	東日本大震災における本学の社会支援活動１	A-1-3)，A-7-1)，B-2-3)／総Ⅰ-3-ア	〃
5	10／5	災害歯科各論５	東日本大震災における本学の社会支援活動２	A-1-3)，A-7-1)／総Ⅰ-1-エ	①②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	10／12	災害歯科各論６	災害時における心のケア１	A-7-1)，E-6)／必7-ア，各Ⅲ4-シ	①③
7	10／19	災害歯科各論７	災害時における心のケア２	A-7-1)，E-6)／必7-ア，各Ⅲ4-シ	〃
8	10／26	災害歯科各論８	個人識別／性別判定，年齢推定	C-3-3)，E-2-3)／必6-イ，総Ⅰ-3-ア	①④
9	11／２	災害歯科各論９	歯科的個人識別	B-2-3)／総Ⅰ-3-ア	①
10	11／９	災害歯科各論10	歯科法医学１／虐待・虐待の歯科所見	B-2-2)／総Ⅰ-2-ア，各Ⅰ-4-エ	①④
11	11／16	災害歯科各論11	歯科法医学２／創傷，死後変化	E-6／総Ⅰ-3-ア	①
12	11／30	災害歯科各論12	歯科法医学３／死因究明制度，死体解剖	A-1-3)，C-5-7)／総Ⅰ-3-ア	〃
13	12／７	災害歯科各論13	大規模災害時における歯科医師の役割２	A-1-3)，A-7-1)／総Ⅰ-1-エ	①⑤
14	12／14	災害歯科各論14	災害 中長期後の歯科医療支援体制	A-7-1)，B-2-2)／総Ⅰ-1-エ	〃
15	12／21	総　括	災害歯科のまとめ		①

総合臨床医学（後期・２単位）

D③④－2303

科目責任者：馬場　　優（医学・教授）
科目担当者：①馬場　　優（医学），②松塚　　崇（非常勤）

1. 科目の概要

顔面･顎･口腔外科，歯科を専門分野とする歯科医師にとって，医学（内科・外科・耳鼻咽喉科）を学習することは必須である。なぜなら，学問では歯学，医学と分かれているが，患者に対しては歯科と医科の総合的治療が行われなければならないからである。総合医学担当の馬場・松塚は医師免許を持ち，総合医療を実践してきた。この立場，経験で歯学部学生にとって必要な内容の講義を行う。

2. 一般目標

臨床歯学の土台となる内科学・外科学・耳鼻咽喉科学の内容を概観し，病の病態，診断，治療に関する知識を修得する。

3. 到達目標

1）医の倫理について説明できる。
2）インフォームド・コンセントについて説明できる。
3）医療安全の意義について説明できる。
4）主要な症候と対処法について列挙できる。
5）疾患の診断と治療について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

総合臨床医学は，人間性豊かな優れた医療人を輩出するにあたって必須な科目であり，総合臨床医学を履修する前に歯科医療人間学，医療倫理学の内容を知っておくべきである。
事前学習・事後学習（各々15分）

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価する。評価基準：65点以上を合格とする。追・再試験は各々１回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。なお追々試験および再々試験は行わない。試験方法：マークシート40問，範囲：講義内容。なお，定期試験のフィードバックは正答を掲示して示す。

7. 教本

水野嘉夫「歯科医師が知っておくべき全身疾患」一世出版
馬場秀夫「わかりやすい外科学」文光堂

8. 参考書

千葉俊美　山田浩之 「歯科医師のための内科学」 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	９／２	総論１	内科学総論	E-6)／総Ⅶ-1-エ	①
3 4	９／９	総論２	病歴および現症の取り方・口腔のケア タバコ：歯科医師は喫煙してはならないなぜか？	E-6)／総Ⅶ-1-エ	②
5 6	９／16	総論３	腫瘍学総論	E-6)／総Ⅶ-1-エ	①
7 8	９／30	代謝性疾患	糖尿病，肥満，痛風，骨粗鬆症，高脂血症	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9 10	10／7	消化器疾患１	消化器疾患，肝機能障害	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	①
11 12	10／14	消化器疾患２	歯科治療中に起こる誤嚥・誤飲事故，口腔衛生と全身疾患	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
13 14	10／21	院内感染，外科総論	院内感染，AIDS，外科総論	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
15 16	10／28	内分泌・救急	内分泌疾患，救急医療，バイタルサイン	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
17 18	11／4	呼吸器・脳疾患	呼吸器疾患，脳神経・血管障害	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
19 20	11／11	血液・腎臓	血液疾患・腎疾患	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
21 22	11／18	アレルギー・膠原病	アレルギー性疾患・リウマチ性疾患	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
23 24	11／25	循環器・歯科心身症	循環器疾患・歯科心身症	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
25 26	12／2	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科学	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
27 28	12／9	頭頸部外科	頭頸部外科学①	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
29 30	12／16	口腔癌におけるセンチネルリンパ節	頭頸部外科学②	E-6)／ 総Ⅶ-1-エ	②

第４学年

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅱ …… 161
保存修復学実習 …… 162
歯内療法学 …… 163
歯内療法学実習 …… 165
歯周病学 …… 167
歯周病学実習 …… 169
冠橋義歯補綴学Ⅱ …… 170
冠橋義歯補綴学実習 …… 171
有床義歯補綴学Ⅱ …… 172
有床義歯補綴学Ⅱ実習 …… 174
口腔インプラント学 …… 175
口腔インプラント学実習 …… 176
口腔外科学Ⅱ …… 177
口腔外科学Ⅲ …… 179
歯科麻酔学 …… 180
歯科矯正学 …… 182
歯科矯正学実習 …… 184
小児歯科学 …… 186
小児歯科学実習 …… 188
歯科放射線学Ⅱ …… 189
高齢者歯科学Ⅱ …… 190
障害者歯科学 …… 191
臨床総合演習 …… 193

保存修復学Ⅱ（前期・１単位）

D③④－2801

科目責任者：山田　嘉重（修復・教授）
科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復），
③田上　順次（客員）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

齲蝕，破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して，病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに，審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。保存修復学Ⅱでは，保存修復学Ⅰで学んだ事項を基本として新たな歯冠修復法についての講義を行う。板書，スライド，配布資料を用いた講義が主体となり，同時期に行われる保存修復学実習の修得が容易になるよう適切な単位数と履修時間で構成されている。

2. 一般目標

齲蝕を含む様々な硬組織疾患より生じた歯質の変色や実質欠損等の疾患に対する適切な診断と処置方法の習得をめざす。ディプロマ・ポリシーの２：探求力と解決力，４：知識と診断能力を養い適切な歯冠修復処置法とその手技や必要な器具が的確に選択できることを目標とする。

3. 到達目標

1）コンポジットレジン修復に必要な治療用具，材料の名称と用途が説明できる。
2）コンポジットレジン修復窩洞の分類と特徴および形成方法が説明できる。
3）直接修復法と間接修復法の種類，特徴と臨床手順が説明できる。
4）裏層法と覆髄法の意義・種類と特徴が説明できる。
5）裏層法と覆髄法の適応症・使用薬剤と処置手順が説明できる。
6）メタルインレー修復の適応症，窩洞の特徴が説明できる。
7）メタルインレー修復の利点・欠点および修復手技が説明できる。
8）コンポジットレジンインレー修復の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
9）セラミックインレー修復窩洞の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
10）ラミネートベニア修復の特徴，適応症，臨床手技が説明できる。
11）修復物装着後の術後管理について説明できる。

4. 履修の進め方

1）講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
2）板書，スライド，配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
3）学生は板書，スライドおよび配布資料に沿って独自に授業ノートを作成し，要点および追加事項を記入する。
4）学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。
5）学生の授業の予習・復習の確認のため，授業の前後で小試験を行うこともある。

5. 準備学修

シラバスを確認して，授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う（30分）。授業終了後，講義ノートや配布資料を用いて，その日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する（30分から１時間程度）。

6. 評価方法

定期試験で評価する。定期試験で65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斎藤隆史（編）「保存修復学21　第５版」 永末書店　2017年版

8. 参考書

千田　彰，宮崎真至，林美加子，向井義晴，斎藤隆史（編）「保存修復学　第７版」 医歯薬出版　2019年版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	コンポジットレジン修復総括①	コンポジットレジン修復，各窩洞形態と修復の手順	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	①
2	4／20	コンポジットレジン修復総括②	コンポジットレジンの組成および前処置について	E-3／総Ⅷ-5，8，各Ⅱ-1	〃
3	4／27	コンポジットレジン修復総括③	コンポジットレジン修復補助器具と修復後の問題点について	E-3／総Ⅷ-5，8，各Ⅱ-1	〃
4	5／11	メタルインレー修復①	メタルインレー修復の特徴，鋳造用合金	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	②
5	5／18	メタルインレー修復②	メタルインレー修復窩洞の特徴	E-3／各Ⅱ-1	〃
6	5／25	メタルインレー修復③	メタルインレー修復の臨床手技	E-3／各Ⅱ-1	〃
7	6／1	コンポジットレジン／セラミックインレー①	コンポジットレジンインレー修復の特徴，製作法，窩洞と臨床手技	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	①
8	6／8	コンポジットレジン／セラミックインレー②	セラミックインレー修復の特徴，適応症と窩洞	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃
9	6／15	コンポジットレジン／セラミックインレー③	セラミックインレーの製作方法・手技，歯科用CAD／CAM製作	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	〃
10	6／22	間接修復の合着材，接着材	合着材と接着材の種類，所用性質	E-3／総Ⅷ-9，各Ⅱ-1	〃
11	6／29	間接修復法総括	間接修復法の種類と臨床手技	E-3／総Ⅷ-5，各Ⅱ-1	②
12	7／6	ベニア修復①	ベニア修復の特徴と適応症	E-3／各Ⅱ-1	〃
13	7／13	ベニア修復②	ベニア修復窩洞と臨床手技	E-3／各Ⅱ-1	〃
14	7／20	修復治療の術後管理	メンテナンス，補修修復	E-3／各Ⅱ-1	〃
15	7／27	特別講義最新の歯冠修復法	近年求められる歯科治療	E-3／各Ⅱ-1	③

保存修復学実習（前期・１単位）

D③④－2901

科目責任者：山田　嘉重（修復・教授）
科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復），
③佐藤　正文（非常勤），④塩崎　洋堂（非常勤），
⑤大塩　健司（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

保存修復学の講義で習得した齲蝕を含む硬組織疾患の治療法に対する知識や理解を模型実習を行い実際に処置法を体験することで，講義では具体的に理解が困難な箇所を含め，実際の歯の修復処置に必要な基本的な技術的理論を確実に定着させる。そのための履修方法として硬組織疾患に対する診断と処置方法，窩洞形成法，各種修復用器材の使用法を４倍大の人工歯で基本的技術を習得した後に，実物大人工歯を歯科用マネキンに装着して実際の臨床診療に模した状況で履修していく。

2. 一般目標

ディプロマポリシー５にある将来歯科医師になった際に必要となる技能と治療能力の修得のために，本実習では保存修復学の領域で必要となる基本的な治療方針や治療技術の修得を目標とする。

3. 到達目標

1）硬組織の切削および修復物の研削に必要な器械と器具を適切に操作する。
2）施術部位に対応した診察位置と姿勢をとり，器具を適切に保持し操作する。
3）感染歯質の判別と適切な除去を施術する。
4）各種疾患の病態と修復法に対応した窩洞設計と窩洞形成を施術する。
5）歯髄保護処置を適切に施術する。
6）コンポジットレジンおよびグラスアイオノマーセメント修復のための前準備，填塞，仕上げ研磨を適切に施術する。
7）メタルインレー修復のための窩洞形成，印象・咬合採得，仮封，インレー体の試適・装着，口腔内で必要な研磨を適切に施術する。
8）メタルインレー修復のための咬合模型，ロウ型，鋳造体の製作など，一連の技工操作を適切に施術する。

4. 履修の進め方

1）実習前日までには，これまで講義で学習した項目について理解の整理を行い，同時に実習帳をあらかじめ読んでおき，当日行う実習の目的を理解しておく（30分程度）。
2）実習当日は，実習開始前に実習内容の説明と注意事項の説明をしっかり聞き，当日の実習の学習内容を十分に理解してから実習を開始する。
3）使用器材は実習開始時までに準備しておき，迅速に実習が開始できるようにする。
4）窩洞の基本設計と形成は４倍大の人工歯を用いて行う。
5）臨床を模した窩洞形成，修復実習は実物大人工歯をマネキンに装着して行う。
6）実習課題の各ステップ毎に班の指導教員の確認と検印を受けながら的確に課題内容を習得する。

5. 準備学修

実習前日までに保存修復学ⅠおよびⅡの講義で習った内容を復習し，実習で行う内容について理解してから実習に臨む。実習終了後には，その日に学んだ項目について十分理解ができなかった箇所を抽出し，教科書や講義ノートを参考に復習する（１時間）。

6. 評価方法

実習の評価は（１）各実習時間で行った実習課題の成績（最大50％）（２）実習最終日に行う実習試験の成績（最大30％）（３）実習態度（最大20％）とする。

（１）「各実習時間で実習課題を４倍大人工歯および実物大人工歯を用いて行う。実習課題の点数は実習書に記載されている内容の遵守の程度により決定する。

（２）最終日に行う実習試験については実物大人工歯を用いて行い，ブラックの窩洞形態の要件に照らし合わせて評価する。また同日に筆記試験も行われるが，評価は実習書の内容に沿って判定する。この２つの試験を合計して最大30点として評価する。

４倍大人工歯を用いた窩洞形成，実物大人工歯を用いた形成窩洞と修復物に関する評価（50％）と，実技試験（30％）を行い実習内容が十分に理解され，確実に施術できることを試験する。実習の出席も評価に加える（全出席で最大20％とする）。

これらを合計して100％を100点とし，65点以上の成績者を合格とする。

7. 教本

2021年度保存修復学模型実習指針（実習書：教室編集）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／13	器材検査４倍大石膏歯での窩洞形成①	①実習器材の点検②メタルインレー修復：窩洞の設計，形成	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	①～⑤
4 5 6	４／20	４倍大石膏歯での窩洞形成②	コンポジットレジン修復窩洞の設計，形成：classⅢ，classⅤ	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃
7 8 9	４／27	４倍大石膏歯での窩洞形成③	レジン（セラミックス）インレー修復，窩洞の設計，形成：classⅡ	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃
10 11 12	５／11	等倍大人工歯での直接修復法	コンポジットレジン修復窩洞形成と修復：classⅢ，classⅤ	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃
13 14 15	５／18	齲蝕歯質の除去	咬合面小窩裂溝齲蝕における齲蝕歯質の検知と除去	E-3／必8，各Ⅲ-3	〃
16 17 18	５／25	間接修復法Ⅰメタルインレー修復①	メタルインレー修復classⅡ窩洞，設計と形成	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃
19 20 21	６／１	間接修復法Ⅰメタルインレー修復②等倍大人工歯	メタルインレー修復印象採得～歯列模型製作	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃
22 23 24	６／８	間接修復法Ⅰメタルインレー修復③等倍大人工歯	メタルインレー修復咬合模型～鑞原型製作	E-3／必8，各Ⅱ-1-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25 26 27	6／15	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復④ 等倍大人工歯	メタルインレー修復鋳型製作～鋳造・研磨	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	① ～ ⑤
28 29 30	6／22	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復⑤ 等倍大人工歯	メタルインレー修復口腔内試適～インレー装着	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	〃
31 32 33	6／29	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復①	レジンインレー修復class Ⅱ窩洞，設計と形成	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	〃
34 35 36	7／6	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復②	レジンインレー修復印象採得～咬合模型製作	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ-3	〃
37 38 39	7／13	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復③	レジンインレー修復インレー体の調整～口腔内装着	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	〃
40 41 42	7／20	象牙質知覚過敏の処置レジン修復の臨床	①医療用レーザー体験実習 ②レジン修復の臨床技能・術式	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	〃
43 44 45	7／27	実習試験作品提出	実習試験および提出物の確認	E-3／必8, 各Ⅱ-1-ウ	〃

歯内療法学（通年・３単位）

D③④－2802

科目責任者：木村　裕一（歯内・教授）
科目担当者：①木村　裕一（歯内），②佐藤　穏子（歯内），
③長﨑　慶太（歯内）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯内療法学とは，歯の硬組織，歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は，そのまま放置すれば歯質欠損を生じ，歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り，その結果として軽重さまざまな歯髄疾患が発症し，さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を継発することになる。したがって，本講義では歯内療法に関する診査，診断，処置，予防を講義主体に行う。

2. 一般目標

歯内療法学とは，歯の硬組織，歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は，そのまま放置すれば歯質欠損を生じ，歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り，その結果としてさまざまな歯髄疾患が発症し，さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を継発することになる。したがって，本講義では歯内療法に関する診査，診断，処置，予防を講義主体に行う（ディプロマポリシー５）。

3. 到達目標

1）歯・歯周組織の構造と機能，歯の硬組織疾患を分類してその特徴や発生原因，症状，そして処置法を説明する。
2）歯内治療における各種の基本術式，歯髄疾患を分類して原因，臨床症状，進行と経過，診査・検査法，そして治療法を説明する。
3）根尖性歯周組織疾患を分類し，進行と経過，診査・検査し，診断法，そして治療法を説明する。
4）根管処置（髄室開拡，根管長測定法と作業長の決定，機械的清掃），根管処置（化学的清掃，根管貼薬，内容物検査，補助療法）について説明する。
5）根管充塡の目的と意義，時期，根管充塡材の所要性質と種類，根管充塡の術式，そして根管充塡後の治癒経過について説明する。
6）根未完成歯の治療，歯根の病的吸収の分類，原因，症状と診断，処置について説明する。
7）外傷歯の分類，診断と治療，外科的歯内治療の種類，術式について説明する。
8）歯科用実体顕微鏡を応用した歯内治療，変色歯の原因と漂白法について説明する。
9）歯内・歯周疾患，高齢者の歯内治療，根管処置後の歯冠修復について説明する。
10）歯内治療における偶発事故の種類とその安全対策について説明する。

4. 履修の進め方

本科目を履修する前に口腔解剖学，歯科理工学，病理学，薬理学などを理解しておく必要がある。保存系（保存修復学，歯周病学）と小児歯科学とは繋がりが深い。講義は教科書を中心に進めていくので，事前に内容を読んでおいて講義が終了したらその日のうちに復習して記憶を定着させる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）
授業内容について復習しポイントをまとめること（30分）

6. 評価方法

前期と後期の講義が終了した後，講義内容について論述試験を実施し，理解度に関する評価を行う。評価は定期試験により行う。最終評価は前期と後期試験で100点満点の試験の平均で行い，65点以上を合格とする。不合格の場合は再試験を行い，65点以上を合格とする。

7. 教本

勝海一郎，興地隆史，石井信之，中田和彦 編　第５版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

8. 参考書

興地隆史，石井信之，林美加子，北村知昭 編集主幹，第６版エンドドンティクス，永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	歯内療法学の概念	歯内療法学の定義，意義と目的，ならびに歴史	E-3／必17-ア，イ	①
2	4／8	歯・歯周組織の構造と機能（1）	歯の硬組織の構造と発生，歯髄の構造と機能	E-3-1)／必7-イ，6-ウ，4-ア	②
3	4／15	歯・歯周組織の構造と機能（2）	歯周組織の構造と機能，歯根と歯髄腔の形態と変化	E-3-1)／必7-ウ，総Ⅳ-4	〃
4	4／15	歯の硬組織疾患（1）	歯と歯髄腔の形態異常	E-3-2)／必9-イ，各Ⅲ-2-ウ	〃
5	4／22	歯の硬組織疾患（2）	歯の形成不全，歯の損耗（トゥースウェア）	E-3-3)／必9-イ	〃
6	4／22	歯の硬組織疾患（3）	齲蝕症，象牙質知覚過敏症	E-3-3)／必14-イ，各Ⅲ-5-ア	〃
7	5／6	歯内治療の基本術式の概要（1）	各種の口腔診査法（1）	E-3-3)／必11-エ	③
8	5／6	歯内治療の基本術式の概要（2）	各種の口腔診査法（2）	E-3-3)／必11-エ	〃
9	5／13	歯内治療の基本術式の概要（3）	無菌的処置法	E-3-3)／必15-コ	〃
10	5／13	歯内治療の基本術式の概要（4）	除痛法	E-3-3)／必15-コ	〃
11	5／20	歯髄疾患（1）	歯髄疾患の概要，原因，分類と臨床症状	E-3-3)／必10-ク，各論Ⅲ-5	①
12	5／20	歯髄疾患（2）	歯髄疾患の特徴と経過，歯髄疾患の診断	E-3-3)／必須11-エ	〃
13	5／27	歯髄疾患（3）	歯髄疾患の診断，歯痛錯誤と関連痛，治療方針	E-3-3)／必15-タ	〃
14	5／27	歯髄疾患（4）	歯髄疾患の治療法（1）（保存療法）	E-3-3)／必15-タ，各Ⅲ-6-イ	〃
15	6／3	歯髄疾患（5）	歯髄疾患の治療法（2）（保存療法）	E-3-3)／必15-タ，各Ⅲ-6-イ	①
16	6／3	歯髄疾患（6）	歯髄疾患の治療法（3）（保存，除去療法）	E-3-3)／必15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
17	6／10	歯髄疾患（7）	歯髄疾患の治療法（4）（除去療法），緊急処置	E-3-3)／必須15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
18	6／10	根尖性歯周疾患（1）	根尖性歯周疾患の概要，原因	E-3-3)／各Ⅲ-5-ウ，キ	〃
19	6／17	根尖性歯周疾患（2）	根尖性歯周疾患の分類と臨床症状	E-3-3)／各Ⅲ-5-ウ	〃
20	6／17	根尖性歯周疾患（3）	根尖性歯周疾患の特徴と経過，診査・検査	E-3-3)／必9-イ，各Ⅲ-5-ウ	〃
21	6／24	根尖性歯周疾患（4）	根尖性歯周疾患の診査・検査	E-3-3)／必10-ク，各Ⅲ-5-ウ	〃
22	6／24	根尖性歯周疾患（5）	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針	E-3-3)／必11-エ，各Ⅲ-5-ウ	〃
23	7／1	根尖性歯周疾患（6）	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針と緊急処置	E-3-3)／必15-ツ，各Ⅲ-6-エ	〃
24	7／1	根管処置（1）	髄室開拡	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	②
25	7／8	根管処置（2）	根管長測定法と作業長の決定	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	〃
26	7／8	根管処置（3）	根管形成（1）	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	〃
27	7／15	根管処置（4）	根管形成（2）	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	〃
28	7／15	根管処置（5）	根管の化学的清掃，根管の消毒（根管貼薬）	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	〃
29	7／22	根管処置（6）	根管内容物の検査，根管治療の補助療法	E-3-3)／各Ⅲ-6-オ	〃
30	7／22	根管充塡（1）	根管充塡の目的，時期，根管充塡材の所要性質	E-3-3)／必15-マ	〃
31	9／6	根管充塡（2）	根管充塡材の種類	E-3-3)／各Ⅲ-6-カ	〃
32	9／13	根管充塡（3）	根管充塡の術式	E-3-3)／各Ⅲ-6-カ	〃
33	9／20	根管充塡（4）	根管充塡後の治癒経過	E-3-3)／各Ⅲ-6-カ	〃
34	9／27	根未完成歯の治療	アペキソゲネーシスとアペキシフィケーション	E-3-3)／各Ⅲ-4-ウ，エ，6-キ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
35	10／4	歯根の病的吸収	内部吸収と外部吸収	E-3-3)／各Ⅲ-5-カ，6-サ	①
36	10／11	外傷歯の診断と処置	外傷歯の分類，診査・検査，治療	E-3-3)／各Ⅲ-5-オ，6-コ，Ⅳ-8-ア	〃
37	10／18	外科的歯内治療（1）	外科的歯内治療の適応症と種類，術式	E-3-3)／各Ⅲ-6-シ	〃
38	10／25	外科的歯内治療（2）	外科的歯内治療の術式および治癒機転と予後	E-3-3)／各Ⅲ-6-シ	〃
39	11／1	歯科用実体顕微鏡を応用した歯内治療	顕微鏡による検査，処置の特徴，適応症	E-3-3)／各Ⅲ-6-ス	③
40	11／8	変色歯の漂白	変色歯の分類，漂白	E-3-3)／各Ⅲ-3-キ	〃
41	11／15	歯内・歯周疾患	歯内疾患と歯周疾患の関連性	E-3-3)／各Ⅲ-5-エ，6-ケ	〃
42	11／22	高齢者・有病者の歯内治療	高齢者の心身における特徴	E-3-3)／各Ⅵ-2-ア，イ，ウ	〃
43	11／29	根管処置後の歯冠修復	コロナルリーケージと支台築造	E-3-4)／各Ⅲ-6-ソ	〃
44	12／6	歯内治療における安全対策（1）	髄室壁・根管壁の穿孔，小器具の根管内破折など	E-3-3)／各Ⅲ-6-セ	〃
45	12／13	歯内治療における安全対策（2）	皮下気腫，歯性上顎洞炎，根管処置時の全身管理	E-3-3)／各Ⅲ-6-セ	〃

歯内療法学実習（後期・1単位）

D④⑤－2902

科目責任者：木村　裕一（歯内・教授）

科目担当者：①木村　裕一（歯内），②佐藤　穏子（歯内），③長﨑　慶太（歯内），④金澤　朋昭（歯内），⑤山崎　信夫（非常勤），⑥森田　　聡（非常勤），⑦吉野　浩正（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

講義で修得した知識を整理しながら，基本的な歯内治療の術式を実践することを目的とする。歯内療法学の実習は，透明根管模型を用いて根管形成と根管充塡を実施，理解して実際に行った後の根管模型から各自の技術的な欠点を十分に理解し納得させる。その後，複製根髄腔模型歯を植立した顎模型をマネキンに装着して水平位診療姿勢でラバーダム防湿を実施した後，一連の根管治療を行い，エックス線写真を撮影して根管充塡の良否を判断できるようにする。講義で修得した知識やこの実習で実施した技術や術式を通して修得した技能，そして態度をより完全にして臨床実習に望むためにこの実習を行う。

2. 一般目標

臨床において根管治療を行うために必要なラバーダム防湿，根管形成および根管充塡に関する基本的な知識と技術を確認し，さまざまな植立模型歯の顎模型を用いてマネキンに装着し，患者とみなして修得する。また，マネキンを患者とみなしているので，患者に対する態度も修得する（ディプロマポリシー6）。

3. 到達目標

1）根管の形態を図示し，説明する。
2）根管形成に必要な器具を準備し，器具の名称と使用法を説明する。
3）根管充塡に必要な器具を準備し，器具の名称と使用法を説明する。
4）根管治療に必要な器具の名称とそれぞれの器具の操作法を説明し，使用する。
5）ラバーダム防湿に必要な器具を準備し，器具の名称と手順を述べ，実施する。
6）根管形成の手順を述べ，術式を実施する。
7）根管充塡の術式を述べ，実施する。
8）エックス線写真を撮影し根管充塡の良否を判断する。
9）根管充塡し仮封後の対合関係を調整する。
10）全実習に出席し，基本的な術式を実施する。

4. 履修の進め方

7～8名の学生に1～2名の教員が指導する。ステップごとにチェックしてもらい，検印を受ける。あらかじめ実習内容について予習し，必要な機材を用意しておく。また実習中に疑問点があれば質問する。実習では正しい器具を選択して使用し，実習書や教科書に記載してある術式通りに行う。

5. 準備学修

各回の実習内容項目について，実習書と教科書の該当部分を読むこと（15分）

実習内容について復習し，重要な項目をまとめること（30分）

6. 評価方法

それぞれの課題のステップごとに基準を満たしているものに対して各インストラクターが評価して検印し，さらにそれぞれの課題が終了するごとに作品を提出させ，実習責任者が全作品を採点し，技能評価とする。技能評価（60％），小テスト（15％），実習試験（筆記試験25％）により評価し，65点以上を合格とする。技能評価での合格基準はすべての作品

において規格形成法による根管形態に根管形成されており，かつ根管内異物が認められないことと根管充塡においては緊密に充塡されており，かつ到達度が根尖から２mm以内で根尖から溢出していないことである。小テストと実習試験での合格基準は26点以上である。

7. 教本

Practice in root canal preparation and filling（実習書）および手技の動画を電子媒体にて配布

勝海一郎，興地隆史，石井信之，中田和彦 編　第５版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

8. 参考書

興地隆史，石井信之，林美加子，北村知昭 編集主幹，第６版エンドドンティクス，永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／１	器材チェックと透明根管模型を用いた根管形成	窩洞外形の設定，チャンバーオープン，便宜形態の形成，根管口明示(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	① ～ ⑦
4 5 6	９／８	透明根管模型の根管形成	アピカルシート，アピカルカラー，フレアー形成，アピカルシートの確認(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
7 8 9	９／15	透明根管模型の根管充塡	マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，二重仮封(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
10 11 12	９／22	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（1）	ラバーダム防湿，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成(部位11)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
13 14 15	９／29	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（2）	ラバーダム防湿，アピカルシートの確認，根管形成完了の確認(部位11)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
16 17 18	10／６	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡	ラバーダム防湿，マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，エックス線写真撮影(根管充塡の良否確認)，二重仮封(部位11)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
19 20 21	10／13	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（1）	ラバーダム防湿，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成(部位24)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
22 23 24	10／20	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（2）	ラバーダム防湿，アピカルシートの確認，根管形成完了の確認(部位24)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	① ～ ⑦
25 26 27	10／27	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡	ラバーダム防湿，マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，エックス線写真撮影(根管充塡の良否確認)，二重仮封(部位24)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
28 29 30	11／10	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（1）	ラバーダム防湿，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
31 32 33	11／17	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成（2）	ラバーダム防湿，アピカルシートの確認，根管形成完了の確認(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
34 35 36	11／24	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡	ラバーダム防湿，マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，エックス線写真撮影(根管充塡の良否確認)，二重仮封(部位26)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
37 38 39	12／１	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡材除去	ラバーダム防湿，仮封材と根管充塡材の除去，エックス線写真撮影(根管充塡材除去の確認)(部位11)	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
40 41 42	12／８	根管洗浄とマスターポイントの試適ラバーダム防湿法の実施手順	実施内容の説明，ラバーダム防湿，根管洗浄，マスターポイントの試適(部位11)，実施内容の説明，ラバーダム防湿の実施	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃
43 44 45	12／15	透明根管模型を用いた根管形成と実習試験	ラバーダム防湿，根管口明示，根管形成と実習試験	F-3-3)／必-15-タ，各Ⅲ-6-ウ	〃

歯周病学（通年・３単位）

D③④－2803

科目責任者：高橋　慶壮（歯周・教授）
科目担当者：①高橋　慶壮（歯周），②齋藤　　淳（客員），
③山﨑　幹子（病理），④小林　之直（非常勤），
⑤大塩　薫里（非常勤），⑥田中　真喜（非常勤），
⑦須藤　瑞樹（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯周病は「感染症」から「生活習慣病」あるいは「慢性炎症」へと疾患の位置づけが変化してきた。歯周病は多因子性疾患であり，患者ごとに複数のリスク因子が関わるため，歯周治療では患者教育・支援に基づく患者の行動変容を促し，原因除去およびリスク評価に基づくリスク管理を主眼においた歯周基本治療，歯周外科療法および歯周補綴，そして予防を主体としたメインテナンスあるいはSPTが行われる。講義では歯周組織の構造と機能，歯周疾患の病因と病態，歯周疾患の診断，歯周治療の術式と適応症等を学ぶ。さらに，歯周病学の研究と臨床の軸足が「歯周医学」「歯周組織再生療法」および「口腔インプラント治療」へとシフトしているため，３つの項目についても講義を行う。

2. 一般目標

歯周病の診断，治療および予防を行うために，歯周組織の常態，疾患，診断および治療方法を理解する（ディプロマポリシー５）

3. 到達目標

1）歯周組織の発生，構造および機能を説明できる。
2）歯周疾患の病因と病態を説明できる。
3）病因としての口腔細菌，歯垢および歯石を説明できる。
4）歯周疾患の分類を説明できる。
5）歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
6）歯周治療の術式と適応症を説明できる。
7）歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
8）歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
9）歯周疾患の緊急処置の種類と方法を説明できる。
10）歯周疾患の予防法を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書とスライドを用いて講義を行う。スライド内容はあらかじめPDFにして各自がダウンロードできるように授業提示システムに掲載しており，講義で該当する領域の教科書範囲とともに予習することを可能にしている。寺子屋方式で知識を一方向的に伝授するだけではなく，双方向的な講義形成をとる。現在はコロナ感染対策の観点から，双方向の講義が難しい状況にあるが，能動的に学ぶ姿勢の育成を支援する。

5. 準備学修

本科目は臨床歯学の一分野であり，基礎歯学（解剖学，病理学，生化学，感染免疫学，生理学，薬理学，歯科理工学）を基盤にしている。また，臨床科目（保存修復学，歯内療法学，小児歯科学，歯科補綴学，歯科矯正学，歯科放射線学，口腔外科学，口腔インプラント学，臨床医学）に繋がる領域を含んでいるため，狭い領域に集中しがちな「垂直思考」に「水平思考」を加えた学習が望まれる。事前学習および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。

6. 評価方法

出席率は80%以上を必須とする。前期と後期の講義終了後，講義内容についてマルチプルチョイスおよび記述式試験を実施し，理解度を評価する。定期試験欠席者に対しては追試験を行う。また，必要に応じて再試験を行う。最終評価は試験結果から決定する。

7. 教本

臨床歯周病学　第３版　医歯薬出版
ザ・ペリオドントロジー　第３版　永末書店

8. 参考書

エンド・ペリオ病変の臨床　歯内－歯周複合病変　診断と治療のストラテジー　医歯薬出版　2009.
歯周治療　失敗回避のためのポイント33　クインテッセンス出版　2011.
考えるペリオドンティクス　クインテッセンス出版　2018.

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	歯周病学の概要	歯周病学と歯周治療学の概要，病因論のパラダイムシフト	E-3／総Ⅵ-11イ	①
2	4／11	歯周組織の構造と機能	正常および病的な歯周組織の解剖学	E-3-1)-⑤／Ⅳ4-カ，キ，ケ，コ	〃
3	4／18	歯周病の病因論	プラーク，バイオフィルム　歯垢と歯石	E-3-2)-⑤／必3-ケb　総Ⅳ5-ウ	③
4	4／18	歯周病の病因論	各種の修飾因子	E-3-2)-④／総Ⅵ-6ウ	〃
5	4／25	リスクファクター	喫煙，糖尿病，肥満，ストレス，歯ぎしり	E-3-2)-④／各Ⅲ-8エ	⑦
6	4／25	リスクファクター	遺伝的素因，全身疾患	E-3-2)-④／各Ⅲ-8エ	〃
7	5／9	歯周病の分類	歯肉炎，歯周炎の特徴，欧米の新分類	E-3-3)-(3)-②／各Ⅲ-8ア，イ，ウ	〃
8	5／9	歯周病の分類	非プラーク性歯肉病変，特殊な歯周疾患	E-3-3)-(3)-②／各Ⅲ-8オ	〃
9	5／16	炎症および免疫応答	自然免疫，生体防御細胞，細胞性および体液性免疫応答	E-3-3)-(3)-②／総Ⅵ-11イ	①
10	5／16	歯周医学	歯周病と全身疾患の関連性　糖尿病，肥満	C-4-4)／各Ⅲ-8コ	〃
11	5／23	歯周医学	歯周病と心血管疾患，誤嚥性肺炎，早産，腎疾患等	C-4-4)／各Ⅲ-8コ	〃
12	5／23	歯周検査	PCR，歯肉炎指数，歯周ポケットプロービング，アタッチメントレベル，BOP等	C-4-4)／各Ⅲ-8コ　E-3-3)-(3)-⑥／各Ⅲ-9ア	〃
13	5／30	歯周検査	画像診断，骨吸収指数，前臨床的検査	E-3-3)-(3)-②／総Ⅸ-1エ	〃
14	5／30	臨床推論	診断の暗黙知，SOAP	E-3-3)-(3)-③／必須3-ケa，b，c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
15	6／6	臨床推論	診断時の思考法，帰納法，アブダクション	E-3-3)-(3)-③／必須3-ケa，b, c	①
16	6／6	口臭，口呼吸	口臭および口呼吸の原因と治療法	E-3-3)-(3)-⑥／各論Ⅲ-9ア	〃
17	6／13	歯周基本治療	患者教育・支援，行動変容，口腔清掃指導	E-3-3)-(3)-②／各論Ⅲ	③
18	6／13	歯周基本治療	救急処置	E-3-3)-(3)-②／各論Ⅰ-4ア，イ，ウ	〃
19	6／20	歯周基本治療	スケーリング，ルートプレーニング	E-3-3)-(3)-③／各論Ⅲ-9イ	④
20	6／20	歯周基本治療	抗菌療法，局所薬物配送システム（LDDS）	E-3-3)-(3)-③／各論Ⅲ-8カ	〃
21	6／27	歯周基本治療	咬合治療，暫間固定，暫間義歯	E-3-3)-(3)-③／各論Ⅲ-9イ	〃
22	6／27	歯周基本治療	咬合性外傷，ブラキシズムの病態と対処法	E-3-3)-(3)-③／各論Ⅲ-9ク	〃
23	7／4	歯周病に関する臨床疫学歯周治療のEBM	歯周疾患を表す指数と指数評価 歯周治療のEBMとNBM，ガイドライン，GRADE	E-3-3)-(3)-⑤／総Ⅵ-3オ E-3-3)-(3)-②／総Ⅹ-1ア，イ，ウ，エ	①
24	7／4	再生医療	組織工学（Tissue engineering）	E-3-3)-(3)-④／総Ⅺ-16エ	〃
25	7／11	歯周外科療法	分類，特徴および術式	E-3-3)-(3)-④／総Ⅺ-16ア，イ	②
26	7／11	歯周外科療法	分類，特徴および術式	E-3-3)-(3)-④／総Ⅺ-16ア，イ	〃
27	7／25	創傷治癒	切除型，歯周組織再生誘導法による治癒過程	B-4-1)／総Ⅱ-10サ	①
28	7／25	骨移植	人工骨，異種骨，同種骨および自家骨の特徴と治療成績	E-3-3)-(3)-④／総Ⅺ-16ア，イ	〃
29	7／29	歯周外科療法	ポケット除去療法とポケット減少療法新付着術（ENAP）	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9エ	〃
30	7／29	歯周外科療法	フラップ手術の原理と術式	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9エ	〃
31	9／7	歯周外科療法	組織再生誘導法（GTR法）再生の原理と術式	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9オ	①
32	9／14	歯周外科療法	エナメルマトリックスタンパク質，FGF-2製剤の応用	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9オ	〃
33	9／21	歯周外科療法	歯周形成外科（遊離歯肉移植術　など）歯肉弁根尖側移動術	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9エ	〃
34	9／28	歯周外科療法	歯周形成外科（根面被覆）	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-8ク，9エ	〃
35	10／5	歯周外科療法	歯周外科療法のまとめ	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-8ク，9エ，9オ	〃
36	10／12	歯周外科療法	歯周-矯正治療，PAOO	E-3-3)-(3)-③／各論Ⅲ-9イ	⑥
37	10／19	レーザー治療	歯周治療におけるレーザーの活用	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-6ケ，8ケ	〃
38	10／26	歯周-歯内複合病変	Simonの分類ごとの治療法と予後	E-3-3)-(3)-④／各Ⅲ-9カ	③
39	11／2	根分岐部病変	根分岐部病変の分類	E-3-3)-(3)-③／各Ⅲ-9カ	⑤
40	11／9	根分岐部病変	根分岐部病変の治療	E-3-3)-(3)-③／各Ⅲ-9キ	〃
41	11／16	口腔機能回復治療	歯周補綴，永久固定	E-3-4)-(3)／総Ⅺ-16ア，ウ	①
42	11／30	歯周病患者に対するインプラント治療	インプラント周囲粘膜炎，インプラント周囲炎	E-3-3)-(3)-②／各Ⅲ-9ケ	③
43	12／7	歯周病の診断と治療計画	一口腔単位の診断および治療計画の立案包括的な歯周治療	B-4-1)-①／必12-アc，ウa	①
44	12／14	SPT，メインテナンス	意義と実際，電動歯ブラシの効果	E-3-3)-(3)-②／各Ⅲ	〃
45	12／21	高齢者と有病者の歯周治療講義のまとめ	講義の総括	E-3／総Ⅵ-11イ	〃

歯周病学実習（後期・１単位）

D④⑤－2903

科目責任者：高橋　慶壮（歯周・教授）
科目担当者：①高橋　慶壮（歯周），②山﨑　幹子（病理），
③〆谷　暁子（非常勤），④杉　　祐紀（非常勤），
⑤大塩　薫里（非常勤），⑥田中　真喜（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

講義の内容を踏まえて，基本的な歯周治療の知識と手技を習得することを目的とする。すなわち，歯周病の診査・診断，一口腔単位の治療計画の立案，歯周基本治療，修正治療および各種歯周外科手術に必要な術式を修得し，メインテナンスに移行できるようにする。また，歯周病が「生活習慣病」であることから，歯周治療において術者による適切な患者教育（行動変容）および治療，さらに患者自身による口腔管理を確立させるような指導力，説明能力およびコミュニケーション能力が要求される。

2. 一般目標

歯周治療を実践するために，基本となる知識，技術，態度を修得する。（ディプロマポリシー５）

3. 到達目標

１）歯周診査を実施できる。
２）歯周病の状態を診断できる。
３）一口腔単位の治療計画を立案できる。
４）プラークコントロールレコードの記載と患者への説明ができる。
５）プラークの付着部位に適したブラッシング方法を患者に指導できる。
６）スケーリングとルートプレーニングを実施できる。
７）咬合調整を実施できる。
８）暫間固定を実施できる。
９）基本的な歯周外科手術の適応症を説明できる。
10）基本的な歯周外科手術を実施できる。

4. 履修の進め方

教員のデモや動画を視聴させて内容を説明後に学生に実習させ，ステップ・バイ・ステップで検印をする。コロナ感染対策が必要な状況であれば，今年度と同様の対応を検討する。

5. 準備学修

臨床歯周病学　第３版　医歯薬出版
ザ・ペリオドントロジー　永末書店
歯周治療　失敗回避のためのポイント33　クインテッセンス出版
エンド・ペリオ病変の臨床　歯内-歯周複合病変　診断と治療のストラテジー　医歯薬出版
事前および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。

6. 評価方法

全出席を原則とする。実習中の態度，各ステップごとの習得度に対するインストラクターの評価（40%）および中間テストと実習試験の結果（60%）を総合判定して合否を決める。

7. 教本

歯周病学実習マニュアル2022 奥羽大学歯学部歯科保存学講座（歯周）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／７	歯周診査	購入器具の確認，歯肉模型を用いた歯周診査	E-3／ 総Ⅸ-1エ	① ②
4 5 6	９／14	歯周診査 歯周治療	歯肉模型を用いた歯周診査 歯肉模型を用いた歯肉縁上スケーリング	E-3／ 総Ⅸ-1エ E-3／ 各Ⅲ-9イ	① ～ ⑥
7 8 9	９／21	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁下ルートプレーニング（上顎） スケーラーのシャープニング	E-3／ 各Ⅲ-9イ	〃
10 11 12	９／28	歯周治療	歯肉縁下ルートプレーニング（下顎），スケーラーのシャープニング	E-3／ 各Ⅲ-9イ	〃
13 14 15	10／５	歯周治療	暫間固定（咬合調整），歯周外科の基本手技，切開，縫合	E-3／ 各Ⅲ-9イ	〃
16 17 18	10／12	歯周外科	歯肉切除術（模型）	E-3／ 各Ⅲ-9イ	〃
19 20 21	10／19	歯周外科	フラップ手術（模型）	E-3／ 各Ⅲ-9エ	〃
22 23 24	10／26	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたフラップ手術	E-3／ 各Ⅲ-9エ	〃
25 26 27	11／２	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたGTR法	E-3／ 各Ⅲ-9エ	〃
28 29 30	11／９	歯周外科	ブタ下顎骨を用いた遊離歯肉移植術，根面被覆	E-3／ 各Ⅲ-9エ，オ	〃
31 32 33	11／16	口腔清掃指導，ルートプレーニング	口腔清掃指導（OSCE形式） ルートプレーニング（OSCE形式）	E-3／ 各Ⅲ-9イ	〃
34 35 36	11／30	歯周病の病態説明	歯周病の病態説明（OSCE形式）	E-3／ 総Ｘ-1ア，イ，ウ，エ	〃
37 38 39	12／７	診断・治療計画	歯周病の診断に基づく一口腔単位の治療計画の立案	E-3／ 総Ｘ-1ア，イ，ウ，エ	〃
40 41 42	12／14	診断・治療計画	診断および治療方針の記載あるいは発表担当教員とのディスカッション	E-3／ 総Ｘ-1ア，イ，ウ，エ	〃
43 44 45	12／21	実習試験	実習試験	E-3／ 総Ⅸ-1エ	① ②

冠橋義歯補綴学Ⅱ（前期・２単位）

D③④－2804

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②五十嵐一彰（冠橋），
③盛植　泰輔（冠橋）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから，安全かつ確実な治療を施すためには，顎口腔系緒器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず，使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり，かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで，冠橋義歯補綴学Ⅱでは冠橋義歯補綴装置の実際の製作法から予後管理に至るまでの，治療の流れの中で重要な項目について教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために，クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

1）印象採得法と印象用器材を説明する。
2）顎間関係の記録法とその重要性を説明する。
3）作業用模型の種類と要件を説明する。
4）ワックスパターン形成の要件と形成法の種類を説明する。
5）レジン前装冠の臨床的意義と特徴，製作法を説明する。
6）陶材焼付冠の臨床的意義と特徴，製作法を説明する。
7）ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの特徴を説明する。
8）オールセラミッククラウンの特徴を説明する。
9）従来型ブリッジと接着ブリッジの特徴を比較する。
10）鋳造法とCAD／CAMによる補綴装置製作の特徴を比較する。
11）クラウンブリッジの試適・装着手順を説明する。
12）装着後に発生する問題とその対応を説明する。
13）高齢者・要介護者のクラウンブリッジ補綴治療の要件を説明する。

4. 履修の進め方

教科書を中心として，配布プリントとスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために講義時間内に小テストを行う。

5. 準備学修

シラバスを確認して，次回の講義内容について教科書を読むこと。(15分)

講義内で実施する小テストで間違った問題を中心に，教科書と講義内容を再度確認する。(30分)

6. 評価方法

前期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第６版」医歯薬出版

石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	印象採得①	印象材，印象採得器材	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ-d	①
2	4／14	印象採得②	咬合関係の記録と決定	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ-f	〃
3	4／21	顎間関係の記録	頭蓋に対する上顎の位置記録	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ-f	〃
4	4／21	患者情報の記録と伝達	患者情報の記録と伝達	E-3-4)-(1)-⑥／各Ⅳ-3-イ-g	〃
5	4／28	作業用模型①	作業用模型の要件と種類	E-3-4)-(1)-⑨／各Ⅳ-3-ウ-a	③
6	4／28	作業用模型②	咬合器の種類と装着，調整	E-3-4)-(1)-⑩／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
7	5／12	ワックスパターン形成	ワックスパターン形成の要件と形成法	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
8	5／12	埋没・鋳造	埋没法，鋳造収縮の補償	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	②
9	5／19	熱処理・研磨	鋳造欠陥，後処理	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
10	5／19	レジン前装冠①	レジン前装冠の臨床的意義	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	①
11	5／26	レジン前装冠②	レジンと金属の結合	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
12	5／26	レジン前装冠③	レジン前装冠の製作法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
13	6／2	陶材焼付冠①	陶材焼付冠の臨床的意義	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
14	6／2	陶材焼付冠②	陶材と金属の結合	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
15	6／9	陶材焼付冠③	陶材焼付冠の製作法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
16	6／9	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの適応症と禁忌症	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
17	6／16	オールセラミッククラウン	オールセラミッククラウンの適応症と禁忌症	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
18	6／16	CAD／CAMによる製作	CAD／CAMによる製作の手順と適応	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-b	②
19	6／23	従来型ブリッジ①	従来型ブリッジの種類	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
20	6／23	従来型ブリッジ②	従来型ブリッジの連結法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ウ-a	①
21	6／30	接着ブリッジ①	接着ブリッジの臨床的意義と基本デザイン	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	②
22	6／30	接着ブリッジ②	接着ブリッジの適応症と製作法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
23	7／7	支台築造①	支台築造の臨床的意義と種類	E-3-4)-(1)-③／各Ⅳ-3-イ-b	①
24	7／7	支台築造②	支台築造の方法	E-3-4)-(1)-③／各Ⅳ-3-イ-b	〃
25	7／14	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義と種類	E-3-4)-(1)-⑦／各Ⅳ-3-イ-e	③
26	7／14	口腔内試適・装着	口腔内試適の手順	E-3-4)-(1)-⑪／各Ⅳ-3-イ-hi	②
27	7／21	術後管理	術後管理の重要性と方法	E-3-4)-(1)-⑫／各Ⅳ-3-イ-i	①
28	7／21	装着後に発生する問題と対応	装着後に発生する問題とその対応	E-3-4)-(1)-⑬／各Ⅳ-3-イ-i	〃
29	7／28	高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ	超高齢社会におけるクラウンブリッジの役割と注意点	E-3-4)-(1)-⑪⑫⑬／各Ⅳ-3-アイウ	〃
30	7／28	冠橋義歯補綴学Ⅱまとめ	冠橋義歯補綴学Ⅱの講義内容全体のまとめ	E-3-4)-(1)-①～⑬／各Ⅳ-3-アイウ	〃

冠橋義歯補綴学実習（前期・1単位）

D④⑤－2904

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②清野　晃孝（病院），
③五十嵐一彰（冠橋），④盛植　泰輔（冠橋）
⑤小野崎　裕（非常勤），⑥加藤　　崇（非常勤），
⑦白井やよい（非常勤），
⑧菊池　利也（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

講義で学んだ知識を基に，クラウンブリッジを実際に自分で製作し，支台歯形成，印象採得，咬合採得，作業用模型の製作，ワックスパターン形成，埋没，鋳造，前装材料築盛，研磨といった各製作過程における技術的な要点および生体に調和した補綴装置の要件について学ぶ。また，実際に製作に使用する器具の特徴や性質などについても学ぶ。

2. 一般目標

歯質欠損や少数歯欠損による咬合・咀嚼障害を回復できるようになるために，クラウンブリッジを製作，装着する技術と知識を修得する。

3. 到達目標

1）全部金属冠とレジン前装冠の支台歯形成を行う。
2）シリコーン印象材により支台歯の精密印象採得を行う。
3）精密な作業用模型を製作する。
4）歯型上で精度の高いワックスパターンを形成する。
5）ワックスパターンを変形させずに埋没する。
6）鋳造欠陥を生じさせずに鋳造を行う。
7）前装用レジンで天然歯の色調と形態を再現する。
8）歯冠補綴装置を口腔内装着可能なまで滑沢に研磨する。

4. 履修の進め方

マネキンおよび歯列模型を用いてクラウンブリッジを製作する。その各ステップで使用する器械や材料の扱い方に習熟し，緻密で正確な技工操作ができる技術を磨くとともに知識を修得する。

5. 準備学修

次回行う実習内容を実習書で予習する。(30分)
実習内で毎回実施する小テストで，間違った問題等を再度，学習する。(30分)

6. 評価方法

実習製作物評価（25%），小テスト結果（25%），実習実技試験（25%）及び実習筆記試験（25%）を総合して評価する。

7. 教本

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座　編「冠橋義歯補綴学実習マニュアル」

8. 参考書

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第５版」医歯薬出版
石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	4／14	オリエンテーション，下顎臼歯部ブリッジ	実習の進め方および材料の取り扱い方，支台歯形成	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	① ～ ⑧

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
5 6 7 8	4／21	下顎臼歯部ブリッジ	支台歯形成	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	①〜⑧
9 10 11 12	4／28	下顎臼歯部ブリッジ	印象採得	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ-d	〃
13 14 15 16	5／12	下顎臼歯部ブリッジ	作業用模型製作	E-3-4)-(1)-⑨／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
17 18 19 20	5／19	下顎臼歯部ブリッジ	咬合採得	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ-f	〃
21 22 23 24	5／26	下顎臼歯部ブリッジ	模型の咬合器付着	E-3-4)-(1)-⑨⑩／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
25 26 27 28	6／2	下顎臼歯部ブリッジ	ワックスパターン形成	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
29 30 31 32	6／9	下顎臼歯部ブリッジ	埋没，鋳造	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
33 34 35 36	6／16	下顎臼歯部ブリッジ	研磨，仕上げ	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
37 38 39 40	6／23	レジン前装冠	支台歯形成	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ-b	〃
41 42 43 44	6／30	レジン前装冠	ワックスパターン形成，窓開け，埋没	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
45 46 47 48	7／7	レジン前装冠	鋳造，調整，研磨	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
49 50 51 52	7／14	レジン前装冠	レジン築造，仕上げ	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ-a	〃
53 54 55 56	7／21	支台築造	ワックスパターン形成	E-3-4)-(1)-③／各Ⅳ-3-イ-b，ウ-a	〃
57 58 59 60	7／28	実習試験	筆記試験，実技試験	E-3-4)-(1)-①〜⑬／各Ⅳ-3-アイウ	〃

有床義歯補綴学Ⅱ（前期・３単位）

D③④－2805

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）
科目担当者：①山森　徹雄（有床），②松本　知生（有床），③田中みか子（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱでは，部分床義歯の製作・装着に至る理論を学ぶ。部分床義歯とは，歯列内の部分的な歯の喪失と，それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的として，残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯をいう。少数歯欠損から１歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され，多様性に富んでいる。したがって，欠損の部位や範囲によって咬合力を支持する様式が多様であり，橋義歯の考え方から，全部床義歯の考え方まで種々の対応が要求されることになる。臨床では最も頻度の高い有床義歯である。

2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために，部分床義歯の臨床的意義を理解し，部分床義歯を製作・装着するための理論を修得する。

3. 到達目標

1）部分床義歯の特徴と臨床的意義を説明する。
2）部分床義歯を構成する要素と支持・維持・把持に対する考え方を説明する。
3）支台装置の種類と特徴，およびその応用法を説明する。
4）義歯床，連結装置の種類と特徴および，その応用を説明する。
5）部分床義歯の設計に対する基本的原則を説明する。
6）部分床義歯製作過程における技工操作とその理論的背景を説明する。
7）部分床義歯装着後のメインテナンスと異常経過に対する処置を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において，スライド，プリントなどを用い，講義を中心とした学習を行う。

5. 準備学修

予　習：有床義歯学に関連する基礎科目として，口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯補綴学Ⅰ講義・実習の内容を復習して講義に臨む。(30分)
復　習：講義内容を当日中に必ず復習し，講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート，配布資料，教科書により自己学習を行う。(60分以上)

6. 評価方法

毎回の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は，中間試験（40％），前期定期試験（60％）により行う。なお履修態度に応じて10％を上限とする加点を行う。

7. 教本

藍　　稔 編：スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 学建書院　2016

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第５版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	部分床義歯の特徴	他の補綴装置に対する部分床義歯の特徴を学ぶ	E-3-4)／必-12-ケ	①
2	4／12	部分床義歯の臨床的意義	歯科臨床での部分床義歯の意義と役割，為害作用	E-3-4)／必-12-ケ	〃
3	4／12	部分床義歯の構成要素	義歯側，生体側の構成要素を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
4	4／15	部分床義歯の分類	部分床義歯の分類法と欠損型の基本的形態	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
5	4／19	部分床義歯欠損歯列の分類	部分欠損歯列の分類法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
6	4／19	部分床義歯の支持	部分床義歯の支持に対する考え方を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
7	4／22	部分床義歯の把持と維持	部分床義歯の把持と維持に対する考え方を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
8	4／26	部分床義歯の支台装置の分類	部分床義歯の支台装置の分類を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
9	4／26	支台装置１．クラスプ１）	クラスプの構造・分類について学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
10	5／6	支台装置２．クラスプ２）	各種クラスプの特徴と適応症を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
11	5／10	支台装置３．アタッチメント１）	アタッチメントの種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
12	5／10	支台装置４．アタッチメント２）	各種アタッチメントの適応症を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
13	5／13	支台歯の評価と選択基準	支台歯の評価，…支台歯の選択基準を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
14	5／17	義歯床	義歯床の設定基準，種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
15	5／17	連結装置１．	上顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
16	5／20	連結装置２．	下顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
17	5／24	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
18	5／24	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
19	5／27	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	①
20	5／31	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
21	5／31	前処置１．	外科的前処置，矯正的前処置，保存的前処置	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
22	6／3	前処置２．	補綴的前処置を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
23	6／7	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
24	6／7	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
25	6／10	部分床義歯の作業用模型	作業用模型の所要条件，製作法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
26	6／14	咬合採得１．	咬合支持の遺いによる顎間関係の記録法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	③
27	6／14	咬合採得２．	顔弓記録と下顎運動の記録法	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
28	6／17	人工歯の選択	人工歯の選択基準を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	②
29	6／21	人工歯排列	人工歯排列の原則を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
30	6／21	蠟義歯の口腔内試適	蠟義歯試適時の検査事項を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
31	6／24	埋没	蠟義歯の埋没法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
32	6／28	埋没	蠟義歯の埋没法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
33	6／28	重合，研磨	義歯床用レジンの重合法，研磨法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
34	7／1	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
35	7／5	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	③
36	7／5	義歯装着後の管理	義歯装着後のホームケア，定期検査を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	①
37	7／8	リラインとリベース	部分床義歯のリライン，リベースを学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
38	7／12	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
39	7／12	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
40	7／15	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
41	7／19	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	①
42	7／19	即時義歯・暫間義歯	即時義歯，暫間義歯の特徴と適応症を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
43	7／22	治療用義歯・移行義歯	治療用義歯，移行義歯の特徴と適応症を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
44	7／26	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃
45	7／26	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	〃

有床義歯補綴学Ⅱ実習
（前期・１単位）

D④⑤－2905

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）
科目担当者：①山森　徹雄（有床），②松本　知生（有床），
③池田　敏和（有床），④田中みか子（非常勤），
⑤高玉　典彦（非常勤），
⑥伊藤　　隼（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱ実習では，有床義歯補綴学Ⅱの講義で学習した理論を，部分床義歯を製作する過程を通して確実なものにするとともに，部分床義歯を製作・装着するための基本的技術を修得する。

2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために，部分床義歯を製作・装着する理論の理解度を向上するとともに，その技術を修得する。ともに，その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

1）サベイヤーの使用方法に関する知識を基に，サベイングをする。
2）上顎部分床義歯の設計方法の知識を基に，模型上で設計する。
3）ガイドプレーン，レストシートを形成する。
4）ワイヤークラスプを屈曲してレスト付き２腕鉤を製作する。
5）キャストクラスプを製作する。
6）咬合床を製作し，咬合採得，作業用模型の咬合器装着をする。
7）人工歯の選択と排列の理論に関する知識を基に，人工歯を排列する。
8）部分床義歯のフラスクに埋没，レジンの填入，重合を説明する。
9）金属床義歯のフレームワークの設計，およびワックスアップをする。

4. 履修の進め方

中央棟５階の模型実習室において，小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 準備学修

予　習：有床義歯学に関連する基礎科目として，口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰ講義・実習，有床義歯学Ⅱ講義の内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント，教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)
復　習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し，理解が不十分な項目については実習プリント，教科書により自己学習を行う。(30分)

6. 評価方法

実習中の口頭試問，レポート等にて形成的評価を行う。総括的評価は実技試験 (30％)，製作物 (30％)，筆記試験 (20％)，実習毎の小テスト (10％) および履修態度 (10％) により行う。

7. 教本

五十嵐順正 他編：パーシャルデンチャーテクニック第６版　医歯薬出版　2022

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第５版　医歯薬出版　2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	4／12	上顎模型のサベイングと設計	サベイヤーとその付属品を用い模型をサベイング	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	① ～ ⑤ 他
5 6 7 8	4／19	前処置とワイヤークラスプ	補綴的前処置を実施し，ワイヤークラスプを屈曲	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
9 10 11 12	4／26	前処置とワイヤークラスプ	上顎左側第一小臼歯のワイヤークラスプを屈曲	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
13 14 15 16	5／10	キャストクラスプの製作	耐火模型を製作	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
17 18 19 20	5／17	キャストクラスプの製作	ワックスアップし，埋没，鋳造	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
21 22 23 24	5／24	パラタルバーの製作	用線を屈曲してパラタルバーを製作	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
25 26 27 28	5／31	咬合床の製作と咬合採得	基礎床と咬合堤を製作し，咬合採得を行う。	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
29 30 31 32	6／7	咬合器装着と人工歯排列	咬合床を介して模型を咬合器装着，人工歯を排列	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
33 34 35 36	6／14	歯肉形成	歯肉の形態を形成し，蠟義歯を完成させる。	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
37 38 39 40	6／21	実技試験	蠟義歯を提出する。実技試験を受ける。	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
41 42 43 44	6／28	下顎模型のサベイングと設計	下顎模型のサベイング，設計を行う。	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
45 46 47 48	7／5	耐火模型の製作	ブロックアウトとリリーフ耐火模型を製作	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
49 50 51 52	7／12	フレームワークワックスアップ	耐火模型上でフレームワークのワックスアップ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
53 54 55 56	7／19	フレームワークワックスアップ	耐火模型上でフレームワークのワックスアップ	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃
57 58 59 60	7／26	ワックスパターンの完成提出	ワックスパターンを完成，筆記試験を受ける	E-3-4)／各Ⅳ-4-ウ	〃

口腔インプラント学（後期・1単位）

D③④－2806

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）

科目担当者：①山森　徹雄（有床），②高橋　昌宏（イン），③船川　竜生（イン），④岡田　英俊（材料），⑤宇佐美晶信（解剖），⑥櫻井　裕子（病理），⑦羽鳥　弘毅（冠橋），⑧川鍋　仁（矯正），⑨西郷　慶悦（非常勤），⑩鬼原　英道（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は，予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには，口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し，適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には，種々の前処置，顎骨へのインプラント体埋入，上部構造の製作・装着，メインテナンスなど多様な処置が含まれるため，広範な基礎的，臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

2. 一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的，形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために，口腔インプラント治療の基本的知識を修得する。

3. 到達目標

1）口腔インプラント治療の歴史と概要を説明する。
2）口腔インプラント治療のための診察・検査・診断・治療計画立案を説明する。
3）口腔インプラント治療に必要な手術を説明する。
4）口腔インプラント治療のための基礎的知識を整理する。
5）口腔インプラント治療のための補綴的処置を説明する。
6）口腔インプラント治療の失敗の原因と対処法を説明する。

4. 履修の進め方

教科書を中心に，配布資料とスライドを用いて講義する。

5. 準備学修

予　習：指定された教科書を熟読し，予備知識を得る（15分）。
復　習：小テストによる形成的評価で指摘された点を，教科書，講義ノートにて確認する（15分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し，65点以上で合格とする。なお履修態度に応じて10％を上限とする加点を行う。

7. 教本

赤川安正 ら編「よくわかる口腔インプラント学第３版」医歯薬出版

8. 参考書

日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学実習書」永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	口腔インプラント学総論	インプラント治療の歴史と種類，臨床的意義と治療過程	E-3／各Ⅴ-8	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	9／2	リスク要因	口腔インプラントに対するリスク要因	E-3／各Ⅴ-8	②
3	9／2	検査・診断	口腔インプラントのための診察，検査，診断	E-3／各Ⅴ-8	③
4	9／9	治療計画の立案	治療計画立案の原則とチーム医療	A-7／各Ⅴ-8	〃
5	9／9	手術基本手技-1	基本的な手術術式と手技	E-3／各Ⅴ-8	②
6	9／9	手術基本手技-2	骨造生術，軟組織形成術	E-3／各Ⅴ-8	〃
7	9／16	基礎学（1）	口腔インプラントのための生体材料学	D-1／各Ⅴ-8	④
8	9／16	基礎学（2）	口腔インプラントのための臨床解剖学	E-1／各Ⅴ-8	⑤
9	9／16	基礎学（3）	臨床病理：オッセオインテグレーションの概念	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	⑥
10	9／30	上部構造（1）	上部構造の種類と特徴	E-3／各Ⅴ-8	⑦
11	9／30	上部構造（2）	上部構造装着までの基本的術式	E-3／各Ⅴ-8	③
12	9／30	メインテナンス	インプラント周囲病変	E-3／各Ⅴ-8	②
13	10／7	口腔インプラントの応用（1）	矯正歯科治療への応用	E-3／各Ⅴ-8	⑧
14	10／7	口腔インプラントの応用（2）	インプラント治療の変遷	E-3／各Ⅴ-8	⑨
15	10／7	口腔インプラントの応用（3）	デジタル機器の応用	E-3／各Ⅴ-8	⑩

口腔インプラント学実習
（後期・１単位）

D④⑤－2906

科目責任者：山森　徹雄（有床・教授）
科目担当者：①山森　徹雄（有床），②羽鳥　弘毅（冠橋），
③高橋　昌宏（イン），④船川　竜生（イン），
⑤佐藤　篤（非常勤），⑥君　賢司（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は，予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには，口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し，適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には，種々の前処置，顎骨へのインプラント体埋入，上部構造の製作・装着，メインテナンスなど多様な処置が含まれるため，広範な基礎的，臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

2. 一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的，形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために，口腔インプラント治療の手技およびその理論的背景を修得する。

3. 到達目標

1）口腔インプラント治療のための画像検査結果を説明する。
2）口腔インプラント治療の治療計画を立案する。
3）インプラント体埋入に関する外科的治療を模型上で実施する。
4）インプラント上部構造製作に関わる補綴的治療を模型上で実施する。
5）口腔インプラント治療の流れを説明する。

4. 履修の進め方

提供された資料や顎模型を用いた実習，演習を行う。

5. 準備学修

予　習：配布される実習指針を熟読し，実習内容を理解する（30分）。
復　習：実習した内容について該当する箇所の教科書を熟読する（30分）。

6. 評価方法

実習筆記試験（50%），実習中の提出物（50%）で評価し，65点以上で合格とする。なお履修態度に応じて10％を上限とする加点を行う。

7. 教本

配付資料

8. 参考書

赤川安正 ら編「よくわかる口腔インプラント学第３版」医歯薬出版
公益社団法人日本口腔インプラント学会編　口腔インプラント学実習書　永末書店

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	10／14	診断学実習-1	SGD	E-3／各Ⅴ-8	① ～ ⑧

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4 5 6	10／21	診断学実習-2	トレースとインプラントポジショニング：第一症例，総合討議	E-3／各Ⅴ-8	① ～ ⑧
7 8 9	10／28	シミュレーション実習（1）	インプラント体埋入計画シミュレーション：第一症例	E-3／各Ⅴ-8	〃
10 11 12	11／4	シミュレーション実習（2）	インプラント体埋入計画シミュレーション：第二症例	E-3／各Ⅴ-8	〃
13 14 15	11／11	外科実習（1）	切開，フラップ形成，術野の確保	E-3／各Ⅴ-8	〃
16 17 18	11／18	外科実習（2）	インプラント体埋入窩形成	E-3／各Ⅴ-8	〃
19 20 21	11／25	外科実習（3）	インプラント体埋入，縫合	E-3／各Ⅴ-8	〃
22 23 24	12／2	補綴実習（1）	アバットメント・セレクション	E-3／各Ⅴ-8	〃
25 26 27	12／9	補綴実習（2）	印象採得：クローズドトレー法とオープントレー法	E-3／各Ⅴ-8	〃
28 29 30	12／16	実習総括	実習試験，問題解説とフィードバック	E-3／各Ⅴ-8	〃

口腔外科学Ⅱ（通年・２単位）

D③④－2807

科目責任者：川原　一郎（外科・准教授）
科目担当者：①川原　一郎（外科），②金　　秀樹（外科），
③御代田　駿（外科），④小嶋　忠之（外科），
⑤高橋文太郎（外科）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など）に生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために，口腔外科学Ⅱでは，①抜歯術，小手術学の知識，②嚢胞および類似疾患，③唾液腺疾患，④腫瘍および類似疾患の知識を習得する。

3. 到達目標

1）抜歯術および小手術の種類を概説し，適応症，禁忌症，術式，偶発症を説明する。
2）嚢胞および類似疾患の種類と症状を概説し，検査法と治療法を説明する。
3）唾液腺疾患の種類，特徴，症状を概説し，診断と治療法を説明する。
4）腫瘍および類似疾患の種類と特徴，症状を概説し，診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて履修する。

5. 準備学修

口腔外科学の理解には，基礎系科目（口腔解剖･口腔組織･口腔生理・口腔生化学・口腔感染免疫・歯科薬理・口腔病理等）の知識が必須である。口腔外科学の勉強時に上記基礎系科目も一緒に勉強する事が，口腔外科学と基礎系科目の更なる知識の定着に繋がる。事前・事後学習では，授業で説明した内容について教科書や配布資料で勉強すること（15分）。

6. 評価方法

前期と後期の定期試験は，筆記試験（多肢選択式問題と記述式問題）にて実施し，前期と後期の平均点で65点以上を合格とする。追・再試験は，定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対して実施する。最終評価は，前期と後期の定期試験，追・再試験の平均点で65点以上を合格とする。

7. 教本

「標準口腔外科学」第４版　医学書院　2015年
「口腔外科学」第４版　医歯薬出版　2020年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	抜歯術および小手術学（1）抜歯術1	抜歯の適応症，禁忌症	E-1-5)／総Ⅶ-4-ア	②
2	4／18	抜歯術および小手術学（2）抜歯術2	抜歯の術式	E-1-5)／総Ⅶ-4-ア	〃
3	4／25	抜歯術および小手術学（3）抜歯術3	抜歯の偶発症	E-1-5)／総Ⅶ-4-ア	〃
4	5／9	抜歯術および小手術学（4）小手術学1	歯根端切除術，歯槽骨整形術，歯の移植術	E-1-5)／総Ⅶ-4-ア	〃
5	5／16	抜歯術および小手術学（5）小手術学2	舌および上唇小帯形成術，浮動粘膜切除術	E-1-5)／総Ⅶ-4-ア	〃
6	5／23	嚢胞（1）顎骨1	顎骨に発生する嚢胞1	E-2-4)／各Ⅲ-2-オ	④
7	5／30	嚢胞（2）顎骨2	顎骨に発生する嚢胞2	E-2-4)／各Ⅲ-2-オ	〃
8	6／6	嚢胞（3）軟組織1	軟組織に発生する嚢胞1	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ	〃
9	6／13	嚢胞（4）軟組織2	軟組織に発生する嚢胞2	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ	〃
10	6／20	唾液腺疾患（1）総論1	唾液腺の解剖および機能	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	①
11	6／27	唾液腺疾患（2）各論1	唾液腺疾患1	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
12	7／4	唾液腺疾患（3）各論2	唾液腺疾患2	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
13	7／11	唾液腺疾患（4）各論3	唾液腺疾患3	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
14	7／25	唾液腺疾患（5）各論4	唾液腺疾患4	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
15	7／29	前期　まとめ	抜歯術・小手術学，嚢胞，唾液腺疾患のまとめ	E-1-5)，E-2-4)／総Ⅶ-4-ア，各Ⅲ-1-エ，各Ⅲ-2-オ，各Ⅲ-3-ア	〃
16	9／5	腫瘍および類似疾患（1）総論	腫瘍の定義，分類，症状，診断，治療	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	〃
17	9／12	腫瘍および類似疾患（2）各論1	良性腫瘍1 歯原性腫瘍1	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ，各Ⅲ-2-カキ	③
18	9／26	腫瘍および類似疾患（3）各論2	良性腫瘍2 歯原性腫瘍2	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ，各Ⅲ-2-カキ	〃
19	10／3	腫瘍および類似疾患（4）各論3	良性腫瘍3 非歯原性腫瘍	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ，各Ⅲ-2-カキ	〃
20	10／17	腫瘍および類似疾患（5）各論4	良性腫瘍4 腫瘍類似疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ，各Ⅲ-2-カキ	〃
21	10／24	腫瘍および類似疾患（6）各論5	口腔潜在的悪性疾患（前癌病変と前癌状態）	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ	②
22	10／31	腫瘍および類似疾患（7）各論6	悪性腫瘍1 口腔癌の分類	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	〃
23	11／7	腫瘍および類似疾患（8）各論7	悪性腫瘍2 口腔癌の診断	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	〃
24	11／14	腫瘍および類似疾患（9）各論8	悪性腫瘍3 口腔癌の治療	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	〃
25	11／21	腫瘍および類似疾患(10)各論9	悪性腫瘍4 肉腫　悪性黒色腫	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ	①
26	11／28	腫瘍および類似疾患(11)各論10	悪性腫瘍5 造血器腫瘍1	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ	〃
27	12／5	腫瘍および類似疾患(12)各論11	悪性腫瘍6 造血器腫瘍2	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ	〃
28	12／12	腫瘍および類似疾患(13)各論12	唾液腺腫瘍1 良性腫瘍	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	⑤
29	12／19	腫瘍および類似疾患(14)各論13	唾液腺腫瘍2 悪性腫瘍	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
30	12／20	腫瘍および類似疾患(15)まとめ	腫瘍のまとめ	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	①

口腔外科学Ⅲ（後期・１単位）

D③④－2808

科目責任者：髙田　　訓（外科・教授）
科目担当者：①髙田　　訓（外科），②臼田　真浩（外科），
③須賀賢一郎（非常勤），④宮島　　久（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

顎口腔領域に生じる様々な疾患は，いくつかの各論に分類されている。口腔外科学ⅠおよびⅡと同様に，口腔外科学Ⅲにおいても，顎口腔領域の疾患を一つ一つ履修する。特に先天異常や発育異常，顎関節疾患，神経疾患について診断と治療に必要な最低限の知識を教本から修得する授業である。

2. 一般目標

先天異常や発育異常，顎関節疾患，神経疾患の概要を説明し，診断に必要な検査，治療方針，治療法を患者さんに説明できるようになるために，各疾患の定義，特徴，診断に必要な検査，治療方針と治療法の種類を理解する。

3. 到達目標

1）先天異常・発育異常の疾患を分類し，それぞれの定義と概要を説明できる。
2）先天異常・発育異常の診断に必要な検査を理解し，確定診断できる。
3）先天異常・発育異常の治療法を理解し，治療方針を立案できる。
4）顎関節疾患を分類し，それぞれの定義と概要を説明できる。
5）顎関節疾患の診断に必要な検査を理解し，確定診断できる。
6）顎関節疾患の治療法を理解し，治療方針を立案できる。
7）神経疾患を分類し，それぞれの定義と概要を説明できる。
8）神経疾患の診断に必要な検査を理解し，確定診断できる。
9）神経疾患の治療法を理解し，治療方針を立案できる。

4. 履修の進め方

歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて必要とされる口腔外科領域に生じる疾患の診査，診断能力を養い，診療参加型臨床実習で実践できるスキルを得るために，口腔外科学（第４版）の教本を主体に講義形式で授業をすすめる。

5. 準備学修

教本に示した口腔外科学第４版を予習・復習に活用して頂きたい。この教本には，口腔外科領域における様々な術式が図説や写真とともに詳しく記されている。また，口腔内科学，口腔外科学Ⅰ・Ⅱは直接関連した科目なので，これらの科目は常にフィードバックしておく必要がある。当然，口腔解剖，口腔組織，口腔生化，口腔生理，歯科薬理，口腔病理，口腔感染免疫などの基礎系科目の知識がなくては口腔外科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を得ることはできない。講義前日に30分程度の事前学修が望ましい。

6. 評価方法

定期試験で評価する。試験形式はMCQ（40～50問）を８割以上，論述を２割未満の配点で作成する。最終評価は受験した本試・追試・再試のすべての平均を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔外科学　第４版　医歯薬出版　2020年

8. 参考書

標準口腔外科学　第４版　医学書院　2015年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／５	先天異常-１	口腔外科学Ⅲ概要 先天異常・発育異常 硬組織・軟組織の異常	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	①
2	９／12	先天異常-２	口唇裂・口蓋裂-１	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	②③
3	９／26	先天異常-３	口唇裂・口蓋裂-２	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	〃
4	10／３	発育異常-１	後天異常・症候群	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	〃
5	10／17	発育異常-２	発育異常・顎変形症	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	〃
6	10／24	顎関節疾患-１	顎関節の構造と疾患総論	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅳ	②④
7	10／31	顎関節疾患-２	発育異常・外傷・炎症代謝性・退行性疾患	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅳ	〃
8	11／７	顎関節疾患-３	腫瘍性・顎関節強直症	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅳ	〃
9	11／14	顎関節疾患-４	顎関節症の診断と治療	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅳ	〃
10	11／21	顎関節疾患-５	顎関節疾患総括	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅳ	②
11	11／28	神経疾患-１	末梢神経の解剖と疾患総論	E-2／各Ⅳ	①
12	12／５	神経疾患-２	疼痛性疾患	E-2／各Ⅳ	〃
13	12／12	神経疾患-３	麻痺性疾患	E-2／各Ⅳ	〃
14	12／19	神経疾患-４	心因性疾患・認知症・高次脳機能障害	E-2／各Ⅳ	〃
15	12／20	口腔外科学Ⅲまとめ	先天異常・発育異常・顎関節疾患・神経疾患総括	E-2／総Ⅵ-11，各Ⅱ，Ⅳ	〃

歯科麻酔学（通年・４単位）

D③④－2809

科目責任者：山崎　信也（麻酔・教授）
科目担当者：①山崎　信也（麻酔），②川合　宏仁（生理），
③吉田　健司（麻酔）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科麻酔学は，医科の麻酔学と共通する学問であり，医療，処置，手術，侵襲などにおける種々なストレスから生体を防御することを主とした学問である。その範囲は，呼吸循環管理，局所麻酔，精神鎮静法，全身麻酔法，術前術後管理，救急処置，心肺蘇生法などにおよび，さらに，歯科治療で問題となる高血圧，糖尿病，心疾患など，種々の合併疾患患者の管理や，疼痛管理としてのペインクリニックも網羅する。また，歯科麻酔学は，基礎医学としての解剖学，薬理学，生理学，生化学や，臨床医学としての外科学，内科学，循環器科学，呼吸器科学など，多くの学問を含むことで広範な知識が要求され，臨床医学の中で最も応用範囲の広い学科目である。

2. 一般目標

学修者は当科目で病態を解析し，治療の要素を把握できるようにする。すなわち，広く基礎医学と臨床医学を理解することで，的確に患者の全身状態を評価し，その上で安全で適切な患者の生体管理を実践するために必須である歯科麻酔学の知識を修得する。

3. 到達目標

1）歯科麻酔学の概念，歴史，特徴，法的問題を説明する。
2）全身管理に必要な呼吸，循環，神経，代謝，内分泌生理を説明する。
3）術前管理や全身状態評価，患者管理上，問題となる疾患を説明する。
4）局所麻酔，精神鎮静，全身麻酔，日帰り全身麻酔を説明する。
5）心身障害者，小児，障害者，高齢者の麻酔を説明する。
6）周術期管理を説明する。
7）痛みの治療やペインクリニックを説明する。
8）歯科治療時の全身的偶発症，および救急救命処置を説明する。

4. 履修の進め方

1）板書とプリントを主体とし，実演，DVD，スライドを適宜併用する。
2）各自ノートを作り板書を書き込むことを基本とする。
3）口頭での重要点はプリントや教科書への書き込み，マーキングを行う。

5. 準備学修

1）基礎医学の，生理，薬理，解剖との関連が深く，予習と復習が必要である。
2）予習は，各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）。
3）復習は，授業内容についてのポイントをまとめること（15分）。

6. 評価方法

前期中間試験，前期定期試験，後期中間試験，後期定期試験の４つの試験の平均65点以上を合格とする。なお，各試験は，１回のみ追再試験を設定する。試験のフィードバックは個別にオフィスアワーを利用して行う。

7. 教本

山崎信也，川合宏仁ほか，スタンダード全身管理・歯科麻酔学，学建書院

8. 参考書

山崎信也，川合宏仁ほか，歯科麻酔学第７版，医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／８	歯科麻酔学概論	歯科麻酔の概念／歴史／種類特徴／法的問題	E1-4)／必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	①②③
2	４／８	呼吸生理（１）	呼吸器系の構造呼吸の調節	C3-4) (8), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
3	４／15	呼吸生理（２）	換気，ガス交換換気への影響因子	C3-4) (8), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
4	４／15	呼吸生理（３）	酸素の運搬二酸化炭素の運搬	C3-4) (8), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
5	４／22	呼吸生理（４）	酸塩基平衡	C3-4) (8), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
6	４／22	呼吸生理（５）	呼吸機能検査	C3-4) (8), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
7	５／６	循環生理（１）	心臓	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
8	５／６	循環生理（２）	心臓	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
9	５／13	循環生理（３）	循環の調節	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
10	５／13	循環生理（４）	血管に対する調節	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
11	５／20	循環生理（５）	体液	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
12	５／20	循環生理（６）	重要臓器の血流分布と自己調節能	C3-4) (4), (10)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
13	５／27	神経・代謝・内分泌生理	神経，代謝，内分泌	C3-4) (5), (6), (9)／必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ク	〃
14	５／27	術前管理（１）	術前診察，臨床検査	E1-4) (1)／必修10, 12カ 総論Ⅶ-4-イ	〃
15	６／３	術前管理（２）	手術危険度管理方法の選択	E1-4) (1)／必修10, 12-カ 総論Ⅶ-4-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	6／3	術前管理(3)	術前処置	E1-4)(1)／必修10, 12-カ 総論Ⅶ-4-イ	①②③
17	6／10	術前管理(4)	麻酔前投薬	E1-4)(1)／必修10, 12-カ 総論Ⅶ-4-イ	〃
18	6／10	全身疾患(1)	循環器系疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
19	6／17	全身疾患(2)	循環器系疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
20	6／17	全身疾患(3)	呼吸器系疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
21	6／24	全身疾患(4)	その他の疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
22	6／24	全身疾患(5)	その他の疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
23	7／1	全身麻酔法-1	全身麻酔の理論	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
24	7／1	全身麻酔法-2	吸入麻酔法, 麻酔深度	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
25	7／8	全身麻酔法-3	吸入麻酔薬の種類	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
26	7／8	全身麻酔法-4	麻酔器と麻酔法必要な器具	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
27	7／15	全身麻酔法-5	静脈麻酔法特殊な麻酔法	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
28	7／15	全身麻酔法-6	筋弛緩薬口腔外科手術の麻酔	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
29	7／22	術中管理(1)	呼吸, 循環管理輸液, 輸血モニター, ショック	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
30	7／22	術中管理(2)	術後管理術後合併症疼痛管理	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
31	9／6	日帰り全身麻酔(1)	症例の選択, 術前管理麻酔前投薬	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
32	9／6	日帰り全身麻酔(2)	麻酔薬や麻酔補助薬麻酔法, 術後管理	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
33	9／13	障害者の麻酔-1	障害者の特徴術前管理	E1-4)(4), E5(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
34	9／13	障害者の麻酔-2	術中管理, 術後管理疾患各論	E1-4)(4), E5(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
35	9／20	小児の麻酔	小児の特徴, 術前麻酔, 術後管理	E1-4)(4)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	①②③
36	9／20	高齢者の麻酔	高齢者の特徴, 術前麻酔, 術後管理	E1-4)(4), E5(1)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
37	9／27	精神鎮静法-1	概念	E1-4)(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
38	9／27	精神鎮静法-2	使用薬剤	E1-4)(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
39	10／4	精神鎮静法-3	使用薬剤	E1-4)(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
40	10／4	精神鎮静法-4	精神鎮静法の実際	E1-4)(2)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
41	10／11	局所麻酔法-1	概要, 構造, 種類	E1-4)(3)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
42	10／11	局所麻酔法-2	作用機序	E1-4)(3)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
43	10／18	局所麻酔法-3	全身への影響剤形, 器材	E1-4)(3)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
44	10／18	局所麻酔法-4	解剖, 局所麻酔法	E1-4)(3)／必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
45	10／25	ペインクリニック(1)	痛覚伝導路痛みの分類	E2-4)(9)／必修12-ア 総論Ⅶ-5	〃
46	10／25	ペインクリニック(2)	代表的な疼痛疾患痙攣	E2-4)(9)／必修12-ア 総論Ⅶ-5	〃
47	11／1	全身的偶発症-1	バイタルサイン	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
48	11／1	全身的偶発症-2	偶発症の対応	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
49	11／8	全身的偶発症-3	神経性ショック過換気症候群	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
50	11／8	全身的偶発症-4	高血圧緊急症アナフィラキシー	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
51	11／15	全身的偶発症-5	局所麻酔中毒メトヘモグロビン血症	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
52	11／15	全身的偶発症-6	虚血性疾患脳卒中	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
53	11／22	全身的偶発症-7	循環器疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
54	11／22	全身的偶発症-8	循環器疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
55	11／29	全身的偶発症-9	呼吸器疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	①②③
56	11／29	全身的偶発症-10	呼吸器疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
57	12／6	全身的偶発症-11	肝，腎疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
58	12／6	全身的偶発症-12	代謝，内分泌疾患	E1-6), E6／必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
59	12／13	救急救命処置-1	救急蘇生法の目的一次救命処置窒息の解除	E1-6), E6／必修11 総論Ⅶ-3	〃
60	12／13	救急救命処置-2	二次救命処置蘇生後のサポート	E1-6), E6／必修11 総論Ⅶ-3	〃

歯科矯正学（通年・３単位）

D③④－2810

科目責任者：福井　和徳（矯正・教授）
科目担当者：①福井　和徳（矯正），②板橋　　仁（矯正），③川鍋　　仁（矯正），④山野辺晋也（矯正）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科矯正学は，歯，歯周組織，顎，さらにそれらを包含する顔の正常な成長発育を研究し，それら諸機能の不正による成長発育から引き起こされる不正咬合や顎の異常な関係を改善して，顎口腔系の正しい機能の獲得と同時に顔貌の改善を図り，社会的・心理的に個人の福祉に寄与し，延いては不正咬合の発現を予防するための研究と技術とを含む歯科の一分科である。

2. 一般目標

デュプロマポリシーの知識と診断能力を身につけるため，矯正歯科治療に係わる総論および診断学，治療学を理解するために歯科矯正学の意義，成長発育，正常咬合と不正咬合の基礎を知り，矯正歯科治療における生体反応，診察，検査，診断，矯正装置，矯正力と固定，材料と器械・器具，不正咬合の治療について学習する。

3. 到達目標

1）不正咬合による障害を説明する。
2）身体と顎顔面の成長発育を説明する。
3）正常咬合の概念と不正咬合の分類を記述する。
4）統計学的評価について述べる。
5）ツイード分析から抜歯の必要性を推論する。
6）総合診断の進め方を具体的に述べる。
7）矯正力と顎整形力，固定法について説明する。
8）線材料の特徴を比較し歯の移動と関連づける。
9）矯正装置の構造を具体的に述べる。
10）不正咬合の矯正治療とその偶発症，および保定について説明する。

4. 履修の進め方

予定されている授業項目および課題について配布プリント，板書および示説を行い，毎回の確認試験により到達度の自己判定を行う。不正咬合の模擬治療については，事前に各ステータス毎の診断資料を配布し，各講義までに分析と症例のまとめを課す。

5. 準備学修

本講義は解剖学分野における口腔解剖学，生理学における歯槽骨の吸収添加のメカニクス，生体材料における歯科用金属およびレジンに関する物性に関する知識を活用して授業を行う。また，本講義は主に小児歯科学，口腔外科学と関連を持ち，履修後には５年次の臨床実習，６年次の臨床総合講義へと繋がる。

予　習：各講義内容に対し歯科矯正学第６版を用い各自で内容の確認を行う。課題については事前に各自で調べる（30分）。
復　習：授業内で配布したプリント，歯科矯正学第６版，新しい歯科矯正学を参考に知識の確認を行う（30分）。

6. 評価方法

前期定期試験，中間試験および後期定期試験の平均点にて評価する。不合格の場合は不合格範囲の再試験を行い，65点以上を合格とする。

7. 教本

飯田順一郎 他　編「歯科矯正学　第６版」医歯薬出版　2019年

新井一仁 他　編「新しい歯科矯正学　第３版」永末書店 2012年

8. 参考書

三浦廣行 他　編「矯正歯科臨床ヒント集カラーアトラスハンドブック」クインテッセンス出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	歯科矯正学概論および歴史	矯正歯科治療の定義と目的意義を理解する。	E-4-(1)-①／必17-ア	①
2	4／20	成長発育（全身の成長発育）	身体の成長発育について理解する。	E-4-(2)-①／総Ⅴ-1-オカキ	②
3	4／27	頭蓋の発生および成長発育	頭骨の発生と脳頭蓋の成長発育を理解する。	E-2-(3)-③／総Ⅴ-4-イウ	〃
4	5／11	顔面頭蓋の成長発育	顔面頭蓋の発生と成長発育を理解する。	E-2-(3)-③／総Ⅴ-4-イウ	〃
5	5／18	歯・歯列および咬合の成長	歯の形成及び萌出，咬合の変化を理解する。	E-2-(3)-④／総Ⅴ-4-ウ	〃
6	5／25	口腔機能の発達	口腔機能の発達を理解する。	E-2-(2)-③／総Ⅴ-5-アイウ	〃
7	6／1	咬合概論	咬合に関する諸構造の解剖学および機能を理解する。	E-2-(2)-③／各Ⅱ-7-ア	④
8	6／8	正常咬合	正常咬合の概念，成立とその保持条件を講義する。	E-2-(2)-③／各Ⅱ-7-ア	〃
9	6／15	不正咬合の疫学および定義	不正咬合の疫学，定義について講義する。	E-4-(1)-②／各Ⅰ-(3)-ア	③
10	6／22	不正咬合の分類	不正咬合の分類について講義する。	E-4-(1)-②／各Ⅱ-7-イ	〃
11	6／29	不正咬合の先天的原因	不正咬合の先天的原因について講義する。	E-2-(4)-①②／各Ⅱ-7エ	〃
12	7／6	不正咬合の後天的原因	不正咬合の後天的原因について講義する。	E-2-(4)-①②／各Ⅱ-7エ	〃
13	7／13	不正咬合の予防	口腔顎顔面における異常の要因，機序を解説する。	E-2-(4)-①／各Ⅰ-3-イ	〃
14	7／20	矯正力と生体反応	矯正歯科治療による生体反応について講義する。	E-4-(1)-⑧／各Ⅱ-9-アウ	②
15	7／27	〃	〃	E-4-(1)-⑧／各Ⅱ-9-アウ	〃
16	9／6	矯正歯科治療におけるPOS	矯正歯科治療におけるPOSについて講義する。	(6)E-4-(1)-①／各Ⅱ-8-エ	①
17	9／6	診査と検査-1	一般診査（全身，写真，模型分析法）を講義する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-8-アイ	①
18	9／13	診査と検査-2	一般診査，エックス線検査の種類を講義する。	E-1-(2)-④⑤⑥⑦／各Ⅱ-8-イ	〃
19	9／13	診査と検査-3	頭部エックス線規格写真分析について講義する。	E-1-(2)-⑧／各Ⅱ-8-イ	〃
20	9／20	診査と検査-4	各種機能検査および分析法について講義する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-8-イ	〃
21	9／20	抜歯法（1）	矯正治療の抜歯の意義，部位を講義する	E-4-(1)-④／各Ⅱ-8-ウ	〃
22	9／27	治療方針の立案，治療学概論	総合的診断，治療方針の立案について説明する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-8-エ	〃
23	9／27	抜歯法（2）	連続抜去法について講義する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-8-ウ	〃
24	10／4	矯正力と固定	矯正力の種類，大きさと作用様式の講義を行う。	E-4-(1)-⑦／各Ⅱ-9-エ	〃
25	10／4	〃	歯の移動様式，矯正歯科治療の固定の講義を行う。	E-4-(1)-⑦／各Ⅱ-9-エ	〃
26	10／11	矯正装置（1）	矯正装置の分類および構成，適応症の講義を行う。	E-4-(1)-⑥／各Ⅱ-10-ア～ニ	④
27	10／11	矯正装置（2）	〃	E-4-(1)-⑥／各Ⅱ-10-ア～ニ	〃
28	10／18	矯正装置（3）	〃	E-4-(1)-⑥／各Ⅱ-10-ア～ニ	〃
29	10／18	矯正装置（4）	〃	E-4-(1)-⑥／各Ⅱ-10-ア～ニ	〃
30	10／25	矯正材料，器具	矯正歯科治療に使用される材料，器具の講義を行う。	E-4-(1)-③／総XI-15-ア～オ	〃
31	10／25	〃	〃	E-4-(1)-③／総XI-15-ア～オ	〃
32	11／1	不正咬合の治療（1）	叢生の治療を通じ，抜歯判定を含めた理解を深める。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイ	〃
33	11／1	〃	〃	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34	11／8	不正咬合の治療(2)	機能性と骨格性反対咬合について理解を深める。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイウ	③
35	11／8	不正咬合の治療(2)	機能性と骨格性反対咬合について理解を深める。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11アイウ	〃
36	11／15	不正咬合の治療(3)	上顎前突症例の機能分析，成長発育を理解する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイウ	⑤
37	11／15	〃	〃	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイウ	〃
38	11／22	不正咬合の治療(4)	顎変形症の総合診断と矯正歯科治療を理解する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-エ	④
39	11／22	不正咬合の治療(5)	矯正歯科治療時の偶発症について理解を深める。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-ク	〃
40	11／29	不正咬合の治療(6)	口唇･口蓋裂の診断と矯正歯科治療を理解する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-アイウ	〃
41	11／29	不正咬合の治療(7)	筋機能療法(MFT)について理解する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-6-オ	〃
42	12／6	不正咬合の治療(8)	保定の意義，種類，再発防止策について理解する。	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-キク	①
43	12／6	〃	〃	E-4-(1)-④／各Ⅱ-11-キク	〃
44	12／13	総まとめ	重要項目に対する総まとめを行う。	E-4-(1)-④	〃
45	12／13	〃	〃	E-4-(1)-④	〃

歯科矯正学実習（後期・１単位）

D④⑤－2907

科目責任者：福井　和徳（矯正・教授）
科目担当者：①福井　和徳（矯正），②板橋　　仁（矯正），③川鍋　　仁（矯正），④黒田　栄子（矯正），⑤山野辺晋也（矯正），⑥岡崎　智世（矯正），⑦松山　仁昭（非常勤），⑧廣瀬　将邦（非常勤），⑨吉永　　聡（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医療における矯正歯科の役割はますます高まっている。叢生歯列でブラッシングをいくら努力しても，傾斜歯に対してそのままブリッジを装着しても，歯科治療には限界があろう。上下歯列の良い咬合が保たれて，口腔の健康が維持されていることを考えれば，矯正歯科治療は歯科医療にとって最も基本的な医療として位置づけることができる。実習では，歯科矯正学の臨床的な面に関して，講義や参考書からでは理解しにくい部分を，実技を通して修得する。

2. 一般目標

デュプロマポリシーの技能と治療能力を身につける。歯が移動する原理について理解するために，舌側弧線装置およびマルチブラケット装置で歯の移動をシミュレートし，学習する。

3. 到達目標

1）基本手技の線屈曲，自在ろう接を正しく行なうことができる。
2）矯正診断に必要な資料を分析できる。
3）舌側弧線装置を製作し補助弾線の作用と歯の移動様相を理解することができる。
4）マルチブラケット装置で個々の歯の移動，臼歯の直立化を行うことができる。
5）タイポドント模型上で矯正力が発現するメカニズムや歯の移動様式を理解することができる。

4. 履修の進め方

実習前に示説を行う。各矯正装置を作製し，作用と歯の移動様相を観察する。歯の移動様相の観察には，デジタルカメラを使用し，各自のコンピュータにて画像データをPowerPointにまとめ，歯の移動について考察する。各単元ごとに小試験を行い確認しながら履修する。

5. 準備学修

第３学年までに得た知識のうち口腔解剖学の骨学，歯の形態，生体材料学の印象材の種類，セメントの特性，金属の特性を復習しておくこと（30分）。実習内容は実習書およびコンピュータビデオに収録されているので，自身で確認し，必ず予習すること（15分）。本実習で得た知識は第５年時の臨床実習時に活用されることとなる。

6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。到達目標に記載した５項目を以下の内容から100点を満点として評価し，65点以上を合格とする。

「点数配分の内訳」

実習の態度（５％），小試験（３回）（15％），総合試験〔実技（35％），筆記（35％）〕および口頭試問（10％）により行う。

7. 教本

歯科矯正学実習マニュアルおよび手技の動画を電子媒体にて配布

8. 参考書

飯田順一郎 他　編「歯科矯正学　第６版」 医歯薬出版 2019年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／1	実習を始めるにあたって基本手技(1)線屈曲	可撤式装置の製作に必要な基本手技である線屈曲を習得する。	E-4-1-⑦／各論XI-15-ア	① ③
4 5 6	9／8	基本手技(2)，(3)自在ろう接，線屈曲	矯正歯科独特の基本手技である自在ろう接の必要性を理解し，手技を習得する。	E-4-1-⑦／各論XI-16-ア	②
7 8 9	9／15	セファロ分析模型分析小試験	症例の分析に必要な資料，分析項目を習得する。	E-4-1-④／各論Ⅱ-8-イ	③
10 11 12	9／22	舌側弧線装置	バンドの適合，チューブの電気溶接の方法を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-10-シ	〃
13 14 15	9／29	舌側弧線装置	舌側弧線装置の作業用模型の作製手順を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-11-シ	〃
16 17 18	10／6	舌側弧線装置	維持装置の作製手順を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-12-シ	〃
19 20 21	10／13	舌側弧線装置	主線を鑞着し，舌側弧線装置のセメント合着の手順を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-13-シ	〃
22 23 24	10／20	舌側弧線装置小試験	舌側弧線装置へ補助弾線を鑞着し，舌側転位歯の移動様式を理解する。	E-4-1-⑦／各論Ⅱ-14-シ	②
25 26 27	10／27	マルチブラケット装置	マルチブラケット装置について口頭試問形式で習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-10-サ	③
28 29 30	11／10	マルチブラケット装置	適切なブラケットの装着方法を習得する。	E-4-1-⑤／各論Ⅱ-11-サ	〃
31 32 33	11／17	マルチブラケット装置	ニッケルチタンのアーチワイヤーによる歯列のレベリング法を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-12-サ	〃
34 35 36	11／24	マルチブラケット装置	歯の排列に必要な空隙獲得の方法を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-13-サ	⑥
37 38 39	12／1	マルチブラケット装置	オープンバーチカルループを用いて舌側転位歯の移動の方法を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-14-サ	〃
40 41 42	12／8	マルチブラケット装置小試験	アップライトスプリングを用いて下顎臼歯の整直法を習得する。	E-4-1-⑥／各論Ⅱ-15-サ	③
43 44 45	12／15	総合試験	矯正装置の製作方法，作用様式に関する修練度，理解度を試験する。	E-4-1-⑤／各論Ⅱ-16サ	① ③

小児歯科学（通年・３単位）

D③④－2811

科目責任者：島村　和宏（小児・教授）
科目担当者：①島村　和宏（小児），②加川千鶴世（小児）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

小児歯科学は，成長発育の過程にある小児を対象にした歯学の一分野である。小児歯科臨床では小児の歯列・咬合を健全に維持，育成するために，口腔領域（歯，歯列，咬合，歯周組織，顎顔面頭蓋）の疾患や異常の診断，治療，予防に関することや，継続的に成長発育している小児の口腔管理を行うことによって，将来の健全な永久歯列咬合を育成していくことを目的としている。小児歯科学における講義では，こうした成長期の小児についての理解と疾病の治療，予防について講義を行う。

2. 一般目標

小児の口腔健康維持，歯列・咬合の育成をはかるために，成長発育を学び，小児の口腔発育・発達および種々の口腔疾患を理解して，その診断と治療法についての知識と技術を習得する。

3. 到達目標

1）小児の心身の発育の特徴，成長発育の評価法について説明する。
2）小児の歯・歯列咬合，顎顔面頭蓋発育と障害・異常について説明する。
3）乳歯・幼若永久歯・歯周組織の特徴と異常，予防について説明する。
4）小児の情動の特徴および患児への歯科的対応について説明する。
5）小児患者の治療方針，治療計画，口腔管理について説明する。
6）乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法，歯内療法について説明する。
7）小児の外科的疾患，軟組織疾患，外傷について説明する。
8）小児の咬合誘導処置（保隙，動的咬合誘導処置）について説明する。
9）障害児，小児疾患およびその歯科治療について説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で，教科書，参考書およびプリント資料を活用して講義を行う。講義中に示される視覚教材や補助教材も活用し理解を深め，習得する。

5. 準備学修

小児歯科学は，解剖学，生理学をはじめとする基礎科目や歯科保存学，口腔外科学など臨床科目と関連がある。３年生までの履修内容を復習すると，小児歯科学の理解はより深まる。事前にシラバス，教科書，参考書に目を通し講義内容を確認する（30分）。毎回の講義終了後，板書内容，配布プリントに目を通し，教科書と照らし合わせ内容を確認する（60分）。

6. 評価方法

1）前，後期の定期試験は総括的評価によって，いずれも筆記試験（客観試験，記述試験）を行う。フィードバックは講義において概説する。
2）前，後期の定期試験ではそれぞれ65点以上を合格とする。65点未満または定期試験欠席者に対し追再試験を行った場合は65点以上を合格とする。
3）前，後期の評価を各50点，合計100点として最終評価とし，65点以上を合格とする。

7. 教本

新谷誠康 他編：小児歯科学
ベーシックテキスト　第２版　永末書店　2019年
クリニカルテキスト　第２版　永末書店　2019年

8. 参考書

白川哲夫 他編： 小児歯科学基礎・臨床実習　第３版４医歯薬出版　2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	小児の成長発育概論	小児歯科学の特徴，発育概論	E-4／必-6-イウ，総Ⅱ-8，Ⅴ-1, 2	①
2	4／13	小児の成長発達①	身体の成長，評価	E-4／必-6-イウ，総Ⅱ-8，Ⅴ-1, 2	〃
3	4／20	小児の成長発達②	小児の発達運動・言語・情緒	E-4／必-6-イウ，総Ⅱ-8，Ⅴ-1, 2	〃
4	4／20	小児の成長発達③	小児の発達運動・言語・情緒	E-4／必-6-イウ，総Ⅱ-8，Ⅴ-1, 2	〃
5	4／27	小児の成長発達④	小児の生理的特徴・栄養	E-4／必-6-イウ，総Ⅱ-8，Ⅴ-1, 2	②
6	4／27	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育	E-4／必-6イウ，総Ⅱ-8	〃
7	5／11	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育，顎関節の発育	E-4／必-6イウ，総Ⅱ-8	〃
8	5／11	口腔機能の発達	摂食嚥下の発達，顎顔面発育の評価	E-4／必-6ウ，総Ⅱ-8-ウ	〃
9	5／18	歯の発育と異常	歯の形成，異常の原因	E-4／必-6，総Ⅱ，Ⅳ-2，各Ⅰ-2, 3	①
10	5／18	歯の形成異常	歯数，形態，歯質の異常	E-4／必-6，総Ⅱ，Ⅳ-2，各Ⅰ-2, 3	〃
11	5／25	歯の形成異常	歯数，形態，歯質の異常	E-4／必-6，総Ⅱ，Ⅳ-2，各Ⅰ-2, 3	〃
12	5／25	歯列咬合発育と異常	歯の萌出と異常，歯列咬合の発育変化	E-4／必-6，総Ⅱ-9-エ	〃
13	6／1	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	E-4／必-6，総Ⅱ-9-エ，Ⅳ-2-ウ	〃
14	6／1	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	E-4／必-6，総Ⅱ-9-エ，Ⅳ-2-ウ	〃
15	6／8	乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯の特徴	E-4／必-6，総Ⅱ-5, Ⅳ-2	〃
16	6／8	乳歯・幼若永久歯の特徴	幼若永久歯の特徴	E-4／必-6，総Ⅱ-5, Ⅳ-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
17	6／15	小児の歯周組織と歯周疾患	歯周組織の特徴，歯周疾患と予防	E-4／必-6，総Ⅳ-2，各Ⅱ-3	①
18	6／15	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴，為害作用，検査，診断	E-4／必-8イ-b，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1	〃
19	6／22	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴，為害作用，検査，診断	E-4／必-8イ-b，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1	〃
20	6／22	小児への歯科的対応	小児の心理，歯科的対応の実際	E-4／必-9，総Ⅴ-2	〃
21	6／29	小児への歯科的対応	年齢別対応，行動変容法	E-4／必-9，総Ⅴ-2	〃
22	6／29	小児への歯科的対応	前投薬法，精神鎮静法，全身麻酔法	E-4／必-12，総Ⅶ-4	〃
23	7／6	診察・検査・診断	診察，検査法診療計画	E-4／必-9，総Ⅴ-2，Ⅵ-1，2，Ⅶ-1	〃
24	7／6	診察・検査・診断	診察，検査法診療計画	E-4／必-9，総Ⅴ-2，Ⅵ-1，2，Ⅶ-1	〃
25	7／13	齲蝕予防と進行抑制	齲蝕予防法，進行抑制	E-4／必-4ウ，各Ⅱ-1-イ	〃
26	7／13	小児の歯冠修復	齲蝕治療の基本，歯冠修復の種類	E-4／必-12，各Ⅱ-1	〃
27	7／20	小児の歯冠修復	歯冠修復の種類，形成時の注意	E-4／必-12，各Ⅱ-1	〃
28	7／20	小児の歯冠修復	歯冠修復法	E-4／必-12，各Ⅱ-1	〃
29	7／27	小児の歯冠修復	幼若永久歯の歯冠修復	E-4／必-12，各Ⅱ-1	〃
30	7／27	小児の歯内療法	乳歯の歯髄疾患	E-4／必12，総Ⅳ-2，Ⅵ11，Ⅶ1，各Ⅱ-2	〃
31	9／6	小児の歯内療法	乳歯の歯髄疾患	E-4／必12，総Ⅳ-2，Ⅵ11，Ⅶ1，各Ⅱ-2	②
32	9／13	小児の歯内療法	幼若永久歯の歯内療法，根尖性歯周炎の診断と処置	E-4／必12，総Ⅳ-2，Ⅵ11，Ⅶ1，各Ⅱ-2	〃
33	9／20	外科的処置	疼痛管理，局所麻酔，偶発症	E-4／必12，総Ⅳ-ア	〃
34	9／27	乳歯の抜歯	抜歯の適応症，器具・器材	E-4／必12，総Ⅶ-4	〃
35	10／4	リスクマネージメント	リスクマネージメント，薬物療法	E-4／必2-オ，12-コ	①
36	10／11	顎・軟組織疾患	顎骨の炎症，腫瘍，嚢胞	E-4／必-7，8，9，総Ⅳ-2，Ⅵ，Ⅶ各Ⅰ，Ⅲ	〃
37	10／18	軟組織疾患	軟組織の異常処置	E-4／必-7，8，9，総Ⅳ-2，Ⅵ，Ⅶ各Ⅰ，Ⅲ	①
38	10／25	口腔外傷	外傷の疫学，分類，検査と診断	E-4／各Ⅰ-4	〃
39	11／1	口腔外傷	外傷歯の処置と予防	E-4／各Ⅰ-4	〃
40	11／8	咬合誘導	咬合誘導の目的，診察，検査，診断，保隙	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
41	11／15	咬合誘導	保隙，動的誘導，習癖	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
42	11／22	小児の摂食嚥下障害・顎関節症，心身障害児	摂食嚥下障害，顎関節症，心身障害児	E-4／必8-イ，必12，総Ⅲ-2，総Ⅴ-3，各Ⅴ-3，各Ⅴ-7	〃
43	11／29	心身障害児	心身障害児への対応，障害の特徴	E-4／必12，総Ⅴ-3，各Ⅴ-7	〃
44	12／6	心身障害児・注意する全身疾患	障害の特徴，全身疾患と口腔所見	E-4／必12，総Ⅴ-3，各Ⅴ-7	〃
45	12／13	注意すべき全身疾患 児童虐待 まとめ	全身疾患と口腔所見，児童虐待，まとめ	E-4／必12，総Ⅰ-2，Ⅴ-3，各Ⅰ，Ⅴ-7	〃

小児歯科学実習（後期・１単位）

D④⑤－2908

科目責任者：島村　和宏（小児・教授）
科目担当者：①島村　和宏（小児），②加川千鶴世（小児），
③金子　知弘（非常勤），④原　　憲司（非常勤），
⑤春山　博貴（非常勤），⑥岡　　琢弓（非常勤），
⑦山内　旬美（非常勤）ほか
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

小児歯科学実習では講義で学んだ知識をもとに，小児患者の各種歯科疾患に対する治療法の理論を学習し，その基本的手技，装置作製の技術を習得する。

2. 一般目標

小児の口腔健康維持，歯科疾患の治療を行うために，齲蝕予防，齲蝕治療，咬合誘導処置の理論と技術を習得する。

3. 到達目標

1）小児歯科治療について必要な各種器具・機材について説明する。
2）ラバーダム防湿をする。
3）乳臼歯のコンポジットレジン修復の窩洞（１級）を形成する。
4）乳臼歯のインレー修復の窩洞（２級）を形成する。
5）乳歯の歯髄処置（生活歯髄切断）をする。
6）乳臼歯の既製金属冠修復をする。
7）乳前歯の歯冠修復をする。
8）クラウンループ保隙装置を設計，製作する。
9）可撤保隙装置を設計，製作する。
10）予防填塞をする。
11）フッ化物歯面塗布をする。
12）咬合誘導装置（保隙装置）の説明をする。
13）保護者に対するブラッシング指導をする。

4. 履修の進め方

実習書，配布資料に基づき，小児歯科学教科書も参考にして各種処置法・装置製作法の理論を学ぶ。また視覚教材（VTR・スライドの映像など），各班ごとのデモンストレーションから，実際の使用器材，作業手順＜術式＞，注意点を理解し技術習得の助けにする。また各班でのインストラクターから実習途中でのチェック，アドバイスを受け，実習予定に従って各実習項目を完了させる。項目ごとに小試験で評価を受け，レポートを提出する。

5. 準備学修

シラバス，教科書，実習書に目を通し，実習内容を確認して小テストに備える（60分）。毎回の実習終了後，教科書，実習書を用いて復習をする（30分）。その他，疑問点があれば科目担当者や担当教員に質問する。

6. 評価方法

到達目標をすべてミニマムリクワイヤメントとして評価する。模型実習の各項目＜８項目＞・演習＜２課題＞について，指導医の指示のもとスムースに実施し，各製作物は患児に装着できるレベルで作製・提出する。これらを80％，また実習試験・小テストを20％とし，すべてを総合して100点として評価する。総合評価で65点を合格とする。

7. 教本

新谷誠康 他編：小児歯科学
ベーシックテキスト　第２版　永末書店2019年
クリニカルテキスト　第２版　永末書店2019年

8. 参考書

白川哲夫 他編：小児歯科学基礎・臨床実習　第３版　医歯薬出版　2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／７	器材説明…顎模型ナンバリング石膏模型の装着	顎模型にナンバリング石膏歯列模型の咬合器への装着	D-1／総Ⅳア	① ～ ⑥
4 5 6	９／14	（1）ラバーダム防湿（2）乳歯歯冠修復	使用器材の確認ラバーダム防湿下でのＥの２級インレー窩洞	E-1, 4／必12-セ，総Ⅷ-5，各Ⅱ-ウ	〃
7 8 9	９／21	乳歯歯冠修復法 1） インレー窩洞	Ｅ；２級インレー窩洞形成とＥ；１級成形充填窩洞	E-1, 4／必12-セ，総Ⅷ-5，各Ⅱ-1-ウ	〃
10 11 12	９／28	乳歯歯冠修復法２）成形充填窩洞CR充填／冠修復	乳臼歯隣接面を含む窩洞Ｅ；１級成形充填窩洞とCR修復Ａ；支台歯形成CR冠修復	E-1, 4／必12-セ，総Ⅷ-4，各Ⅱ-1-ウ	〃
13 14 15	10／５	乳歯の歯内療法生活歯髄切断法	生活歯髄切断法…Ｅ；水酸化カルシウム法による生活断髄処置	E-4／必12，総Ⅳ-2，Ⅵ11，Ⅶ1，各Ⅱ-2	〃
16 17 18	10／12	乳歯歯冠修復法（3）既製乳歯冠装着	乳臼歯の既製金属冠修復法Ｅ；断髄後の支台歯形成	E-1, 4／必12-セ，各Ⅱ-1-ウ	① ～ ⑦
19 20 21	10／19	保隙装置１）クラウンループ製作２）可撤保隙装置製作	咬合誘導の概要クラウンループ保隙装置の設計と製作可撤保隙装置の外形線設定	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
22 23 24	10／26	クラウンループ作成	クラウンループの屈曲	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
25 26 27	11／２	クラウンループ作成可撤保隙装置（2）単純鈎	単純鈎の屈曲	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
28 29 30	11／９	可撤保隙装置（3）アダムスクラスプ	単純鈎，アダムスクラスプの屈曲	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
31 32 33	11／16	可撤保隙装置（4）レジン床の形成	レジン床の形成，形態修正研磨	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
34 35 36	11／30	可撤保隙装置（5）レジン床の研磨	レジン床の形成，形態修正研磨	E-4／必8，総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	〃
37 38 39	12／７	模型計測保護者へのブラッシング指導	歯列模型の計測保護者に対する家庭でのブラッシング指導	E-4／必6, 8，総Ⅰ-2-ア，各Ⅱ-1-イ-f，3-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40 41 42	12／14	予防填塞処置 フッ化物応用法	防湿下での下顎両側第一大臼歯予防填塞，乳歯列のフッ化物歯面塗布	E4／必6, 8, 総Ⅰ-2-ア, 各Ⅱ-1-イ-f, 3-エ	① 〜 ⑦
43 44 45	12／21	実習試験・総括実習	総括試験		① ②

歯科放射線学Ⅱ（前期・1単位）

D③④－2701

科目責任者：原田　卓哉（放射・教授）
科目担当者：①原田　卓哉（放射），②茂呂祐利子（放射）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり，患者に利益をもたらしている一方で，被曝による危険も共存しています。放射線利用には，知識や技術的なことはもちろん，良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学，放射線生物学，放射線化学を，また臨床放射線学として放射線診断学，放射線治療学，放射線防護学を学びます。基礎放射線学では，放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び，臨床放射線学では放射線を利用した画像診断，放射線治療に必要な撮影技術，腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

1）的確な画像診断を行うために，歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
2）口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために，放射線治療の基礎と実際を理解する。

3. 到達目標

1）画像診断について述べる。
2）歯と歯周組織の病変について述べる。
3）口腔顎顔面領域の疾患について述べる。

4. 履修の進め方

1）講義，示説で学習する。
2）文書，視覚媒体を用いる。
3）投影視覚媒体を用いる。

5. 準備学修

予　習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)
復　習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

6. 評価方法

定期試験で評価する。
評価基準：定期試験100％により評価する。
試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。
範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏 他 「歯科放射線学　第６版」医歯薬出版 2018年

8. 参考書

金田　隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社　2017年
日本歯科放射線学会編 「歯科臨床における画像診断アトラス　第２版」医歯薬出版　2020年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／８	画像解剖１	口内法エックス線写真における正常エックス線解剖	E-2-1), E-2-2)／ 総Ⅱ-4, Ⅱ-5	① ②
2	４／15	画像解剖２	パノラマエックス線写真における正常エックス線解剖	E-2-1), E-2-2)／ 総Ⅱ-4, Ⅱ-5	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／22	歯と歯周組織1	形成異常，発育異常	E-3-2)／各Ⅰ-2	①②
4	5／6	歯と歯周組織2	齲蝕，根尖性歯周疾患，歯周炎におけるエックス線像	E-3-2)／各Ⅲ-2,各Ⅱ-2,各Ⅱ-3	〃
5	5／13	嚢胞	嚢胞の基本的エックス線像	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
6	5／20	良性腫瘍1	良性腫瘍の基本的エックス線像	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
7	5／27	良性腫瘍2	良性腫瘍および非歯原性腫瘍の画像所見	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
8	6／3	悪性腫瘍	悪性腫瘍の基本的エックス線像，レントゲンサイン	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
9	6／10	炎症	炎症の概要，基本的エックス線像	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
10	6／17	腫瘍類似疾患	線維性異形成症，Paget骨病，HistiocytosisX	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
11	6／24	上顎洞病変	上顎洞解剖，基本的エックス線所見	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
12	7／1	顎関節病変	顎関節解剖，基本的エックス線所見	E-2-4)／各Ⅲ-3	〃
13	7／8	唾液腺病変	唾液腺病変の基本的画像所見，唾液腺造影	E-2-4)／各Ⅲ-3	〃
14	7／15	顎骨に影響する全身疾患	代謝性疾患，内分泌疾患，先天性疾患，遺伝性疾患の画像所見	E-2-4)／各Ⅲ-4	〃
15	7／22	まとめ	これまでの講義内容まとめ		〃

高齢者歯科学Ⅱ（前期・1単位）

D③④－2812

科目責任者：鈴木　史彦（高齢・教授）
科目担当者：①鈴木　史彦（高齢），②北條健太郎（麻酔），
③植田耕一郎（客員），④阪口　英夫（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

摂食嚥下障害は脳血管障害，認知症，神経筋疾患，頭頸部癌，加齢等により，食物の取り込みや嚥下に障害をきたしたものである。嚥下障害の合併症として誤嚥性肺炎，窒息，低栄養，脱水等が挙げられる。高齢者にとっては死亡の原因ともなる合併症であるため，嚥下機能を適切に評価して，リハビリテーションによって機能の向上や維持を図るのか，より安全な栄養管理を実施するのかといった選択が必要となる。高齢者歯科学Ⅱでは摂食嚥下モデルの概念，評価方法，訓練方法，嚥下補助床等について理解し，歯科医師として摂食嚥下リハビリテーションの臨床にどのように関わるのかを学習する。

2. 一般目標

摂食嚥下障害患者の食に関するQOLを支えるために，適切なアプローチ法を選択するのに必要となる診断や治療に関する知識を習得する。

3. 到達目標

1）リハビリテーションの概念を説明する。
2）摂食嚥下器官の解剖と生理を説明する。
3）摂食嚥下モデルと各時期の摂食嚥下障害を説明する。
4）摂食嚥下障害に関係する諸因子を説明する。
5）摂食嚥下障害の合併症を説明する。
6）摂食嚥下障害の検査方法を説明する。
7）摂食嚥下障害に対する間接・直接訓練を説明する。
8）摂食嚥下障害に対する食事指導を説明する。
9）嚥下補助床について説明する。
10）高齢者の栄養評価と栄養管理方法を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式でスライド，資料および教科書を使用して履修する。

5. 準備学修

本科目の履修準備として摂食嚥下障害の原因疾患である脳血管障害，認知症，神経筋疾患等については高齢者歯科学Ⅰと総合臨床医学の内容を復習しておくこと。また，摂食嚥下に関係する生理と解剖については口腔生理学と口腔解剖学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち，他分野と関係が深い科目は次の通りである。リハビリテーションの理念：障害者歯科学，評価と訓練での多職種連携：チーム医療学，嚥下補助床：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ，在宅診療や歯科訪問診療：高齢者歯科学Ⅰ。

事前学習は教科書の該当箇所の図表を確認しておくこと（15分）。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分）。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

6. 評価方法

論述試験を80点と客観試験を20点とし，65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

7. 教本

新版　歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学　医歯薬出版

8. 参考書

摂食嚥下リハビリテーション学　第3版　医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	障害学	リハビリテーションの理念ICF, アプローチ法	E-5-1)／必2-ア	①
2	4／15	構造と機能	摂食嚥下器官の解剖と生理	E-5-1)／総Ⅱ-8-ウ	〃
3	4／22	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害	3期，4期，5期モデルとプロセスモデルと各期の障害	E-5-1)／各Ⅴ-2-ア	〃
4	5／6	原因と病態1	摂食嚥下に関与する諸因子構音障害	E-5-1)／各Ⅳ-1-イ，ウ	〃
5	5／13	原因と病態2	合併症（誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水）	E-5-1)／各Ⅴ-1-オ	〃
6	5／20	ライフサイクルと摂食嚥下障害	発達期・成人期・老年期の摂食嚥下障害	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア～オ	④
7	5／27	評価・検査1	スクリーニングテスト	E-5-1)／各Ⅴ-3-イ	②
8	6／3	評価・検査2	嚥下造影，嚥下内視鏡検査	E-5-1)／各Ⅴ-3-イ	①
9	6／10	訓練1	間接訓練	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア	〃
10	6／17	訓練2	直接訓練，段階的摂食訓練	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア	〃
11	6／24	食事指導	食事指導，食事介助	E-5-1)／各Ⅴ-6-オ	〃
12	7／1	歯科的アプローチ	摂食嚥下障害のための補助装置	E-5-1)／各Ⅳ-7-ウ	〃
13	7／8	高齢者と栄養	栄養状態の評価，栄養管理	E-5-1)／各Ⅴ-6-オ	〃
14	7／16	臨床1	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア～オ	③
15	7／23	臨床2・まとめ	臨床例と講義のまとめ	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア～オ	①

障害者歯科学（後期・1単位）

D③④－2813

科目責任者：佐々木重夫（歯内・准教授）
科目担当者：①佐々木重夫（歯内），②吉田　健司（麻酔）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

障害者歯科学は，口腔や歯の健康を守っていくために，心身に障害のある人に対して歯科保健指導や歯科治療を行う歯科医療学であり，その障害には個人個人で特異的な問題が付随することから，生理学的，身体的，心理的特徴を十分に理解し，全身管理上の問題点と顎・口腔の生理学的な機能の回復・維持を学ぶ必要がある。さらに，ノーマライゼーションの観点から，障害を有する患者のQOL（Quality of life）の向上を考えた歯科医療をどのように実践していくのかを学ぶ。

2. 一般目標

近年必要性が増加している障がい者に対する医療より歯科領域における保健医療を障がい者に提供するために，社会保障制度などの法的側面と障害の程度に合わせた顎・口腔機能の維持・増進に関する歯科な基本的知識を修得する。さらに，障害者の社会的環境や身体的・心理的特徴，各障害に伴う顎口腔系の変化や全身疾患と歯科治療との関係についての基礎的知識を修得する。

3. 到達目標

1）障がい者に関する概念を説明する。
2）歯科治療に配慮すべき疾患・症候群を説明する。
3）障がい者の歯科治療における行動調整について説明する。
4）障がい者の歯科治療に必要な注意点を説明する。
5）障がい者の障害に合わせた歯科的管理を説明する。
6）障害者歯科における安全管理を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料（プリント）を使用して履修する。次回の講義において前回の重要な項目を再度提示する。

5. 準備学修

障害者歯科学における障害の特異性に関しては口腔衛生学，小児歯科学，口腔外科学，歯科麻酔学と関連性が深い。障害者歯科学の講義ではいままでに習った知識の確認事項であるものや新たな知識を知ることによってより研鑽を積む内容も多い。よって，授業前に授業項目における教科書の該当項目について目を通すこと（15分）。また，授業後は当日の内容について配布されたプリントなどの資料を見直す（30分）ことが肝要である。

6. 評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100％により評価し，65点以上を合格とする。試験形式:多肢選択式。範囲:講義内容全範囲

7. 教本

日本障害者歯科学会編　スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科　第2版　医歯薬出版

8. 参考書

スペシャルニーズデンティストリーハンドブック　障害者歯科医療ハンドブック改訂版　東京都立心身障害者口腔保健センター　一世印刷

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／5	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL，ノーマライゼーション，バリアフリー，ユニバーサルデザイン	B-2-2)／必2-ア，総Ⅰ-2-オ，総Ⅴ-3-ア，イ	①
2	9／12	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉，医療制度，ADL，IADL，チーム医療	B-2-2)，A-5-1)／必3-ア，総Ⅰ-2-カ，総Ⅴ-5-イ	〃
3	9／26	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞，精神遅滞，自閉症スペクトラム障害，注意欠陥多動性障害，学習障害	E-5-2)／総Ⅴ-2-オ	②
4	10／3	神経・運動障害（1）	脳性麻痺，筋ジストロフィー，脊髄損傷，関節リウマチ，Parkinson病	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア，各Ⅴ-7-ア，イ，ウ，エ	〃
5	10／17	神経・運動障害（2），感覚障害	脳血管障害，筋萎縮性側索硬化症，てんかん，視覚・聴覚障害	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア，各Ⅴ-7-ア，イ，ウ，エ	〃
6	10／24	精神および行動の障害	統合失調症，うつ病，不安症，強迫症，心身症，認知症，摂食障害	E-5-2，3)／総Ⅴ-6-ア，総Ⅶ-1-エ	〃
7	10／31	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患（循環器・呼吸器・消化器腎尿路内分泌･血液疾患）	E-5-2)，E-6／総Ⅴ-6-ア，総Ⅶ-1-エ	〃
8	11／7	歯科治療時に配慮すべき疾患･症候群-1	（口腔に症状がみられる）遺伝性疾患	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-イ，ウ，各Ⅲ-4-ア	〃
9	11／14	歯科治療時に配慮すべき疾患･症候群-2	（頭蓋・顎顔面に症状がみられる）遺伝性疾患，染色体異常	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-イ，ウ，エ，各Ⅲ-4-ア	〃
10	11／21	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患，心筋症，エリテマトーデス，サルコイドーシス	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4－オ	〃
11	11／28	行動調整	コミュニケーション法，行動療法，薬物的行動調整，体動の調整法	E-5-2)／総Ⅴ-3-ウ，オ，各Ⅴ-7-ア，イ	〃
12	12／5	スペシャルニーズのある人の歯科治療-1	医療面接，歯髄処置，歯周治療，歯冠修復	E-3-3)，E-5-2)／各Ⅴ-7-イ	①
13	12／12	スペシャルニーズのある人の歯科治療-2	補綴的対応，顎顔面領域の外傷	E-3-4)，E-5-2)／各Ⅴ-7-イ	①
14	12／19	リスク評価と安全管理	リスク評価，医療安全管理体制，医療事故の予防，ターミナルケア	A-6-1)，2)／必2-オ，総Ⅶ-5-イ，ウ	〃

臨床総合演習（後期・２単位）

D②③④⑤－3000

科目責任者：清野　晃孝（病院・准教授）
科目担当者：（修復）　山田　嘉重，菊井　徹哉
（歯周）　高橋　慶壮
（歯内）　木村　裕一，佐々木重夫，
佐藤　穏子，長﨑　慶太
（冠橋）　羽鳥　弘毅，五十嵐一彰，
盛植　泰輔，雨宮　幹樹，
伊藤　　歩，大友　悠資，
内田　光洋，山口　雄大
（有床）　山森　徹雄，松本　知生，
池田　敏和，内山　梨夏，
飯島　康基，佐々木慎一，
曽根　晶子，佐久間大季，
原　　千晶
（外科）　臼田　真浩，髙橋文太郎
（矯正）　福井　和徳，板橋　　仁，
竜　　立雄，川鍋　　仁
黒田　栄子，山野辺晋也，
岡崎　智世，笹谷　哲郎，
根本奈央子，松村　賢史
荻野　早紀，小須田一剛
（小児）　島村　和宏，加川千鶴世，
神庭　優衣，舟山　敦雄，
石橋　奈美，角田　　望，
（放射）　原田　卓哉，茂呂祐利子，
矢口　剛士
（麻酔）　山崎　信也，冨田　　修

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科学においては，知識のみならず技能と態度の学習が要求される。次年度に履修する臨床実習では，これまでに学習してきた知識と技能をさらに発展させて，実際の臨床に即した診療参加型の実習を行うことになる。本科目では講義・模型実習で学習した事項と診療参加型臨床実習を段階的に結びつけ，臨床実習へ円滑に移行するための内容を学習する。

2. 一般目標

臨床実習において指導医とともに診療に携わるために，基本的歯科疾患に対する診察・検査・診断・治療計画立案および歯科治療の実践に必要な知識・技能・態度を習得する。

3. 到達目標

1）初診患者の医療面接を実施する。
2）予防填塞を実施する。
3）バイタルサインを観察する。
4）頭頸部の診察を実施する。
5）エックス線撮影の説明をする。
6）修復用隔壁の装着を実施する。
7）概形印象採得を実施する。
8）歯周病の診断と病状について説明する。
9）支台歯形成を実施する。
10）保隙装置を説明する。
11）欠損補綴の治療方針を説明する。

4. 履修の進め方

学年を約８，９名ずつのグループに分け少人数学習を行う。グループ毎に課題を実施し，別紙日程表に準じてローテーションする。演習の場所は中央棟４階と５階の実習室とし，演習中は指定の白衣を着用する。また課題毎に指定された器材，教科書を持参する。

5. 準備学修

シラバス等により事前に提示された課題内容に関して，これまでの講義，模型実習で履修した事項を整理する。（30分）

そして，当日実施した課題に関して，配布プリントや各自のノート・メモ等を見直し，イメージトレーニングを実施する。（30分）

6. 評価方法

後期の中間期に，形成的評価として確認試験を２課題実施し，即時にフィードバックするも最終評価には加えない。演習の最終２日間で８課題の実技試験を実施する。８課題実技試験の平均値での演習成績を90％，出席率を10％とする。

総括的評価の合格基準は，72点以上であり，かつ（社）医療系大学間共用試験実施機構によるOSCEで６課題の平均値72点以上であることとする。

7. 教本

各課題からプリントを配布する。

8. 参考書

なし

課題．１　バイタルサイン　E-1-4)-(1)①②
必修－11－アーb
口腔外科学講座（麻酔：山崎　信也）

一般目標
診療を行うために，バイタルサインを観察する基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを説明する。
2）患者の日常の血圧を確認する。
3）脈拍を適切に測定する。
4）血圧を適切に測定する。
5）患者に脈拍と血圧の測定値を伝える。

課題．２　心肺蘇生　E-1-6)②
必修－11－イーa
口腔外科学講座（麻酔：山崎　信也）

一般目標
診療中や院内での偶発的な心肺停止にも対応できるような安全な歯科医療を実践するために，心肺蘇生の基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）意識の有無を評価する。
2）応援とＡＥＤを要求する。
3）呼吸の有無を評価する。
4）人工呼吸を実施する。
5）循環の有無を評価する。
6）胸骨圧迫を実施する。
7）人工呼吸と胸骨圧迫を適切な割合で実施する。
8）ＡＥＤを安全に操作する。

課題．３　浸潤麻酔　E-1-4)-(3)⑤
必修－12－カーa
口腔外科学講座（麻酔：山崎　信也）

一般目標
無痛的な治療を行うために，浸潤麻酔についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）清潔な状態で必要な器材を選択する。
2）手袋を正しく装着する。
3）器材と薬剤を正しく準備する。
4）患者にこれから行うことを説明する。
5）安全な浸潤麻酔操作を行う。
6）清潔に配慮した操作をする。

課題．４　初診患者の医療面接（急性症状）　A-4-1①②③
必修－9－ウーabc
歯科保存学講座（歯内：佐々木重夫）

一般目標
急性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために，医療面接についての基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）面接の導入にあたって，環境を整える。
2）急性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
3）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
4）急性症状やその心理状態に応じた質問をする。
5）病状中心の病歴を聴取する。
6）既往歴を聴取する。
7）解釈モデルを聴取する。
8）急性症状やその心理状態に対する共感的理解の態度を示す。
9）面接の終わりに患者の言い忘れがないかを確認する。
10）面接の終わりに訴えの要約と再確認をする。

課題．5　初診患者の医療面接(慢性症状)　A-4-1①②③
必修－9－ウ－abc
歯科保存学講座(歯内：佐々木重夫)

一般目標
慢性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために，医療面接についての基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）面接の導入にあたって，環境を整える。
2）慢性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
3）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
4）慢性症状やその心理状態に応じた質問をする。
5）病状中心の病歴を聴取する。
6）既往歴を聴取する。
7）解釈モデルを聴取する。
8）背景（心理的，社会的，経済的）を聴取する。
9）慢性症状やその心理状態に応じた共感的理解の態度を示す。
10）面接の終わりに患者の言い忘れがないかを確認する。
11）面接の終わりに訴えの要約と確認をする。

課題．6　口腔内状態の記録　F-2-2)-⑫
必修－10－オ－a
歯科保存学講座(歯内：長崎　慶太)

一般目標
口腔内の情報収集を行うために，口腔内状態の記録に求められる基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを説明する。
2）患者に配慮した器具の操作をする。
3）口腔内状態を診療録（記入用紙）に記載する。
4）安全性に配慮した操作ができる。

課題．7　ブラッシング指導　B-3-2)③
各論－Ⅱ－3－イ－D
歯科保存学講座(歯周：高橋　慶壮)

一般目標
歯周治療におけるブラッシングの位置づけと重要性を説明し，具体的なブラッシング方法の指導を行うための基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）指導の開始にあたって，環境を整える。
2）様々な媒体を用いて指導する。
3）患者の理解度を確認しながら指導する。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
5）指導の終わりに，患者の疑問点を確認する。
6）ブラッシング法について指導する。
7）歯ブラシの選択法を指導する。
8）患者に練習させながら指導する。

課題．8　レジン充填　F-3-3)-①
各論Ⅱ－1－ウ－f
歯科保存学講座(修復：菊井　徹哉)

一般目標
光重合コンポジットレジン修復を適切に実施するために必要な基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）患者にこれから行う処置を伝える。
2）必要に応じたポジショニングをとる。
3）適切なシェードを選択する。
4）指定された接着システムに基づく歯面処理を実施する。
5）光重合型コンポジットレジンの窩洞充填を的確に実施する。
6）的確な光照射を実施する。
7）清潔に配慮した操作をする。
8）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
9）安全性に配慮した操作をする。

課題．9　根管治療　E-3-3)-(2)①
各論Ⅱ－2－イ－d
歯科保存学講座(歯内：佐藤　穏子)

一般目標
歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を行うために，根管治療における根管洗浄およびマスターポイント試適の基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを伝える。
2）根管洗浄に用いる器具を選択する。
3）必要に応じたポジショニングをする。
4）適切な根管洗浄操作をする。
5）適切な根管乾燥の操作をする。
6）マスターポイントの試適をする。
7）清潔に配慮した操作をする。
8）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
9）安全性に配慮した操作をする。

課題．10　頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察　F-2-2)-③
各論Ⅲ－3－ウ－k
口腔外科学講座(臼田　真浩)

一般目標
頭頸部領域の診察を行うために必要な基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを伝えることができる。
2）顔面の色調の変化を確認できる。
3）顔面の対称性を確認できる。
4）顎の開閉口路確認できる。
5）顎関節の可動性を触診できる。
6）頭頸部の筋肉の触診ができる。
7）顎下リンパ節の触診ができる。
8）患者の痛みや不快に配慮した診察ができる。
9）診察内容を診療録に記録できる。

課題．11　歯周病の病状の説明　F-2-1)-⑦
各論Ⅱ－3－イ－b
歯科保存学講座(歯周：高橋　慶壮)

一般目標
患者の歯周疾患の病状を診断し，治療の概要および具体的な治療方針について患者に分かり易く説明できるための基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）説明の開始にあたって，環境を整える。
2）様々な媒体を用いて説明する。
3）患者の理解度を確認しながら説明する。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
5）説明の終わりに，患者の疑問点を確認する。
6）検査結果に基づいて歯周病の病状を正しく説明する。

課題．12　普通抜歯　F-3-5)①
必須12－ケ－a
口腔外科学講座(髙橋文太郎)

一般目標
抜歯に必要な器具を選択し，無菌操作に配慮して安全な抜歯操作を行うために必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを説明する。
2）抜歯術に必要な器材を選択する。
3）清潔に配慮して器材をトレー上に準備する。
4）処置に応じたポジショニングをする。
5）無菌手袋を正しく装着する。
6）患者に配慮した器材の操作をする。
7）指定された歯を抜歯する。
8）清潔に配慮した操作をする。

課題．13　手洗いと滅菌グローブ装着　F-3-1)①
必須12－エ－b
口腔外科学講座(臼田　真浩)

一般目標
清潔な診療を行うために，手洗い方法および滅菌グローブ装着についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）清潔・不潔に配慮しながら順序よく手洗いをする。
2）清潔・不潔に配慮しながら滅菌タオルを使用する。
3）無菌的にグローブを装着する。

課題．14　縫合　F-3-5)②
必須12－キ－c
口腔外科学講座(髙橋文太郎)

一般目標
創面の縫合を行うために必要な基本的態度，技能および知識を習得する。
到達目標
1）必要な器材を選択する。
2）滅菌グローブを正しく装着する。
3）結紮を正しく実施する。
4）糸を正しく切る。
5）清潔に配慮した操作をする。
6）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
7）安全性に配慮した操作をする。

課題．15　エックス線撮影の説明　E-1-2)①②③
総論Ⅵ－2－エ－b
放射線診断学講座(原田　卓哉)

一般目標
エックス線撮影の同意を得るために，エックス線検査の必要性と人体への影響および防御の説明に必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）撮影の開始にあたって環境を整える。
2）疑問点に関して自由に質問できることを説明する。
3）理解度を確認しながら進める。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
5）エックス線撮影の必要性について説明する。
6）口内法エックス線撮影について説明する。
7）放射線の防護について説明する。
8）説明の終わりに説明内容の要約と確認をする。

課題．16　欠損補綴の治療方針の説明　E-3-4)-(1)①②
E-3-4)-(2)②③
各論Ⅳ－2－エ
歯科補綴学講座(有床：山森　徹雄)

一般目標
治療にあたっての協力を得るために，補綴治療法の説明についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）説明の開始にあたり，環境を整える。
2）様々な媒体を用いて説明する。
3）患者の理解度を確認しながら説明する。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
5）説明の終わりに患者の疑問点を確認する。
6）補綴治療の必要性について説明する。
7）補綴処置の構造の概略を説明する。
8）治療法について，長所，短所を説明する。

課題．17　ラバーダム防湿　F-3-1)③
各論Ⅱ－2－イ－d
歯科保存学講座(歯内：佐藤　穏子)

一般目標
安全かつ効率的な歯科治療を行うために，ラバーダム防湿についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを伝える。
2）必要な器具を準備する。
3）処置に応じたポジショニングをとる。
4）指定された歯に装着する。
5）術野の消毒をする。
6）適切なラバーダム防湿を実施する。
7）清潔に配慮した操作をする。
8）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
9）安全性に配慮した操作をする。

課題．18　支台歯形成　E-3-4)-(1)-③
各論Ⅳ－3－イ－b
歯科補綴学講座(冠橋：羽鳥　弘毅)

一般目標
歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために，全部金属冠の支台歯形成についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）これから行うことを患者に伝えることができる。
2）処置に応じたポジショニングをとれる。
3）切削用ポイントをハンドピースに確実に装着できる。
4）指定された歯を形成できる。
5）ハンドピースを操作できる。
6）歯髄保護に配慮できる。
7）支台歯形成ができる。
8）清潔に配慮できる。
9）患者の痛みや不快感に配慮できる。
10）安全性に配慮できる。

課題．19　プロビジョナルレストレーションの製作　E-3-4)-(1)-⑦
各論Ⅳ－3－イ－e
歯科補綴学講座(冠橋：羽鳥　弘毅)

一般目標
歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために，プロビジョナルレストレーション製作についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）これから行うことを患者に伝えることができる。
2）処置に応じたポジショニングをとれる。
3）既製樹脂冠を試適できる。
4）支台歯と臨在歯に分離剤を塗布できる。
5）常温（即時）重合レジンを操作できる。
6）辺縁部のバリを削除（切除）できる。
7）清潔に配慮できる。
8）患者の痛みや不快感に配慮できる。
9）安全性に配慮できる。

課題．20　概形印象採得　F-3-1)⑤
各論Ⅳ－2－イ－g
歯科補綴学講座(有床：山森　徹雄)

一般目標
基本的診察を行うために，アルジネート印象材による印象採得の基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを説明する。
2）必要な機材を準備する。
3）処置に応じたポジショニングをとる。
4）アルジネート印象材の手練和を適切に行う。
5）印象採得を適切に行う。
6）清潔に配慮した操作をする。
7）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
8）安全性に配慮した操作をする。

課題．21　矯正装置の説明　E-4-1)-⑤
各論Ⅰ－10－イ，ウ
成長発育学講座(矯正：川鍋　仁)

一般目標
不正咬合治療に使用する矯正装置について患者の保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）説明の開始にあたって環境を整えることができる。
2）様々な媒体を用いて説明できる。
3）保護者の理解度を確認しながら説明できる。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方ができる。
5）説明の終わりに疑問点を確認できる。
6）不正咬合の状態を説明できる。
7）矯正装置の使用目的を説明できる。
8）矯正装置の特徴と作用機序を説明できる。
9）装置の取り扱いについて説明できる。

課題．22　保護者へのブラッシング指導　E-4-2)⑥
各論Ⅱ－3－エ－b
成長発育学講座(小児：舟山　敦雄)

一般目標
小児の保護者が家庭で行う有効なプラークコントロールのために，ブラッシング指導についての必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）指導の開始にあたって，環境を整える。
2）指導の概要や自由に質問できることを伝える。
3）小児の年齢にあった仕上げ磨きの方法を指導する。
4）患者（保護者）の理解度を確認しながら指導する。
5）適切な歯ブラシの選択を指導する。
6）保護者に実体験させながら指導する。
7）様々な媒体を用いて指導する。
8）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
9）指導の終わりに，指導の要約と疑問点やいい忘れたことの確認をする。

課題．23　保隙装置の説明　F-3-6)④
各論Ⅰ－10－イ
成長発育学講座(小児：神庭　優衣)

一般目標
保護者に対して保隙の必要性を説明するための必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）説明の開始にあたって環境を整えることができる。
2）様々な媒体を用いて説明できる。
3）保護者の理解度を確認しながら説明できる。
4）わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方ができる。
5）説明の終わりに疑問点を確認できる。
6）保隙の必要性を説明できる。
7）適切な保隙装置を選択できる。
8）保隙装置の名称が伝えられる。
9）保隙装置の構成・使用方法について説明できる。
10）装着後，定期管理の必要性を説明できる。

課題．24　予防填塞　G-3-⑪
各論Ⅱ－1－イ－b
成長発育歯学講座(小児：舟山　敦雄)

一般目標
小児のう蝕予防に有効な予防填塞処置を行うために，レジン系シーラント材による予防填塞の術式，技能を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを伝える。
2）処置に応じたポジショニングをできる。
3）歯面及び小窩裂溝部の機械的清掃，化学的清掃ができる。
4）指定された接着システムに基づく歯面処理，シーラント材の填塞ができる。
5）レジン系シーラント材の的確な填塞ができる。
6）的確な光照射ができる。
7）清潔に配慮した操作ができる。
8）患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
9）安全性に配慮した操作ができる。

課題．25　フッ化物塗布　G-3-⑪
各論Ⅱ－1－イ－b
成長発育学講座(小児：石橋　奈美)

一般目標
小児のう蝕予防に有効なフッ化物塗布を行うために，基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
1）患者にこれから行うことを伝えることができる。
2）処置に応じたポジショニングをできる。
3）歯面清掃を適切に行うことができる。
4）歯面乾燥を適切に行うことができる。
5）簡易防湿を行うことができる。
6）指定された部位にフッ化物の歯面塗布が適切にできる。
7）清潔に配慮した操作ができる。
8）患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
9）安全性に配慮した操作ができる。

課題. 26　スケーリング・ルートプレーニング　G-3-⑥
各論Ⅱ－3－ウ－b
歯科保存学講座（歯周：高橋　慶壮）

一般目標
　スケーリング・ルートプレーニングを適切に実施するための基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
　1）患者にこれから行うことを伝達する。
　2）適切なスケーラーを選択する。
　3）処置に応じたポジショニングをとる。
　4）指定された歯の処置をする。
　5）適切なスケーリング・ルートプレーニングを行う。
　6）清潔に配慮した操作をする。
　7）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
　8）安全性に配慮した操作をする。

課題. 27　修復用隔壁の装着　G-3-④
各論Ⅱ－1－ウ－f
歯科保存学講座（修復：山田　嘉重）

一般目標
　レジン修復用隔壁を装着するために必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
　1）患者にこれから行うことを伝達する。
　2）処置に応じたポジショニングができる。
　3）トッフルマイヤー型マトリックスリテーナーの操作ができる。
　4）適切なウェッジ挿入ができる。
　5）指定された歯に装着できる。
　6）装着状態の確認ができる。
　7）清潔に配慮した操作をする。
　8）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
　9）安全性に配慮した操作をする。

課題. 28　う蝕象牙質の除去　G-3-④
各論Ⅱ－1－ウ－b
歯科保存学講座（修復：山田　嘉重）

一般目標
　歯の硬組織疾患の治療を行うために，う蝕象牙質の除去についての基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
　1）患者にこれから行うことを伝達する。
　2）処置に応じたポジショニングができる。
　3）指定された歯を処置できる。
　4）う蝕検知液を使用できる。
　5）ハンドピースの操作ができる。
　6）歯髄保護に配慮ができる。
　7）う蝕象牙質の除去ができる。
　8）清潔に配慮した操作をする。
　9）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
　10）安全性に配慮した操作をする。

課題. 29　レストシート形成　G-3-⑧
各論Ⅳ－4－イ－a
歯科補綴学講座（有床：山森　徹雄）

一般目標
　レジン修復用隔壁を装着するために必要な基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
　1）患者にこれから行うことを伝達する。
　2）処置に応じたポジショニングができる。
　3）指定された歯の正しい位置に形成ができる。
　4）ハンドピースの操作ができる。
　5）歯髄保護に配慮ができる。
　6）レストシートの形成ができる。
　7）清潔に配慮した操作をする。
　8）患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
　9）安全性に配慮した操作をする。

課題. 30　エックス線写真の取り扱いと読影　F-2-2)⑤
総論Ⅵ－2－エ－b
放射線診断学講座（原田　卓哉）

一般目標
　正しい画像診断を得るために，撮影された14枚法（あるいは10枚法）エックス線写真を適切に取り扱い，読影する基本的態度，技能および知識を修得する。
到達目標
　1）エックス線写真を正しく取り扱う。
　2）エックス線写真の表裏を判別する。
　3）エックス線像から解剖的位置を識別する。
　4）エックス線像の読影をする。

2022年度 第４学年 臨床総合演習 日程表

班	学籍番号	学年番号	氏　名	9月								10月								11月								12月			
				2	2	9	9	16	16	30	30	7	7	14	14	21	21	28	28	4	4	11	11	18	18	25	25	2	2	9	16
1				オリエンテーション	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	形成的評価	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	M	試験説明	試験	試験
2					K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J		K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J				
3					J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I		J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I				
4					I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H		I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H				
5					H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G		H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G				
6					G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F		G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F				
7					F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E		F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E				
8					E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D		E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D				
9					D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C		D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C				
10					C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B		C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B				
11					B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A		B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A				

ｾｸｼｮﾝ	課　題	実習場所 中央棟	担当講座（科）
A	バイタルサイン/心肺蘇生	５階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
	浸潤麻酔/心肺蘇生	５階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
B	初診患者の医療面接(急性症状)	４階実習室	保存学講座(歯内)
	初診患者の医療面接(慢性症状)	４階実習室	保存学講座(歯内)
C	口腔内状態の記録	４階実習室	保存学講座(歯内)
	う蝕象牙質の除去	５階実習室	保存学講座(修復)
D	プロビジョナルレストレーションの製作	４階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
	支台歯形成	４階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
E	矯正装置の説明	５階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
	保隙装置の説明	５階実習室	成長発育歯学講座(小児)
F	手洗いと滅菌グローブ装着	４階実習室	口腔外科学講座(口外)
	縫　合	５階実習室	口腔外科学講座(口外)

ｾｸｼｮﾝ	課　題	実習場所 中央棟	担当講座（科）
G	普通抜歯	５階実習室	口腔外科学講座(口外)
	頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察	５階実習室	口腔外科学講座(口外)
H	エックス線写真の取り扱いと読影	４階実習室	歯科放射線診断学講座
	概形印象採得	５階実習室	歯科補綴学講座(有床)
I	フッ化物塗布	４階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	エックス線撮影の説明	４階実習室	歯科放射線診断学講座
J	保護者へのブラッシング指導	５階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	予防填塞	４階実習室	成長発育歯学講座(小児)
K	修復用隔壁の装着	５階実習室	保存学講座(修復)
	ラバーダム防湿/根管治療	４階実習室	保存学講座(歯内)
M	ブラッシング指導	332	保存学講座(歯周)
	スケーリング・ルートプレーニング	332	保存学講座(歯周)
	欠損補綴の治療方針の説明	332	歯科補綴学講座(有床)

＊Mは全員を対象とした双方向講義

第５学年

臨 床 実 習

［臨床実習の概要］

Ⅰ．臨床実習の概要 …… 201

Ⅱ．臨床実習の統括 …… 201

Ⅲ．履修項目および履修期間 …… 201

Ⅳ．履修項目の概要 …… 201

１．プレクリニック

２．診療参加型臨床実習(各科ローテーション方式)

３．総合演習５Ｄ

４．全科必修試験

５．選択実習

Ⅴ．臨床実習日程 …… 202

Ⅵ．試験および修了判定 …… 202

Ⅶ．臨床実習時間割および出席確認方法 …… 202

Ⅷ．臨床実習の評価 …… 202

臨床実習

D①②③④－3200

Ⅰ．臨床実習の概要

歯学教育の課程で共用試験を合格した者は，歯学教育モデル・コア・カリキュラムに定める歯科医師として求められる基本的な資質を身につけて卒後臨床研修に連携しなければならない。そのために本学では45週間の臨床実習期間に形成的評価を行うとともに，臨床実習の期間を第Ⅰ期から第Ⅴ期に分けて段階的な総括評価を実施して総合的臨床能力の確保を目指している。第Ⅰ期から第Ⅳ期では本学附属病院の全ての診療科をローテーションする方式でプレクリニックおよび診療参加型臨床実習をPortfolioとActive learningを十分含めて行い，第Ⅴ期では選択実習を行う。また，臨床実習を円滑に進めるために病院長を委員長とする臨床実習委員会を設けて臨床実習の進行状況や履修内容の到達度を確認し，直接学生指導する臨床実習実務委員会にフィードバックしながら実習体制を維持する。さらに，学生個々の研究志向や自己研鑽の資質を養うために基礎系科目におけるEvidence Research研修および総合演習５Ｄを実施する。これにより医療人としての人間性および倫理観を備えて歯科医師としての職責を果たすことができ，歯科医療に必要な知識・技能・態度を踏まえて患者中心の視点から地域医療やチーム医療に貢献できる資質を有する総合的臨床能力を身につけた歯科医師を育成する。

Ⅱ．臨床実習の統括

１．臨床実習委員会

病院長を委員長とし，臨床系科目の教授および診療科長，臨床系科目の科目責任者で構成される委員会で毎月１回開催される。本委員会では臨床実習の進行状況を把握し，各診療科におけるインシデントに対応する。臨床実習の各期間で形成的評価と総括的評価を行い進級判定の資料を作成する。

２．臨床実習実務委員会

学年主任を委員長とし，各診療科の臨床実習実務担当者で構成される委員会で２週間に１回開催される。本委員会では各診療科における臨床実習の進行状況や問題点を抽出し，臨床実習委員会に報告する。また，知識・態度・技能の評価結果および形成的評価の結果をまとめて臨床実習委員会に報告する。

Ⅲ．履修項目および履修期間(臨床実習年間予定表参照)

１．プレクリニック……４週間
２．診療参加型臨床実習(各科ローテーション方式)……36週間
３．総合演習５Ｄ……12日間(土曜日)
４．全科必修試験……24日間(土曜日)
５．選択実習……４週間

Ⅳ．履修項目の概要

１．プレクリニック

各診療科・診療室において歯科医療に必要な基本事項を確認し，診療参加型実習を安全に実施するために必要な基本的臨床能力を確認する。

２．診療参加型臨床実習(各科ローテーション方式)

指導歯科医師のもとで医療チームの一員として歯科医療に携わり，歯科教育モデル・コア・カリキュラムに記載されている「Ｆ臨床実習」および「臨床実習内容の水準」を到達目標として履修し，歯科医療に必要な知識・技能・態度を身につける。

MT研修ではチーム医療および地域医療の必要性を理解するために，病棟・栄養室・薬局・臨床検査室・総合受付に５日間出向し，各業務をローテーションして業務内容を理解する。

Er研修では研究志向および自己研鑽の資質を得るために，基礎系９科目に５日間出向し，各科における知識と技能を再確認して歯科医療への必要性を認識する。

３．総合演習５Ｄ

生命科学の基本的知識，人体の構造や機能，薬物や医療技術の基礎的成果などを確認し，病因や病態の解明ならびに安心・安全な医療の発展に結びつく研究マインドを涵養するために，12日間の総合演習５Ｄを行い，客観試験による総括的評価を行う。

４．全科必修試験A・B

自己の習得度を確認し，今後の学習に生かすため，土曜日の午前中に試験を24回行う。前半には必修問題のみで構成された全科必修試験Ａを12回，後半には臨床問題や一般問題も含めた全科必修試験Ｂを12回行う。正当な理由のない欠席は，１回につき0.5点を総括的評価から減ずる。全科必修試験Ａで８割以上獲得した者は，以後の全科必修試験Ａは全て出席したものとして扱う。全科必修試験Ｂも全科必修試験Ａと同様とする。全科必修試験の低得点者に対し，18：00～19：00までの間，教員が付いて少人数のフィードバックが予定され，その対象者と日程と場所が貼り出される。これに欠席した場合，当日午後は全て欠席したものとカウントされる。このフィードバック対象者は，全科必修試験の度に改編され貼り出される。

５．選択実習

Ⅴ期では臨床能力をさらに向上させるために，希望する臨床系科目(必須１科目)，基礎系科目(任意１科目)および学外研修へ出向し，アドバンス的な知識・技能を取得する。

なお，所属する選択科目の決定方法は次の通りとする。

１）臨床系科目，基礎系科目の受け入れ人数，履修内容，日程概略が決定される。
２）学生から臨床科目(必須)および基礎系科目(任意)の選択希望順位を募る。

3）臨床系科目の受け入れ人数を超えた場合は，臨床実習の出席率および学外研修などの出席率が良い学生から選択を優先する。

出欠確認は１日６回，１回目：朝礼，２回目：所属臨床系科目，３～５回目：所属臨床系科目または派遣(出向)先，６回目：所属臨床系科目とする。

Ⅴ．臨床実習日程

臨床実習年間予定表参照

Ⅵ．試験および修了判定

臨床実習年間予定表参照

Ⅶ．臨床実習時間割および出席確認方法

<table>
<tr><th></th><th>８：40～９：00</th><th>９：00～12：10</th><th>13：00～17：30</th><th>17：40～</th></tr>
<tr><td>月
火
水
木
金</td><td>朝　礼
(臨床講義室)</td><td colspan="2">診療科ローテーション
MT研修，Er研修
選択実習</td><td>終　礼
オフィスアワー
フィードバック</td></tr>
<tr><td>土</td><td colspan="2">総合演習５Ｄ，全科必修試験，学会，実習</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

１．朝　礼

臨床実習期間中は通常8：40に臨床講義室で出欠確認した後，連絡事項の通知，全科必修試験の低正答率の解説などを行う。

２．終礼およびオフィスアワー

終礼の実施および実施時刻は各科の実習状況により各科で定める。オフィスアワーでは全ての診療科および基礎系科目において，通常17：40以降に任意もしくは指導医の指示で予習・復習，実習方法の確認，レクチャー，補充実習などを行う。

３．出席確認方法

全臨床実習期間(登院式・オリエンテーション・試験日を含む)で，休業期間を除く全日程で出席を確認する。但し，平日は①朝礼(AM ８：45)，②午前開始時，③午前終了時，④午後開始時，⑤午後終了時，⑥終礼時，もしくはそれに該当する時間の合計６回，土曜日はAM ８：50～12：20までの間に３回，これら全てを「出席確認回数」とする。但し，土曜日の試験で80％以上取得した者は，全科必修試験Ａ・Ｂごとに以後のブロックを全出席扱いとする。その他，臨床実習日程に定めた自由研修日や学外研修(学外施設・奥羽大学歯学会)，それ以外でも臨床実習に支障のない範囲で自己研鑽のために参加した研修会や学会等に参加した場合は，プロダクトレポートを提出することで，個々の出席とし，同じ回数を出席母数に加算する。

Ⅷ．臨床実習の評価

１．臨床実習の目標と形成的評価

１）臨床実習の目標

①歯科医師としての職責を自覚する。
②患者中心の視点で診療に携わる。
③良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。
④医療チームの構成員として診療に携わる。
⑤総合的な診断能力を身につける。
⑥地域医療と医療連携の必要性を理解する。
⑦研究志向および自己研鑽の意欲と態度を身につける。

２）全科目共通の「身だしなみチェックリスト」により臨床実習実務者委員会が評価する。

３）臨床実習必携(別冊)に定める各科の到達目標，リクワイアメントおよびモデル・コア・カリキュラムに定められた「F．臨床実習」の到達目標への到達度を形成的に評価・指導する。

２．総括的評価

１）終了試験(知識点)

第Ⅰ期～第Ⅳ期に行われる終了試験を100点満点に換算し，全ての平均点を算出する。
なお，第Ⅰ期～第Ⅳ期の各期において80％以上の出席率がなければ，各期における終了試験の受験資格を失う。

２）各科の評価点(技能点)

臨床実習必携(別冊)に定める各科のリクワイアメントを100点満点に換算して算出する。

３）出席点(態度点)

次に定める換算方法によって出席点とする
①出席率99％以上　　＝100点
②出席率97％以上99％未満＝75点
③出席率95％以上97％未満＝50点

④出席率90％以上95％未満＝25点
⑤出席率80％以上90％未満＝０点
⑥出席率80未満＝臨床実習は未修了とする。

３．臨床実習における合否判定

１）臨床実習終了判定

①第Ⅰ期から第Ⅴ期までの各期において，臨床実習，朝礼，フィードバック，総合演習５Ｄ，全科必修試験の各出席率が全て80%以上であること。
②臨床実習必携(別冊)に定める各科の必須ケースを全て修了していること。
③終了判定・終了式において臨床実習必携(別冊)に定めたリクワイアメント，レポート，ケース等のプロダクトを全て提示できること。
④Post-CC PX（CSX/CPX)を合格していること。

２）進級判定

臨床実習終了判定の条件を満たした上で，第Ⅳ期終了時に知識点(40％)，技能点(50％)，態度点(10％)の合計100％を100点満点として総括的評価した場合に65点以上の者(ただし，正当な理由なしに全科必修試験を欠席したものは，１回につき0.5点をこの総括的評価の点数から減ずる)，かつ，総合試験５Ｄにおいて70.00点以上を獲得した者を合格とし，進級を認める。

なお，知識点は第Ⅰ期～第Ⅳ期における基礎系科目および臨床系科目終了試験の平均点(100点満点換算)とし，この平均点は65％以上でなければ進級できない。

さらに技能点は第Ⅰ期～第Ⅳ期における各科の評価点の平均点(100点満点換算)とし，各科で定めた必須ケースが未修了の場合は当該科の技能点は０点とする。この必須ケースは第Ⅴ期の選択実習で履修することを認めるが，第Ⅴ期終了までに１つでも未修了の必須ケースがある場合は進級できない。

態度点は，出席点に臨床実習必携(別冊)に定める身だしなみチェック点数の平均を乗じた点数とする。

令和４年度　臨床実習年間予定表

2022-23	行事/予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
4／1(金)													
4／2(土)													
4／3(日)													
4／4(月)													
4／5(火)													
4／6(水)													
4／7(木)	登院式/オリエンテーション	担当　全科臨床実習実務者(臨床講義室)											
4／8(金)	Ⅰ期 プレクリ１	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／9(土)	全科必修試験A①	試験監督　1限：修復　2限：歯内　3限：歯周(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
4／10(日)													
4／11(月)	Ⅰ期 プレクリ２	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
4／12(火)	Ⅰ期 プレクリ３	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
4／13(水)	Ⅰ期１クール１日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／14(木)	Ⅰ期１クール２日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／15(金)	Ⅰ期１クール３日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／16(土)	総合演習５D①	演習担当　1限：衛生　2限：感染　3限：生理(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
4／17(日)													
4／18(月)	Ⅰ期１クール４日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／19(火)	Ⅰ期１クール５日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／20(水)	Ⅰ期１クール６日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／21(木)	Ⅰ期１クール７日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／22(金)	Ⅰ期１クール８日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／23(土)	全科必修試験A②	試験監督　1限：冠橋　2限：イン　3限：有床(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
4／24(日)													
4／25(月)	Ⅰ期１クール９日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／26(火)	Ⅰ期１クール10日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／27(水)													
4／28(木)													
4／29(金)													
4／30(土)													
5／1(日)													
5／2(月)													
5／3(火)													
5／4(水)													
5／5(木)													
5／6(金)													
5／7(土)	全科必修試験A③	試験監督　1限：口外　2限：麻酔　3限：小児(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
5／8(日)													
5／9(月)	Ⅰ期１クール11日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	Er	口外	小児	MT
5／10(火)	Ⅰ期１クール12日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	Er	口外	小児	MT
5／11(水)	Ⅰ期１クール13日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	Er	口外	小児	MT
5／12(木)	Ⅰ期１クール14日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	Er	口外	小児	MT
5／13(金)	Ⅰ期１クール15日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	Er	口外	小児	MT
5／14(土)	総合演習５D②	演習担当　1限：材料　2限：薬理　3限：組織(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
5／15(日)													
5／16(月)	Ⅰ期２クール１日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／17(火)	Ⅰ期２クール２日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／18(水)	Ⅰ期２クール３日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／19(木)	Ⅰ期２クール４日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／20(金)	Ⅰ期２クール５日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／21(土)	全科必修試験A④	試験監督　1限：矯正　2限：放射　3限：修復(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
5／22(日)													
5／23(月)	Ⅰ期２クール６日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／24(火)	Ⅰ期２クール７日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／25(水)	Ⅰ期２クール８日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／26(木)	Ⅰ期２クール９日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／27(金)	Ⅰ期２クール10日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／28(土)	総合演習５D③	演習担当　1限：生化　2限：解剖　3限：病理(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
5／29(日)													
5／30(月)	Ⅰ期２クール11日目	補綴系			保存系			Er	口外	麻酔	MT	口外	小児
5／31(火)	Ⅰ期２クール12日目	補綴系			保存系			Er	口外	麻酔	MT	口外	小児
6／1(水)	Ⅰ期２クール13日目	補綴系			保存系			Er	口外	麻酔	MT	口外	小児
6／2(木)	Ⅰ期２クール14日目	補綴系			保存系			Er	口外	麻酔	MT	口外	小児
6／3(金)	Ⅰ期２クール15日目	補綴系			保存系			Er	口外	麻酔	MT	口外	小児
6／4(土)	全科必修試験A⑤	試験監督　1限：歯内　2限：歯周　3限：冠橋(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
6／5(日)													
6／6(月)	Ⅰ期３クール１日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／7(火)	Ⅰ期３クール２日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／8(水)	Ⅰ期３クール３日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／9(木)	Ⅰ期３クール４日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／10(金)	Ⅰ期３クール５日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／11(土)	全科必修試験A⑥	試験監督　1限：イン　2限：有床　3限：口外(臨床講義室)　Ⅰ期終了試験範囲											
6／12(日)													
6／13(月)	Ⅰ期３クール６日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／14(火)	Ⅰ期３クール７日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／15(水)	Ⅰ期３クール８日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外

2022-23	行事/予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
6／16(木)	Ⅰ期3クール9日目		補綴系			保存系		麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／17(金)	Ⅰ期3クール10日目		補綴系			保存系		麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／18(土)	奥羽大学歯学会												
6／19(日)													
6／20(月)	Ⅰ期3クール11日目		補綴系			保存系		麻酔	Er	口外	小児	MT	口外
6／21(火)	Ⅰ期3クール12日目		補綴系			保存系		麻酔	Er	口外	小児	MT	口外
6／22(水)	Ⅰ期3クール13日目		補綴系			保存系		麻酔	Er	口外	小児	MT	口外
6／23(木)	Ⅰ期3クール14日目		補綴系			保存系		麻酔	Er	口外	小児	MT	口外
6／24(金)	Ⅰ期3クール15日目		補綴系			保存系		麻酔	Er	口外	小児	MT	口外
6／25(土)	全科必修試験A⑦	試験監督　1限：麻酔　2限：小児　3限：矯正(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
6／26(日)													
6／27(月)	Ⅰ期 終了試験												
6／28(火)	Ⅰ期 終了試験												
6／29(水)	Ⅱ期 プレクリ1		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
6／30(木)	Ⅱ期 プレクリ2		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／1(金)	Ⅱ期 プレクリ3		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
7／2(土)	総合演習5D④	演習担当　1限：衛生　2限：感染　3限：生理(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
7／3(日)													
7／4(月)	Ⅱ期1クール1日目		保存系			補綴系		口外	小児	MT	口外	麻酔	Er
7／5(火)	Ⅱ期1クール2日目		保存系			補綴系		口外	小児	MT	口外	麻酔	Er
7／6(水)	Ⅱ期1クール3日目		保存系			補綴系		口外	小児	MT	口外	麻酔	Er
7／7(木)	Ⅱ期1クール4日目		保存系			補綴系		口外	小児	MT	口外	麻酔	Er
7／8(金)	Ⅱ期1クール5日目		保存系			補綴系		口外	小児	MT	口外	麻酔	Er
7／9(土)	全科必修試験A⑧	試験監督　1限：放射　2限：修復　3限：歯内(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
7／10(日)													
7／11(月)	Ⅱ期1クール6日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／12(火)	Ⅱ期1クール7日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／13(水)	Ⅱ期1クール8日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／14(木)	Ⅱ期1クール9日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／15(金)	Ⅱ期1クール10日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／16(土)	総合演習5D⑤	演習担当　1限：材料　2限：薬理　3限：組織(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
7／17(日)													
7／18(月)													
7／19(火)	Ⅱ期1クール11日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／20(木)	Ⅱ期1クール12日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／21(木)	Ⅱ期1クール13日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／22(金)	Ⅱ期1クール14日目		保存系			補綴系		口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／23(土)													
7／24(日)													
7／25(月)	Ⅱ期2クール1日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／26(火)	Ⅱ期2クール2日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／27(木)	Ⅱ期2クール3日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／28(木)	Ⅱ期2クール4日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／29(金)	Ⅱ期2クール5日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／30(土)	全科必修試験A⑨	試験監督　1限：歯周　2限：冠橋　3限：イン(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
7／31(日)													
8／1(月)	Ⅱ期2クール6日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／2(火)	Ⅱ期2クール7日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／3(水)	Ⅱ期2クール8日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／4(木)	Ⅱ期2クール9日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／5(金)	Ⅱ期2クール10日目		保存系			補綴系		矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／6(土)	総合演習5D⑥	演習担当　1限：生化　2限：解剖　3限：病理(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
8／7(日)													
8／8(月)	Ⅱ期2クール11日目		保存系			補綴系		MT	口外	小児	Er	口外	麻酔
8／9(火)	Ⅱ期2クール12日目		保存系			補綴系		MT	口外	小児	Er	口外	麻酔
8／10(水)	Ⅱ期2クール13日目		保存系			補綴系		MT	口外	小児	Er	口外	麻酔
8／11(木)													
8／12(金)													
8／13(土)													
8／14(日)													
8／15(月)													
8／16(火)													
8／17(水)													
8／18(木)	Ⅱ期2クール14日目		保存系			補綴系		MT	口外	小児	Er	口外	麻酔
8／19(金)	Ⅱ期2クール15日目		保存系			補綴系		MT	口外	小児	Er	口外	麻酔
8／20(土)	全科必修試験A⑩	試験監督　1限：有床　2限：口外　3限：麻酔(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
8／21(日)													
8／22(月)	Ⅱ期3クール1日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／23(火)	Ⅱ期3クール2日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／24(水)	Ⅱ期3クール3日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／25(木)	Ⅱ期3クール4日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／26(金)	Ⅱ期3クール5日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／27(土)	全科必修試験A⑪	試験監督　1限：小児　2限：矯正　3限：放射(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
8／28(日)													
8／29(月)	Ⅱ期3クール6日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／30(火)	Ⅱ期3クール7日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／31(水)	Ⅱ期3クール8日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
9／1(木)	Ⅱ期3クール9日目		保存系			補綴系		小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外

2022-23	行事/予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
9／2(金)	Ⅱ期3クール10日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
9／3(土)	全科必修試験A⑫	試験監督　1限：修復　2限：歯内　3限：歯周(臨床講義室)　Ⅱ期終了試験範囲											
9／4(日)													
9／5(月)	Ⅱ期3クール11日目	保存系			補綴系			小児	MT	口外	麻酔	Er	口外
9／6(火)	Ⅱ期3クール12日目	保存系			補綴系			小児	MT	口外	麻酔	Er	口外
9／7(水)	Ⅱ期3クール13日目	保存系			補綴系			小児	MT	口外	麻酔	Er	口外
9／8(木)	Ⅱ期3クール14日目	保存系			補綴系			小児	MT	口外	麻酔	Er	口外
9／9(金)	Ⅱ期3クール15日目	保存系			補綴系			小児	MT	口外	麻酔	Er	口外
9／10(土)	全科必修試験B①	試験監督　1限：冠橋　2限：イン　3限：有床(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
9／11(日)													
9／12(月)	Ⅱ期 終了試験												
9／13(火)	Ⅲ期 プレクリ1	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／14(水)	Ⅲ期 プレクリ2	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
9／15(木)	Ⅲ期 プレクリ3	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
9／16(金)	Ⅲ期1クール1日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／17(土)	指導医WS												
9／18(日)													
9／19(月)													
9／20(火)	Ⅲ期1クール2日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／21(水)	Ⅲ期1クール3日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／22(木)	Ⅲ期1クール4日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／23(金)													
9／24(土)													
9／25(日)													
9／26(月)	Ⅲ期1クール5日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／27(火)	Ⅲ期1クール6日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／28(水)	Ⅲ期1クール7日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／29(木)	Ⅲ期1クール8日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／30(金)	Ⅲ期1クール9日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10／1(土)	学長杯 球技大会												
10／2(日)													
10／3(月)	Ⅲ期1クール10日目	口外	麻酔	Er	口外	小児	MT	補綴系			保存系		
10／4(火)	Ⅲ期1クール11日目	口外	麻酔	Er	口外	小児	MT	補綴系			保存系		
10／5(水)	Ⅲ期1クール12日目	口外	麻酔	Er	口外	小児	MT	補綴系			保存系		
10／6(木)	Ⅲ期1クール13日目	口外	麻酔	Er	口外	小児	MT	補綴系			保存系		
10／7(金)	Ⅲ期1クール14日目	口外	麻酔	Er	口外	小児	MT	補綴系			保存系		
10／8(土)	総合演習5D⑦	演習担当　1限：衛生　2限：感染　3限：生理(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
10／9(日)													
10／10(月)													
10／11(火)	Ⅲ期2クール1日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／12(水)	Ⅲ期2クール2日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／13(木)	Ⅲ期2クール3日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／14(金)	Ⅲ期2クール4日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／15(土)	全科必修試験B②	試験監督　1限：口外　2限：麻酔　3限：小児(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
10／16(日)													
10／17(月)	Ⅲ期2クール5日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／18(火)	Ⅲ期2クール6日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／19(水)	Ⅲ期2クール7日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／20(木)	Ⅲ期2クール8日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／21(金)	Ⅲ期2クール9日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／22(土)	総合演習5D⑧	演習担当　1限：材料　2限：薬理　3限：組織(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
10／23(日)													
10／24(月)	Ⅲ期2クール10日目	Er	口外	麻酔	MT	口外	小児	補綴系			保存系		
10／25(火)	Ⅲ期2クール11日目	Er	口外	麻酔	MT	口外	小児	補綴系			保存系		
10／26(水)	Ⅲ期2クール12日目	Er	口外	麻酔	MT	口外	小児	補綴系			保存系		
10／27(木)	Ⅲ期2クール13日目	Er	口外	麻酔	MT	口外	小児	補綴系			保存系		
10／28(金)	Ⅲ期2クール14日目	Er	口外	麻酔	MT	口外	小児	補綴系			保存系		
10／29(土)	全科必修試験B③	試験監督　1限：矯正　2限：放射　3限：修復(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
10／30(日)													
10／31(月)	Ⅲ期3クール1日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／1(火)	Ⅲ期3クール2日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／2(水)	Ⅲ期3クール3日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／3(木)													
11／4(金)	Ⅲ期3クール4日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／5(土)	総合演習5D⑨	演習担当　1限：生化　2限：解剖　3限：病理(臨床講義室)　Ⅲ期終了試験範囲											
11／6(日)													
11／7(月)	Ⅲ期3クール5日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／8(火)	Ⅲ期3クール6日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／9(水)	Ⅲ期3クール7日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／10(木)	Ⅲ期3クール8日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／11(金)	Ⅲ期3クール9日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／12(土)	奥羽大学歯学会												
11／13(日)													
11／14(月)	Ⅲ期3クール10日目	麻酔	Er	口外	小児	MT	口外	補綴系			保存系		
11／15(火)	Ⅲ期3クール11日目	麻酔	Er	口外	小児	MT	口外	補綴系			保存系		
11／16(水)	Ⅲ期3クール12日目	麻酔	Er	口外	小児	MT	口外	補綴系			保存系		
11／17(木)	Ⅲ期3クール13日目	麻酔	Er	口外	小児	MT	口外	補綴系			保存系		
11／18(金)	Ⅲ期3クール14日目	麻酔	Er	口外	小児	MT	口外	補綴系			保存系		

2022-23	行事/予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
11／19(土)	全科必修試験B④	試験監督　1限：歯内　2限：歯周　3限：冠橋(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
11／20(日)													
11／21(月)	Ⅲ期 終了試験												
11／22(火)	Ⅳ期 プレクリ１	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／23(水)													
11／24(木)	Ⅳ期 プレクリ２	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
11／25(金)	Ⅳ期 プレクリ３	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
11／26(土)	全科必修試験B⑤	試験監督　1限：イン　2限：有床　3限：口外(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
11／27(日)													
11／28(月)	Ⅳ期１クール１日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／29(火)	Ⅳ期１クール２日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／30(水)	Ⅳ期１クール３日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／１(木)	Ⅳ期１クール４日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／２(金)	Ⅳ期１クール５日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／３(土)	総合演習５D⑩	演習担当　1限：衛生　2限：感染　3限：生理(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
12／４(日)													
12／５(月)	Ⅳ期１クール６日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／６(火)	Ⅳ期１クール７日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／７(水)	Ⅳ期１クール８日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／８(木)	Ⅳ期１クール９日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／９(金)	Ⅳ期１クール10日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／10(土)	全科必修試験B⑥	試験監督　1限：麻酔　2限：小児　3限：矯正(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
12／11(日)													
12／12(月)	Ⅳ期１クール11日目	口外	小児	MT	口外	麻酔	Er	保存系			補綴系		
12／13(火)	Ⅳ期１クール12日目	口外	小児	MT	口外	麻酔	Er	保存系			補綴系		
12／14(水)	Ⅳ期１クール13日目	口外	小児	MT	口外	麻酔	Er	保存系			補綴系		
12／15(木)	Ⅳ期１クール14日目	口外	小児	MT	口外	麻酔	Er	保存系			補綴系		
12／16(金)	Ⅳ期１クール15日目	口外	小児	MT	口外	麻酔	Er	保存系			補綴系		
12／17(土)	総合演習５D⑪	演習担当　1限：材料　2限：薬理　3限：組織(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
12／18(日)													
12／19(月)	Ⅳ期２クール１日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／20(火)	Ⅳ期２クール２日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／21(水)	Ⅳ期２クール３日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／22(木)	Ⅳ期２クール４日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／23(金)	Ⅳ期２クール５日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／24(土)	全科必修試験B⑦	試験監督　1限：放射　2限：修復　3限：歯内(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
12／25(日)													
12／26(月)	Ⅳ期２クール６日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／27(火)	Ⅳ期２クール７日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／28(水)													
12／29(木)													
12／30(金)													
12／31(土)													
１／１(日)													
１／２(月)													
１／３(火)													
１／４(水)													
１／５(木)													
１／６(金)													
１／７(土)													
１／８(日)													
１／９(月)													
１／10(火)	Ⅳ期２クール８日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／11(水)	Ⅳ期２クール９日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／12(木)	Ⅳ期２クール10日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／13(金)	Ⅳ期２クール11日目	MT	口外	小児	Er	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／14(土)	総合演習5D⑫	演習担当　1限：生化　2限：解剖　3限：病理(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
１／15(日)													
１／16(月)	Ⅳ期２クール12日目	MT	口外	小児	Er	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／17(火)	Ⅳ期２クール13日目	MT	口外	小児	Er	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／18(水)	Ⅳ期２クール14日目	MT	口外	小児	Er	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／19(木)	Ⅳ期２クール15日目	MT	口外	小児	Er	口外	麻酔	保存系			補綴系		
１／20(金)	OSCE病院立入り禁												
１／21(土)	OSCE病院立入り禁												
１／22(日)													
１／23(月)	Ⅳ期３クール１日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／24(火)	Ⅳ期３クール２日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／25(水)	Ⅳ期３クール３日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／26(木)	Ⅳ期３クール４日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／27(金)	Ⅳ期３クール５日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／28(土)	全科必修試験B⑧	試験監督　1限：歯周　2限：冠橋　3限：イン(臨床講義室)　Ⅳ期終了試験範囲											
１／29(日)													
１／30(月)	Ⅳ期３クール６日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
１／31(火)	Ⅳ期３クール７日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
２／１(水)	Ⅳ期３クール８日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
２／２(木)	Ⅳ期３クール９日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
２／３(金)	Ⅳ期３クール10日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
２／４(土)	国試 ５年数名同行												

2022-23	行事/予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
2／5(日)													
2／6(月)	Ⅳ期3クール11日目	小児	MT	口外	麻酔	Er	口外	保存系			補綴系		
2／7(火)	Ⅳ期3クール12日目	小児	MT	口外	麻酔	Er	口外	保存系			補綴系		
2／8(水)	Ⅳ期3クール13日目	小児	MT	口外	麻酔	Er	口外	保存系			補綴系		
2／9(木)	Ⅳ期3クール14日目	小児	MT	口外	麻酔	Er	口外	保存系			補綴系		
2／10(金)	Ⅳ期3クール15日目	小児	MT	口外	麻酔	Er	口外	保存系			補綴系		
2／11(土)													
2／12(日)													
2／13(月)	Ⅳ期 終了試験												
2／14(火)	Ⅴ期選択実習1日目												
2／15(水)	Ⅴ期選択実習2日目												
2／16(木)	Ⅴ期選択実習3日目												
2／17(金)	全科必修試験B⑨												
2／18(土)	Ⅴ期選択実習4日目	試験監督　1限：有床　2限：口外　3限：麻酔(臨床講義室)											
2／19(日)													
2／20(月)	Ⅴ期選択実習5日目												
2／21(火)	一斉技能試験CSX												
2／22(水)	Ⅴ期選択実習6日目												
2／23(木)													
2／24(金)	Ⅴ期選択実習7日目												
2／25(土)	全科必修試験B⑩	試験監督　1限：小児　2限：矯正　3限：放射(臨床講義室)											
2／26(日)													
2／27(月)	Ⅴ期選択実習8日目												
2／28(火)	Ⅴ期選択実習9日目												
3／1(水)	Ⅴ期選択実習10日目												
3／2(木)	総合試験5D	試験監督　1限：修復／歯内　2限：歯周／冠橋　3限：イン／有床　4限：口外／麻酔　5限：小児／矯正　6限：放射／Er(臨床講義室)											
3／3(金)	Ⅴ期選択実習11日目												
3／4(土)	全科必修試験B⑪	試験監督　1限：修復　2限：歯内　3限：歯周(臨床講義室)											
3／5(日)													
3／6(月)	Ⅴ期選択実習12日目												
3／7(火)	Ⅴ期選択実習13日目												
3／8(水)	Ⅴ期選択実習14日目												
3／9(木)	Ⅴ期選択実習15日目	PM：CSX再試験											
3／10(金)	Ⅴ期選択実習16日目												
3／11(土)	全科必修試験B⑫	試験監督　1限：冠橋　2限：イン　3限：有床(臨床講義室)											
3／12(日)													
3／13(月)	Ⅴ期選択実習17日目	総合試験5D再試験　監督　1限：修復／歯内　2限：歯周／冠橋　3限：イン／有床　4限：口外／麻酔　5限：小児／矯正　6限：放射／Er(臨床講義室)											
3／14(火)	Ⅴ期選択実習18日目												
3／15(水)	Ⅴ期選択実習19日目												
3／16(木)	Ⅴ期選択実習20日目												
3／17(金)	Ⅴ期選択実習21日目	16：30～　臨床実習　終了式(臨床講義室)											

第６学年

臨 床 総 合 講 義…… 211

臨床総合講義（通年・10単位）

D③④－3300

科目責任者：山崎　信也（麻酔・教授）
科目担当者：各科目教員
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師国家試験の出題傾向および出題基準を基に各科目の講義が構成されているので，歯科医師国家試験の合格に必要な全ての履修内容を総復習して確実な知識を得る。個々の理解度は，実力試験や確認試験，模擬試験で確認し，知識の不足はフィードバック（FB）や強化講義で再確認しながら履修する。

2. 一般目標

歯科医師国家試験に合格するため，国家試験出題基準に関わる全ての内容を理解し，卒業する。

3. 到達目標

1）講義は全て出席し，講義内容を全て理解する。
2）講義以外の実量試験FBや強化講義を利用し，理解度を深める。
3）実力試験，確認試験，外部模擬試験を全て受験し，確実な知識を得る。
4）実力試験では正解率85％以上を獲得する。
5）外部模擬試験では全国順位上位50％以内を維持する。
6）卒業試験では正解率70％以上を獲得する。

4. 履修の進め方

授業日程と時間割に沿って講義を行う。10月までは実力試験により理解度を確認し，実力試験FBと確認試験で理解度を再確認する。外部模擬試験では知識を確認するとともに全国レベルを把握する。11月以降は集大成で卒業試験に臨み，歯科医師国家試験の合格を目指す。

1）実力試験は，１ブロック60問とし，概ね試験前日までの履修内容から出題される。午前は８：50，午後は13：00に開始する。正解率85％以上は合格とし，該当する確認試験は受験したものとして扱う。
2）確認試験は，該当する実力試験から出題され，試験時間は８:50 ～ 11:50で休憩時間はない。確認試験(-1)は，該当する実力試験の正解率85％未満の者が受験対象，確認試験（-2）は，該当する確認試験（-1）の正解率90％未満の者が受験対象となる。確認試験（-1）の合格者は確認試験（-2）は受験したものとして扱う。
3）実力試験FBおよび夏季強化講義は，該当する実力試験の正解率70%未満の者は受講者（必須）とし，それ以外（正解率70％以上の者）は出席したものとして扱う。

5. 準備学修

時間割を把握し，必要な資料を準備して授業に臨む。当日の授業内容は当日中に再確認し，確実に理解する。歯科医師国家試験に受験するまでは，授業以外に６時間以上/日の学修時間を設ける。実力試験，模擬試験，卒業試験の結果を自己分析しする。

6. 評価方法

卒業試験試験で評価する。

1）３回の卒業試験で平均70.00％以上を合格とする。
2）出題範囲は，歯科医師国家試験出題基準の全範囲から出題する。
3）卒業試験の受験資格は，①各科目の講義（通年の回数），②前期朝礼（73回；ガイダンスを含む），③後期朝礼（71回；ガイダンスを含む），④実力試験（42ブロック），⑤確認試験（36ブロック），⑥模擬試験（26ブロック；午前１ブロック，午後１ブロック），⑦実力試験FB（75回），⑧夏季強化講義（15回），⑨冬季強化講義（回数未定）の①~⑨の出席率が全て80％以上であること。

●口腔解剖学

担当者：①宇佐美晶信（解剖）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	解剖学総論	器官系	C-3-1, 4／必5-ア	①
2	〃	顔面・口腔	口腔の構造	E-2-2)／総Ⅱ-4-オ	〃
3	4／27	歯の解剖①	歯の解剖（総論）	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
4	〃	歯の解剖②	歯の解剖（各論）	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
5	5／18	骨学①	頭頸部の骨学１	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
6	〃	骨学②	頭頸部の骨学２	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
7	6／1	筋学①	筋学総論，各論１	E-2-1)／総Ⅱ-4-ウ	〃
8	〃	筋学②	筋学各論２	E-2-1)／総Ⅱ-4-ウ	〃
9	6／15	筋学③	筋膜隙	E-2-1)／総Ⅱ-4-ウ	〃
10	〃	脈管学	頭頸部の脈管	E-2-1)／総Ⅱ-4-エ	〃
11	6／29	神経学①	神経学総論，脳神経１	E-2-1)／総Ⅱ-4-エ	〃
12	〃	神経学②	脳神経２，脊髄神経	E-2-1)／総Ⅱ-4-カ	〃
13	7／13	神経学③	神経節	C-3-4)／必5-ア	〃
14	〃	口腔内臓学	唾液腺	E-2-2)／総Ⅱ-4-オ	〃
15	8／24	顎関節	顎関節の構造	E-2-1)／総Ⅱ-4-イ	〃
16	〃	フィードバック①	演習問題，解説	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
17	9／7	嚥下関連の解剖	咽頭，喉頭の解剖	E-2-1)／総Ⅱ-4-オ	〃
18	〃	フィードバック②	演習問題，解説	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
19	10／5	歯の異常，歯列咬合	歯列・咬合	E-2-2)／総Ⅱ-5-ア	〃
20	〃	加齢変化	成長・発育，加齢変化	E-2-3)／総Ⅱ-8-ウ, エ	〃
21	10／19	フィードバック③	実力確認試験まとめ１	E-2-1),2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
22	〃	フィードバック④	実力確認試験まとめ２	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
23	11／2	局所解剖学	頭頸部の局所解剖学	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
24	〃	フィードバック⑤	頭頸部の解剖まとめ	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃
25	11／16	フィードバック⑥	必修まとめ１	E-2-1), 2)／必5-ア	〃
26	〃	フィードバック⑦	必修まとめ２	E-2-1), 2)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
27	12／7	歯の解剖③	歯の解剖まとめ	E-3-1)／総Ⅱ-5-ア	①
28	〃	フィードバック⑧	頭頸部の解剖フィードバック	E-2-1), 2)／総Ⅱ-4-ア～キ	〃

●口腔組織学

担当者：①安部　仁晴（組織）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／20	エナメル質	エナメル質の構造と組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
2	〃	象牙質・歯髄複合体	象牙質，歯髄の構造と組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
3	5／11	歯周組織（1）	セメント質，歯根膜の構造と組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
4	〃	歯周組織（2）	歯肉，歯槽骨の構造と組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
5	5／13	歯の発生（1）	歯胚の形成，歯根の形成	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	〃
6	〃	歯の発生（2）	エナメル質，象牙質の形成	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	〃
7	6／8	初期発生	生殖と胚発生，鰓弓から形成される組織	C-3-2)，E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
8	〃	顔面の発生	顔面，口蓋の発生	E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
9	6／22	細胞の構造と機能（1）	核，細胞小器官の構造と機能	C-2-3)／必5-ア	〃
10	〃	細胞の構造と機能（2）	細胞膜，細胞骨格および細胞接着装置	C-2-3), 4)／必5-ア	〃
11	7／6	人体の正常構造（1）	上皮の構造と組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
12	〃	人体の正常構造（2）	結合組織の構造と組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
13	7／27	人体の正常構造（3）	軟骨，筋組織の構造と組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
14	〃	人体の正常構造（4）	血液と血球の組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-オ	〃
15	8／31	人体の正常構造（5）	骨組織の組織学的特徴と発生様式	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ，9-ウ	〃
16	〃	人体の正常構造（6）	骨に存在する細胞の組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-イ，9-ウ	〃
17	9／28	人体の正常構造（7）	神経組織の構造と組織学的特徴	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-キ	①
18	〃	唾液腺	唾液腺の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
19	10／12	口腔周囲器官の発生	舌，唾液腺，甲状腺，下垂体，顎関節の発生	E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
20	〃	舌，扁桃，口腔粘膜	舌，扁桃，口腔粘膜の組織学的特徴	E-2-1), 2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
21	10／26	顎関節	顎関節の組織学的特徴	E-2-1)／必5-ア 総Ⅱ6-イ	〃
22	〃	加齢変化	加齢による歯，口腔，顎顔面の変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各Ⅴ2-イ	〃
23	11／9	歯と歯周組織（1）	歯と歯周組織の組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
24	〃	歯と歯周組織（2）	歯と歯周組織の組織学的特徴	E-3-1)／必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
25	11／30	口腔周囲器官（1）	口腔周囲器官の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
26	〃	口腔周囲器官（2）	口腔周囲器官の組織学的特徴	E-2-2)／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
27	12／14	発生学のまとめ	胚発生および歯を含む口腔の発生のまとめ	C-3-2)，E-2-3)／必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
28	〃	組織学のまとめ	各組織，器官系の特徴のまとめ	C-3-4)／必5-ア 総Ⅱ1-ア～ク	〃

●口腔感染免疫学

担当者：①清浦　有祐（感染）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／21	微生物学概論	微生物の種類とその特性	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	①
2	〃	細菌の病原因子	細菌の持つ病原因子について	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
3	5／19	細菌の毒素	細菌の内毒素と外毒素	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
4	〃	細菌感染症	感染症の種類とその原因菌	C-4-1)-②／総Ⅲ-1-カ-c	〃
5	6／2	ウイルスの構造と種類	ウイルスの構造の特徴	C-4-1)-②／総Ⅵ-6-イ	〃
6	〃	ウイルス感染症	感染症の種類とその原因ウイルス	C-4-1)-②, ③／総Ⅲ-1-カ-b	〃
7	6／16	真菌感染症	感染症の種類とその原因菌	C-4-1)-②, ③／総Ⅲ-1-カ-c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	6／16	感染の種類	微生物感染の種類とそのメカニズム	C-4-1)-②,③／総Ⅲ-1-カ-a	①
9	6／30	再興感染症と新興感染症	感染症の種類と原因微生物	C-4-1)-③／総Ⅲ-1-カ-c	〃
10	〃	滅菌と消毒	その種類とその特性	C-4-1)-④／必12-エ-a	〃
11	7／14	自然免疫	特性とその作用メカニズム	C-4-2)-①,③／総Ⅱ-3-ウ	〃
12	〃	獲得免疫	特性とその作用メカニズム	C-4-2)-②,③／総Ⅱ-3-エ-a, b	〃
13	7／28	抗原	抗原の定義とその種類	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3イ	〃
14	〃	抗体	抗体の種類とその特性	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-b	〃
15	9／1	免疫担当細胞Ⅰ	免疫担当細胞の種類	C-4-2)-③／総Ⅱ-3-ア	〃
16	〃	免疫担当細胞Ⅱ	免疫担当細胞の特性	C-4-2)-③／総Ⅱ-3-ア	〃
17	9／15	サイトカイン	サイトカインの種類	C-4-2)-①,②,③／総Ⅱ-3ウ,エ-a, b	〃
18	〃	アレルギーⅠ	アレルギーの種類	C-4-2)-⑤,⑥／総Ⅲ-1-キ-d	〃
19	9／29	アレルギーⅡ	アレルギーの発症メカニズム	C-4-2)-⑤,⑥／総Ⅲ-1-キ-d	〃
20	〃	自己免疫疾患	自己免疫疾患の種類とその発症メカニズム	C-4-2)-⑥／総Ⅲ-1-キ-c	〃
21	10／13	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	C-4-2)-④／総Ⅱ-3-エ-a, b	〃
22	〃	粘膜免疫	粘膜免疫の機能と役割	C-4-2)-⑦／総Ⅱ-3-オ	〃
23	11／10	ワクチン	ワクチンの種類とその役割	C-4-2)-⑧／総Ⅲ-1-カ-c	〃
24	〃	口腔細菌	口腔細菌の種類	C-4-1)-①／必5-イ-a, c	〃
25	12／1	齲蝕原性細菌	原因菌の種類とそのメカニズム	C-4-1)-①／各Ⅱ-1-ア-a	〃
26	〃	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	C-4-1)-①／各Ⅱ-3-ア-c	〃
27	12／15	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	C-4-1)-①／各Ⅱ-3-ア-c	〃
28	〃	口腔内のウイルス	ウイルスの種類とその病原性	C-4-1)-①／総Ⅲ-1-カ-b	〃

●口腔病理学

担当者：①遊佐　淳子（病理），②櫻井　裕子（病理），③久山　佳代（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／19	病理学総論その１	炎症，循環障害	／必7-ア	②
3 4	5／10	嚢胞　その１	嚢胞	／必7-イ	②
5 6	5／24	口腔領域の腫瘍　その１	腫瘍，腫瘍類似疾患	／必7-ア, イ	①
7 8	6／7	口腔領域の腫瘍　その２	腫瘍，腫瘍類似疾患	／必7-ア, イ	〃
9 10	6／21	口腔粘膜疾患その１	口腔粘膜疾患	／必7-イ，必8-イ～エ	〃
11 12	7／5	唾液腺疾患その１	唾液腺疾患	／必7-イ	②
13 14	7／19	病理学総論その２	代謝障害，細胞死	／総Ⅲ1-イ,ク，総Ⅲ2-ア	〃
15 16	8／23	病理学総論その３	先天異常，腫瘍	／総Ⅲ1-イ,ク，総Ⅲ2-ア	①
17 18	9／27	口腔粘膜疾患その２	口腔粘膜の疾患，口腔領域に症状を伴う全身疾患	／各Ⅳ1-ク	〃
19 20	10／11	病理学検査その１	細胞診	／必10-キ	③
21	10／25	病理学検査その２	組織診	／必10-キ	①
22	〃	口腔領域の腫瘍　その３	口腔癌，非歯原性腫瘍	／各Ⅲ1-オ，各Ⅲ2-カ	〃
23 24	11／15	口腔領域の腫瘍　その４	顎骨腫瘍	／各Ⅲ1-オ，各Ⅲ2-カ	②
25 26	11／29	唾液腺疾患その２	唾液腺の非腫瘍性疾患，唾液腺腫瘍	／各Ⅲ3-ア	〃
27	12／13	顎骨疾患	顎骨の非腫瘍性疾患	／各Ⅲ2-エ	〃
28	〃	嚢胞　その２	嚢胞	／各Ⅲ1-エ，各Ⅲ2-オ	〃

●歯科薬理学

担当者：①鈴木　礼子（薬理），②柴田　達也（薬理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	薬物療法①	薬物療法の種類，投与経路，薬物動態	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア, イ	①
2	4／26	薬物療法②	用量と反応，薬物適用の注意	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
3	5／17	薬物療法③	作用部位・作用機序	C-6-2)／必12-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
4	5／31	薬物療法④	服薬計画・指導，ライフステージと薬物投与	C-6-3)／必12-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
5	6／14	疾患に応じた薬物治療①	抗感染症薬	C-6-2),3),4)／総Ⅶ-8-ウ	〃
6	6／28	疾患に応じた薬物治療②	抗炎症薬	C-6-2),3),4)／総Ⅶ-8-ウ	〃
7	7／12	疾患に応じた薬物治療③	鎮痛薬	C-6-2),3),4)／総Ⅶ-8-ウ	②
8	7／26	疾患に応じた薬物治療④	抗腫瘍薬	C-6-2),3),4)／総Ⅶ-8-ウ	〃
9	8／30	疾患に応じた薬物治療⑤	代謝改善薬，ビタミン	C-6-2),3),4)／総 Ⅶ-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10	10／4	疾患に応じた薬物治療⑥	止血薬，抗血栓薬	C-6-2),3),4)／総Ⅶ-8-ウ	②
11	10／18	薬物の有害事象のまとめ	薬物の副作用と有害反応，薬害	C-6-4)／必8-エ，総Ⅶ-8-イ	①
12	11／1	まとめ１	国試頻出事項の再確認	C-6／必12-コ，総Ⅶ-8	〃
13	11／22	まとめ２	国試頻出事項の再確認	C-6／必12-コ，総Ⅶ-8	① ②
14	12／6	まとめ３	国試頻出事項の再確認	C-6／必12-コ，総Ⅶ-8	〃

●口腔生理学

担当者：①川合　宏仁（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	循　環	心臓，血管とその調節	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	①
2	5／6	呼　吸	呼吸器とその調節	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	〃
3	5／20	自律神経	交感神経と副交感神経の働き	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
4	6／3	内分泌	ホルモンの産生，分泌，働き	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
5	7／1	神経と筋	興奮性細胞の基礎知識	C-2-3)／総Ⅲ-1	③
6	7／15	顎反射	顎反射に関わる神経・筋のまとめ	E-2-1)／総Ⅳ-1,3	〃
7	7／29	口腔体性感覚	口腔粘膜の体性感覚，味覚	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
8	8／26	唾　液	唾液分泌調節のメカニズム	E-2-2)／総Ⅳ-1,3,5	②
9	9／9	反射復習	摂食嚥下に関わる生理学的問題対策	E-2-1)／総Ⅶ-1-エ	③
10	9／30	筋の生理	骨格筋と心筋の頻出問題対策	E-2-2)／総Ⅳ-4	〃
11	10／21	発声と構音	発声・構音のメカニズム要点	E-2-2)／総Ⅳ-3	②
12	11／11	自律機能要点①	循環・呼吸の調節，頻出項目おさらい	C-2-4)／総Ⅴ-6-ア	①
13	12／2	自律機能要点②	内分泌・消化，頻出項目おさらい	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
14	12／16	興奮性組織要点	神経・筋基礎項目の国家試験対策	C-2-3)／総Ⅲ-1	③

●口腔生化学

担当者：①加藤　靖正（生化），②前田　豊信（生化）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／21	細胞外マトリックスⅠ	コラーゲン，接着性糖蛋白質	必5-ア	①
2	5／19	細胞外マトリックスⅡ	インテグリン，グリコサミノグリカン，プロテオグリカン	必5-ア	〃
3	6／2	唾液・ペリクル･プラーク･血漿蛋白質	唾液蛋白質の機能，菌体外多糖，プラーク，糖代謝	必5-ア，総Ⅱ-6-オ・7-イ	〃
4	6／16	骨のリモデリングと血清カルシウムⅠ	石灰化，骨吸収，軟骨内骨化	必5-ア，総Ⅱ-5-イ・9-ウ	〃
5	6／30	骨のリモデリングと血清カルシウムⅡ	血清カルシウム濃度の調節機構，慢性腎不全	必5-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
6	7／14	核酸，遺伝子と遺伝	核酸，DNA複製，転写，スプライシング	必5-ア	〃
7	7／28	細胞の老化とアポトーシス細胞周期の制御，癌	テロメラーゼ，アポトーシス，癌遺伝子，癌抑制遺伝子	必5-ア・7-ア，総Ⅲ-1-イ	〃
8	9／1	病態生化学	メタボリックシンドローム，糖尿病，Cushing症候群，Addison病，慢性腎不全，ビタミン欠乏症	必4-ア，総Ⅱ-1-ク・Ⅲ-1ク･4-カ・Ⅵ-3-ア	〃
9	9／15	まとめ・演習Ⅰ（生体の構成成分１）	アミノ酸，タンパク質，糖質，脂質	必5-ア	②
10	9／29	まとめ・演習Ⅱ（生体の構成成分２）	核酸，遺伝子，転写，翻訳後修飾	必5-ア	〃
11	10／13	まとめ・演習Ⅲ（生体の構成成分３）	ビタミンと欠乏症	必5-ア	〃
12	11／10	まとめ・演習Ⅳ（硬組織）	軟骨内骨化，骨のリモデリング	必5-ア・イ，総Ⅱ-9-ウ	〃
13	12／1	まとめ・演習Ⅴ（硬組織）	血清カルシウム濃度調節	必5-ア・イ，総Ⅱ-9-ウ	〃
14	12／15	まとめ・演習Ⅵ（唾液）	唾液成分，ペリクル	必5-ア・イ，総Ⅱ-6-オ・7-イ	〃

●生体材料・歯科材料学

担当者：①岡田　英俊（材料），②石田　喜紀（材料），
③大木　達也（材料），④齋藤　龍一（材料）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	歯冠材料（１）	歯冠材料の性質と成形	D-2／総Ⅺ-8,-11	②
2	〃	歯冠材料（２）	歯冠材料の性質と成形	D-2／総Ⅺ-8,-11	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／28	歯冠材料(3)	歯冠材料の性質と成形	D-2／総XI-8, -11	②
4	〃	歯冠材料(4)	歯冠材料の性質と成形	D-2／総XI-8, -11	〃
5	5／26	成形修復材-1	特性と接着性	D-2／総XI-7	④
6	〃	成形修復材-2	特性と接着性	D-2／総XI-7	〃
7	6／9	歯科材料の基本事項(1)	歯科材料の分類と特性	D-1／総XI-1, -16	①
8	〃	歯科材料の基本事項(2)	歯科材料の分類と特性	D-1／総XI-1, -16	〃
9	6／23	歯科材料の基本事項(3)	歯科材料の分類と特性	D-1／総XI-1, -16	〃
10	〃	歯科材料の基本事項(4)	歯科材料の分類と特性	D-1／総XI-1, -16	〃
11	7／7	金属材料(1)	金属材料の特性	D-2／総XI-8	〃
12	〃	金属材料(2)	金属材料の特性	D-2／総XI-8	〃
13	7／21	金属の成形技術(1)	鋳造関連材料の特性	D-2／総XI-12	〃
14	〃	金属の成形技術(2)	鋳造関連材料の特性	D-2／総XI-12	〃
15	8／25	金属の成形技術(3)	鋳造欠陥	D-2／総XI-12	〃
16	〃	金属の成形技術(4)	鋳造欠陥	D-2／総XI-12	〃
17	9／8	合着材(1)	成分と特性	D-2／総XI-13, -14	〃
18	〃	合着材(2)	成分と特性	D-2／総XI-13, -14	〃
19	9／22	印象材(1)	成分と特性	D-2／総XI-4, -5	③
20	〃	印象材(2)と模型材	成分と特性	D-2／総XI-4, -5	〃
21	10／6	義歯用材料-1	成分，特性および成形法	D-2／総XI-9	①
22	〃	義歯用材料-2	成分，特性および成形法	D-2／総XI-9	〃
23	10／20	インプラント用材料	各材料の特性	D-2／総XI-15, -16	〃
24	〃	矯正用材料	各材料の特性	D-2／総XI-15, -16	〃
25	11／24	歯内療法用材料	組成と特性	D-2／総XI-2, -7	②
26	〃	診療用器械	各機械の特性	D-2／総XI-2, -7	〃
27	12／8	総合講義(1)	材料のまとめ	D-2／総XI-1～16	①
28	〃	総合講義(2)	材料のまとめ	D-2／総XI-1～16	〃

●保存修復学

担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／18	保存修復学概論MI概念	硬組織疾患および加齢変化に対する処置	E-3／総Ⅶ-2	②
2	〃	歯の診査・診断治療計画	歯の診査方法，検査機器，治療計画	E-3／総Ⅵ-12	〃
3	〃	総括	問題演習および解説		〃
4	4／26	齲蝕・齲蝕病巣	齲蝕の病因，発症要因，エナメル質齲蝕の特徴	E-3／各Ⅱ-1	①
5	〃	齲蝕・齲蝕病巣	象牙質齲蝕，根面齲蝕の特徴	E-3／各Ⅱ-1	〃
6	〃	齲蝕の処置	齲蝕病巣の病理，齲蝕歯質の検知	E-3／必-8	〃
7	5／17	窩洞形成・印象採得	窩洞の具備条件，窩洞形成法，印象採得・材料	E-3／各Ⅱ-1	②
8	〃	齲蝕以外の硬組織疾患	咬耗，磨耗，酸蝕，加齢変化等による高組織疾患	E-3／各Ⅱ-1	〃
9	〃	総括	問題演習および解説		〃
10	5／31	セメント修復	歯科用セメントの種類と特徴	E-3／総Ⅷ-9	①
11	〃	セメント修復	従来型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-3／総Ⅷ-5, 8	〃
12	〃	セメント修復	レジン添加型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-3／総Ⅷ-5, 8	〃
13	6／14	歯冠修復に用いる補助器具	修復補助法と補助器具	E-3／各Ⅱ-1	②
14	〃	硬組織切削	器具手用切削器具，回転切削器具，その他の切削方法	E-3／総Ⅷ-2	〃
15	〃	総括	問題演習および解説		〃
16	6／28	メタルインレー修復	メタルインレー修復の特徴	E-3／各Ⅱ-1	〃
17	〃	メタルインレー修復	メタルインレー修復の臨床	E-3／各Ⅱ-1	〃
18	〃	総括	問題演習および解説		〃
19	7／12	コンポジットレジン修復①	コンポジット系レジンとMMA系レジンの特徴	E-3／総Ⅷ-5	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
20	7／12	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復に必要な歯面処理	E-3／総Ⅷ-8	①
21	〃	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復の手順および必要器具	E-3／各Ⅱ-1	〃
22	7／26	コンポジットレジン修復④	歯冠修復前の前処置(裏層と覆髄)	E-3／各Ⅱ-1	〃
23	〃	コンポジットレジン修復⑤	歯冠修復後に生じる問題への対応法	E-3／各Ⅱ-3	〃
24	〃	コンポジットレジン修復⑥	国試および過去の模試問題の解説		〃
25	8／30	歯冠修復に用いる接着技術	各種接着面処置，歯質接着材の種類，特徴	E-3／総Ⅷ-8	②
26	〃	補修修復	補修修復処置(金属，セラミックプライマー等)	E-3／総Ⅷ-8	〃
27	〃	総括	問題演習および解説		〃
28	10／4	レジンインレー修復	レジンインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-3／各Ⅱ-1	①
29	〃	セラミックインレー修復	セラミックインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-3／各Ⅱ-1	〃
30	〃	ラミネートベニア修復	ラミネートベニア修復の種類と処置法	E-3／各Ⅱ-1	〃
31	10／18	合着材	従来型歯科用セメントの種類と適応症	E-3／総Ⅷ-9	②
32	〃	合着材	レジン系歯科用セメントの種類と適応症	E-3／総Ⅷ-9	〃
33	〃	総括	問題演習および解説		〃
34	11／1	国家試験問題の解説	本年度までの国家試験問題の解説		①
35	〃	破折歯・象牙知覚過敏症歯の処置	破折歯・象牙質知覚過敏症歯の原因および処置法	E-3／必-8	〃
36	〃	歯科用レーザー	歯科用レーザー装置の種類，特徴，適応症	E-3／総Ⅷ-2	〃
37	11／22	卒業試験問題の解説	卒業試験Ⅰの解説		〃
38	〃	保存修復学のまとめ①	講義のまとめと臨実対策		〃
39	11／22	保存修復学のまとめ②	講義のまとめと臨実対策		①
40	12／6	保存修復学のまとめ③	外部模試の解説①		〃
41	〃	保存修復学のまとめ④	外部模試の解説②		〃
42	〃	保存修復学のまとめ⑤	外部模試の解説③		〃

●歯内療法学

担当者：①木村　裕一（歯内），②佐藤　穏子（歯内），
③長﨑　慶太（歯内）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／19	硬組織疾患	総論	必7-イ-a，総VI-1-ア-a，総Ⅶ-2-ア-a，各I-2-イ，各Ⅱ-1-ア	①
2	〃	硬組織疾患	歯・歯周組織の構造と機能	必7-イ-a，総VI-1-ア-a，総Ⅶ-2-ア-a，各I-2-イ，各Ⅱ-1-ア	〃
3	〃	硬組織疾患	硬組織疾患	必7-イ-a，総VI-1-ア-a，総Ⅶ-2-ア-a，各I-2-イ，各Ⅱ-1-ア	〃
4	5／10	診査法	歯内治療における基本術式の概要(診査・検査)	必9-イ-a，必10-オ-a，総VI-1-ア-b	〃
5	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要(診査・検査)	必9-イ-a，必10-オ-a，総VI-1-ア-b	〃
6	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要(診査・検査)	必9-イ-a，必10-オ-a，総VI-1-ア-b	〃
7	5／24	歯髄疾患	歯髄疾患の原因	必9-キ-b，必10-ク，総Ⅶ-2-ア-b，各-Ⅱ-2-イ-a, b	〃
8	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の診断	必9-キ-b，必10-ク，総Ⅶ-2-ア-b，各-Ⅱ-2-イ-a, b	〃
9	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の治療	必9-キ-b，必10-ク，総Ⅶ-2-ア-b，各-Ⅱ-2-イ-a, b	〃
10	6／7	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の原因	必9-キ-b，必10-ク，各Ⅱ-2-イ-c	〃
11	〃	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の診断	必9-キ-b，必10-ク，各Ⅱ-2-イ-c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
12	6／7	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の治療	必9-キ-b, 必10-ク, 各Ⅱ-2-イ-c	①
13	6／21	根管処置	髄室開拡	必12-ケ-c, 各Ⅱ-2-イ-d	②
14	〃	根管処置	根管形成	必12-ケ-c, 各Ⅱ-2-イ-d	〃
15	〃	根管処置	清掃，消毒等	必12-ケ-c, 各Ⅱ-2-イ-d	〃
16	7／5	根管充塡	根管充塡の時期	必12-セ-e, 総Ⅷ-5-ウ-a, 各Ⅱ-2-イ-e	①
17	〃	根管充塡	根管充塡材の所用性質	必12-セ-e, 総Ⅷ-5-ウ-a, 各Ⅱ-2-イ-e	〃
18	〃	根管充塡	根管充塡の術式	必12-セ-e, 総Ⅷ-5-ウ-a, 各Ⅱ-2-イ-e	〃
19	7／19	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	②
20	〃	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
21	〃	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
22	8／23	根未完成歯と外傷歯	根未完成歯	各I-4, 各Ⅱ-2-イ-f, i	①
23	〃	根未完成歯と外傷歯	歯根の病的吸収	各I-4, 各Ⅱ-2-イ-f, i	〃
24	〃	根未完成歯と外傷歯	外傷歯	各I-4, 各Ⅱ-2-イ-f, i	〃
25	9／27	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	各Ⅱ-2-イ-g	〃
26	〃	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	各Ⅱ-2-イ-g	〃
27	〃	外科的歯内治療	顕微鏡を応用した歯内治療	各Ⅱ-2-イ-g	〃
28	10／11	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
29	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
30	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
31	10／25	漂白，歯内－歯周疾患	漂白法	各Ⅱ-1-ウ-g ／各Ⅱ-3-ア-i	③
32	10／25	漂白，歯内－歯周疾患	歯内－歯周疾患	各Ⅱ-1-ウ-g ／各Ⅱ-3-ア-i	③
33	〃	漂白，歯内－歯周疾患	高齢者の歯内治療	各Ⅱ-1-ウ-g ／各Ⅱ-3-ア-i	〃
34	11／15	偶発症	根管処置後の歯冠修復	各Ⅱ-2-イ-j	〃
35	〃	偶発症	安全対策	各Ⅱ-2-イ-j	〃
36	〃	偶発症	安全対策	各Ⅱ-2-イ-j	〃
37	11／29	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	①
38	〃	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
39	〃	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
40	12／13	総まとめ	歯髄疾患から根尖性歯周炎	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
41	〃	総まとめ	根管処置	各Ⅱ-2-ア, イ	〃
42	〃	総まとめ	外科的歯内治療	各Ⅱ-2-ア, イ	〃

●歯周病学

担当者：①高橋　慶壮（歯周），②山﨑　幹子（病理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	歯周組織の解剖	歯周組織の解剖における基本的重要項目	E-3-1)-⑤／総論Ⅳ4-カ, キ, ケ, コ	①
2	〃	歯周診査	歯周病の診査方法	E-3-3)(3)-②／必11エc	〃
3	〃	リスクファクター	歯周病に関わるリスクの考え方	E-3-2)-④／各Ⅲ-8エ	〃
4	5／9	宿主応答	歯周炎における宿主応答の特徴	C-4-4)／各 Ⅲ-8コ	〃
5	〃	歯周医学	歯周医学の基本的重要項目	E-3／必６アf	〃
6	〃	歯周病の病因論	病因論の基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-9イ-8カ	〃
7	5／16	レントゲン画像の読影	レントゲン写真の読影方法	E-3／必10オ, カ, ク	②
8	〃	口腔内写真の読み方	口腔内写真の読み取り方	E-3／必10オ, カ, ク	〃
9	〃	臨床データの読みとり方	歯周病の検査結果の解釈	E-3／必11エc, オ	〃
10	6／6	診査と診断	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／必10ク	〃
11	〃	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要項目	E-3／必10ク, 11-エ	〃
12	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／必10ク, 11-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	6／20	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要項目	E-3／必10ク, 11-エ	①
14	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／必10ク, 11-エ	〃
15	〃	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-9イ, 9エ，9オ	〃
16	7／4	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-9イ, 9エ，9オ	〃
17	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-9イ, 9エ，9オ	〃
18	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-9イ, 9エ，9オ	〃
19	7／25	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	必11-エc, オ, キ	〃
20	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	必11-エc, オ, キ	〃
21	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	必11-エc, オ, キ	〃
22	8／29	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-9カ	〃
23	〃	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-9カ	〃
24	〃	歯内－歯周複合病変	歯内－歯周複合病変における基本的重要項目	E-3／各Ⅲ-6ケ, 8ケ	〃
25	9／12	歯周形成外科	遊離歯肉移植術，小帯切除等	E-3／各Ⅲ-9エ	〃
26	〃	歯周形成外科	根面被覆	E-3／各Ⅲ-9エ	〃
27	〃	歯周形成外科	歯肉弁根尖側移動術，臨床的歯冠長延長術	E-3／各Ⅲ-8ク, 9エ	〃
28	10／3	必須問題	歯周病学の必須問題　禁忌問題　歯科英語	E-3／総Ⅵ-11イ	②
29	〃	歯周疾患の分類	慢性歯周炎と侵襲性歯周炎の特徴と症状	各論Ⅲ-8	〃
30	〃	歯周疾患の分類	特殊な歯周疾患（歯肉炎を含む）	各論Ⅲ-8	〃
31	10／24	ＳＰＴ	ＳＰＴにおける基本的重要項目	(3)-②／各Ⅲ-9ケ	①
32	〃	疫学	歯周病の疫学問題	B-4／総Ⅱ-10サ	〃
33	10／24	口臭	口臭における基本的重要項目	E-3／各Ⅰ-4ア, イ, ウ	①
34	11／14	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	各論Ⅲ-9ィ	〃
35	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-9ィ, 9エ，9オ	〃
36	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-9ィ, 9エ，9オ	〃
37	11／28	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-8ク, 9エ	①
38	〃	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-3／各Ⅲ-8ク, 9エ	〃
39	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	必11-エc, オ, キ	〃
40	12／12	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	必11-エc, オ, キ	〃
41	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	必11-エc, オ, キ	〃
42	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	必11-エc, オ, キ	〃

●冠橋義歯補綴学

担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②五十嵐一彰（冠橋）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／21	冠橋義歯補綴学の意義と目的	冠橋義歯補綴学の意義と目的	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-3-ア	①
2	〃	咬合・咀嚼障害	咬合・咀嚼障害	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-3-ア	〃
3	〃	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められる要件	E-3-4)-(1)-①／各Ⅳ-3-ア	〃
4	5／19	クラウンの種類と分類	クラウンの種類と分類	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	②
5	〃	ブリッジの種類と構成	ブリッジの固定方法とポンティック基底面形態	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	〃
6	〃	ブリッジの設計	支台歯，支台装置とポンティックの選択	E-3-4)-(1)-②／各Ⅳ-3-ア	〃
7	5／26	支台歯形成	支台歯形成の原則	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ	①
8	〃	支台歯形成	支台歯の基本形態	E-3-4)-(1)-④／各Ⅳ-3-イ	〃
9	〃	印象採得	印象材，印象採得器材	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ	〃
10	6／9	印象採得	印象の前準備，印象法	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6／9	顎間関係の記録	咬合関係の記録と決定	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ	①
12	〃	顎間関係の記録	頭蓋に対する上顎の位置記録	E-3-4)-(1)-⑤／各Ⅳ-3-イ	〃
13	6／30	作業用模型	作業用模型の要件と種類	E-3-4)-(1)-⑨⑩／各Ⅳ-3-ウ	〃
14	〃	ワックスパターン形成	ワックスパターン形成の要件と形成法	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ	〃
15	〃	埋没・鋳造	埋没法，鋳造収縮の補償	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ	〃
16	7／14	熱処理・研磨	鋳造欠陥，後処理	E-3-4)-(1)-⑧／各Ⅳ-3-ウ	〃
17	〃	レジン前装冠	レジン前装冠の臨床的意義	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	〃
18	〃	レジン前装冠	レジンと金属の結合	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	〃
19	8／25	陶材焼付冠	陶材焼付冠の臨床的意義	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	〃
20	〃	陶材焼付冠	陶材と金属の結合	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	〃
21	〃	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの適応症と禁忌症	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	②
22	9／8	オールセラミッククラウン	オールセラミッククラウンの適応症と禁忌症	E-3-4)-(1)-②⑥／各Ⅳ-3-ア	①
23	〃	従来型ブリッジ	従来型ブリッジの種類	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
24	〃	従来型ブリッジ	従来型ブリッジの連結法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
25	9／29	接着ブリッジ	接着ブリッジの適応症と製作法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	②
26	〃	接着ブリッジ	接着ブリッジの適応症と製作法	E-3-4)-(1)-①②／各Ⅳ-3-ア	〃
27	〃	支台築造	支台築造の臨床的意義と種類	E-3-4)-(1)-③／各Ⅳ-3-イ	①
28	10／13	支台築造	支台築造の方法	E-3-4)-(1)-③／各Ⅳ-3-イ	〃
29	〃	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義と種類	E-3-4)-(1)-⑦／各Ⅳ-3-イ-e	〃
30	〃	口腔内試適・装着	口腔内試適の手順	E-3-4)-(1)-⑪⑫／各Ⅳ-3-イ	②
31	10／27	術後管理	術後管理の重要性と方法	E-3-4)-(1)-⑫⑬／各Ⅳ-3-イ	①
32	〃	装着後に発生する問題と対応	装着後に発生する問題とその対応	E-3-4)-(1)-⑬／各Ⅳ-3-イ	〃
33	〃	高齢者・要介護者への適用	超高齢社会におけるクラウンブリッジの役割と注意点	E-3-4)-(1)-①～⑬／各Ⅳ-3-ア	〃
34 35 36	11／17	冠橋義歯補綴学の要点の再点検	試験問題解説	E-3-4)-(1)-①～⑬／各Ⅳ-3-ア,イ,ウ	〃
37 38 39	12／1	冠橋義歯補綴学の要点の再点検	試験問題解説	E-3-4)-(1)-①～⑬／各Ⅳ-3-ア,イ,ウ	〃
40 41 42	12／15	冠橋義歯補綴学の要点の再点検	試験問題解説	E-3-4)-(1)-①～⑬／各Ⅳ-3-ア,イ,ウ	〃

●有床義歯補綴学

担当者：①山森　徹雄（有床），②松本　知生（有床），
③田中みか子（非常勤）他

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／11	有床義歯治療の概要	有床義歯治療の流れ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	①
3 4	4／18	全部床義歯治療学１	診察・検査と前処置	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア,イ	〃
5 6	4／25	全部床義歯治療学２	印象採得	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ	〃
7 8	5／9	全部床義歯治療学３	咬合採得	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	〃
9 10	5／16	全部床義歯治療学４	顔弓記録と咬合器調節	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	〃
11 12	5／23	全部床義歯治療学５	人工歯の選択と排列	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	〃
13 14	5／30	全部床義歯治療学６	リマウントと削合，義歯装着	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	〃
15 16	6／6	全部床義歯治療学７	義歯装着後の管理と経過観察	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	③
17 18	6／13	全部床義歯治療学８	その他の補綴装置	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア,イ	①
19 20	6／20	全部床義歯治療学９	全部床義歯学解説１	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
21 22	6／27	全部床義歯治療学10	全部床義歯学解説２	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
23 24	7／4	部分床義歯治療学１	診察・検査と分類	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア	③
25 26	7／11	部分床義歯治療学２	前処置	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	②
27 28	7／25	部分床義歯治療学３	支持様式と印象採得	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
29 30	8／22	部分床義歯治療学４	サベイングと設計	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃
31 32	8／29	部分床義歯治療学５	支台装置と連結装置	E-3-4)／各Ⅳ-4-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
33 34	9／5	部分床義歯治療学6	フレームワークと蠟義歯試適	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア～ウ	②
35 36	9／12	部分床義歯治療学7	埋没・重合と義歯装着	E-3-4)／各 Ⅳ-4-イ,ウ	〃
37 38	9／26	部分床義歯治療学8	義歯装着後の経過観察	E-3-4)／各Ⅳ-8-オ	〃
39 40	10／3	部分床義歯治療学9	特殊な義歯	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア～ウ	①
41 42	10／17	部分床義歯治療学10	部分床義歯学解説1	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
43 44	10／24	全部床義歯治療学11	顎堤に問題のある症例	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
45 46	10／31	全部床義歯治療学12	顎堤の位置関係に問題のある症例	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
47 48	11／14	全部床義歯治療学13	下顎運動に問題のある症例	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
49 50	11／21	全部床義歯治療学14	粘膜の疼痛	E-3-4)／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
51 52	11／28	部分床義歯治療学11	部分床義歯学解説1	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
53 54	12／5	部分床義歯治療学12	部分床義歯学解説2	E-3-4)／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
55 56	12／12	有床義歯治療の総括	有床義歯治療学まとめ	E-3-4)／各Ⅳ-5-イ,ウ	〃

●口腔インプラント学

担当者：①山森　徹雄（有床），②高橋　昌宏（イン），
②船川　竜生（イン）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	口腔インプラント学総論1	オーバービュー：口腔インプラント学の全容	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	①
2	4／27	口腔インプラント学総論2	これだけは覚えておきたい基礎知識	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	②
3	5／18	インプラント関連必修対策	インプラントと天然歯の違いを理解する	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	③
4	6／1	診察・検査・診断	リスクファクターと必須検査項目との関係	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	②
5	6／15	治療計画1	補綴主導型治療の手順	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	③
6	6／29	治療計画2	計画通りに施術するための工夫	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア	〃
7	7／13	外科処置1	インプラント埋入手術：関連器材と使用順序	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	②
8	8／24	外科処置2	インプラント外科にかかわる硬・軟組織管理	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	〃
9	9／7	補綴処置1	上部構造の固定方法の特徴	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	③
10	10／5	補綴処置2	インプラント印象方法	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	③
11	10／19	術後管理	口腔衛生と咬合の管理	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	〃
12	11／2	術後のトラブル対策	外科処置にかかわる重篤な偶発症と対策	E-3-4)／各Ⅳ-6-イ	〃
13	11／16	まとめ	振り返り講義	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア,イ	②
14	12／7	口腔インプラント学の要点の再点検	試験問題解説	E-3-4)／各Ⅳ-6-ア,イ	〃

●歯科矯正学

担当者：①福井　和徳（矯正），②板橋　　仁（矯正），
③川鍋　　仁（矯正），④山野辺晋也（矯正）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／15	診査，検査，診断①	診査，検査法分析，資料の総合的評価を説明する	E-4-1)①④／各Ⅱ-8	①
4 5 6	5／6	診査，検査，診断②	診断，治療方針の立案に至る過程を説明する	E-4-1)①④／各Ⅱ-8	〃
7 8 9	5／20	成長発育	発生と成長発育について説明する	E-2-3)③④／総Ⅴ-4	②
10 11 12	6／3	口蓋裂，顎機能異常，顎変形症	口蓋裂・顎変形症について説明する	E-2-4) (1)／各Ⅱ-1ア，11-エ	③
13 14 15	7／1	歯科矯正用材料・器具	矯正歯科治療に使用される材料，器具について説明する	E-4-1)⑤／総Ⅺ-15	〃
16 17 18	7／15	矯正装置	矯正装置について説明する	E-4-1)⑥⑦／各Ⅱ-10	④
19 20 21	7／29	歯の移動と組織変化	矯正歯科治療にて生じる生体反応について説明する	E-4-1)⑦⑧／各Ⅱ-9-ア～ウ	〃
22 23 24	8／26	上顎前突の治療	上顎前突の治療を実際の症例を通じて理解する。	E-4-1)④／各Ⅱ-11-ア，イ	〃
25 26 27	9／9	叢生の治療	叢生の治療を実際の症例を通じて理解する	E-4-1)④／各Ⅱ-11-ア，イ	③
28 29 30	9／30	反対咬合の治療	反対咬合の治療を実際の症例を通じて理解する。	E-4-1)④／各Ⅱ-11-ア，イ	④
31 32 33	10／21	開咬の治療	開咬の治療を実際の症例を通じて理解する。	E-4-1)④／各Ⅱ-11-ア，イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34 35 36	11／11	保定・全身疾患	保定及び全身疾患について説明する	E-4-1)②⑨／各Ⅱ-11キ,ク, Ⅳ-7	③
37 38 39	12／2	総まとめ①	重要箇所の復習1	E-4-1)／各Ⅱ-7～11	①
40 41 42	12／16	総まとめ②	重要箇所の復習2	E-4-1)／各Ⅱ-7～11	〃

●小児歯科学

担当者：①島村　和宏（小児）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／13	小児の成長・発達	成長発達・評価, 反射, 運動･言語情緒･社会性の発達	E-4／必-6-イウ, 総Ⅱ-8, Ⅴ-1, 2	①
4	4／27	頭蓋顎顔面の発育 口腔機能発達	頭蓋顔面頭蓋の成長, 咀嚼嚥下・顎関節機能の発達	E-4／必-6イウ, 総Ⅱ-8	〃
5	4／27	歯の形成と萌出	歯の形成・萌出, 歯列・咬合の成長発育	E-4／必-6, 総Ⅱ, Ⅳ-2, 各Ⅰ-2, 3	〃
6	4／27	歯の形成と萌出	乳歯・幼若永久歯の特徴, 歯・歯列・萌出異常	E-4／必-6, 総Ⅱ, Ⅳ-2, 各Ⅰ-2, 3	〃
7 8 9	5／18	歯列・咬合の発育と異常	歯列, 咬合の定義・発育 歯列咬合の発育変化	E-4／必-6, 総Ⅱ-9-エ	〃
10	6／1	乳歯・幼若永久歯・歯周組織	乳歯の形態的・組織学的特徴	E-4／必-6, 総Ⅱ-5, Ⅳ-2	〃
11	〃	乳歯・幼若永久歯・歯周組織	幼若永久歯・歯周組織の特徴	E-4／必-6, 総Ⅱ-5, Ⅳ-2	〃
12	〃	歯科的対応 疼痛コントロール	疼痛のコントロール	E-4／必12, 総Ⅳ-ア	〃
13 14 15	6／15	歯科的対応	小児の心理・対応の実際・基本的な診察・管理	E-4／必-9, 総Ⅴ-2, Ⅶ-4	〃
16 17	6／29	小児の診療の流れ	小児患者の診察・検査・診断	E-4／必-9, 総Ⅴ-2, Ⅵ-1, 2, Ⅶ-1	〃
18	〃	う蝕治療の前準備	治療の前処置・麻酔・偶発症	E-4／必12, 総Ⅳ-ア	〃
19	7／13	小児期の齲蝕①	齲蝕の疫学, 特徴と分類, 好発時期	E-4／必-8イ-b, 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1	〃
20	〃	小児期の齲蝕②	〃	〃	〃
21	〃	小児期の齲蝕③	齲蝕予防	E-4／必-4ウ, 各Ⅱ-1-イ	〃
22 23 24	8／24	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復	歯の硬組織疾患の治療	E-4／必-12, 各Ⅱ-1	〃
25	9／7	乳歯・幼若永久歯の歯内療法①	歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療	E-4／必12, 総Ⅳ-2, Ⅵ11, Ⅶ1, 各Ⅱ-2	①
26	〃	乳歯・幼若永久歯の歯内療法②	〃	〃	〃
27	〃	乳歯・幼若永久歯の歯内療法③	〃	〃	〃
28	10／5	外科的処置①	小児の麻酔, 抜歯, 軟組織疾患	E-4／必7-9, 12, 総Ⅵ, Ⅶ各Ⅰ, Ⅲ	〃
29	〃	外科的処置②	〃	〃	〃
30	〃	外科的処置②	〃	〃	〃
31	10／19	外科的処置③	歯の外傷	E-4／各Ⅰ-4	〃
32	〃	咬合誘導①	保隙, 動的咬合誘導	E-4, 必8, 総Ⅵ-1, 各Ⅰ-5	〃
33	〃	咬合誘導②	〃	〃	〃
34	11／2	障害児の歯科診療①・虐待	障害者への対応・虐待	E-4／必12, 総Ⅴ-3, 各Ⅴ-7	〃
35	〃	障害児②・虐待・摂食	障害者への対応	E-4／必8-イ, 総Ⅰ-2, Ⅲ2, 各Ⅰ, Ⅴ	〃
36	〃	先天異常・小児疾患①	先天異常・骨系統疾患・症候群	E-4／必12, 総Ⅴ-3, 各Ⅴ-7	〃
37	11／16	先天異常・小児疾患②	先天異常・骨系統疾患・症候群	E-4／必12, 総Ⅴ-3, 各Ⅴ-7	〃
38 39	〃	模試解説・まとめ	模試解説・まとめ		〃
40 41 42	12／7	模試／卒試解説・まとめ	模試／卒試解説　まとめ		〃

●歯科放射線学

担当者：①原田　卓哉（放射），②茂呂祐利子（放射），
③矢口　剛士（放射）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	画像検査装置の取り扱い	エックス線撮影装置	E-1-2)／必10-カ	① ② ③
2	〃	検査の基本1	口内法, パノラマ, CT	E-1-2)／必10-カ	〃
3	4／26	検査の基本2	MRI, 超音波 核医学,	E-1-2)／必10-カ	〃
4	〃	安全管理	患者の安全管理(被曝), 医療者の安全管理(被曝)	E-1-2)／必2-オ	〃
5	5／17	放射線の影響1	確率的影響, 確定的影響	E-1-2)／必7-ア	〃
6	〃	放射線の影響2	放射線治療による後障害	E-1-2)／必7-イ	〃
7	5／31	放射線物理	放射線の種類単位, 測定, 放射線同位元素	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／31	画像形成	現像，画質を構成する因子	E-1-2)／総Ⅵ-2	①②③
9	6／14	エックス線装置器材	エックス線撮影装置，ヘッド，フィルム	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
10	〃	デジタル・情報システム	デジタル画像の特徴，CCDセンサー，イメージングプレート，フラットパネル，DICOMPACS，放射線情報システム，病院情報システム	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
11	6／28	放射線生物学・放射線治療	放射線の影響，放射線感受性，外部照射，IMRT，内部照射，照射後障害	E-1-2)／総Ⅵ-2，総Ⅶ-7	〃
12	〃	防護・法的規制	正当化，最適化，線量制限医療被曝，職業被曝，公衆被曝，医療法施行規則	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
13	7／12	画像検査１	口内法，口外法，CT	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
14	〃	画像検査２	MRI，超音波，核医学，IVR	E-1-2)／総Ⅵ-2，総Ⅶ-9	〃
15	7／26	画像診断１	歯および歯周疾患，嚢胞	E-3-2)，E-2-4)／各Ⅱ-1，Ⅱ-2，Ⅱ-3，Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
16	〃	画像診断２	顎骨の炎症，上顎洞炎，頚部軟組織の炎症	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
17	8／30	画像診断３	良性腫瘍，悪性腫瘍	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
18	〃	画像診断４	腫瘍類似疾患，口腔に症状を表す全身疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
19	10／4	問題演習１	放射線物理，装置，画像形成原理	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
20	〃	問題演習２	デジタル画像システム，医療情報システム	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
21	10／18	問題演習３	口内法，口外法，CT，コーンビームCT	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
22	〃	問題演習４	MRI，超音波，核医学，IVR，造影，内視鏡	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
23	11／1	問題演習５	放射線の影響，防護，管理	E-1-2)／総Ⅵ-2	〃
24	11／1	問題演習６	放射線治療，術前術後管理	E-1-2)／総Ⅶ- 7	①②③
25	11／22	問題演習７	歯および歯周疾患，嚢胞	E-3-2)，E-2-4)／各Ⅱ-1，Ⅱ-2，Ⅱ-3，Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
26	〃	問題演習８	顎骨の炎症，上顎洞炎，頚部軟組織の炎症	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
27	12／6	問題演習９	良性腫瘍，悪性腫瘍	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃
28	〃	問題演習10	腫瘍類似疾患口腔に症状を表す全身疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1，Ⅲ-2	〃

●総合臨床医学

担当者：①馬場　　優（医学）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	総論１	内科学総論	E-6)／総Ⅶ-1-エ	①
2	4／28	総論２	腫瘍学総論	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
3	5／26	循環器	循環器疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
4	6／9	呼吸器	呼吸器疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
5	6／23	消化器	消化器疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
6	7／7	肝臓・腎臓	肝臓疾患・腎臓疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
7	7／21	アレルギー・膠原病	アレルギー疾患・膠原病	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
8	8／25	内分泌	内分泌疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
9	9／8	糖尿病	糖尿病	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
10	9／22	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
11	10／6	頭頸部外科	頭頸部疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
12	10／20	血液疾患	血液疾患	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
13	11／24	誤飲・誤嚥	歯科治療中に起こる誤嚥・誤飲事故	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃
14	12／8	深頸部膿瘍	深頸部膿瘍	E-6)／総Ⅶ-1-エ	〃

●医療倫理学

担当者：①長岡　正博（薬理），②佐藤　　歩（心理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／19	医の倫理１	ヒポクラテスの誓い，ジュネーブ宣言等	A-2①②／必修1-ア-b	①
2	5／10	医の倫理２	ニュルンベルク綱領，ヘルシンキ宣言	A-2①②／必修1-ア-abc，2-オ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	5／24	医の倫理３	リスボン宣言	A-2①②／必修1-ア-abc, 2-オ-a	①
4	6／7	生命倫理１	生と死に関わる問題，バイオエシックスの４原則	A-2①②／必修1-ア-abc, 2-オ-a	〃
5	6／21	生命倫理２	死に関する宣言(シドニー宣言)，臓器移植	A-2①②／必修1-ア-abc, 2-オ-a	〃
6	7／12	患者中心の歯科医療１	インフォームドコンセント	A-3-①②③, A-4-①／必修1-イ-abc	〃
7	8／2	患者中心の歯科医療２	患者の権利と義務	A-3-①②③, A-4-①／必修1-イ-abc	〃
8	8／30	医療面接１	意義と目的，患者－歯科医師関係の確立，言語的コミュニケーション	A-3-④, A-4-①②／必修8-ア-abc, B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a ～ f, ウ-a～f	〃
9	9／13	医療面接２	準言語的コミュニケーション，非言語的コミュニケーション	A-3-④, A-4-①②／必修8-ア-abc, B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a ～ f, ウ-a ～ f	〃
10	10／4	医療倫理と心理臨床１ 心理療法	行動療法・認知療法・認知行動療法②	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a ～ f, ウ-a ～ f	②
11	10／25	医療倫理と心理臨床２ 心の発達と障害	発達障害・愛着障害②	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a ～ f, ウ-a ～ f	〃
12	11／15	医療倫理と心理臨床３ 精神疾患	うつ病・統合失調症②	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a ～ f, ウ-a ～ f	〃
13	11／29	医療倫理と心理臨床４ ターミナルケア	緩和医療・死生学	E-5, 6／総論Ⅳ2キ, Ⅶ1g, 5-アイウ	〃
14	12／13	医療倫理と心理臨床５ 精神腫瘍学	精神的不安・実存的不安	A-1，E-5, 6／総論Ⅳ2キ, V6ア，Ⅶ1エg	〃

●歯科麻酔学

担当者：①山崎　信也（麻酔）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	臨床に必要な生理１	循環生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	①
2	〃	臨床に必要な生理１	循環生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
3	〃	臨床に必要な生理１	循環生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
4	4／25	臨床に必要な生理２	呼吸生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	①
5	〃	臨床に必要な生理２	呼吸生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
6	〃	臨床に必要な生理２	呼吸生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ウ	〃
7	5／23	臨床に必要な生理３	代謝内分泌生理	必修5-ア-e 総論Ⅱ-1-ク	〃
8	〃	臨床に必要な生理３	小児の生理	必修6-イ-d 総論Ⅴ-2	〃
9	〃	臨床に必要な生理３	高齢者妊婦の生理	必修6-エ, 12-イ 総論Ⅴ-4, 5	〃
10	5／30	局所麻酔	局所麻酔，痛覚伝導路	必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
11	〃	ペインクリニック	痛みの分類	必修12-ア 総論Ⅶ-5	〃
12	〃	ペインクリニック	代表的な疼痛，痙攣	必修12-ア 総論Ⅶ-5	〃
13	6／13	全身麻酔	全身麻酔	必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
14	〃	全身麻酔	全身麻酔	必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
15	〃	精神鎮静法	精神鎮静法	必修12-カ 総論Ⅶ-4-ウ	〃
16	6／27	周術期管理	検査，術前評価	必修10, 12-カ 総論Ⅶ-4-イ	〃
17	〃	周術期管理	前投薬，術前管理	必修12-カ 総論Ⅶ-4-イ	〃
18	〃	周術期管理	術中管理，術後管理	必修12-カ 総論Ⅶ-4-イ	〃
19	7／11	全身的偶発症１	神経性ショック	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
20	〃	全身的偶発症１	過換気synd 高血圧緊急	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
21	〃	全身的偶発症１	アナフィラキシーショック	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
22	8／22	全身的偶発症２	局麻中毒，MetHb血症	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
23	〃	全身的偶発症２	仰臥位低血圧	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
24	〃	全身的偶発症２	虚血性心疾患 脳卒中	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
25	9／5	全身的偶発症３	代謝内分泌疾患	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
26	〃	全身的偶発症３	糖尿病	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
27	〃	全身的偶発症３	肝，腎疾患	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
28	9／26	全身的偶発症４	麻酔救急器具，英語	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
29	〃	全身的偶発症４	麻酔救急器具，英語	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
30	〃	全身的偶発症４	麻酔救急器具，英語	必修8, 11 総論Ⅶ-1, 3	〃
31	10／17	器具，英語	麻酔救急器具，英語	必修13 総論Ⅶ-4	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
32	10／17	歴史	麻酔歴史	必修13 総論Ⅶ-4	①
33	〃	計算問題	麻酔計算問題	必修13 総論Ⅶ-4	〃
34	10／31	救急処置	一次救命処置	必修11 総論Ⅶ-3	〃
35	〃	救急処置	窒息の解除	必修11 総論Ⅶ-3	〃
36	〃	救急処置	二次救命処置	必修11 総論Ⅶ-3	〃
37	11／21	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃
38	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃
39	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃
40	12／5	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃
41	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃
42	〃	まとめ予備	歯科麻酔まとめ予備	必修8-13 総論Ⅶ-1, 3, 4, 5	〃

●高齢者歯科学

担当者：①鈴木　史彦（麻酔）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	全身の加齢変化１	身体・精神の加齢変化	E-5-1)／ 必6-エ	①
2	〃	口腔の加齢変化１	口腔の加齢変化	E-5-1)／ 必6-エ	〃
3	〃	高齢患者の臨床評価１	全身・口腔機能の評価	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-ア, イ, ウ, エ	〃
4	4／22	高齢者に多い口腔疾患１	硬・軟組織疾患	E-5-1)／ 総Ⅲ-2-ア, イ	〃
5	〃	脳血管障害１	分類と後遺症	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
6	〃	認知症１	分類と症状	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
7	5／13	その他の全身疾患１	Parkinson病等	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
8	〃	チーム医療と各ステージでの歯科の役割１	急性期～終末期	A-5-1), E-5-1)／ 必3-ア, イ, 総Ⅶ-1-ウ	〃
9	〃	歯科訪問診療と治療の場１	施設，在宅	E-5-1)／ 必1-エ, 必3-ア, イ	〃
10	5／27	口腔健康管理１	口腔衛生管理, 口腔ケア	E-5-1)／ 必4-エ	〃
11	〃	障害学１	ICF, アプローチ法	E-5-1)／ 必2-ア	〃
12	〃	嚥下器官の構造と機能１	解剖と生理	E-5-1)／ 総Ⅱ-8-ウ	〃
13	6／10	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害１	嚥下モデルと各期の障害	E-5-1)／ 各Ⅴ-2-ア	①
14	〃	原因と病態１	諸因子，構音，合併症	E-5-1)／ 各Ⅳ-1-イ, ウ, 各Ⅴ-1-オ	〃
15	〃	スクリーニングテスト１	RSST, MWST等	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-イ	〃
16	7／8	VE・VF １	特徴と評価方法	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-イ	〃
17	〃	間接訓練１	各期の間接訓練	E-5-1)／ 各Ⅴ-6-ア	〃
18	〃	直接訓練と食事指導１	直接訓練, 食事指導	E-5-1)／ 各Ⅴ-6-ア, オ	〃
19	7／22	嚥下補助床１	PAP，PLP	E-5-1)／ 各Ⅳ-7-ウ	〃
20	〃	高齢者と栄養１	評価と管理	E-5-1)／ 各Ⅴ-6-オ	〃
21	〃	前半のまとめ	総括1	E-5-1)／ 各Ⅴ-5-ア～カ	〃
22	8／19	全身の加齢変化２	身体・精神の加齢変化	E-5-1)／ 必6-エ	〃
23	〃	口腔の加齢変化２	口腔の加齢変化	E-5-1)／ 必6-エ	〃
24	〃	高齢患者の臨床評価２	全身・口腔機能の評価	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-ア, イ, ウ, エ	〃
25	9／2	高齢者に多い口腔疾患２	硬・軟組織疾患	E-5-1)／ 総Ⅲ-2-ア, イ	〃
26	〃	脳血管障害２	分類と後遺症	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
27	〃	認知症２	分類と症状	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
28	9／16	その他の全身疾患２	Parkinson病等	E-5-1)／ 総Ⅶ-1-エ	〃
29	〃	チーム医療と各ステージでの歯科の役割２	急性期～終末期	A-5-1), E-5-1)／ 必3-ア, イ, 総Ⅶ-1-ウ	〃
30	〃	歯科訪問診療と治療の場２	施設，在宅	E-5-1)／ 必1-エ, 必3-ア, イ	〃
31	10／7	口腔健康管理２	口腔衛生管理, 口腔ケア	E-5-1)／ 必4-エ	〃
32	〃	障害学２	ICF, アプローチ法	E-5-1)／ 必2-ア	〃
33	〃	嚥下器官の構造と機能２	解剖と生理	E-5-1)／ 総Ⅱ-8-ウ	〃
34	11／4	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害２	嚥下モデルと各期の障害	E-5-1)／ 各Ⅴ-2-ア	〃
35	〃	原因と病態２	諸因子，構音，合併症	E-5-1)／ 各Ⅳ-1-イ, ウ, 各Ⅴ-1-オ	〃
36	〃	スクリーニングテスト２	RSST, MWST等	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-イ	〃
37	11／25	VE・VF ２	特徴と評価方法	E-5-1)／ 各Ⅴ-3-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
38	11／25	間接訓練２	各期の間接訓練	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア	①
39	〃	直接訓練と食事指導２	直接訓練，食事指導	E-5-1)／各Ⅴ-6-ア,オ	〃
40	12／９	嚥下補助床２	PAP，PLP	E-5-1)／各Ⅳ-7-ウ	〃
41	〃	高齢者と栄養２	評価と管理	E-5-1)／各Ⅴ-6-オ	〃
42	〃	後半のまとめ	総括2	E-5-1)／各Ⅴ-5-ア～カ	〃

●障害者歯科学

担当者：①佐々木重夫（歯内）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／20	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL，ノーマライゼーション，バリアフリー，ユニバーサルデザイン	B-2-2)／必2-ア，総Ⅰ-2-オ，総Ⅴ-3-ア,イ	①
2	５／11	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉，医療制度，ADL，IADL，チーム医療	B-2-2)，A-5-1)／必3-ア，総Ⅰ-2-カ，総Ⅴ-5-イ	〃
3	５／25	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞，精神遅滞，自閉症スペクトラム障害，注意欠陥多動性障害，学習障害	E-5-2)／総Ⅴ-2-オ	〃
4	６／８	神経・運動障害（１）	脳性麻痺，筋ジストロフィー，脊髄損傷，関節リウマチ，Parkinson病	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア，各Ⅴ-7-ア,イ,ウ,エ	〃
5	６／22	神経・運動障害（２）	感覚障害脳血管障害，筋萎縮性側索硬化症，てんかん，視覚・聴覚障害	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア，各Ⅴ-7-ア,イ,ウ,エ	〃
6	７／６	精神および行動の障害	統合失調症，うつ病，不安症，強迫症，心身症，認知症，摂食障害	E-5-2,3)／総Ⅴ-6-ア，総Ⅶ-1-エ	〃
7	７／27	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患（循環器・呼吸器・消化器腎尿路内分泌･血液疾患）	E-5-2)，E-6／総Ⅴ-6-ア，総Ⅶ-1-エ	〃
8	８／31	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-1	（口腔に症状がみられる）遺伝性疾患	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-イ,ウ，各Ⅲ-4-ア	〃
9	９／28	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群-2	（頭蓋・顎顔面に症状がみられる）遺伝性疾患，染色体異常	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-イ,ウ,エ,各Ⅲ-4ア	〃
10	10／12	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患，心筋症，エリテマトーデス，サルコイドーシス	E-5-2)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4-オ	①
11	10／26	行動調整	コミュニケーション法，行動療法，薬物的行動調整，体動の調整法	E-5-2)／総Ⅴ-3-ウ,オ，各Ⅴ-7-ア,イ	〃
12	11／９	スペシャルニーズのある人の歯科治療-１	医療面接，歯髄処置，歯周治療，歯冠修復	E-3-3)，E-5-2)／各Ⅴ-7-イ	〃
13	11／30	スペシャルニーズのある人の歯科治療-２	補綴的対応，顎顔面領域の外傷	E-3-4)，E-5-2)／各Ⅴ7-イ	〃
14	12／14	リスク評価と安全管理	リスク評価，医療安全管理体制，医療事故の予防，ターミナルケア	A-6-1),2)／必2-オ，総Ⅶ-5-イ,ウ	〃

●公衆衛生学・口腔衛生学

担当者：①廣瀬　公治（衛生），②小林美智代（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／８	公衆衛生総論Ⅰ	健康の概念，疾病の自然史，ICF，健康の社会的決定要因	B-1,3／必2-ア，必4-ア，総Ⅰ-ア	①
2	〃	公衆衛生総論Ⅱ	健康日本21，国際保健協力，SDGs，UHC，ライフコースアプローチ	A-7-2)，B-1／必4-ア，総Ⅰ-1-ア，総Ⅰ-5-ア	〃
3	４／15	疫学	疫学要因，因果関係，記述疫学	B-4／総Ⅰ-6-ア	〃
4	〃	疫学	分析疫学（患者対照研究，オッズ比）	B-4／総Ⅰ-6-ア	〃
5	４／22	疫学	分析疫学（コホート研究），計算問題	B-4／総Ⅰ-6-ア	〃
6	〃	疫学	生態学的研究，バイアス，介入研究	B-4／総Ⅰ-6-ア	〃
7	５／６	疫学	臨床試験，GCP，RCT，メタアナリシス，EBM	B-4／必10-ク，総Ⅰ-6-ア，総Ⅴ-1-オ	〃
8	〃	疫学	スクリーニング	B-4／総Ⅰ-1-イ，総Ⅰ-6-ア	〃
9	５／20	疫学	スクリーニング	B-4／総Ⅰ-1-イ，総Ⅰ-6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10	5／20	口腔保健疫学	口腔疾患の疫学的特色，ICDAS, DMF, CAMBRA	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ, ウ	②
11	5／25	口腔保健疫学指標	(口腔組織と変更) OHI，OHI-S	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ	〃
12	〃	口腔保健疫学指標	PHP，PCR，PII	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ	〃
13	5／27	口腔保健疫学指標	CPI，PMA，PI，PDI	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ, ウ	〃
14	〃	口腔保健疫学指標	CFI, DAI	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ, ウ	〃
15	6／3	口腔保健疫学指標	RCI，RID，齲蝕抑制率	B-4／総Ⅰ-6-ア, イ, ウ	〃
16	〃	疾病予防と健康管理	感染症の予防	B-3-1)／総Ⅰ-7-ア	①
17	6／10	疾病予防と健康管理	日本人の食事摂取基準	B-1／総Ⅰ-8-ア, イ	〃
18	〃	疾病予防と健康管理	食品衛生，食中毒，食事バランスガイド	B-1／総Ⅰ-8-ア, イ	〃
19	7／1	環境衛生	地球環境変化と健康被害	B-2-4)／総Ⅰ-9-ア	〃
20	〃	環境衛生	公害	B-2-4)／総Ⅰ-9-ア	〃
21	7／8	環境衛生	医療廃棄物	B-2-4)／総Ⅰ-9-ア	〃
22	〃	環境衛生	温熱・空気・水の衛生	B-2-4)／総Ⅰ-9-ア	〃
23	7／15	人口保健統計	人口静態，我が国の人口推移	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
24	〃	人口保健統計	人口動態，人口再生産，死亡指標	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
25	7／22	人口保健統計	年齢調整死亡率，生命表	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
26	〃	人口保健統計	保健衛生統計(国民生活基礎調査，患者調査，医師・歯科医師・薬剤師調査等)	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
27	7／29	人口保健統計	保健統計量(尺度，偏差，検定)	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	②
28	〃	人口保健統計	平成28年歯科疾患実態調査	B-4-2)／総Ⅰ-6-イ	〃
29	8／19	地域保健	保健所，市町村保健センター，歯科口腔保健センター，母子健康包括支援センター等の概要	B-2-2)／必4-ア, イ, 総Ⅰ-1-ウ, エ	①
30	8／19	地域保健	PHCとHP，ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ，学修援助型保健活動，保健活動の評価法	B-3／必4-ア, 総Ⅰ-1-エ	①
31	8／26	地域医療	地域完結の医療(地域連携クリニカルパス)，医療法	B-2-2／必2-イ, 総Ⅰ-1-ウ, エ, オ	〃
32	〃	歯科医師法と多職種連携	歯科医師法，医療関係職種	B-2-1／必2-イ, 総Ⅰ-1-ウ	〃
33	9／2	社会保障の仕組み	ユニバーサルヘルスカバレッジ，社会保障の機能，社会保険(医療保険)，生活保護	B-2-2)／必2-イ, 総Ⅰ-1-ウ	〃
34	〃	母子保健	母子保健法と母子保健事業	B-2-2)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ア	②
35	9／9	母子歯科保健	1歳6か月児歯科健康診査	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ア	〃
36	〃	母子歯科保健	3歳児歯科健康診査	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ア	〃
37	9／16	学校保健	学校保健安全法	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-イ	〃
38	〃	学校保健	学校保健管理	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-イ	〃
39	9／30	学校歯科保健	学校歯科健康診断	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-イ	〃
40	〃	医療裁判	医事紛争と賠償，医療訴訟(民事・刑事)	A-7-1)／必２-キ	①
41	10／7	成人・老人保健	加齢変化，老人福祉法，介護保険法，精神保健福祉法，障害者総合支援法	A-7-1) B-2-2)／必4-イ, 総Ⅰ-2-エ, オ, カ, 総Ⅰ-4-ア	〃
42	〃	介護・福祉制度	地域包括ケアシステム，地域連携クリニカルパス	A-7-1)／B-2-2)／必2-イ, 総Ⅰ-1-オ, 総Ⅰ-4-ア	〃
43	10／21	産業保健	労働基準法，労働安全衛生法	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ウ	〃
44	〃	産業保健	労働者災害補償保険，ILO	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ウ	〃
45	11／4	産業歯科保健	特殊健康診断	A-7-1)／必4-イ, 総Ⅰ-2-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
46	11／4	職業性疾患，関連法規	職業性歯の酸蝕症	A-7-1)／必4-イ，総Ⅰ-2-ウ	①
47	11／11	口腔環境と歯科疾患	唾液の機能，ペリクル	B-3-2)／必5-イ，総Ⅰ-1-イ，総Ⅱ-6-オ	〃
48	〃	口腔環境と歯科疾患	ペリクルの形成から歯石まで	B-3-2)／必5-イ，総Ⅰ-1-イ，総Ⅱ-7-ア，イ	〃
49	11／25	齲蝕の予防	ステファンカーブ，代用甘味料	B-3-2)／必5-イ，総Ⅰ-1-イ	②
50	〃	齲蝕の予防	齲蝕活動性試験	B-3-2)／必4-ウ，総Ⅰ-1-イ	〃
51	12／2	齲蝕の予防	フッ化物の基礎，フッ化物応用法	B-3-2)／必4-ウ，エ，各Ⅱ-1-イ	①
52	〃	齲蝕の予防	安全なフッ化物の応用	B-3-2)／必4-ウ，エ，各Ⅱ-1-イ	〃
53	12／9	齲蝕の予防	歯磨剤	B-3-2)／必4-ウ，エ，総論Ⅰ-1-イ	〃
54	〃	齲蝕の予防	ブラッシング	B-3-2)／必4-ウ，総Ⅰ-1-イ	②
55	12／16	口臭の予防	口臭の原因と揮発性硫化物，口臭測定，口臭治療と予防	B-3-2)／総Ⅵ-1-ア，各Ⅲ-5-ア	①
56	〃	口腔と全身疾患との関連	糖尿病と歯周病	B-3-2)／必5-ア，総Ⅴ-6-ア	〃

●社会歯科学

担当者：①南　健太郎（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	A-1-1)／必1-ア，必2-ウ，A1-1-2)／必イ	①
2	4／22	医療と法律	歯科医療と法令	A-1-3)，A-6-2)，B-2-1)／必2-キ	〃
3	5／13	医療と法律	歯科医師法-1	B-2-1)／必 2-イ	〃
4	5／27	医療と法律	歯科医師法-2 歯科衛生士法 歯科技工士法	B-2-1)／必 2-イ	〃
5	6／10	医療と法律	医療法	A-7-1)，B-2-1)／必2-ウ，3-1	〃
6	7／8	医療と法律	チーム医療の実践医療の質と安全管理	A-5-1／必3-ア，イ B-2-1)／必2-イ，必4-イ	〃
7	7／22	医療と法律	薬事衛生法規 衛生行政	B-2-1)／必2-イ，必4-イ	①
8	8／19	医療と法律	衛生行政その他の衛生法規	B-2-2)／必3-ア，イ	〃
9	9／2	医療と法律	社会保険制度（概要）	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
10	9／16	社会保障制度	社会保険制度（医療）	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	〃
11	10／7	社会保障制度	社会保険制度（年金・雇用）	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
12	11／4	社会保障制度	社会保険制度（介護）地域包括ケアシステム	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア，総Ⅰ-1-オ	〃
13	11／25	社会保障制度	社会保障制度（生活保護，社会福祉）	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	〃
14	12／9	国民医療費	国民医療費	B-2-2)／必2-イ，総Ⅰ-4-ア	〃

●口腔外科学

担当者：①髙田　　訓（外科），②金　　秀樹（外科），③川原　一郎（外科），④御代田　駿（外科），⑤小嶋　忠之（外科），⑥臼田　真浩（外科）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	先天異常	総論	E-2-4)／必7-アイ	①
2	〃	先天異常	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
3	〃	損傷	総論	E-2-4)／必7-アイ	④
4	4／21	損傷	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
5	〃	嚢胞	総論	E-2-4)／必7-アイ	③
6	〃	嚢胞	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
7	5／19	炎症感染症	総論	E-2-4)／必7-アイ	④
8	〃	炎症感染症	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
9	〃	腫瘍	総論	E-2-4)／必7-アイ	③
10	5／26	腫瘍	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
11	〃	口腔粘膜疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	④
12	〃	口腔粘膜疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
13	6／2	神経疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	⑥
14	〃	神経疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
15	〃	唾液腺疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	6／16	唾液腺疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	③
17	〃	顎関節疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	④
18	〃	顎関節疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
19	6／23	血液疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	③
20	〃	血液疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
21	〃	検査	総論	E-1-2)3)／総Ⅵ	⑤
22	6／30	検査	総論	E-1-2)3)／総Ⅵ	〃
23	〃	治療	総論	E-1-5)／総Ⅶ	②
24	〃	治療	総論	E-1-5)／総Ⅶ	〃
25	7／14	顎・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ア	①
26	〃	顎・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ア	〃
27	〃	顎変形症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-2-アイ	⑤
28	7／21	顎変形症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-2-アイ	〃
29	〃	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	④
30	〃	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	〃
31	7／28	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	〃
32	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	②
33	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
34	9／1	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
35	〃	顎・口腔領域に発生する嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	③
36	〃	顎・口腔領域に発生する嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
37	9／8	顎・口腔領域に発生する嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
38	〃	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	②
39	〃	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40	9／15	顎・口腔領域に発生する良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ 各Ⅲ-2-カキ	②
41	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	③
42	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
43	9／29	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	②
44	〃	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	〃
45	〃	顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ 各Ⅲ-2-カキ	〃
46	10／6	顎関節疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	④
47	〃	顎関節疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	〃
48	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	②
49	10／13	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	〃
50	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	〃
51	〃	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	⑥
52	11／10	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	〃
53	〃	顎・口腔領域に異常をきたす疾患・症候群	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-ア	⑤
54	〃	顎・口腔領域に異常をきたす疾患・症候群	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-ア	〃
55	11／24	血液疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-クケコサ	③
56	〃	血液疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-クケコサ	〃
57	〃	血液疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-クケコサ	〃
58	12／1	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-イウエオカキ	②
59	〃	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-イウエオカキ	〃
60	12／1	口腔症状を呈する全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-イウエオカキ	〃
61	12／15	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4)／各Ⅲ-1234	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
62	12／15	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4)／各Ⅲ-1234	③
63	〃	口腔外科学まとめ	まとめ	E-2-4)／各Ⅲ-1234	②

●口腔内科学

担当者：①髙田　　訓（外科），②高橋文太郎（外科），
③山根　源之（客員），④野村　武史（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／28	総論，診断法，検査法	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②③
2	〃	全身疾患，症候群に伴う口腔症状・病変	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
3	〃	第１・２回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
4	6／9	循環器疾患，脳血管障害と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②③
5	〃	代謝・内分泌疾患と歯科診療，糖尿病と歯周病	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
6	〃	第４・５回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
7	7／7	血液疾患(貧血，顆粒球減少症,白血病)と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②③
8	〃	出血性素因と歯科診療，造血幹細胞移植と歯科の関連	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
9	〃	第７・８回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
10	8／25	心身症，精神疾患，認知症と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②④
11	〃	睡眠と睡眠障害にかかわる歯科，オーラルフレイル	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
12	〃	第10・11回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
13	9／22	消化器疾患，腎疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
14	〃	呼吸器疾患，周産期と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
15	〃	第13・14回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
16	10／20	アレルギー・自己免疫疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②④
17	10／20	唾液腺疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	②④
18	〃	第16・17回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	①②
19	12／8	神経疾患と歯科診療	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
20	〃	感染症，医療安全と感染症対策	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃
21	〃	第19・20回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ 各Ⅲ-12345	〃

●災害歯科医学

担当者：①板橋　　仁（矯正），②岩原　香織（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／19	総論	大規模災害時における歯科医師の役割	A-7-1)，B-2-2)，B-2-3)／総Ⅰ-1-エ，総Ⅰ-3-ア	①
2	5／24	災害時歯科医療	災害時における医療体制	A-7-1)，B-2-2)，B-2-3)／総Ⅰ-1-エ，総Ⅰ-3-ア	〃
3	6／21	個人識別	人類学的個人識別／性別判定・年齢推定	B-2-3)／総Ⅰ-3-ア	①②
4	7／19	歯科的個人識別	検死と照合判定	B-2-3)／総Ⅰ-3-ア	①
5	9／27	歯科法医学１	創傷，死後変化	E-6／総Ⅰ-3-ア	〃
6	10／25	歯科法医学２	死因究明制度，死体解剖	A-1-3)，C-5-7)／総Ⅰ-3-ア	〃
7	11／29	総括	国家試験に向けて		①②

●歯科医療管理学

担当者：①大橋　明石（衛生），②瀬川　　洋（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	歯科医師法	歯科医師法，歯科医師の義務	B-2-1)-①／必-2-イ	①②
2	4／25	医療情報管理	診療録・電子診療録･SOAP 各種記録等保存期間と根拠法	B-4-3)／必-2-コ	①
3	5／16	医療法①	医療法に規定されている事項，医療計画①	B-2-1)-②／必-2-イ，総Ⅰ-1-エ	〃
4	5／30	医療法②	医療計画②，歯科診療所及び医療機関の開設と管理	B-2-1)-②／必-2-イ，総Ⅰ-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
5	6／13	歯科医療安全①	ハインリッヒの法則・フールプルーフ・フェールセーフ，医療機関における医療安全対策，医療事故調査制度	A-6-2)／必-2-オ	①
6	6／27	歯科医療安全②	感染予防管理，医療廃棄物管理	A-6-3)／必-2-オ，必-2-カ	〃
7	7／11	歯科医療事故への対応	医療過誤の民事・刑事・行政責任	A-6-2)／必-2-キ	〃
8	8／22	社会保障制度①	社会保険とは，社会保険の種類，医療保険①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
9	9／5	社会保障制度②	医療保険②	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
10	9／26	社会保障制度③	医療保険③，社会保障給付費，国民医療費①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
11	10／17	社会保障制度④	社会保障給付費，国民医療費②，公的扶助，社会福祉①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
12	10／31	社会保障制度⑤	公的扶助，社会福祉②	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
13	11／21	社会保障制度⑥	介護保険①	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	〃
14	12／5	社会保障制度⑦	介護保険②，地域包括ケアシステム	A-7-1)，B-2-2)／総Ⅰ-4-ア	①②

●歯学史／歯科英語

担当者：①御代田　駿（外科），②大橋　明石（衛生），
③長峯　英樹（英語）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	5／10	歯学史	世界，日本の歯学史①	A-7-2)／必-13-ウ	②
2	6／7	歯学史	世界，日本の歯学史②	A-2-2)／必-13-ア	〃
3	7／5	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Toothache	A-7-2)／必-13-ウ	①
4	8／23	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Oral Hygiene	A-7-2)／必-13-ウ	③
5	10／11	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Periodontal Disease	A-7-2)／必-13-ウ	①
6	11／15	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Cleft Lips	A-7-2)／必-13-ウ	①
7	12／13	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Paranasal Sinusitis	A-7-2)／必-13-ウ	〃

令和４年度　第６学年　授業時間割

(日) 付	朝礼 8:40		1	2	3	4	5	6	7 (16:30～17:00/17:00～17:30)
2022/4/4(月)			入学式						
2022/4/5(火)			ガイダンス(前期朝礼２回分)						
2022/4/6(水)			実力試験　1-A			実力試験　1-B			
2022/4/7(木)			実力試験　1-C			実力試験　1-D			
2022/4/8(金)	前期１	1	衛生１	衛生２	社歯１	高齢１	高齢２	高齢３	
2022/4/9(土)									
2022/4/10(日)									
2022/4/11(月)	前期２	1	有床１	有床２	管理１	麻酔１	麻酔２	麻酔３	
2022/4/12(火)	前期３	1	放射１	放射２	薬理１	歯周１	歯周２	歯周３	
2022/4/13(水)	前期４	1	解剖１	解剖２	イン１	小児１	小児２	小児３	
2022/4/14(木)	前期５	1	生材１	生材２	総医１	口外１	口外２	口外３	
2022/4/15(金)	前期６	2	衛生３	衛生４	生理１	矯正１	矯正２	矯正３	
2022/4/16(土)			確認試験(１－１)　８：50　出席確認３限分						
2022/4/17(日)									
2022/4/18(月)	前期７	2	有床３	有床４	医倫１	修復１	修復２	修復３	
2022/4/19(火)	前期８	2	病理１	病理２	災歯１	歯内１	歯内２	歯内３	
2022/4/20(水)	前期９	2	組織１	組織２	障害１	冠橋１	冠橋２	冠橋３	
2022/4/21(木)	前期10	2	免疫１	免疫２	生化１	口外４	口外５	口外６	
2022/4/22(金)	前期11	3	衛生５	衛生６	社歯２	高齢４	高齢５	高齢６	
2022/4/23(土)			確認試験(１－２)　８：50　出席確認３限分						
2022/4/24(日)									
2022/4/25(月)	前期12	3	有床５	有床６	管理２	麻酔４	麻酔５	麻酔６	
2022/4/26(火)	前期13	3	放射３	放射４	薬理２	修復４	修復５	修復６	
2022/4/27(水)	前期14	3	解剖３	解剖４	イン２	小児４	小児５	小児６	
2022/4/28(木)	前期15	3	生材３	生材４	総医２	口内１	口内２	口内３	
2022/4/29(金)									
2022/4/30(土)									
2022/5/1(日)									
2022/5/2(月)									
2022/5/3(火)									
2022/5/4(水)									
2022/5/5(木)									
2022/5/6(金)	前期16	4	衛生７	衛生８	生理２	矯正４	矯正５	矯正６	
2022/5/7(土)									
2022/5/8(日)									
2022/5/9(月)	前期17	4	有床７	有床８	医倫２	歯周４	歯周５	歯周６	
2022/5/10(火)	前期18	4	病理３	病理４	史英１	歯内４	歯内５	歯内６	
2022/5/11(水)	前期19	4	組織３	組織４	障害２	冠橋４	冠橋５	冠橋６	
2022/5/12(木)			実力試験　2-A/B/C			実力試験　2-D/E/F			
2022/5/13(金)	前期20	5	組織５	組織６	社歯３	高齢７	高齢８	高齢９	
2022/5/14(土)									
2022/5/15(日)									
2022/5/16(月)	前期21	5	有床９	有床10	管理３	歯周７	歯周８	歯周９	
2022/5/17(火)	前期22	5	放射５	放射６	薬理３	修復７	修復８	修復９	
2022/5/18(水)	前期23	5	解剖５	解剖６	イン３	小児７	小児８	小児９	
2022/5/19(木)	前期24	4	免疫３	免疫４	生化２	口外７	口外８	口外９	
2022/5/20(金)	前期25	6	衛生９	衛生10	生理３	矯正７	矯正８	矯正９	
2022/5/21(土)			確認試験(２－１)　８：50　出席確認３限分						実力試験２FB (70点未満：受講必須)
2022/5/22(日)									
2022/5/23(月)	前期26	6	有床11	有床12	医倫３	麻酔７	麻酔８	麻酔９	FB1(有床／医倫)
2022/5/24(火)	前期27	6	病理５	病理６	災歯２	歯内７	歯内８	歯内９	FB2(放射／病理)
2022/5/25(水)	前期28	6	衛生11	衛生12	障害３	冠橋７	冠橋８	冠橋９	FB3(解剖／組織)
2022/5/26(木)	前期29	5	生材５	生材６	総医３	口外10	口外11	口外12	FB4(生材／免疫)
2022/5/27(金)	前期30	7	衛生13	衛生14	社歯４	高齢10	高齢11	高齢12	FB5(衛生／社歯)
2022/5/28(土)			確認試験(２－２)　８：50　出席確認３限分						
2022/5/29(日)									
2022/5/30(月)	前期31	7	有床13	有床14	管理４	麻酔10	麻酔11	麻酔12	FB6(管理／麻酔)
2022/5/31(火)	前期32	7	放射７	放射８	薬理４	修復10	修復11	修復12	FB7(薬理／災歯／史英)
2022/6/1(水)	前期33	7	解剖７	解剖８	イン４	小児10	小児11	小児12	FB8(イン／障害)
2022/6/2(木)	前期34	6	免疫５	免疫６	生化３	口外13	口外14	口外15	FB9(総医／生化)
2022/6/3(金)	前期35	8	衛生15	衛生16	生理４	矯正10	矯正11	矯正12	FB10(生理／高齢)
2022/6/4(土)									
2022/6/5(日)									
2022/6/6(月)	前期36	8	有床15	有床16	医倫４	歯周10	歯周11	歯周12	FB11(歯周／－)
2022/6/7(火)	前期37	8	病理７	病理８	史英２	歯内10	歯内11	歯内12	FB12(修復／歯内)
2022/6/8(水)	前期38	8	組織７	組織８	障害４	冠橋10	冠橋11	冠橋12	FB13(小児／冠橋)
2022/6/9(木)	前期39	7	生材７	生材８	総医４	口内４	口内５	口内６	FB14(口外／口内)
2022/6/10(金)	前期40	9	衛生17	衛生18	社歯５	高齢13	高齢14	高齢15	FB15(矯正／－)
2022/6/11(土)									
2022/6/12(日)									
2022/6/13(月)	前期41	9	有床17	有床18	管理５	麻酔13	麻酔14	麻酔15	
2022/6/14(火)	前期42	9	放射９	放射10	薬理５	修復13	修復14	修復15	
2022/6/15(水)	前期43	9	解剖９	解剖10	イン５	小児13	小児14	小児15	
2022/6/16(木)	前期44	8	免疫７	免疫８	生化４	口外16	口外17	口外18	
2022/6/17(金)			実力試験　3-A/B/C			実力試験　3-D/E/F			

(日) 付	朝礼 8:40		1	2	3	4	5	6	7 (16:30～17:00/17:00～17:30)
2022/6/18(土)									
2022/6/19(日)									
2022/6/20(月)	前期45	10	有床19	有床20	医倫5	歯周13	歯周14	歯周15	
2022/6/21(火)	前期46	10	病理9	病理10	災歯3	歯内13	歯内14	歯内15	
2022/6/22(水)	前期47	10	組織9	組織10	障害5	冠橋13	冠橋14	冠橋15	
2022/6/23(木)	前期48	9	生材9	生材10	総医5	口外19	口外20	口外21	
2022/6/24(金)			模擬試験						
2022/6/25(土)			確認試験(3-1)　8：50　出席確認3限分						実力試験3FB (70点未満：受講必須)
2022/6/26(日)									
2022/6/27(月)	前期49	11	有床21	有床22	管理6	麻酔16	麻酔17	麻酔18	FB16(有床／医倫)
2022/6/28(火)	前期50	11	放射11	放射12	薬理6	修復16	修復17	修復18	FB17(放射／病理)
2022/6/29(水)	前期51	11	解剖11	解剖12	イン6	小児16	小児17	小児18	FB18(解剖／組織)
2022/6/30(木)	前期52	10	免疫9	免疫10	生化5	口外22	口外23	口外24	FB19(生材／免疫)
2022/7/1(金)	前期53	10	衛生19	衛生20	生理5	矯正13	矯正14	矯正15	FB20(衛生／社歯)
2022/7/2(土)			確認試験(3－2)　8：50　出席確認3限分						
2022/7/3(日)									
2022/7/4(月)	前期54	12	有床23	有床24	医倫6	歯周16	歯周17	歯周18	FB21(管理／麻酔)
2022/7/5(火)	前期55	12	病理11	病理12	史英3	歯内16	歯内17	歯内18	FB22(薬理／災歯／史英)
2022/7/6(水)	前期56	12	組織11	組織12	障害6	冠橋16	冠橋17	冠橋18	FB23(イン／障害)
2022/7/7(木)	前期57	11	生材11	生材12	総医6	口内7	口内8	口内9	FB24(総医／生化)
2022/7/8(金)	前期58	11	衛生21	衛生22	社歯6	高齢16	高齢17	高齢18	FB25(生理／高齢)
2022/7/9(土)									
2022/7/10(日)									
2022/7/11(月)	前期59	13	有床25	有床26	管理7	麻酔19	麻酔20	麻酔21	FB26(歯周／－)
2022/7/12(火)	前期60	13	放射13	放射14	薬理7	修復19	修復20	修復21	FB27(修復／歯内)
2022/7/13(水)	前期61	13	解剖13	解剖14	イン7	小児19	小児20	小児21	FB28(小児／冠橋)
2022/7/14(木)	前期62	12	免疫11	免疫12	生化6	口外25	口外26	口外27	FB29(口外／口内)
2022/7/15(金)	前期63	12	衛生23	衛生24	生理6	矯正16	矯正17	矯正18	FB30(矯正／－)
2022/7/16(土)									
2022/7/17(日)									
2022/7/18(月)									
2022/7/19(火)	前期64	14	病理13	病理14	災歯4	歯内19	歯内20	歯内21	
2022/7/20(水)			実力試験　4-A/B/C			実力試験　4-D/E/F			
2022/7/21(木)	前期65	13	生材13	生材14	総医7	口外28	口外29	口外30	
2022/7/22(金)	前期66	13	衛生25	衛生26	社歯7	高齢19	高齢20	高齢21	
2022/7/23(土)									実力試験4FB (70点未満：受講必須)
2022/7/24(日)									
2022/7/25(月)	前期67	14	有床27	有床28	医倫7	歯周19	歯周20	歯周21	FB31(有床／医倫)
2022/7/26(火)	前期68	15	放射15	放射16	薬理8	修復22	修復23	修復24	FB32(放射／病理)
2022/7/27(水)	前期69	14	組織13	組織14	障害7	冠橋19	冠橋20	冠橋21	FB33(解剖／組織)
2022/7/28(木)	前期70	14	免疫13	免疫14	生化7	口外31	口外32	口外33	FB34(生材／免疫)
2022/7/29(金)	前期71	14	衛生27	衛生28	生理7	矯正19	矯正20	矯正21	FB35(衛生／社歯)
2022/7/30(土)			確認試験(4－1)　8：50　出席確認3限分						
2022/7/31(日)									
2022/8/1(月)			夏季強化講義1	夏季強化講義2	夏季強化講義3				夏季強化講義 実力試験2，3，4の 平均点が70点未満の者は 受講必須
2022/8/2(火)			夏季強化講義4	夏季強化講義5	夏季強化講義6				
2022/8/3(水)			夏季強化講義7	夏季強化講義8	夏季強化講義9				
2022/8/4(木)			夏季強化講義10	夏季強化講義11	夏季強化講義12				
2022/8/5(金)			夏季強化講義13	夏季強化講義14	夏季強化講義15				
2022/8/6(土)									
2022/8/7(日)									
2022/8/8(月)									
2022/8/9(火)									
2022/8/10(水)									
2022/8/11(木)									
2022/8/12(金)									
2022/8/13(土)									
2022/8/14(日)									
2022/8/15(月)									
2022/8/16(火)									
2022/8/17(水)									
2022/8/18(木)						ガイダンス(後期朝礼2回分)			
2022/8/19(金)	後期1	15	衛生29	衛生30	社歯8	高齢22	高齢23	高齢24	FB36(生理／高齢)
2022/8/20(土)			確認試験(4－2)　8：50　出席確認3限分						
2022/8/21(日)									
2022/8/22(月)	後期2	15	有床29	有床30	管理8	麻酔22	麻酔23	麻酔24	FB37(管理／麻酔)
2022/8/23(火)	後期3	16	病理15	病理16	史英4	歯内22	歯内23	歯内24	FB38(薬理／災歯／史英)
2022/8/24(水)	後期4	15	解剖15	解剖16	イン8	小児22	小児23	小児24	FB39(小児／冠橋)
2022/8/25(木)	後期5	15	生材15	生材16	総医8	口内10	口内11	口内12	FB40(総医／生化)
2022/8/26(金)	後期6	16	衛生31	衛生32	生理8	矯正22	矯正23	矯正24	FB41(矯正／－)
2022/8/27(土)									
2022/8/28(日)									
2022/8/29(月)	後期7	16	有床31	有床32	医倫8	歯周22	歯周23	歯周24	FB42(歯周／－)
2022/8/30(火)	後期8	17	放射17	放射18	薬理9	修復25	修復26	修復27	FB43(修復／歯内)
2022/8/31(水)	後期9	16	組織15	組織16	障害8	冠橋22	冠橋23	冠橋24	FB44(イン／障害)
2022/9/1(木)	後期10	16	免疫15	免疫16	生化8	口外34	口外35	口外36	FB45(口外／口内)
2022/9/2(金)	後期11	17	衛生33	衛生34	社歯9	高齢25	高齢26	高齢27	
2022/9/3(土)									

(日) 付	朝礼 8:40		1	2	3	4	5	6	7 (16:30～17:00/17:00～17:30)
2022/9/4(日)									
2022/9/5(月)	後期12	17	有床33	有床34	管理9	麻酔25	麻酔26	麻酔27	
2022/9/6(火)			実力試験　5-A/B/C			実力試験　5-D/E/F			
2022/9/7(水)	後期13	17	解剖17	解剖18	イン9	小児25	小児26	小児27	
2022/9/8(木)	後期14	17	生材17	生材18	総医9	口外37	口外38	口外39	
2022/9/9(金)	後期15	18	衛生35	衛生36	生理9	矯正25	矯正26	矯正27	
2022/9/10(土)									実力試験5FB (70点未満：受講必須)
2022/9/11(日)									
2022/9/12(月)	後期16	18	有床35	有床36	医倫9	歯周25	歯周26	歯周27	FB46(有床／医倫)
2022/9/13(火)			模擬試験　1-1						FB47(放射／病理)
2022/9/14(水)			模擬試験　1-2						FB48(解剖／組織)
2022/9/15(木)	後期17	18	免疫17	免疫18	生化9	口外40	口外41	口外42	FB49(総医／生化)
2022/9/16(金)	後期18	19	衛生37	衛生38	社歯10	高齢28	高齢29	高齢30	FB50(生理／高齢)
2022/9/17(土)			確認試験(5－1)　8：50　出席確認3限分						
2022/9/18(日)									
2022/9/19(月)									
2022/9/20(火)			模擬試験　2-1						FB51(修復／歯内)
2022/9/21(水)			模擬試験　2-2						FB52(イン／障害)
2022/9/22(木)	後期19	19	生材19	生材20	総医10	口内13	口内14	口内15	FB53(口外／口内)
2022/9/23(金)									
2022/9/24(土)									
2022/9/25(日)									
2022/9/26(月)	後期20	19	有床37	有床38	管理10	麻酔28	麻酔29	麻酔30	FB54(歯周／－)
2022/9/27(火)	後期21	18	病理17	病理18	災歯5	歯内25	歯内26	歯内27	FB55(薬理／史英)
2022/9/28(水)	後期22	18	組織17	組織18	障害9	冠橋25	冠橋26	冠橋27	FB56(小児／冠橋)
2022/9/29(木)	後期23	20	免疫19	免疫20	生化10	口外43	口外44	口外45	FB57(生材／免疫)
2022/9/30(金)	後期24	20	衛生39	衛生40	生理10	矯正28	矯正29	矯正30	FB58(矯正／－)
2022/10/1(土)			確認試験(5－2)　8：50　出席確認3限分						
2022/10/2(日)									
2022/10/3(月)	後期25	20	有床39	有床40	医倫10	歯周28	歯周29	歯周30	FB59(管理／麻酔)
2022/10/4(火)	後期26	19	放射19	放射20	薬理10	修復28	修復29	修復30	
2022/10/5(水)	後期27	19	解剖19	解剖20	イン10	小児28	小児29	小児30	
2022/10/6(木)	後期28	21	生材21	生材22	総医11	口外46	口外47	口外48	
2022/10/7(金)	後期29	21	衛生41	衛生42	社歯11	高齢31	高齢32	高齢33	FB60(衛生／社歯)
2022/10/8(土)									
2022/10/9(日)									
2022/10/10(月)									
2022/10/11(火)	後期30	20	病理19	病理20	史英5	歯内28	歯内29	歯内30	
2022/10/12(水)	後期31	20	組織19	組織20	障害10	冠橋28	冠橋29	冠橋30	
2022/10/13(木)	後期32	22	免疫21	免疫22	生化11	口外49	口外50	口外51	
2022/10/14(金)			実力試験　6-A/B/C			実力試験　6-D/E/F			
2022/10/15(土)									
2022/10/16(日)									
2022/10/17(月)	後期33	21	有床41	有床42	管理11	麻酔31	麻酔32	麻酔33	
2022/10/18(火)	後期34	21	放射21	放射22	薬理11	修復31	修復32	修復33	実力試験6FB (70点未満：受講必須)
2022/10/19(水)	後期35	21	解剖21	解剖22	イン11	小児31	小児32	小児33	
2022/10/20(木)	後期36	23	生材23	生材24	総医12	口内16	口内17	口内18	FB61(生材／免疫)
2022/10/21(金)	後期37	22	衛生43	衛生44	生理11	矯正31	矯正32	矯正33	FB62(衛生／社歯)
2022/10/22(土)			確認試験(6－1)　8：50　出席確認3限分						
2022/10/23(日)									
2022/10/24(月)	後期38	22	有床43	有床44	医倫11	歯周31	歯周32	歯周33	FB63(有床／医倫)
2022/10/25(火)	後期39	22	病理21	病理22	災歯6	歯内31	歯内32	歯内33	FB64(放射／病理)
2022/10/26(水)	後期40	22	組織21	組織22	障害11	冠橋31	冠橋32	冠橋33	FB65(解剖／組織)
2022/10/27(木)			模擬試験　3-1						FB66(総医／生化)
2022/10/28(金)			模擬試験　3-2						FB67(生理／高齢)
2022/10/29(土)			確認試験(6－2)　8：50　出席確認3限分						
2022/10/30(日)									
2022/10/31(月)	後期41	23	有床45	有床46	管理12	麻酔34	麻酔35	麻酔36	FB68(管理／麻酔)
2022/11/1(火)	後期42	23	放射23	放射24	薬理12	修復34	修復35	修復36	FB69(薬理／災歯／史英)
2022/11/2(水)	後期43	23	解剖23	解剖24	イン12	小児34	小児35	小児36	FB70(イン／障害)
2022/11/3(木)									
2022/11/4(金)	後期44	23	衛生45	衛生46	社歯12	高齢34	高齢35	高齢36	FB71(矯正／－)
2022/11/5(土)									
2022/11/6(日)									
2022/11/7(月)			模擬試験　4－1						FB72(歯周／－)
2022/11/8(火)			模擬試験　4－2						FB73(修復／歯内)
2022/11/9(水)	後期45	24	組織23	組織24	障害12	冠橋34	冠橋35	冠橋36	FB74(小児／冠橋)
2022/11/10(木)	後期46	24	免疫23	免疫24	生化12	口外52	口外53	口外54	FB75(口外／口内)
2022/11/11(金)	後期47	24	衛生47	衛生48	生理12	矯正34	矯正35	矯正36	
2022/11/12(土)									
2022/11/13(日)									
2022/11/14(月)	後期48	24	有床47	有床48	医倫12	歯周34	歯周35	歯周36	
2022/11/15(火)	後期49	24	病理23	病理24	史英6	歯内34	歯内35	歯内36	
2022/11/16(水)	後期50	25	解剖25	解剖26	イン13	小児37	小児38	小児39	
2022/11/17(木)			卒業試験　1－1						
2022/11/18(金)			卒業試験　1－2						
2022/11/19(土)									
2022/11/20(日)									

(日) 付	朝礼 8:40		1	2	3	4	5	6	7 (16:30～17:00/17:00～17:30)
2022/11/21(月)	後期51	25	有床49	有床50	管理13	麻酔37	麻酔38	麻酔39	
2022/11/22(火)	後期52	25	放射25	放射26	薬理13	修復37	修復38	修復39	
2022/11/23(水)									
2022/11/24(木)	後期53	25	生材25	生材26	総医13	口外55	口外56	口外57	
2022/11/25(金)	後期54	25	衛生49	衛生50	社歯13	高齢37	高齢38	高齢39	
2022/11/26(土)									
2022/11/27(日)									
2022/11/28(月)	後期55	26	有床51	有床52	医倫13	歯周37	歯周38	歯周39	
2022/11/29(火)	後期56	26	病理25	病理26	災歯7	歯内37	歯内38	歯内39	
2022/11/30(水)	後期57	26	組織25	組織26	障害13	冠橋37	冠橋38	冠橋39	
2022/12/1(木)	後期58	26	免疫25	免疫26	生化13	口外58	口外59	口外60	
2022/12/2(金)	後期59	26	衛生51	衛生52	生理13	矯正37	矯正38	矯正39	
2022/12/3(土)									
2022/12/4(日)									
2022/12/5(月)	後期60	27	有床53	有床54	管理14	麻酔40	麻酔41	麻酔42	
2022/12/6(火)	後期61	27	放射27	放射28	薬理14	修復40	修復41	修復42	
2022/12/7(水)	後期62	27	解剖27	解剖28	イン14	小児40	小児41	小児42	
2022/12/8(木)	後期63	27	生材27	生材28	総医14	口内19	口内20	口内21	
2022/12/9(金)	後期64	27	衛生53	衛生54	社歯14	高齢40	高齢41	高齢42	
2022/12/10(土)									
2022/12/11(日)									
2022/12/12(月)	後期65	28	有床55	有床56	医倫14	歯周40	歯周41	歯周42	
2022/12/13(火)	後期66	28	病理27	病理28	史英7	歯内40	歯内41	歯内42	
2022/12/14(水)	後期67	28	組織27	組織28	障害14	冠橋40	冠橋41	冠橋42	
2022/12/15(木)	後期68	28	免疫27	免疫28	生化14	口外61	口外62	口外63	
2022/12/16(金)	後期69	28	衛生55	衛生56	生理14	矯正40	矯正41	矯正42	
2022/12/17(土)									
2022/12/18(日)									
2022/12/19(月)			卒業試験　2－1						
2022/12/20(火)			卒業試験　2－2						
2022/12/21(水)									
2022/12/22(木)			模擬試験　5－1						
2022/12/23(金)			模擬試験　5－2						
2022/12/24(土)									
2022/12/25(日)									
2022/12/26(月)			模擬試験　6－1						
2022/12/27(火)			模擬試験　6－2						
2022/12/28(水)									
2022/12/29(木)									
2022/12/30(金)									
2022/12/31(土)									
2023/1/1(日)									
2023/1/2(月)									
2023/1/3(火)									
2023/1/4(水)									
2023/1/5(木)									
2023/1/6(金)									
2023/1/7(土)									
2023/1/8(日)									
2023/1/9(月)									
2023/1/10(火)			卒業試験　3－1						
2023/1/11(水)			卒業試験　3－2						
2023/1/12(木)			冬季強化講義1	冬季強化講義2	冬季強化講義3				
2023/1/13(金)			冬季強化講義4	冬季強化講義5	冬季強化講義6				
2023/1/14(土)									
2023/1/15(日)									
2023/1/16(月)			冬季強化講義7	冬季強化講義8	冬季強化講義9				
2023/1/17(火)			冬季強化講義10	冬季強化講義11	冬季強化講義12				
2023/1/18(水)			冬季強化講義13	冬季強化講義14	冬季強化講義15				
2023/1/19(木)			卒業予定者発表						
2023/1/20(金)			冬季強化講義16	冬季強化講義17	冬季強化講義18				
2023/1/21(土)									
2023/1/22(日)									
2023/1/23(月)			冬季強化講義19	冬季強化講義20	冬季強化講義21				
2023/1/24(火)			冬季強化講義22	冬季強化講義23	冬季強化講義24				
2023/1/25(水)			冬季強化講義25	冬季強化講義26	冬季強化講義27				
2023/1/26(木)			冬季強化講義28	冬季強化講義29	冬季強化講義30				
2023/1/27(金)			冬季強化講義31	冬季強化講義32	冬季強化講義33				
2023/1/28(土)									
2023/1/29(日)									
2023/1/30(月)			冬季強化講義34	冬季強化講義35	冬季強化講義36				
2023/1/31(火)			冬季強化講義37	冬季強化講義38	冬季強化講義39				
2023/2/1(水)			冬季強化講義40	冬季強化講義41	冬季強化講義42				
2023/2/2(木)			冬季強化講義43	冬季強化講義44	冬季強化講義45				
2023/2/3(金)		未定	国試出発						
2023/2/4(土)		未定	国試　116-1						
2023/2/5(日)		未定	国試　116-2						

歯学教育モデル・コア・カリキュラム

平成28年度改訂版

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm

モデル・コア・カリキュラム改定に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改定に関する専門教育委員会

歯科医師国家試験出題基準

平成30年版

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627.html

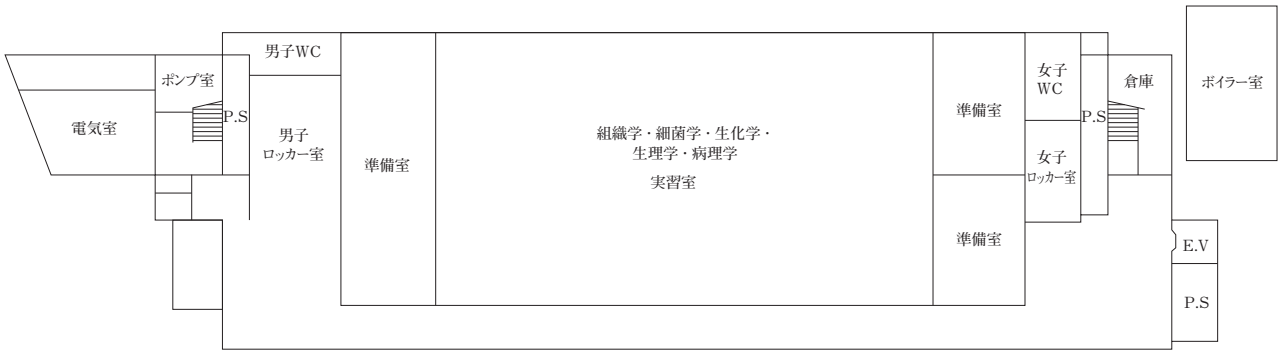
厚生労働省医政局歯科保健課

Ⅳ. 構 内 案 内 図

1．構内案内図

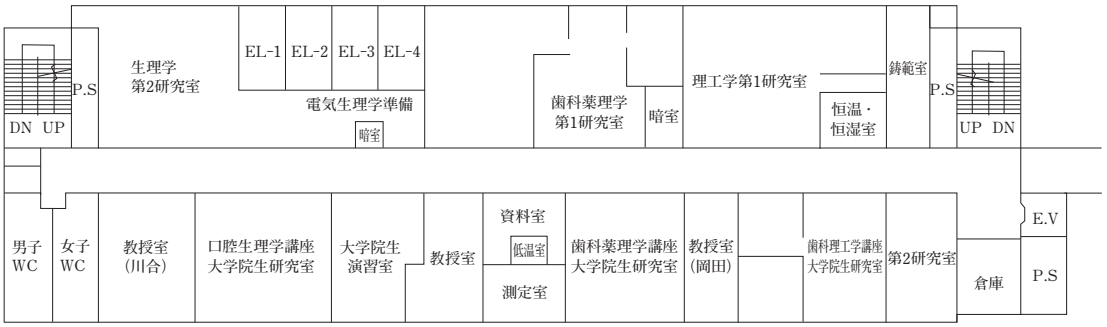
2．基礎医学研究棟案内図

1 階

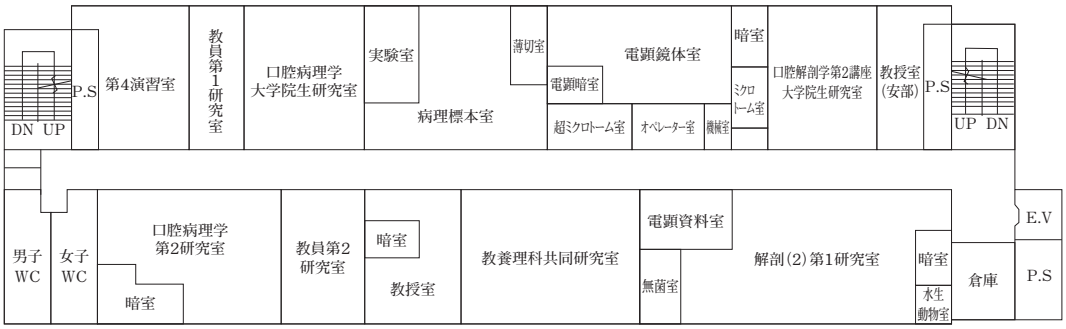


2 階

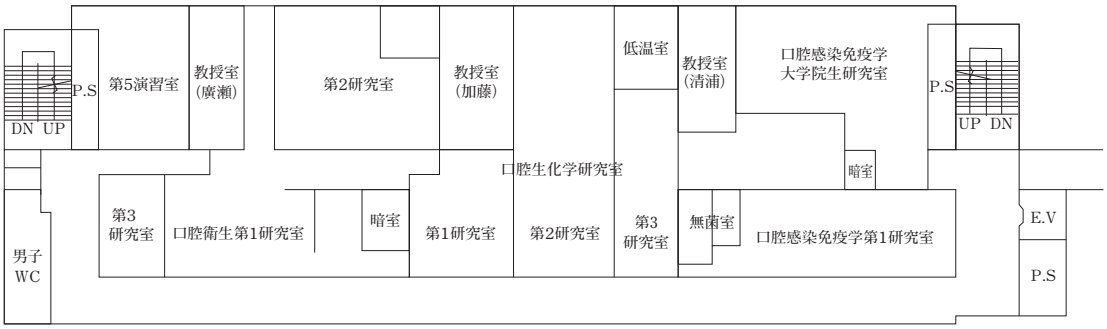
3 階



4 階

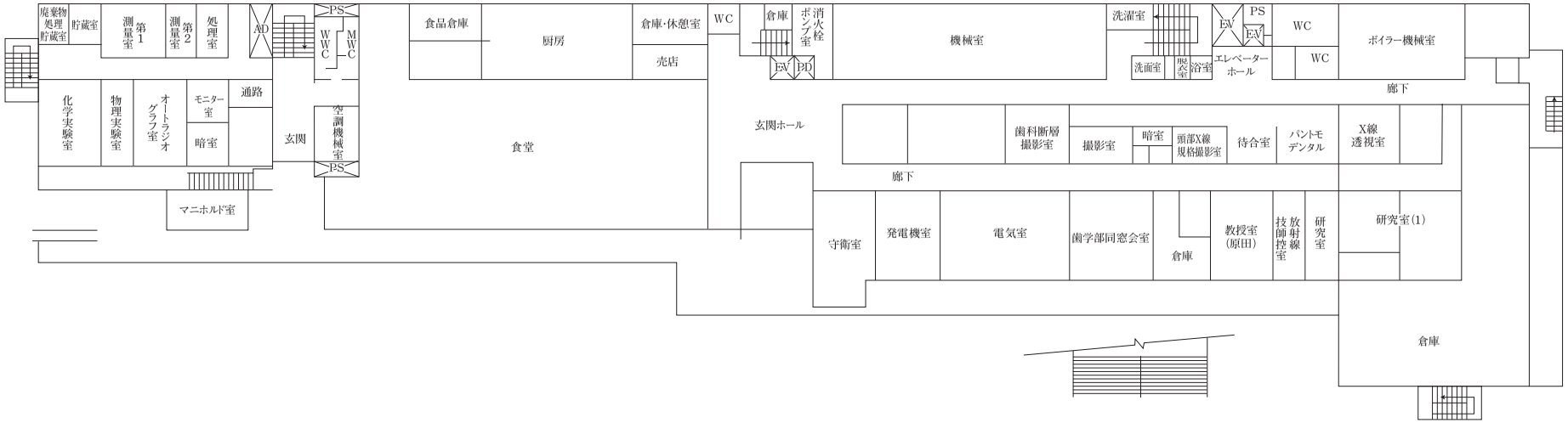

DN UP
P.S
第4演習室
教員第1研究室
口腔病理学大学院生研究室
実験室
病理標本室
薄切室
電顕暗室
電顕鏡体室
超ミクロトーム室
オペレーター室
暗室
ミクロトーム室
口腔解剖学第2講座大学院生研究室
教授室(安部)
P.S
UP DN
男子WC
女子WC
口腔病理学第2研究室
暗室
教員第2研究室
暗室
教授室
教養理科共同研究室
電顕資料室
無菌室
解剖(2)第1研究室
暗室
水生動物室
倉庫
E.V
P.S

5 階


DN UP
P.S
第5演習室
教授室(廣瀬)
第2研究室
教授室(加藤)
低温室
教授室(清浦)
口腔感染免疫学大学院生研究室
P.S
UP DN
暗室
口腔生化学研究室
第3研究室
口腔衛生第1研究室
暗室
第1研究室
第2研究室
第3研究室
無菌室
口腔感染免疫学第1研究室
男子WC
E.V
P.S

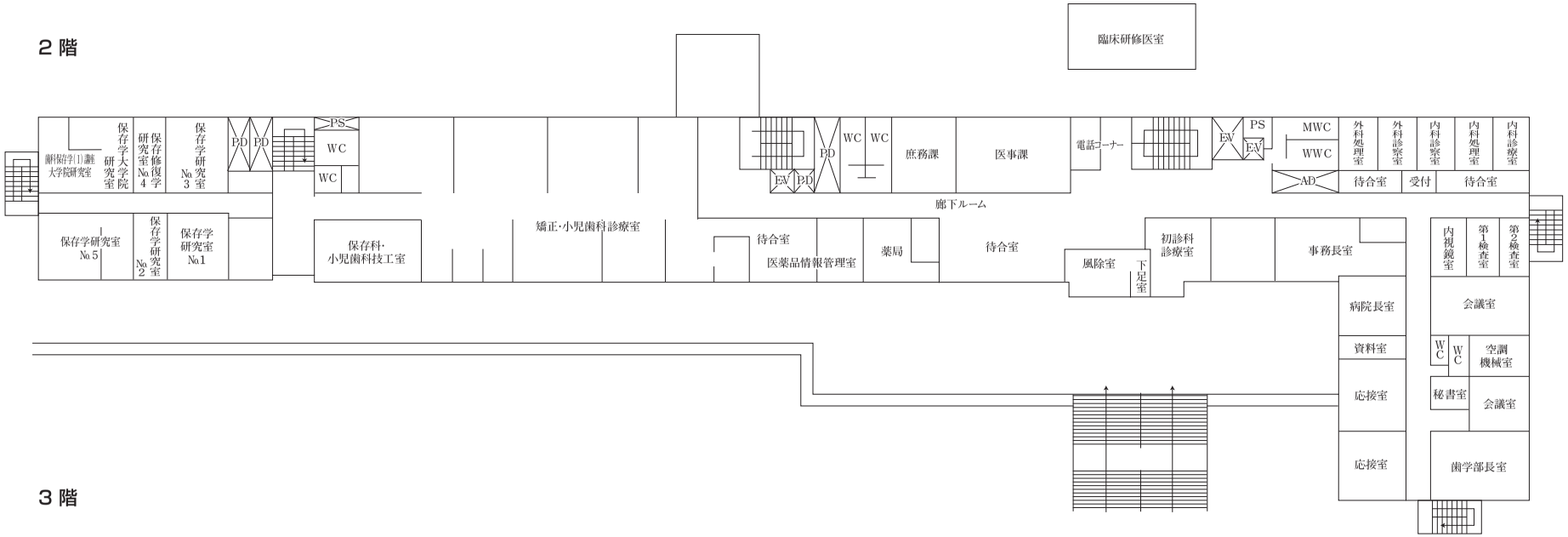
3. 附属病院棟 案内図

1階

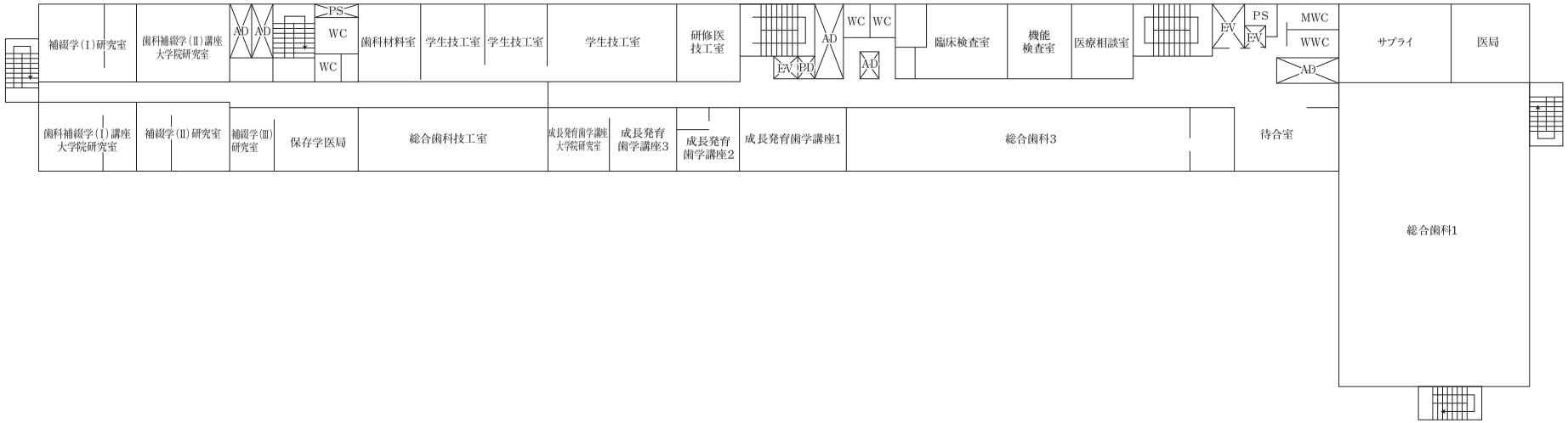


オイルタンク室

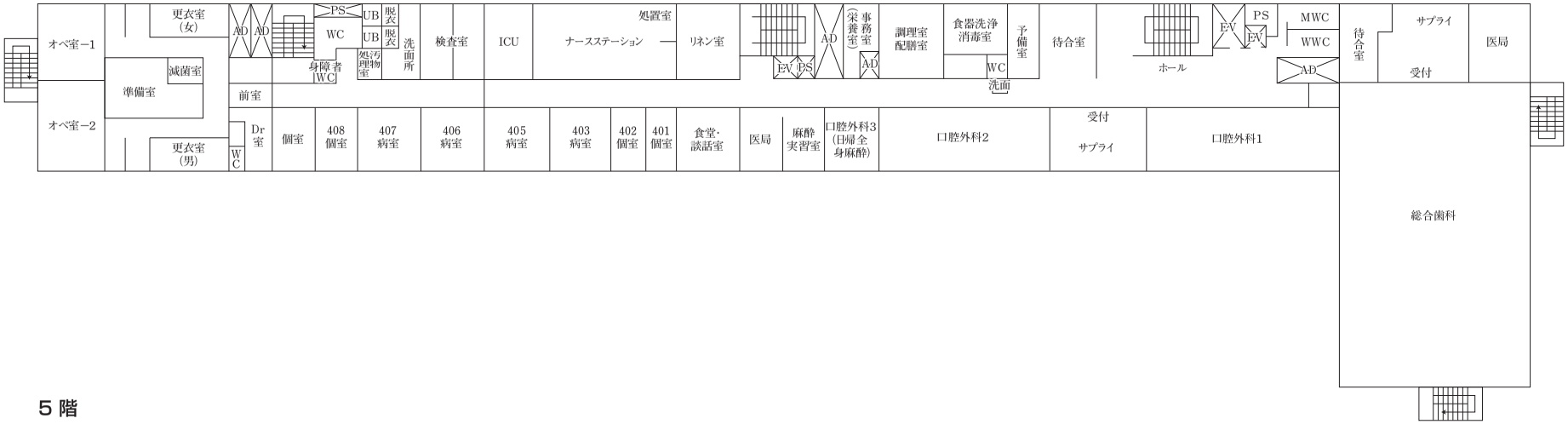
2階


臨床研修医室
歯科保存学(Ⅰ)講座 大学院研究室
保存学大学院研究室
保存修復学研究室No.4
保存学研究室No.3
PD
PD
PS
WC
WC
EV
PD
PD
WC
WC
庶務課
医事課
電話コーナー
EV
PS
EV
MWC
WWC
AD
外科処理室
外科診察室
内科診察室
内科処理室
内科診察室
待合室
受付
待合室
廊下ルーム
保存学研究室No.5
保存学研究室No.2
保存学研究室No.1
保存科・小児歯科技工室
矯正・小児歯科診療室
待合室
医薬品情報管理室
薬局
待合室
風除室
下足室
初診科診療室
事務長室
内視鏡室
第1検査室
第2検査室
病院長室
会議室
資料室
WC
WC
空調機械室
応接室
秘書室
会議室
応接室
歯学部長室

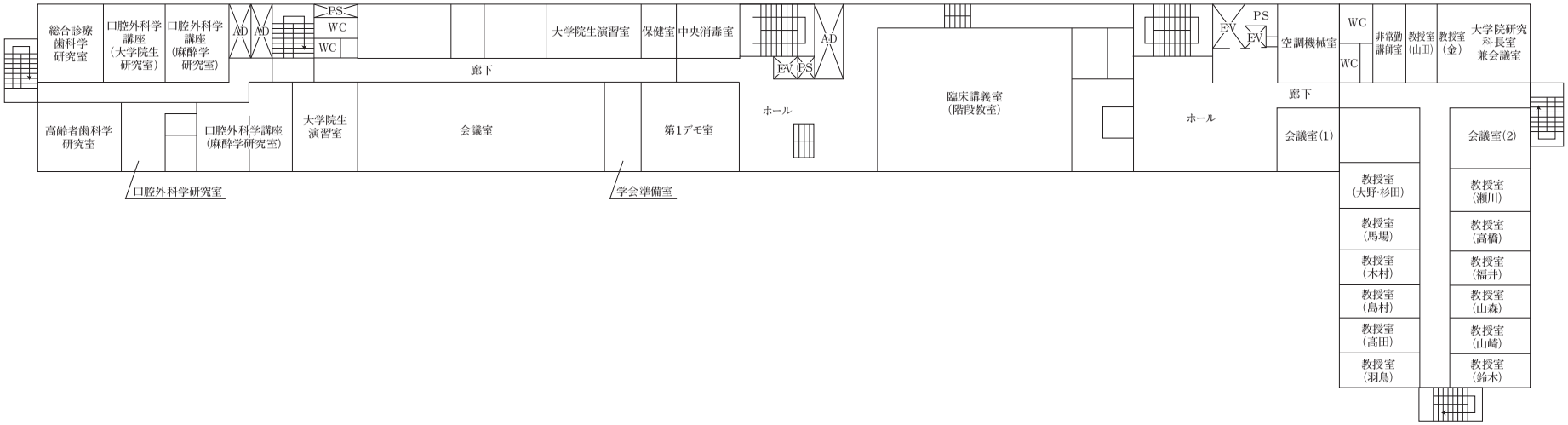
3階


補綴学(Ⅰ)研究室
歯科補綴学(Ⅱ)講座大学院研究室
AD
AD
PS
WC
WC
歯科材料室
学生技工室
学生技工室
学生技工室
研修医技工室
EV
PD
AD
WC
WC
AD
臨床検査室
機能検査室
医療相談室
EV
PS
EV
MWC
WWC
AD
サプライ
医局
歯科補綴学(Ⅰ)講座大学院研究室
補綴学(Ⅱ)研究室
補綴学(Ⅲ)研究室
保存学医局
総合歯科技工室
成長発育歯学講座大学院研究室
成長発育歯学講座3
成長発育歯学講座2
成長発育歯学講座1
総合歯科3
待合室
総合歯科1

4階

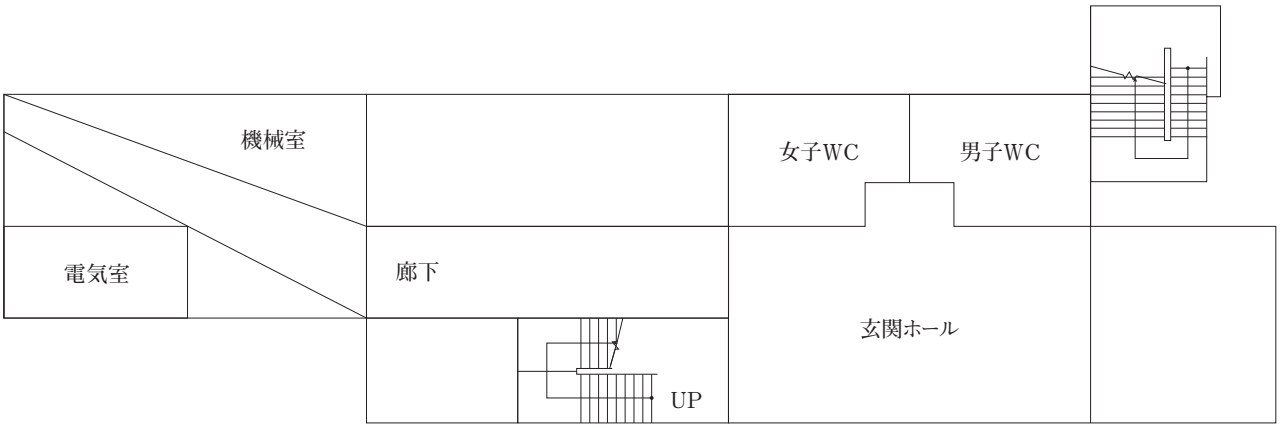

オペ室−1
オペ室−2
更衣室（女）
更衣室（男）
準備室
滅菌室
前室
Dr室
WC
AD
AD
PS
WC
身障者WC
UB
UB
処理物室
脱衣
脱衣
洗面所
検査室
ICU
処置室
ナースステーション
リネン室
EV
PS
AD
（栄養室）
事務室
AD
調理室
配膳室
食器洗浄消毒室
WC
洗面
予備室
待合室
ホール
EV
EV
PS
MWC
WWC
AD
待合室
サプライ
受付
医局
総合歯科
個室
408個室
407病室
406病室
405病室
403病室
402個室
401個室
食堂・談話室
医局
麻酔実習室
口腔外科3（日帰全身麻酔）
口腔外科2
受付
サプライ
口腔外科1

5階

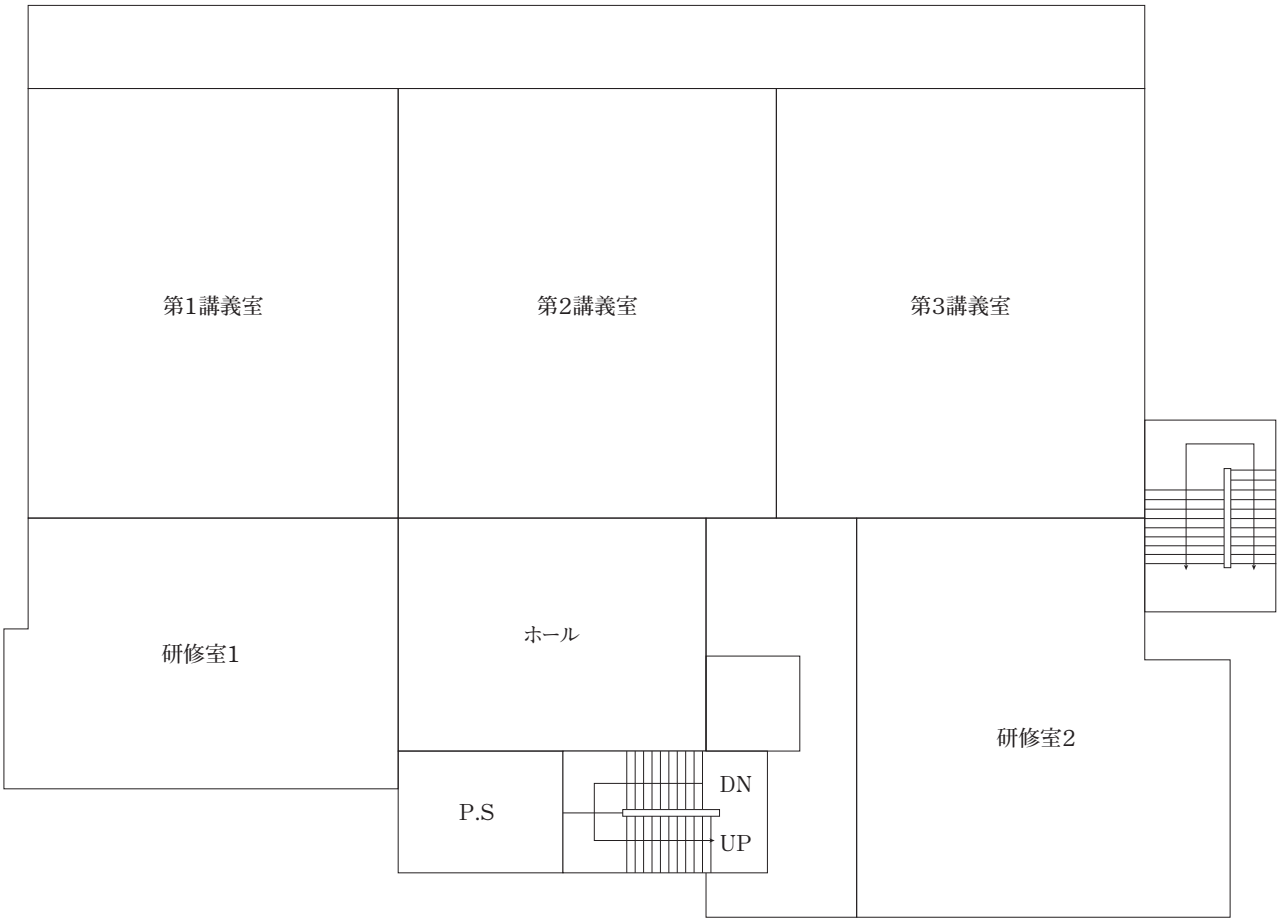

総合診療歯科学研究室
口腔外科学講座（大学院生研究室）
口腔外科学講座（麻酔学研究室）
AD
AD
PS
WC
WC
廊下
大学院生演習室
保健室
中央消毒室
EV
PS
AD
ホール
臨床講義室（階段教室）
ホール
EV
EV
PS
空調機械室
廊下
WC
WC
非常勤講師室
教授室（山田）
教授室（金）
大学院研究科長室兼会議室
高齢者歯科学研究室
口腔外科学講座（麻酔学研究室）
大学院生演習室
会議室
第1デモ室
会議室(1)
会議室(2)
教授室（大野・杉田）
教授室（瀬川）
教授室（馬場）
教授室（高橋）
教授室（木村）
教授室（福井）
教授室（島村）
教授室（山森）
教授室（髙田）
教授室（山崎）
教授室（羽鳥）
教授室（鈴木）
口腔外科学研究室
学会準備室

４．講義棟案内図

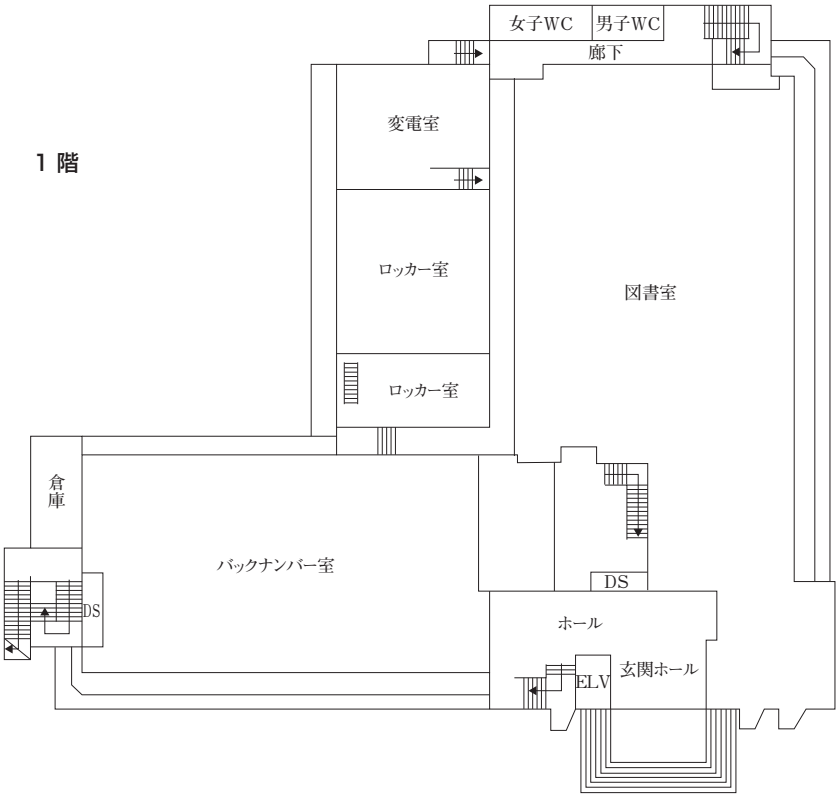
１階

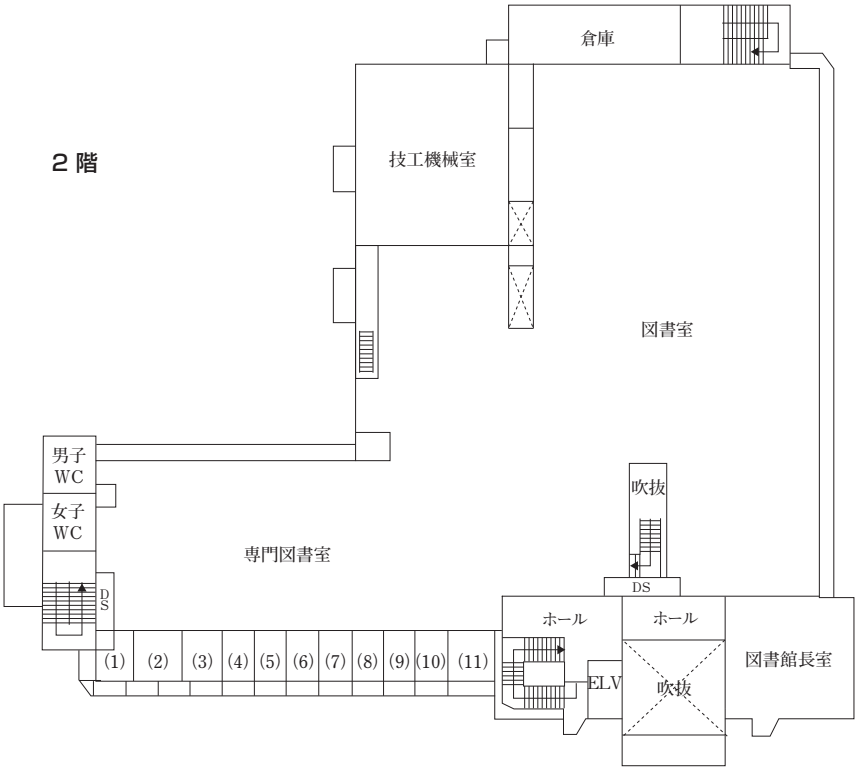


２階

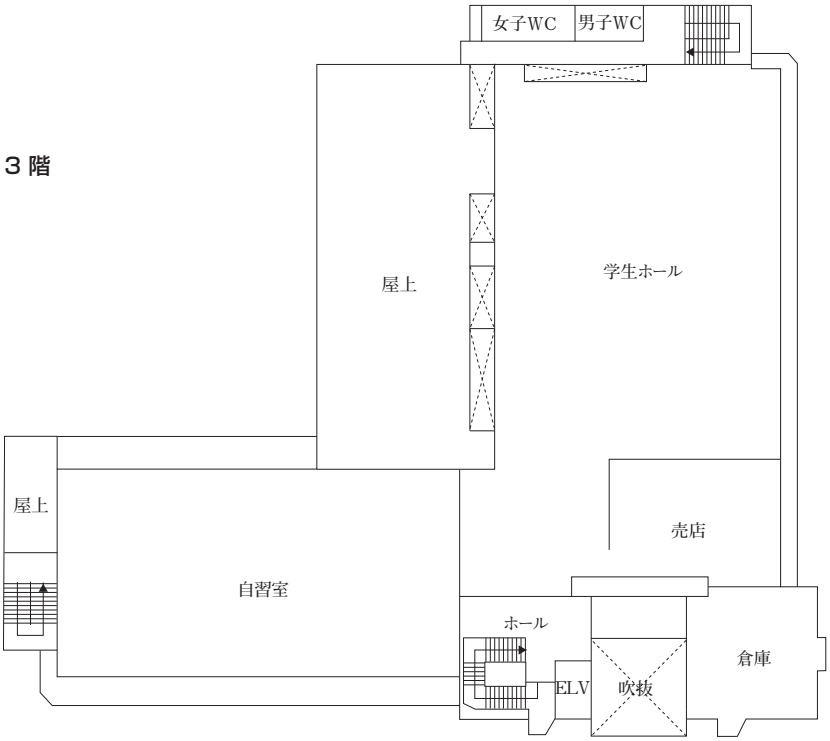


5．中央棟案内図

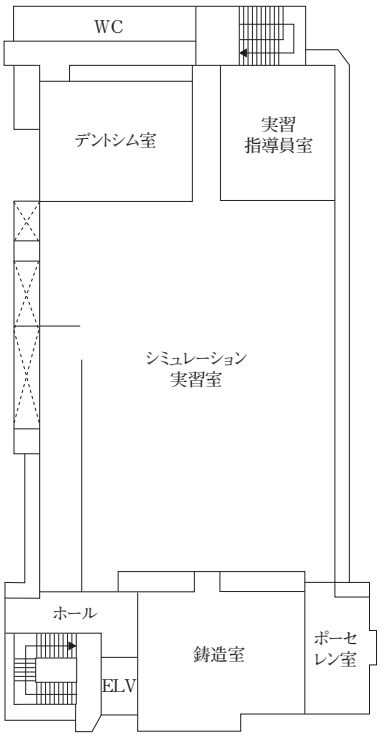

1 階
女子WC
男子WC
廊下
変電室
ロッカー室
ロッカー室
図書室
倉庫
バックナンバー室
DS
DS
ホール
ELV
玄関ホール


2 階
倉庫
技工機械室
図書室
男子WC
女子WC
DS
専門図書室
吹抜
DS
ホール
ホール
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
ELV
吹抜
図書館長室

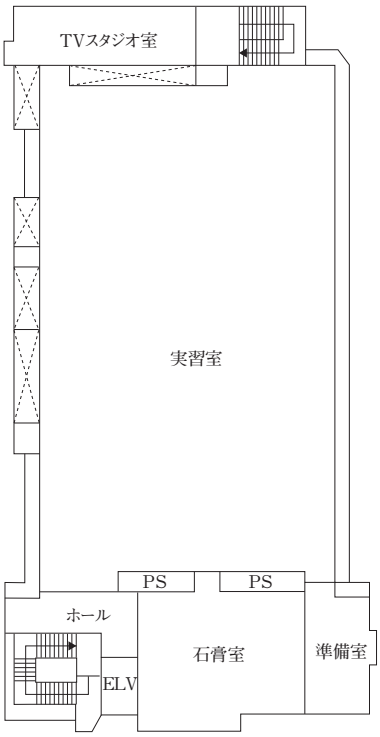
3階


女子WC
男子WC
屋上
学生ホール
屋上
売店
自習室
ホール
倉庫
ELV
吹抜

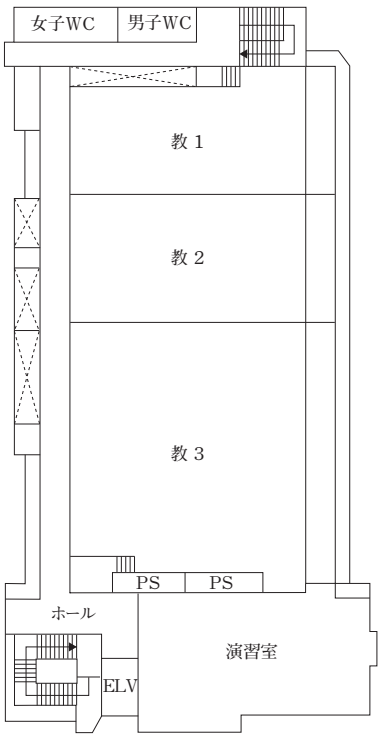
4階


WC
デントシム室
実習
指導員室
シミュレーション
実習室
ホール
鋳造室
ポーセ
レン室
ELV

5階

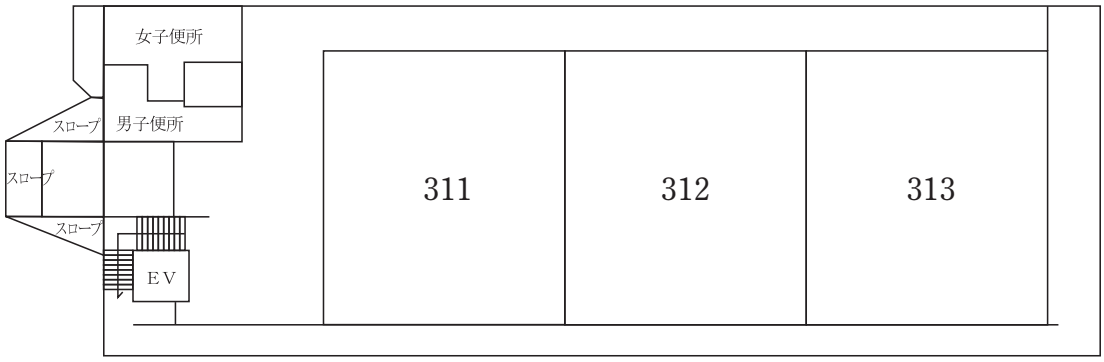

TVスタジオ室
実習室
PS
PS
ホール
石膏室
準備室
ELV

6階

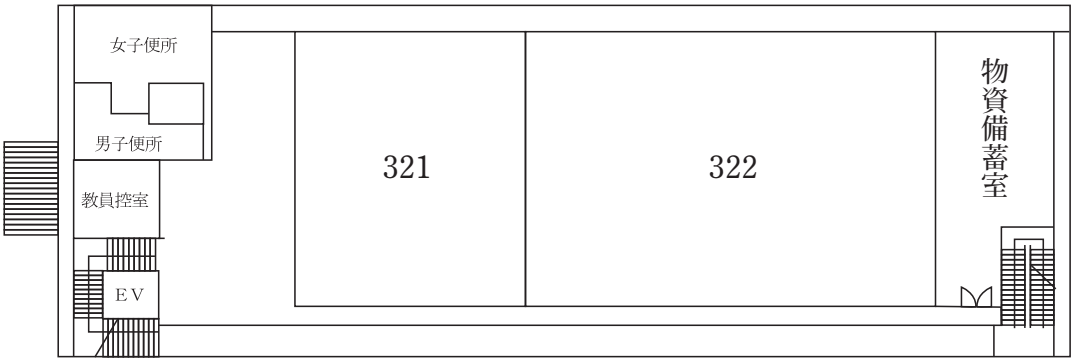

女子WC
男子WC
教 1
教 2
教 3
PS
PS
ホール
演習室
ELV

６．第３講義棟案内図

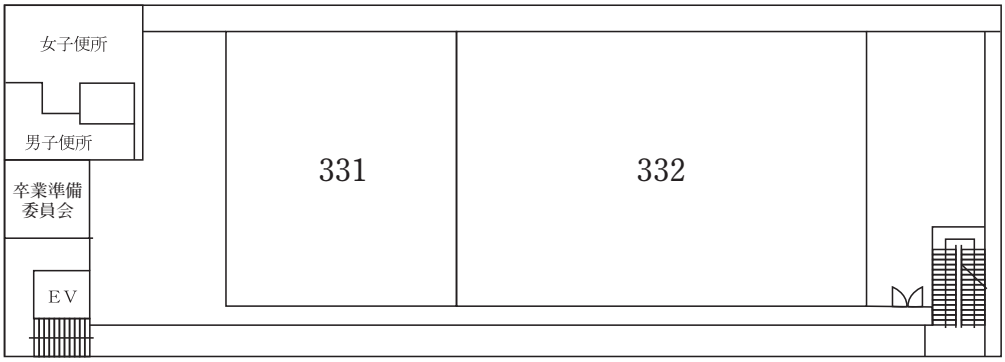
1階



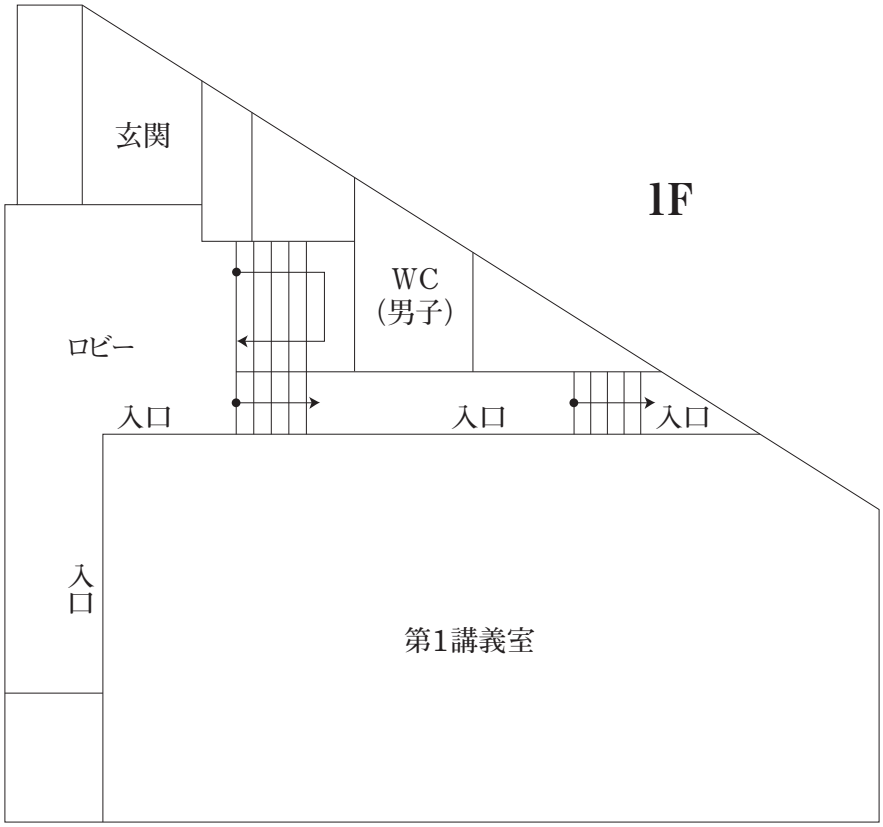
2階

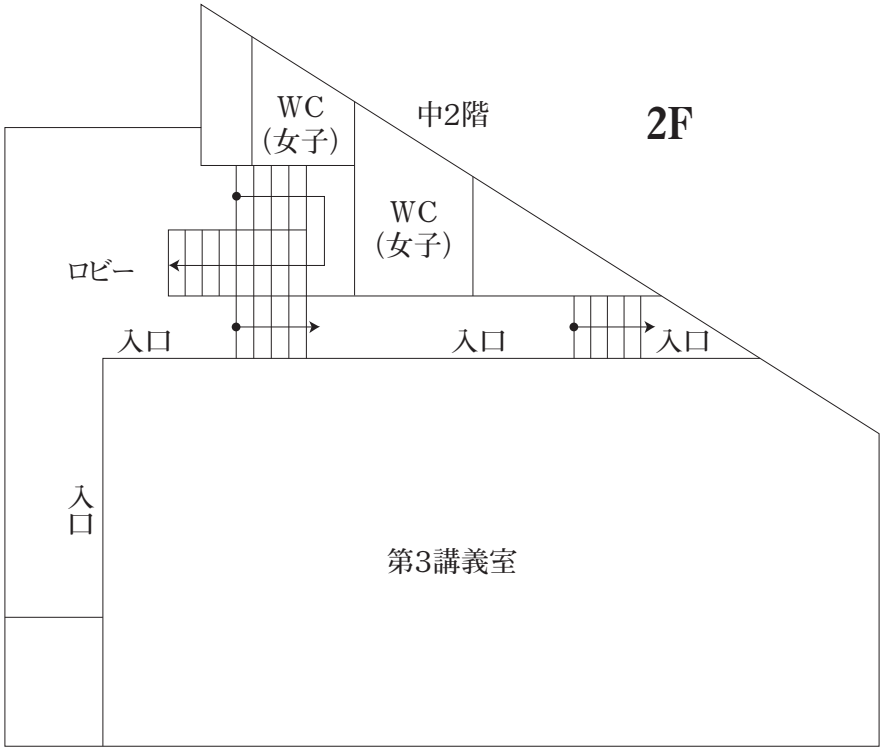


3階

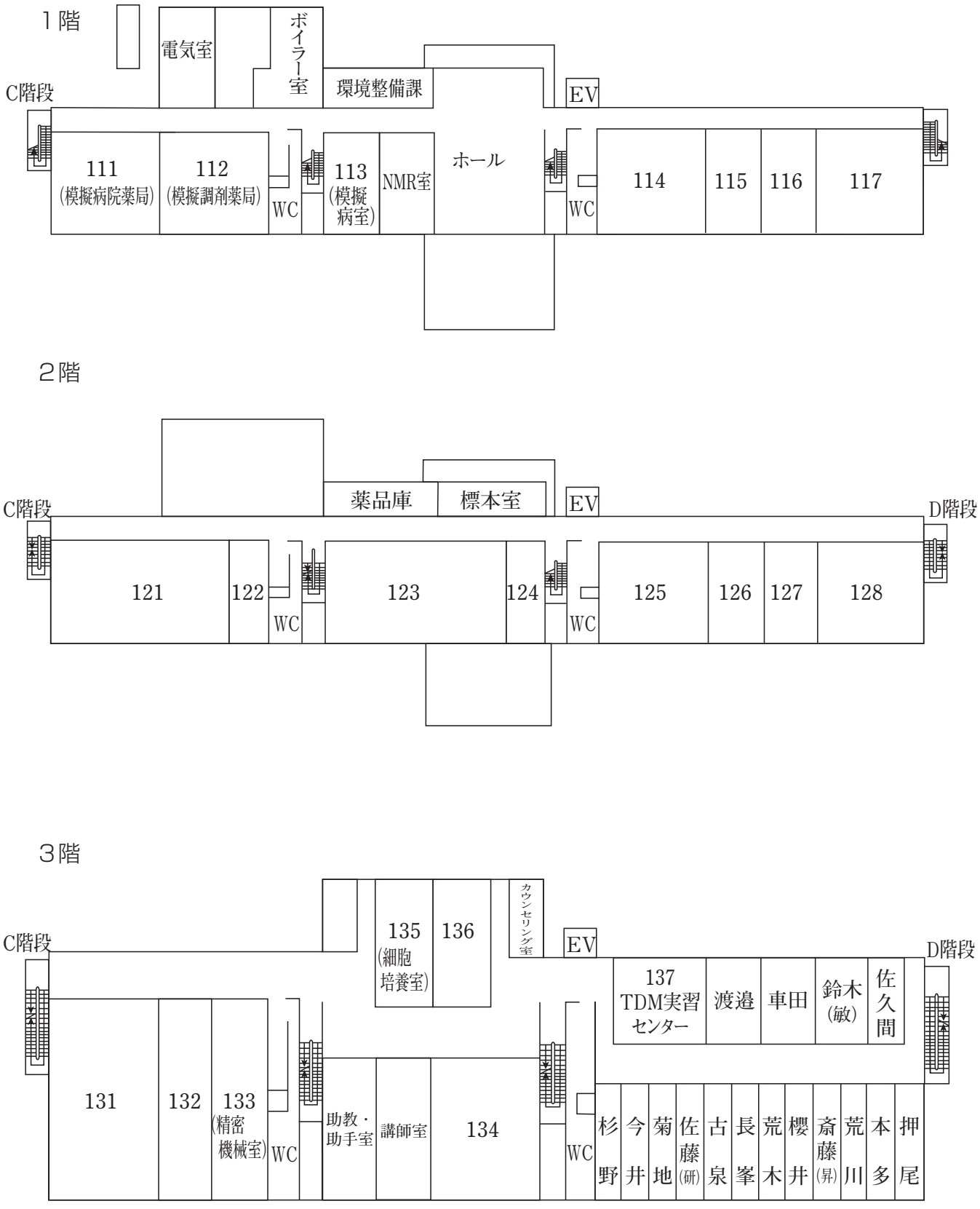


7．第２講義棟案内図


玄関
1F
WC
(男子)
ロビー
入口
入口
入口
入口
第1講義室

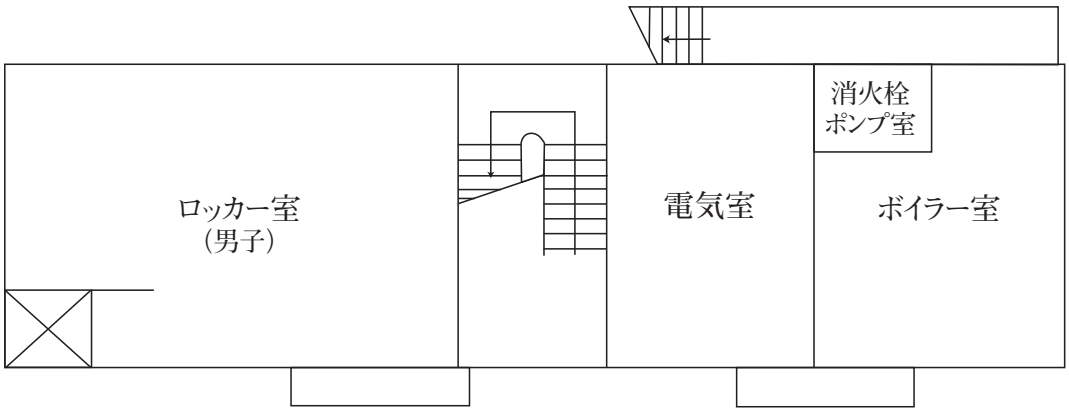

WC
(女子)
中2階
2F
WC
(女子)
ロビー
入口
入口
入口
入口
第3講義室

8．薬学実習棟案内図

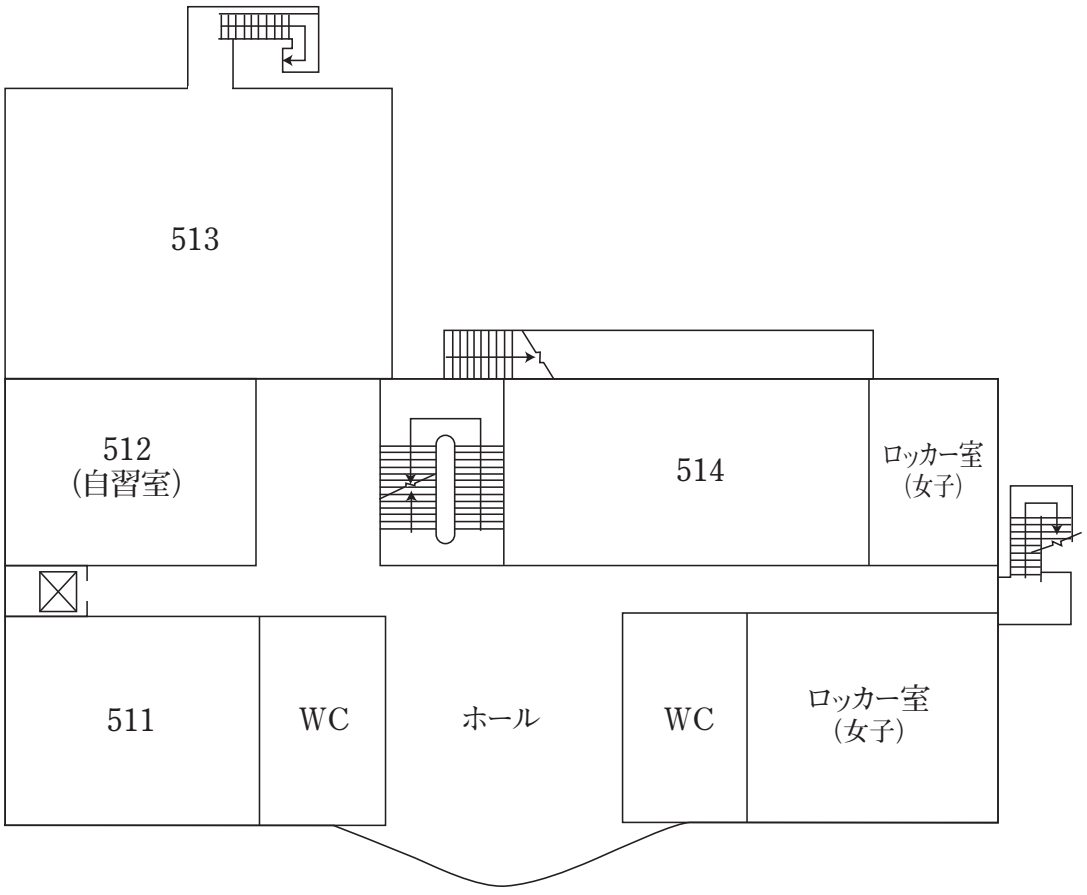

1階
電気室
ボイラー室
環境整備課
EV
C階段
111
(模擬病院薬局)
112
(模擬調剤薬局)
WC
113
(模擬病室)
NMR室
ホール
WC
114
115
116
117
2階
薬品庫
標本室
EV
C階段
D階段
121
122
WC
123
124
WC
125
126
127
128
3階
135
(細胞培養室)
136
カウンセリング室
EV
C階段
D階段
137
TDM実習センター
渡邉
車田
鈴木(敏)
佐久間
131
132
133
(精密機械室)
WC
助教・助手室
講師室
134
WC
杉野
今井
菊地
佐藤(研)
古泉
長峯
荒木
櫻井
斎藤(昇)
荒川
本多
押尾

９．薬学部棟案内図

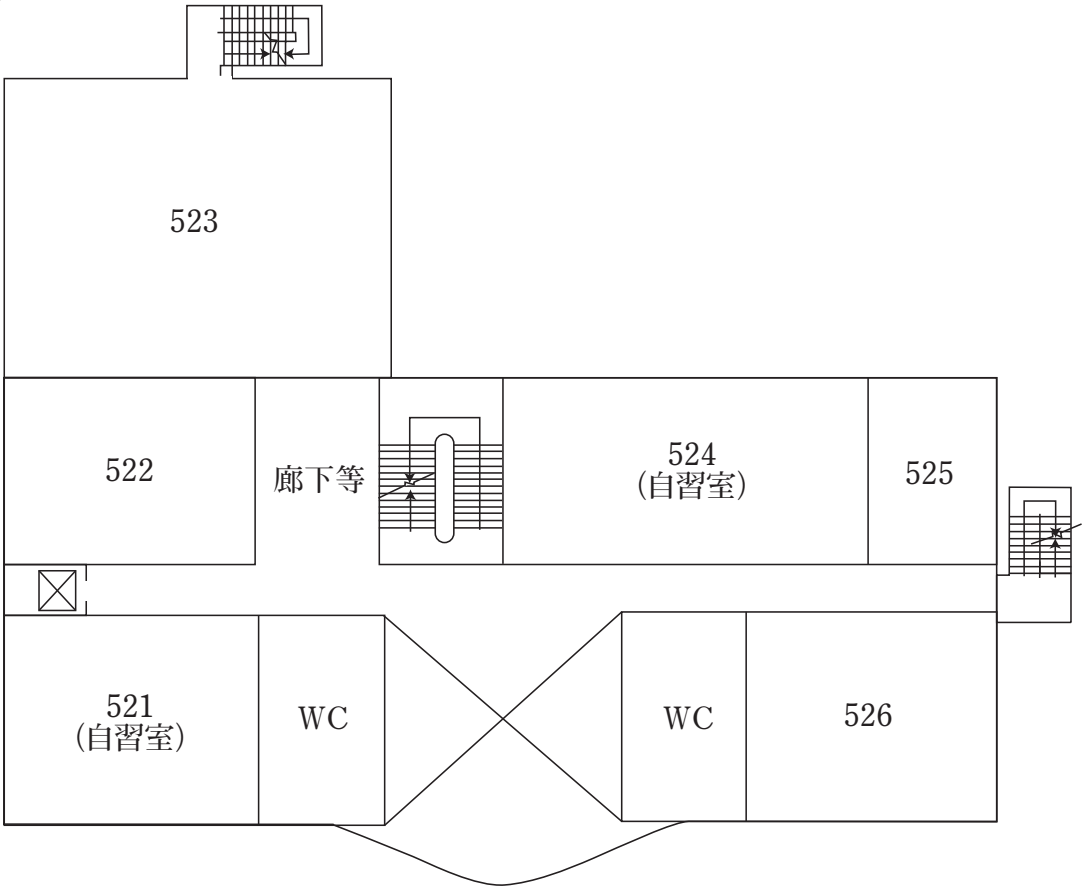
Ｂ１階



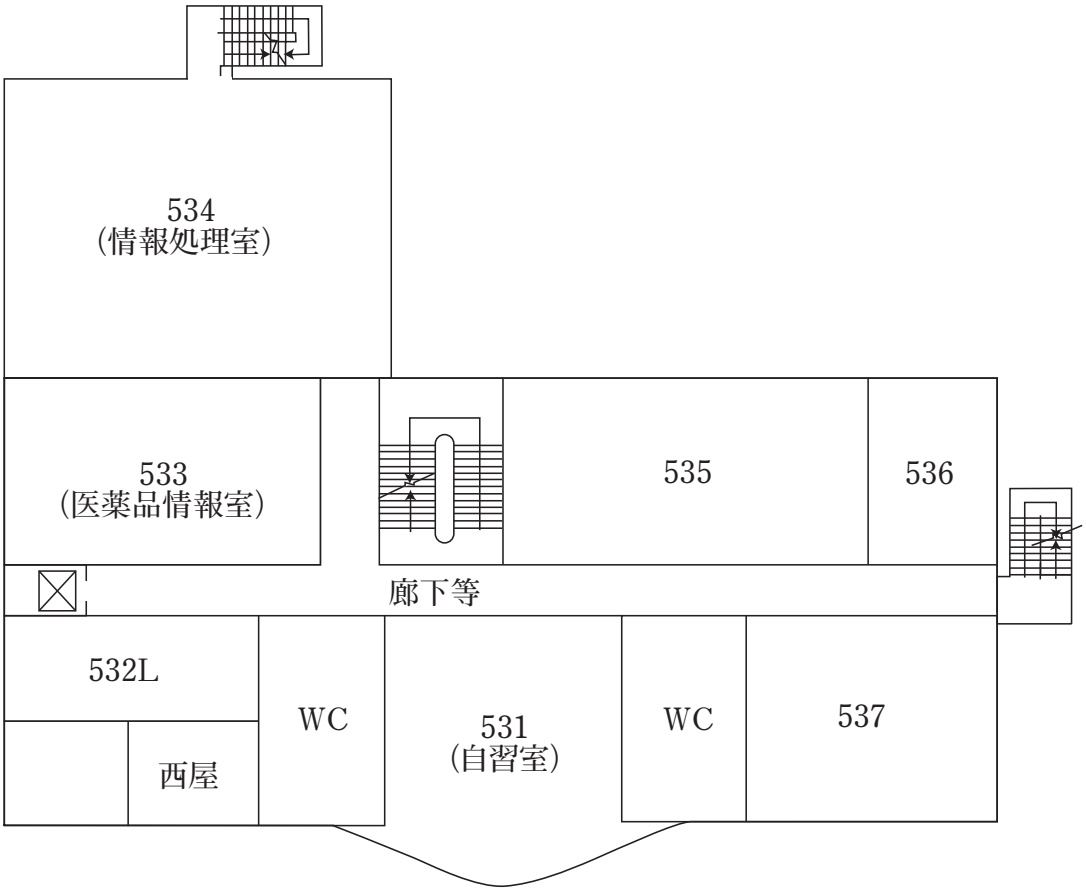
１階



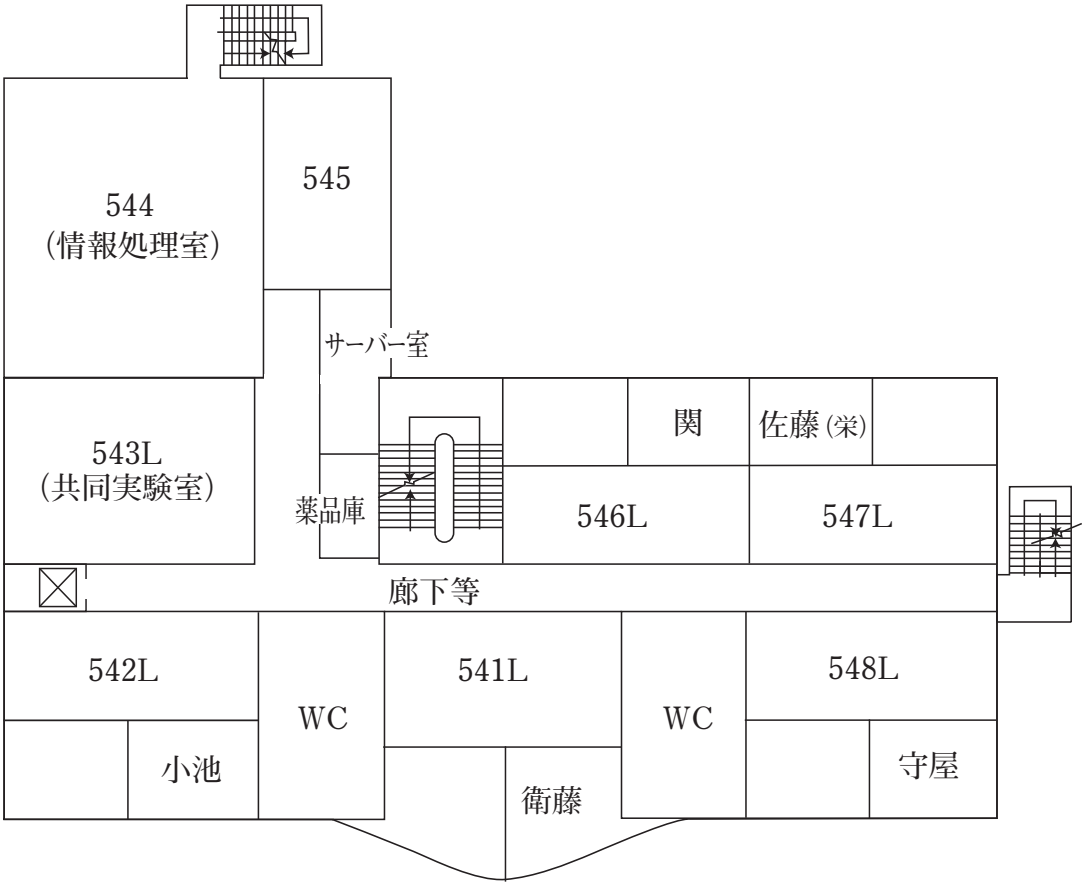
2階


523
522
廊下等
524
(自習室)
525
521
(自習室)
WC
WC
526

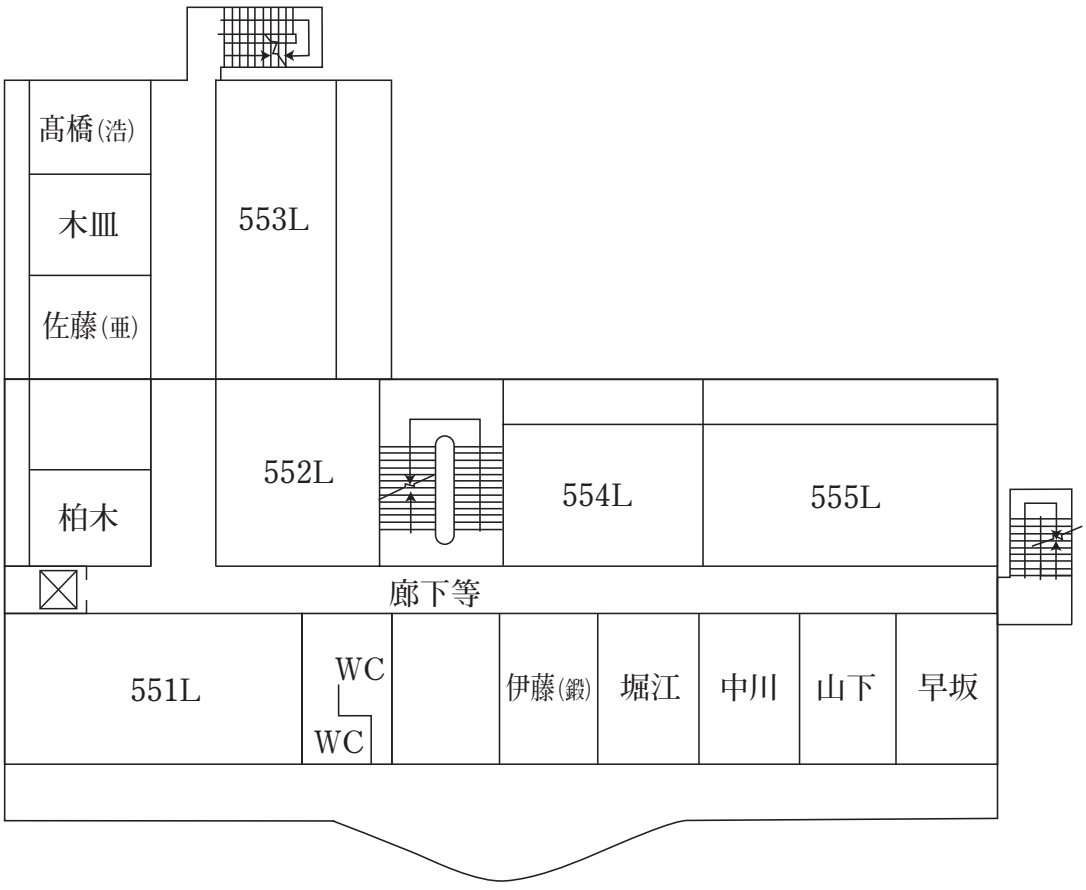
3階


534
(情報処理室)
533
(医薬品情報室)
535
536
廊下等
532L
西屋
WC
531
(自習室)
WC
537

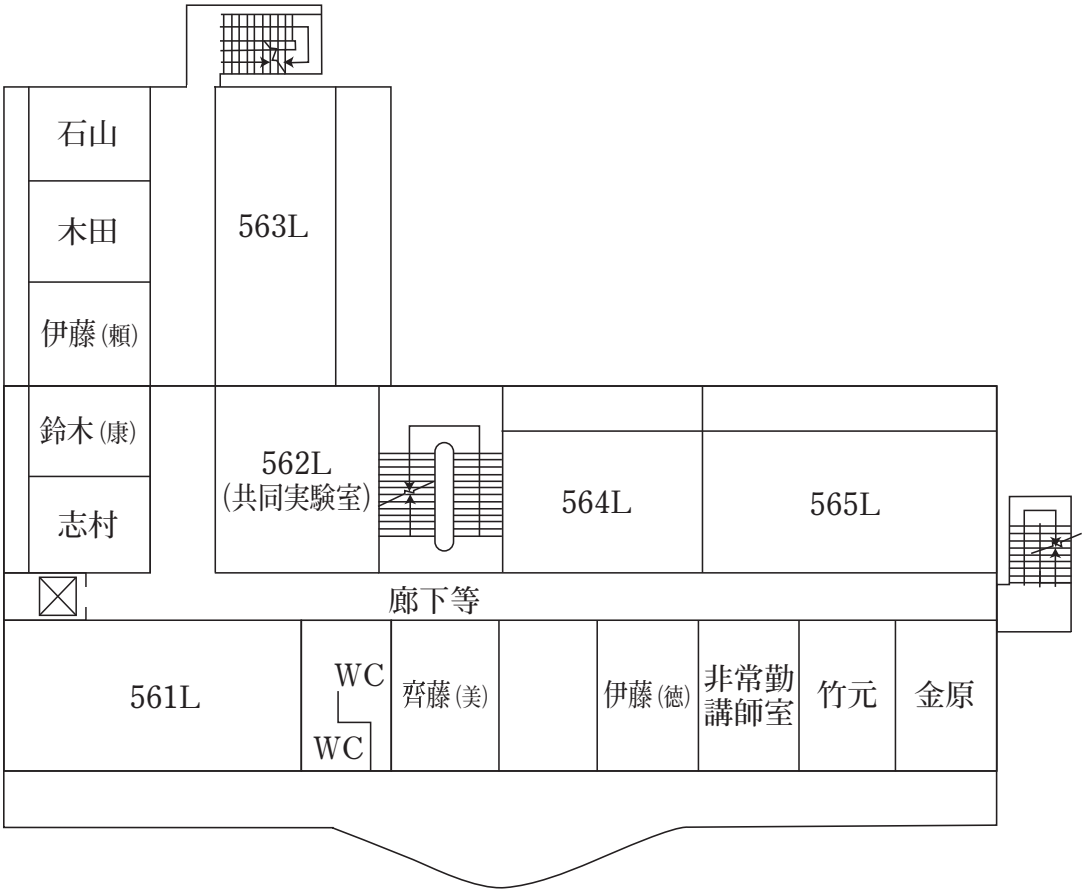
4階


544
(情報処理室)
545
サーバー室
543L
(共同実験室)
薬品庫
関
佐藤(栄)
546L
547L
廊下等
542L
WC
541L
WC
548L
小池
衛藤
守屋

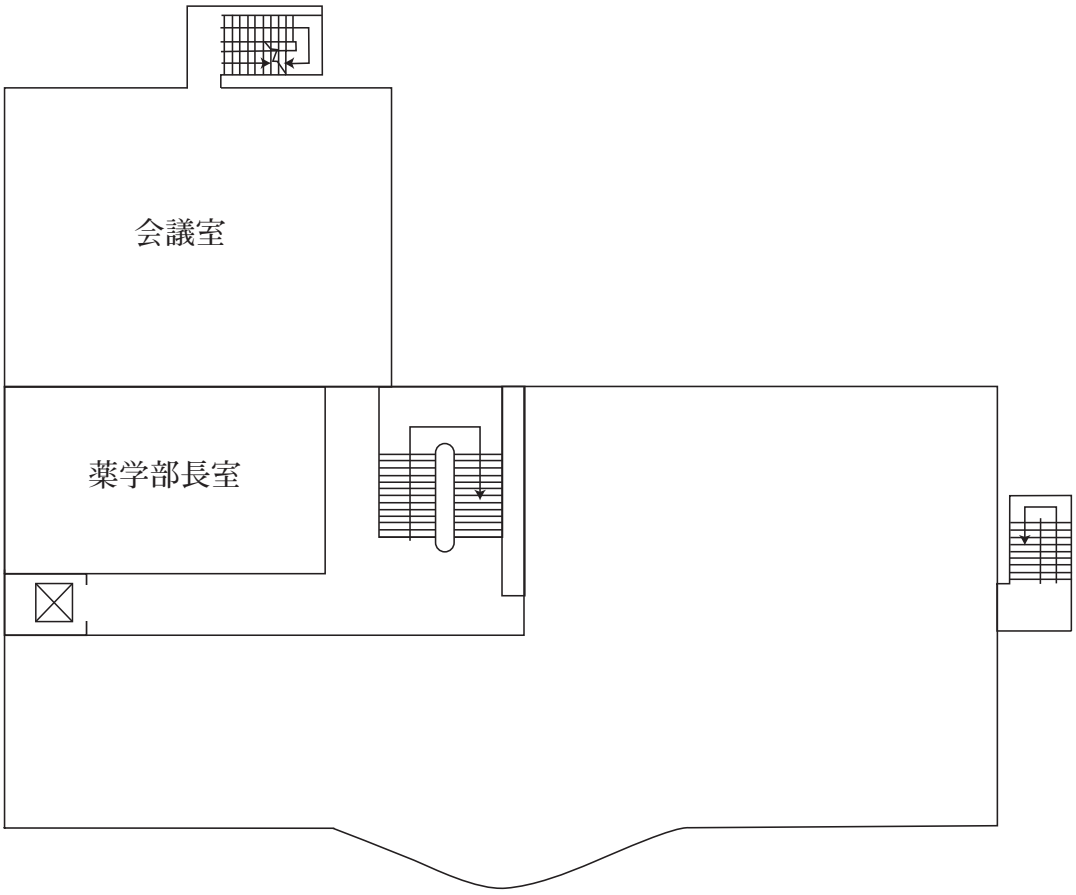
5階


髙橋(浩)
木皿
佐藤(亜)
553L
柏木
552L
554L
555L
廊下等
551L
WC
WC
伊藤(鍛)
堀江
中川
山下
早坂

6階


石山
木田
伊藤(頼)
563L
鈴木(康)
志村
562L
(共同実験室)
564L
565L
廊下等
561L
WC
WC
齊藤(美)
伊藤(徳)
非常勤
講師室
竹元
金原

7階


会議室
薬学部長室

本誌は環境にやさしい植物油インキを使用しています